

**Menoko Yukar  
Ouse Tapshut**

女のユーカラ  
肩だけ触れて

金成マツ

切替英雄 訳



# 目次

## 肩だけ触れて

### 例言

原テキスト	1
表題	1
原テキスト第1ページ（影印と翻刻）	2
編集要綱	4
分担	5
参考文献	6

### 物語 肩だけ触れて

第1章 シヌタプカの娘	7
1.1 叔母のしつけ	7
1.2 石狩彦の噂	8
1.3 シヌタプカとイヨチの結びつき	8
1.4 狼神の妹の恋	8
1.5 いいなずけ	9
1.6 いいなずけへの憎しみ	10
1.7 祭りへの招待	10
第2章 流れ木の小屋	11
2.1 道に迷う	11
2.6 小イヨチ彦に罰せられる	11
2.2 小屋の若者	11
2.3 若者の話	12
2.4 シヌタプカの娘の告白	12
2.5 シヌタプカの娘の誘惑	13
2.7 赦しを乞う	15
2.8 傷を癒す	15
第3章 イヨチ彦の赦し	15
3.1 イヨチの土産話	15
3.2 小イヨチ彦到着	16
3.3 さいなみ	17
3.4 小イヨチ彦の苦しみ	17
3.5 祭りの準備	17

3.6	親族が集う	18
3.7	小イヨチ彦思いの丈を語る	19
3.8	結ばれる	20
<b>肩だけ触れて</b>		<b>21</b>
第1章	シヌタプカの娘	21
1.1	叔母のしつけ	21
1.2	イシカリ彦の噂	28
1.3	シヌタプカとイヨチの結びつき	29
1.4	狼神の妹の恋	30
1.5	いいなずけ	34
1.6	いいなずけへの憎しみ	36
1.7	祭りへの招待	38
第2章	流れ木の小屋	42
2.1	道に迷う	42
2.6	小イヨチ彦に罰せられる	43
2.2	小屋の若者	45
2.3	若者の話	50
2.4	シヌタプカの娘の告白	52
2.5	シヌタプカの娘の誘惑	55
2.7	赦しを乞う	64
2.8	傷を癒す	67
第3章	イヨチ彦の赦し	68
3.1	イヨチの土産話	68
3.2	小イヨチ彦到着	71
3.3	さいなみ	74
3.4	小イヨチ彦の苦しみ	76
3.5	祭りの準備	78
3.6	親族が集う	83
3.7	小イヨチ彦思いの丈を語る	87
3.8	結ばれる	93

# 例言

## 1. 原テキスト

本書で紹介するアイヌ語テキストは、アイヌ英雄叙事詩（ユーカラ）の一編であって、萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）が所蔵するいわゆる「金成マツノート」（金成マツ遺稿）に依っている（但し、翻訳に当たって訳者は北海道アイヌ協会から送られた原テキストの複写（影印）を用い、原テキストそのものは見ていない）。

「金成マツノート」は、アイヌの婦人<sup>かんなり</sup>金成マツ（1875-1961）が金田一京助宛に書いた自身が伝承するアイヌ口承文芸のローマ字によるテキスト群である。ここに紹介する「肩だけ触れて」は手帳の474ページから559ページに記されたものである。一葉、一葉の裏表にマツの手によりノンブルが記されているのは、この手帳が4穴のルーズリーフを綴じたものだからである。マツの綿密な人柄がしのばれる（編者の知る限り、糸かがりの手帳の場合はノンブルが記入されない）。

手帳の最初のページに昭和十年七月二十七日という日付が見える。

編集・翻訳にあたって、本編集者は影印によって作業し、直接手帳を閲覧していないので、影印から知り得ることを記し、かつ編集方針を示す。

## 2. 表題

この叙事詩の表題<sup>\*1</sup>としてマツは次節に見られるように、冒頭に

Ouse tapshut autumamte

と記している。ユーカラ本文に *ouse tapshut boka a-utumamte* 「我はただ肩だけに抱きあわせる」というおもしろい句が見られる (*ll. 1918-1919*)。 *utumam-te* 「抱きあわせる」とあるから、誰が *utumam* 「抱きあう」のかといえば、それは肩と肩とが抱きあうのである。淫らごとを企み、誘惑してくるヒロインに対して、迫られた小イヨチ彦が返す言葉である。つまり、「一緒に寝るにしても我の肩と汝の肩とが触れあうだけで、それ以上のことはしない」と応えてヒロインの誘惑をかわしているのである。企みの挫折したヒロインが悔しさを述べる箇所にも類似の句 *ouse tapshut a-utumamtere* (*ll. 1955-1956*) が見られる。ここでは *boka* 「だけ」が落ちてより簡潔な表現になっている。それはさておき *a-utumam-te-re* 末尾の *-te* も *-re* も使役接尾辞であるから、「我は、誰それに、ただ肩に抱きあわせ・させる」ということになり (*utumam-te-re* 「抱きあわせ・させる」)、つまり「我（ヒロイン）は、小イヨチ彦に、ただ肩に抱きあわせることを・させる」ということになる。

あるいは *a-utuman-te-re* は過剰な使役表現なのかもしれない。それならば *a-utumam-te* と同じく「我は肩だけに抱きあわせる」という意味になる (*utumam-te* と *utumam-te-re* を同義と取る)。このようなしつこい二重使役は、アイヌ語にはめったになく、本篇でもこの読みはとらなかつたが、日本語ではしばしば観察される。たとえば、*a(w)-u* 「あう」の使役形には *aw-ase-ru* 「あわせる」と *aw-as-u* 「あわす」の2つの形があるが、同じことを *aw-as-ase-ru* 「あわさせる」とか *aw-as-as-u* 「あわさす」と言う人をときおり見かける。日本語の *-ase* と *-as* は

<sup>\*1</sup> アイヌ口承文芸の個々の作品には、本来、現在見るような定まった表題、つまり作品の一部としての表題はついていなかった。だから、マツのこの記述もそういった意味での表題と見るべきかどうか疑問が残る。

アイヌ語の *-re* や *-te* に相当する使役接尾辞である。いずれにせよ、マツがこの長いメノコユーカラから、この2つの句を取って表題として選んだのは、たぶん、マツのユーモアである。みごとなセンスと言うほかない。そんな次第で、本書ではア・日両表題として

アイヌ語表題 Ouse tapshut

日本語表題 肩だけ触れて

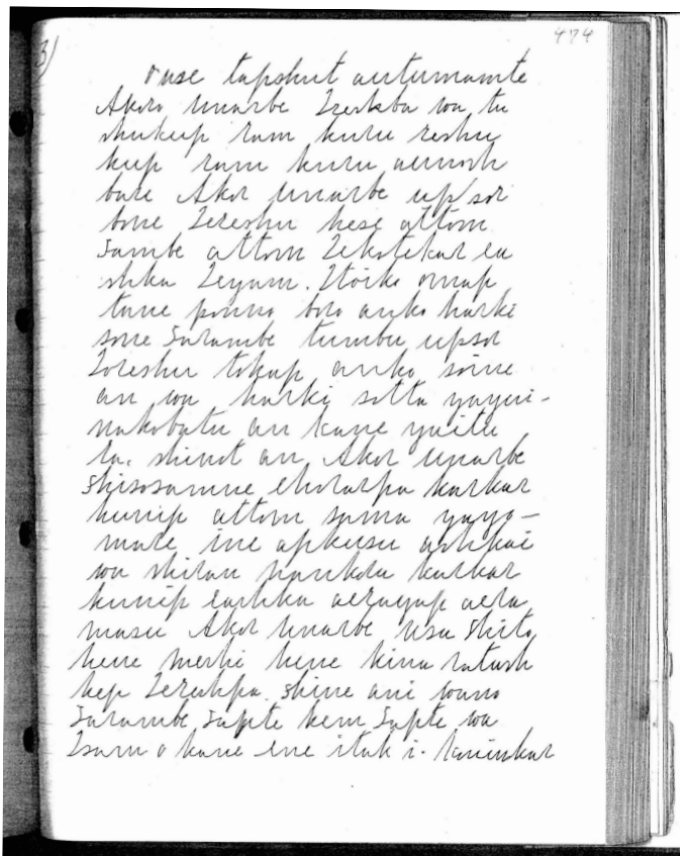
とすることにした。

なお金田一は手帳冒頭の先に述べた日付のあるページで「肩相抱きて」と訳して記しているが、これでは男女が睦みあうという意味にとられるので適当ではない。

また、参照の便を考慮して、ア・日両表題にそれぞれ *Menoko Yukar* と「女のユーカラ」という句を付け足した。

### 3. 原テキスト第1ページ (影印と翻刻)

以下に原テキストの第1ページの影印と翻刻をしめす。



Ouse tapshut autumamte

Akoro unarbe Ireshba wa tu  
shukup ram kuru reshu  
kup ram kuru aunosh  
bare Akor unarbe upsor  
bone Ireshu hese attom  
sambe attom Iekotekar ea  
shka Ieyam Itoiko omap  
tane ponno boro anko harki  
sone sarambe tumbu upsor  
Ioreshu tokap anko soine  
an wa harki sotta yayui-  
nakobatu an kane yaitu  
ra shinot an Akor unarbe  
shisosamne ehorarpa karkar  
kunip attom sama yayo-  
mare ine apkusu ashkai  
wa shiran nankora karkar  
kunip eashka aerayap aera  
masu Akor unarbe usa shito  
hene meshi hene kina ratash  
kep Iereshpa shine ani wano  
sarambe sapte kem sapte wa  
Isam o kane ene itak i koninkar

原テキスト「肩だけ触れて」の第1ページ (影印と翻刻)。II. 1-47.

## 4. 「肩だけ触れて」を理解するために

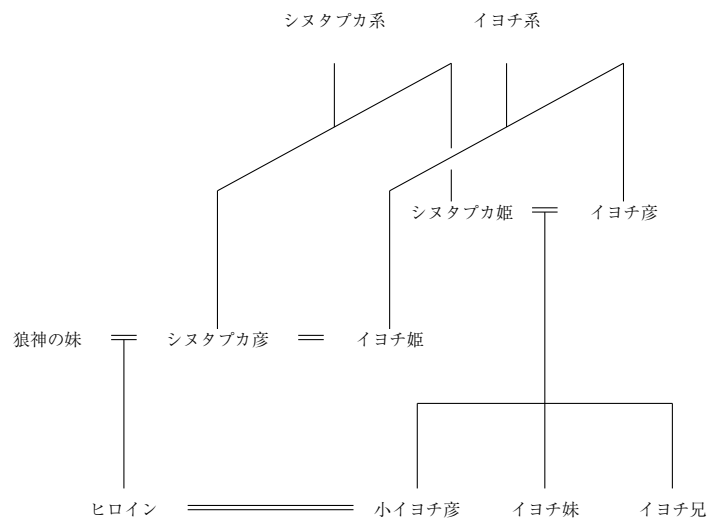
このユーカラは、より正確に言えばメノコユーカラ（女のユーカラ）であり、女が主人公である。したがって、「英雄叙事詩」と呼ぶのはあまりふさわしくない。しかし、文法的にも韻律的にも狭義の英雄叙事詩（ユーカラ。少年英雄ポイヤウンベが主人公となる）と変わりはない。ただ、内容については、ポイヤウンベのユーカラがいくさの情景に重きを置くのに対して、メノコユーカラには戦闘場面がなく、若い男女の恋と結婚がテーマとなる。

メノコユーカラ「肩だけ触れて」は、シヌタプカの娘（ヒロイン）と小イヨチ彦（ヒーロー）が結婚に至る物語をヒロインの視点から述べるものである。

ヒロインはシヌタプカ彦と狼神の妹との間に生まれた。実母の狼神の妹はシヌタプカ彦の第二夫人 *pommat* であって、第一夫人（刀自）*sokarmat* はイヨチ村から嫁いできたイヨチ姫である。シヌタプカ彦と狼神の妹は早くに亡くなり、ヒロインは第一夫人に育てられた。ヒロインはこの義母を *a-kor unarbe* 「私の叔母」と呼んでいる。ヒロインは生まれたときから小イヨチ彦（ヒーロー）の許嫁と定められている。

イヨチ村はシヌタプカと *uirkar kotan* 「血筋を同じくする村」(II. 463-465) であって、シヌタプカ人とイヨチ人とは *shine shinrit ukor kunip* 「同じ根の婚姻」(II. 466-467.) の関係にある。

この物語の理解の便宜に、シヌタプカとイヨチの二つの家族の系譜を説明しておきたい。下図では、実線が血縁関係、二重線が婚姻関係を示している（シヌタプカは正確にトミサンベチ・シヌタプカと記すべきであるが、こう略記する。なお、シヌタプカ *Shinutapka* にはシヌタプカシ *Shinutapkashi* という別形がある）。



この系図を見ればヒロインにイヨチの血が入っていないように思われるが、すでにヒロインの父、シヌタプカ彦にイヨチの血が流れているのだから、ヒロインもやはり血筋を同じくする者といえる。

また、イヨチ彦が *arke ainu ne p, arke kamui ne p* 「半分は人間、半分は神」(II. 470-471) と説明されているから、イヨチ彦の産みの母も、何神だか述べられていないけれど、神であったろう（それは明示的に語られていないので、上の系譜はこの解釈を反映していない）。

さらに小イヨチ彦は *kamui ne am be* 「神のような者」と呼ばれることがあるが (I. 1404)、そこから推すと小イヨチ彦はイヨチ妹・イヨチ兄と異母きょうだいの関係にあつて、父のイヨチ彦にも、シヌタプカ彦と同様、シヌタプカ姫以外にもう一人、天から下って来た神の妻がいて、小イヨチ彦はその子供ということになる（これも明示的に語られていないので、上の系譜はこの解釈を反映していない）。なお、小イヨチ彦の兄（イヨチ兄）は *iresu yubi* 「育ての兄」とも呼ばれているが (I. 3155)、それはこの三きょうだいの父母が早くに死亡したため、この兄が弟と妹を育てたからである。しかしそれについても何も語られていない。

イヨチ姫は兄のイヨチ彦を *pon a-kor yubi* 「私の小兄さん」と呼んでいるから (I. 492)、イヨチ彦にも、小イヨ

チ彦同様、兄（大兄さん）がいたと思われるが、登場しないのでこれも系譜には入れていない。

系譜だけを見れば非常に濃い近親婚（いとこ婚）がシスタプカとイヨチの間で何世代にも渡って重ねられているようにとられかねないが、このように繰り返し、繰り返し女神の血が入ってくるため、それが生む弊害が避けられている、と考えるべきかもしれない。アイヌにおける優生思想を考えるうえで参考となろう。

なお、系譜にあるとおり、シスタプカ彦と第一夫人（イヨチ姫）の間には子供ができなかった（II. 627-633）。

ヒロインは幼いときから（生まれたときから）、会ったこともない小イヨチ彦（ヒーロー）がいいなずけと決められていた。ところが、これも会ったことのないイシカリ彦に思いあこがれ、ついには、恋の妨げになるいいなずけを憎むようになった。ヒーローたる小イヨチ彦は、ヒロインのみさおの堅さを試みるため、小イシカリ彦の名を騙り、浜の夜道に迷ったヒロインを流木で作った小屋におびき寄せた（その間、ヒーローは、イヨチ兄とイヨチ妹と帰省中の叔母なるイヨチ姫を欺き、腹痛のため別宅の板屋に伏せていることになっている。なお、この板屋はイヨチ彦の神なる妻（小イヨチ彦の母）が天から持って来たものだろう）。二人だけの夜の小屋で、ヒロインは小イシカリ彦と名乗るヒーローの美しさに魅惑され、これを誘惑しようとした（「我はただ肩だけに抱き合わせる」という言葉はこの場面に出てくる）。ヒーローは、この不貞を激しく怒り、正体を明かし、ヒロインを激しく、物理的にまた心理的に苛んだ。苛まれてヒロインは、自分が思いあこがれていた男がイシカリ彦ではなく、逆に、憎んでいた小イヨチ彦であることを知った。

男女ともに純潔 *yepnu upsorka* (II. 1984-1985) が厳しく求められるユーカラの世界で、このメノコユーカラはヒロインとヒーロー互いの憎しみと愛、ヒロインとヒーローそれぞれの内面の葛藤を深刻に描いている。この心理描写がこのメノコユーカラの魅力である。

## 5. 編集要綱

マツのテキスト（原テキスト）の最初のページ（p. 474）を複写して p. 2 左に掲げた（影印）。「肩だけ触れて」II. 1-47 に相当する冒頭部分である。原テキストの紙面の体裁はこれから推し量れよう。これを忠実に複写したとすれば p. 2 右のようなものとなろうか（翻刻）。本書ではこのようなものを以下の要領で提示した。

- (a) 原テキストが記された手帳のページ番号を、例えば最初のページなら (p. 474) のように示した。
- (b) 行を改めた。叙事詩のリズムに合わせ、1 行が 4 音節ないし 5 音節に収まるように改行した。これはアイヌ語の詩句（詩行）に一致する。但し、例外もきわめて多く、6 音節以上になることがある。
- (c) 大文字の使用を固有名詞の頭に限定した。そのほかの大文字は、文の頭を除いてすべて小文字に換えた。マツの大文字の使用については、よくわからない点が多い。大文字が文頭で用いられると決まったわけではない。但し、人名、地名などの最初の文字は大文字となっている。人称接頭辞 (a-, an-, i-, e-, echi-) のつけられた語がたいがい大文字で始まっていることが注意される（例：影印 1 行目の *Ireshba* (i-reshba) 「我を育てる」）。また、小文字の母音字のうち *o* は、点を打ち忘れた *i* と紛らわしく、*a* と *u* の違いもしばしば紛らわしい。行頭およびスペース直後の大文字の繁用はそのような曖昧さを回避するためと推察される。
- (d) 原テキストには句読法を指示するピリオド、コンマ、また、引用符 “——” など、いわゆる約物が用いられていないが、適宜補った。文の頭は大文字に替えた。
- (e) 語、助詞は、その境界で切った。但し、強固な語や助詞連結の表記にあたり、この原則に従わないこともある。影印 12 行目の *harki sotta* 「左座に」は、*harkiso ot ta* の短縮形であるが、これを *harkiso t ta* などとはせず、一つの副詞として扱って *harkisotta* とした。
- (f) 語、助詞が空白（スペース）や改行によって途中で切断している場合はそれらの断片を結合した。たとえば影印 21 行目から 22 行目にわたる *ratash* と *kep* は 1 語であるから *ratashkep* 「和え物」と 1 行におさめた。
- (g) 原ノートの行末に見られるハイフンはすべて落とした。たとえば影印 16 行目から 17 行目にわたる *yayo-* と *mare* は *yayomare* 「入る」として 1 行におさめた。
- (h) 長大な動詞が 2 行にまたがるときは、1 行目の末尾にハイフンを補った。
- (i) 原テキストでは人称を示す接頭辞は多くの場合、人称語幹と結合されて示されているが、本書ではこの境界

にハイフンを挿入した。たとえば影印 1 行目の Akoro「我の」は、これが文頭になれば a-koro に、Ireshba「我を育てる」は同様に i-reshba に改めた。

- (j) 人称を示す接尾辞 -an は固有のアクセントを持つため、それを反映して人称語幹と離されて示されることが多いが、現在の習慣にしたがい、ここにもハイフンを挿入した。たとえば影印 9 目行の boro anko は boro-an ko「我が大きくなると」となる。ko は助詞である。
- (k) 各行（詩句）に通し番号をつけた。手帳のページ番号は、該当する行の上に示した。
- (l) 原テキストには一切の章立てはない。ここでは、内容によって 4 つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (m) アイヌ語片仮名文は原テキストにはないものである。マツは ne「その」（繫辞類）をときおり nei と、re「名」を rei と書くことがある。これはいずれもアクセントのある né, ré であって、John Batchelor のアイヌ語綴りの影響を受けたものと思われる。その綴りはそのままとしたが、片仮名表記ではそれぞれネ、レとした。
- (n) アイヌ語片仮名文の下に記した逐語訳は極めて大雑把なものである。例えば ne は繫辞であって、「A は B である」と訳せる。しかしまた、「A は B になる」とような状態変化を意味することもある。また「B である A」のように連体修飾語にもなる。B が自明なときは、「それである A」つまり「その A」のようになって、指示形容詞としても使われる。これを一括して繫辞類として示した。
- (o) たとえば、a-kore は「我は A に B を与える」の意味であるが、また「我らは A に B を与える」と複数の意味で、さらに「A は B を与えられる」と受動の意味でとるべき箇所も多い。またさらに、i-kore は「C が我に B を与える」とも「C が我らに B を与える」とも訳せる。これらを、かならずしもすべてというわけではないが、一括して「我・与える」とした。紙面の制約があって、たとえば繫辞類を**繫**、理由・目的の接続詞を**根拠**、形式名詞を**形名**、音節調整の助詞を**音調**などと略記して記した。
- (p) 日本語訳は素直に読めるよう工夫したが、なお通読しにくい箇所が多い。これは、読みやすさをある程度犠牲にしてアイヌ語の詩句を逐条的に翻訳することがいくらか多かったからにほかならない。読者には、「物語 肩だけ触れて」によって物語の大意を把握せられたい。
- (q) 脚注は、主に原テキストと本書の表記の違いを示すにとどめた。
- (r) 「物語 肩だけ触れて」はこの叙事詩の日本語訳をもとに一編の物語として編んだものである。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示す。
- (s) 念のため記すが、編者が原テキストに改編を加えたとすれば、それは改行と分綴とハイフンのあるなし、明らかな誤りだけである。誤記については、脚注に原綴りを記した。

## 6. 分担

編集に当たっての分担を示す。

- (a) 原テキストの解説・翻訳（数字は「肩だけ触れて」の行番号）  
切替英雄
- (b) 片仮名アイヌ語表記  
切替英雄・山下浩一
- (c) 逐語訳  
切替英雄・高橋靖以
- (d) 物語 肩だけ触れて  
切替英雄
- (e) レイアウト・組版  
切替英雄・山下浩一

## 7. 参考文献

- (a) 最初から最後まで『アイヌ叙事詩ユーカラの研究Ⅱ』（金田一京助，東洋文庫，1931年）『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅰ-VII』（金成まつ筆録，金田一京助訳注，三省堂，1959-1966年）にはお世話になりっぱなしであった。難解な語句は、ほとんどこれらの書物に何らかの言及がなされていた。
- (b) 『アイヌ・英・和辞典』（第4版，ジョン・バチラー，岩波書店，1938/1981年）と『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』（久保寺逸彦，岩波書店，1977年）と『アイヌ語沙流方言辞典』（田村すず子，草風館，1996年）は有益な情報源となった。

# 物語 肩だけ触れて

## 第1章 シヌタブカの娘

### 1.1 叔母のしつけ

- 1 叔母に育まれて、二つの成長を三つの成長を私は次々と遂げた。叔母は肌着の下に入れて育ててくれた。息のただ中、心臓のただ中に私を結び付けて大切に抱き、かわいがってくれた。
- 14 今少し大きくなると左座の絹の寝屋の中で育ててくれた。昼間は寝屋から出て左座で炉の灰を飛ばして一人遊んだ。
- 25 叔母は右座に座り、刺繍に余念がなかった。なんて器用なことか、その作るものに驚き、魅惑された。
- 37 叔母は餅や飯や山菜の混ぜ物を作り養ってくれた。
- 42 ある時、絹と針とを取り出して私の傍らに置いてこう言った。「もしもし、大切な妾の姪よ、昔から女の子というものは針仕事でもなんでも女がすべきことをすべて稽古して身につける習わしです。女が不器用でものぐさのようではまったく恥ずかしいことです。今少しお前が大きくなったらもっともっとたくさん教えてあげましょう。そこで、始めは針仕事を稽古しましょう。」
- 70 そう言ったので、私はとっついてもうれしく胸が躍った。それから、喜んで大きな布溜め小さな布溜めを連ねて縫った（稚拙な縫い方）。叔母に見せると口元でひどく笑いながら鼻を抑え、口を抑え、驚きの仕草をしつつ、とても上手とすごく褒めてくれた。私は、それを本心から言うことと思って、とても得意になって
- 90 またそのとおり針を動かしたが、ふと不審に思って耳を立てた。これはなぜなのか、見ればまさか叔母のすることとは思ひもかけないことには、自分の後ろに身を向けて笑いをこらえての忍び笑い、吹き出したくてたまらなくそれをこらえている。それを見ただけで悔しい気持ち、いまましい気持ちにかられた。
- 113 ワイワイ泣いて 逆さまになって足を開いて腰をゆすって足をバタバタさせ、ドタバタさせて泣くと、叔母はとても驚いて目を開いていた。そうしながら言うことは、

- 「いったいどうしたの、大切な姪よ。いったいなぜ泣き叫ぶ声、胸を裂くような声をあげるのです。内の召使も外の召使も何事かと言うでしょうよ。うっかりして笑いを漏らしてしまったのです。できればに感心したのに、どうして笑ってしまったのでしょうか。少しも下手ではありません。泣かないでね。泣かないで、さあ、針を動かしなさい。」と首の骨がなくなるほどうなずいて私を愛撫した。
- 叔母のその様子、その言葉を真に受けて、別人のようになって涙の間から目をあけて、袋だめばかりの下手な運針に熱中した。毎日そうした。ふと気づくとそれらの私が作った袋だめたちは内の召使、外の召使たちのオソツタンバになっている。不思議な思いにかられた。
- やがて物が分かるようになった。今こそわが住まいの中をよく見てみると壮麗な宝壇が屋根裏まで届くほどに高く、長い列をなして伸びていた。その上は神々しい光が照り映えていた。宝列の手前に金の寝台、板づくりの寝台が横たわっていた。寝台のまわりには、幅広の平金が巻かれていた。その上におびただしい金の文様が輝いていた。さらにその上は神々しい光が燦然としていた。ピカピカと折れ曲がるように光っていた。讚嘆の心が揺れやまない。宝列の下端からは
- 女ものの金の箱の列の下が目も彩に美しく、下座の隅にまで達していた。その前に金の枕が横たわっていた。その上に金の刺繍衣、神々しい刺繍衣が掛け竿の上の竿と下の竿とをしならせていた。その上にはおびただしい神の光が輝いていた。まったくの好ましさに胸が震える。
- 金の床は広々として、金の炉縁が伸びるさまはルバエの色を成していた。昼になると、黒いもや、白いもやがたなびき、夜になると宝物の光、財宝の光が昼の光線のように家中にまばゆかった。胸の揺すぶられる思いがする。
- とっつても下手なのを叔母はなだめてくれたのだが、その針仕事が今では巧みになって、私が縫うものは多くの神の雲となって昇り立つようであった。私自身も自分

128

156

174

206

225

242

- が作ったものながら、まったくみごとと思ひ、うれしく思った。
- 260 叔母は焔のこちら側に向けて手をかざし、上へ下へと礼拝した。型通りに私の巧みさに感心するのならばありそうだけれど、目をパチパチさせて目を伏せている。
- 272 「妾の尊い姪は初めあんなに上手だったけれど、今はなんて不器用なんでしょう。」とあべこべのことを言うので、まだ幼かったときの自分のふるまいを思い出し、まったく恥ずかしくてたまらなかった。私は聞こえないふりをした。
- 287 私は叔母に少しも構わずに下座（にいる）内の僕外の僕を伴いウバユリを掘ったり、山菜をとったりしていると喜ばしい気持ちになった。
- 297 叔母はますます私をかわいがって、「妾の大切な姪よ、はたしてそうなると思っていたとおおり、お前、頑張ったね。何をしても上手で顔だちも美しくなった。このように何にせよ良くできるのだからお前をそう育てたことが妾には誇らしくとてもうれしいよ。」と言って
- 317 いつも感謝していた。なんとも私の住まいは美しかったことだろう。頂きの折れた神々しい岩山が天に向けてゆらゆらとそびえていた。その平らな頂上に広大な邸、宏大な砦が並び建ち、その内に私は育てられていた。邸の周囲の輝きはただの人が住む住居とはとても思えなかった。
- 339 どうして目がつき、口がついて生まれたのかかわからないが、このように叔母さんと呼び親しむ人とただ二人で、この二人だけで広大な宮居に住まっていることに心の中で私はいぶかりながら、早く叔母さんがその訳を話してくれたら、といつも思っていると、いつの間にか私は美しくなったようで、たちこめるもやの中に入った。
- 363 私の周りが輝きピカピカした。叔母さんは好ましそうに顔を上げ私に見ようとしたが、叔母さんのように尊い人が自分を差し置いてたいへんな神、高貴な人を目にしているかのように私の手前に目を落とした。

## 1.2 石狩彦の噂

- 378 あるとき、評判が聞こえた。耳そのものであったから、耳を傾けると、神の噂にも、人の噂にもこんなことが言われていた。
- 384 遠くの石狩人は二人兄弟で、妹が一人いる。男のほうは二人とも容貌も胆力も弁も狼の腕前も神にも人にも匹敵

- する者が一人もいない。  
女のほうは美貌と優れた手の技は神にも匹敵する者は一人もいない、ということが神の評判となって多くの村々を越えて聞こえた。それを聞き、私は驚き感心した。今では何であれ、女がすべきこと、作るべきことは、すっかりできるようになっている。

## 1.3 シヌタブカとイヨチの結びつき

- ある日、叔母さんがこう言った。「もしもし、尊い姪よ、今こそすべてを語って聞かせよう。よく聞くのだよ。このわが村は名をトミサンベチシヌタブカという。
- 昔、お前のお父さんは男兄弟がいず、妹一人とシヌタブカにいました。お前のお父さんは容姿に優れ、度胸も弁の才も神にも人にも及ぶものが一人もいなかった。おなじようにお前の叔母（父の妹）も美貌と手わざでもって兄と同様神の噂となって国中にその評判が立ちました。それぞれが男盛り、女盛りになりました。先祖から伝わる遺言にあるように、昔から血筋を同じくする村はイヨチ（イヨチ）であってまったく同じ根が結びあっているのです。イヨチ彦は、半分は人間で、半分は神で男兄弟はいないが妹が一人いて、その女が妾なのです。
- 妾が女盛りになったとき、神の宝物を首に付けられて美しく装われシヌタブカにお嫁に来ました。お前のお父さんに妾は嫁いだのです。
- お前の叔母（父の妹）は神の宝物を首に下げ美しく装われてイヨチ村に嫁ぎました。妾のちい兄さん（イヨチ彦）と結ばれました。ともに、とても仲良く暮らし、妾たちの噂が神のもとまで良き噂となって届きました。

## 1.4 狼神の妹の恋

- そうこうするうち、天にいます狼神には、男兄弟がなく妹が二人いましたが、下の妹が色を思い神の世界にお気に入りを探したが、心にかなう者が一人もいなかったのです。
- そこで人間の世界をぐるっと調べてみて、お前のお父さんの美しさがすっかり気に入って、惚れきってしまいました。それを口にするると神の世界で拒まれました。『まったくけしかんこと。妻ある人間の男にいやしくも神ともあろうものが惚れるのは実に罪なことだ。神の世界に絶えてないことだ。若い男、人間の男に、妻ある者

に惚れるのはだめだ、だめだ。神の国では神の夫を迎えろ、迎えろ。』と言われてそれを怒って、いまわのように這いずりまわり、『そういうことならば、想いがかなわないならば、死んでしまおう。』、と言って、ものも食べないでふて寝してしまいました。

550 神々は大変心配してしまいました。そこでかしらである神にその由を伝えると、かしらの神はこう言いました。『姦通とか不義とか呼ばれるものはそうしたものだ。若く幼稚なものは人間であっても神であっても思うことに変わりないのであるから、そんなに言うなら第二夫人として降ろしてやればいいだろう。

574 そんな話は神の世界にないことではない。なりゆきによって、心のまにまに二人目の妻を娶ることがある。

580 トミサンベチシヌタプカで男と呼ばれる者たちならば子々孫々末代にまで神を凌ぐ良き者たちであって、神の国にまで名高いその噂が届くだろうから、それに惚れることだってそう悪いことではない。』と尊い神が良き裁きを下した。

596 狼神の妹は、家と宝物を持ってトミサンベチシヌタプカに下りて、二人目の妻となっていたのです。

603 妾は人間の女であるけれど、第一夫人であるから、この本宅にこの宮居の中で初めから住んでいたのです。この邸の傍らにあるもう一つ邸は神の女が天から持ってきたものなのです。

619 今や世の衰えも近く、それで、お前の父は長く人間世界で働こうと自重自愛の暮らしを送っていたところ、まったく妾は恵みの薄い女で、子供も生まれず、夫も妾自身もそれをとて悲しんだけれど、これだけはどうしようもない。

635 しかし神の女からはただ一人、お前が生まれたのです。まだ、お前が幼く、今こそ（以下意味不明）おりしもお前の父様はお前の母様といっしょに神の国へ行ってしまうわられた。神の国に行って全き和合を遂げたのです。

650 お前はまだ幼かったので、妾が一人で、まるで自分が生んだ児のように心臓の先にお前を入れて懐に入れて育てたのです。お前は女ではあるけれど、トミサンベツのたましいであるのだから、なおさらお前を大切に慈しんだのです。

### 1.5 いいなずけ

663 それからまた、イヨチの妾のちい兄さん夫婦（イヨチ彦

とシヌタプカ姫）はまったくめでたいことに男の児を二人、女の児を一人産んで、夫婦そろって慈しみ育てました。妾のちい兄さん夫婦、二人とも速やかに神の国へと去ったのです。

そのあと、その神のような甥たちは助け合って暮らしていました。きわめて名高い者であっても、異族の者では、よそ者ではそれほど高い評判が立つわけではない。ましてお前一族であるからこそこんなに良く噂されるのです。

691 お前の父が残した遺言にはこうあります。『わが娘を大切に育ててくれ。淑女の習い、神のしきたりを教えて女となるまで育ったらイヨチの小さな甥といっしょにさせてこの宮居に我が亡き後も住まわせて、この川筋の上と下とを治めさせてくれるよう

頼む。いつか我が亡き後もこの村が栄えているのを見届け安心したならお前を神の国へ招こう。』ということです。

よく先祖の言葉遺言を聞いて全き淑女の習い、神の習わしを保つよう心がけなさい。

727 イヨチの小さな甥のためによくよく身を慎んで犬のような瘦せぎすの貧乏人がお前を見初めても決してそちらへ言葉を返したり笑みを返したりしてはいけません。

739 淑女というものは、淑女のしきたりに通じているもので、そんな者と言葉を交わすと神の国までお前のうわさが流れ、あきれ返られることになりますよ。」と私の叔母は肉や魚の串を回して炙るように懇ろに強く教え諭した。

755 このように先祖に恵まれた私であったのか。もっと身分の低い者たちから産まれた者と思っていたが、なんとまあ、まこと、神の子孫であるとのこと、私は驚いてしまった。

768 どんなふうが目がつき口がついて生れた父であるのか、住んでいた住まいの壮麗さばかりに驚いていた。

773 神である私の母はただ私を産んだだけで私が見ないうちに神の国へ行ってしまうわられたとのことなのでとても会いたく私の心は泣いて死にそうになった。

782 けれど、幸いにも私の叔母は淑女の風、神のふるまいのできる人なので良き育み、輝かしいしつけを授けてくれたので、淑女としてみごとな成長をとげたのだから、心の中で叔母に対してとても感謝した。お返しの孝養を専一にと心の中でうなずいてばかりだったが、少し別の思いもあった。

## 1.6 いいなずけへの憎しみ

- 801 わが一族のイヨチの人々については少しの、爪の切り屑ほどの世評を聞かないのに、他人であるか身内であるか知らないが、石狩人たちは、感心にも幼いときからその令名が神のうわさとなって、私の耳にも届き、なんとかして石狩の人々に会いたいものと思っていたが、イヨチのわが一族には少しも会いたいとは思わなかった。
- 825 しないで小イヨチ彦のやつが憎らしくなってきた。たった一言でも少しでも人間であるならば、たとえ悪いわでも何かうわさが聞こえてくるだろうに、たえてそんなことはなかった。
- 836 そんな臆病者がどうしてこの神の住まう川上と川下とを治めることができよう。
- 842 それに私はそれほど身分の低い娘であろうか。たとえ先祖の言葉、母の遺訓とはいえ、小イヨチ彦のやつなどに嫁ぐまいときめた。小石狩彦こそ私の抱擁の腕の中にあるべき人と考えた。
- 855 針を動かしていると小イヨチ彦のやつをブツブツに刺し、鍋を煮ると鍋の底をへらでついてしゃくしでグジャグジャにした。歩くときも足うらで（敷物を）踏みつけた。そんなことを密かにしたけれども叔母はそれに少しも気づかなかった。
- 869 夜になって、寝屋の中で臥所の上で涙をこすった。いったいどうしたら小石狩彦にまみえられるのか、と思案を巡らしたが悲しみが深まるばかりだった。

## 1.7 祭りへの招待

- 883 昼はほかの者たちと同じように何かしていると、ある日戸口の陰に良き便りが届いた（使者がやって来た）。
- 890 言うには、「イヨチ彦、あなたのいいなずけがわたくしを使いしてこう言いました。今こそ先祖から続く家で母なる家でいささかの酒を醸し、今晚それで祭りを催すが、最後に先祖を祭りたい。
- 905 トミサンベチ・シヌタプカにいますわが叔母よ、わが妹背をお連れしてゆるゆるおいでなさいませ。うまし酒をお召してください。酒粕をお召ください。」と使者が言うとうと、
- 918 叔母は型どおりに喝采をあげ、うれしがらるのならばあたりまえなのに、手を打ち鳴らして礼拝し、感謝の声をあげて、
- 927 「実に、実にまこと心の底から胸の中から望んでいたこ

とだから、当然承諾いたします。酒宴に参る用意をいたします。

すぐに大切な妾の姪を連れて神の住まう先祖の家に参ります。」と言うと、使者は叔母の応諾を持って帰って行った。

そのあと、叔母はこう言った。「さあ、さあ、大切な姪よ、礼服に着替えなさい。何はともあれ、妾の小さな甥が我らの住まいにまもなく来る。その前に妾らを招いて祭り先祖を祭りたいというのだ。急いで礼装に改めなさい。

行って、尊い甥たち、姪にも会ってうまい酒、おいしい食事をいただこう。」と言う。

確かにいい話と聞こえるけれど、その言葉は激しい風となって私の耳の縁をかすめて逸れた。

応えて私はこう言った。「もし、もし、叔母さん。どうしたことなのでしょう。心からの盃を交わしたいのです。ちい兄さん（小イヨチ彦）たちやちい姉さん（イヨチ妹）にもとっっても会いたいのですが、すこしお腹が痛く、もの憂いのです。それで出歩くのがつらいのです。叔母さん、お一人でいらっしゃり楽しんで酒を飲み、御馳走になってきてください。おいしいものでも酒でも酒粕でもたくさん、お土産に持ってきてください。二日でも三日でもお休みになって歓談を尽くしてください。それからお帰りください。」と

偽って言うと、叔母は深くうなずいて幼子のように、赤ん坊のように何度も何度もうなずきを私に返し、口元に笑みを浮かべてこう言った。

「よし、よし。よく分かった。それはいわゆる若い人の心、幼い人の心が本心を隠してのことだよ。

いつだってあとになってよき逢瀬をだれもいない人目がないところするんだよ。今お前たちが会ったところで、

言葉を交わすことにさえ気後れするでしょうよ。妾だって昔、若かったとき年若かったとき夫となる人と出会い恋したとき、やっぱり自分の顔を伏せて目を隠したものだ。」と

ながながといろいろなことをうれし気に言うが、私は密かな嘲りの笑いを心に揺曳させた。

小イヨチ彦のやつなんか少しも想いをかけたことなんかあるものか。

叔母はさらでだに美しいのに宴の正装に身を包み、ますます放つ光のため包むもやのため目を向けることさえて

きないほどで、神のようであった。

- 1070 「よくよく身を慎んで、この宮居を守っててください。」と叔母は言って、大きな小ほかいを手に持って外へ出て行った。
- 1079 外のやぐらの上から空に昇り、どの国の頂きでか、轟音をとどろかせた。音がやむと静まり返った。
- 1088 叔母の憑神が立てた音だった。

## 第2章 流れ木の小屋

### 2.1 道に迷う

- 1098 いろいろと想いを巡らすと、いいあんばいに今晚は私一人だ。
- 1103 イヨチ村への道筋が自分でもよく分かっているような気がした。
- 1111 そこで今少ししたら、ひっそりと身を隠すようにしてイヨチ村へ行って館の中を除いてイヨチの者どもを見てやろう、と急な思いつきで決めた。
- 1123 さしたる世評もない者があきれたことに祭りの作法も知らないくせに酒を醸し人を招くとは、笑止千万、笑ってしまう。
- 1134 午後になって帯を締め、ふだんの着物だけをまとめて家の外へ出た。
- 1142 頂の折れた岩山の頂上から浜へ下る道を飛ぶように下り、砂浜に出た。それから
- 1149 イヨチ村へ長い道をよくまわる輪のように走った。蹴られてあがる砂が黒い雲となって私の後ろに続いた。

### 2.6 小イヨチ彦に罰せられる

- 1157 こんなに早く日が暮れると思わなかった。トミサンベツからイヨチ村までの道のりもちょうど半分になったと思われるところに来たら、急速に日が暮れて前も後ろも黒雲が湧き上がった。地面も闇に包まれた。
- 1173 イヨチへの道も分からなくなった。
- 1182 もと来たほうへ私の家に戻りたくなかったが、どう帰るのかも分からなくなった。思案にくれ、独り言を言った。
- 1189 私は何を言っているのか。今はひよっとすると神に赦されない風が私にあるからひどい罰に当たったのか。
- 1198 まだ日が高かったら、走ったり速歩きができるのに。あっという間に日が暮れたのが不思議に思えた。
- 1206 来なければよかったと後悔した。地面に突き刺さった柱のように砂浜の上に立ったなり動けなくなった。

- 足踏みしているうちに夜が明けたら家に帰れるだろうと考えたが、激しく後悔しつつ一人ぼっちのさびしい気持ち、心細い気持ちであった。
- 1214
- そうしていると、今度はお腹が減ってきた。ここでようやく今日一日、考えごとばかりして食べていることさえ忘れていたのに気づいた。
- 1227

### 2.2 小屋の若者

- まったく今日は何につけしくじったわけで、泣きたい気持ちになった。
- 1235
- ところがどこからか火の匂いが匂った。体が弾けるように頭を巡らした。
- 1242
- どこから匂いが立っているのかと考え、かがんであちらこちらを目を凝らして調べると、すぐ近くにもしびが見えた。
- 1250
- 私は不思議に思った。不審でならない。人間なのか神なのか、忍び寄って見ると、流れ木を寄りかけて建てたささやかな小屋があって、流れ木の間からほだ火の光が漏れていた。
- 1262
- そこで流れ木の間から中をのぞいて見ると、とても小さな家で二人しか座れないほどの狭いかまえの中で、大きな火が燃えていた。
- 1279
- その火のまわりに、いわゆる肉の脂がのったのと、脂身のギトギトしたのを刺した串が林のように立っていた。脂が垂れていた。とてもおいしそう匂いが漂っていた。
- 1288
- 炉の上座と思われるところに濃いもやが、小さいもやの小山が立っていた。そのもやの中を目で散らして見ようとしたが、それを何度も試みたが、人間の姿にすることができなかった。
- 1297
- しばらく試みていると目の先が眩んだ。今初めて男というものを見た。村は数多いがどの村にこんな人がいるだろうか。まったく美しい。これが噂の端にすらのぼらないとは。
- 1309
- まったくの子供で、金の小袖を普段着にして身にまとい、留め金のついた金の帯を胴に巻き付け、神授の剣は鞘も長く反り返って、氷の色を帯びて、剣を下げた脇の下がきらびやかだった。
- 1325
- 金の小さな兜の垂れさがった紐を顔の上に締めていた。兜の縁に神のような顔が南天にある日の光のように輝いている。勇士の気品により容貌が世に超異する。
- 1338

- 1349 懇ろな養い、全きしつけを受けた者らしく、まこと神の  
たたずまいだった。
- 1353 これはもう人間ではない。祭られる神が下界に下りて  
来たならばまさにこうであろう。
- 1360 そんな神がいったい何を悲しんでいるのだろう。二つ  
の悲しみの色三つの悲しみの色を顔に浮かべている。不  
思議でならない。
- 1370 このように夜の恐れがあるのか、思いわずらいがあるの  
か、神とも人とも思える人が私の村のほど遠からぬとこ  
ろでいったい何を悲しんでいるのか。どこの村からやっ  
て来たのだろう。
- 1383 もしかして家に入って、畏れ多いけれど長者の知遇、首  
領の知遇を得てみたら、と考えて
- 1391 いま着いたばかりをよそおい、流れ木の小さな家の戸  
口から声細くおとないの咳払いをして手を衝き膝行して  
入った。
- 1399 ちいさな家であるから「お座りなさい。」と招き入れら  
れたけれど、神のような人の膝もとに座っているような  
気がした。
- 1406 神のような人もこんなところに人がいようとは少しも  
思いつかないといふかっているようであった。
- 1414 私がいることに驚いて私に顔をあげて私を包むもやを  
目でもって打ち払い多くのもやの根元を散らした。だけ  
ど何度それを繰り返しても私の姿を躰わすことができな  
かった。
- 1427 しばらくそう試みているうちに、ようやく私を認めると  
顔色がサッと蒼ざめた。
- 1433 このような神とも人とも見まがう者が自分の高貴なの  
をわすれ、何に驚いたのか私の手前に目を落とし、私を  
隅々まで見定めようとした。まったく不審に思ったら  
しい。
- 1443 そのふるまいを私は前に垂らした髪の間から盗み見た。  
言葉というものが声の中に響いた。言うことには、
- 1447 「驚いた。こんなことを目にしようとは。今頃人が歩い  
ているとは思もしなかったのに、こんな神の女か人間  
の女か、まったく軽くない身分の人が旅しているとは。
- 1468 どんな人がそんなことをするのだろう。神にこそ違いな  
い。村の名によって国の名によってその素性が分かる、  
というのが人というものです。尊い娘さん、さあ、お前  
の生まれた村の名を聞きたいものです。」
- 1482 と尋ねられた。急いで頭を巡らして、自分の村の名を言  
うことがいいことなのか悪いことなのか。あんな思いが

あって夜歩きしたことを言うのは、少し面倒なことにな  
ると思うと、私の体がこわばってしまった。急に口を閉  
ざして何も言わないでいると、

### 2.3 若者の話

- 神のような若者は自分の頭を搔きながらこう言った。 1497  
「なるほど我はとても馬鹿だった。生意気な若造がす  
ることですが、われが嫌うのは自分の村を隠すことで 1501  
す。わが村の名を初めに述べて、それから尋ねるべきで  
した。  
まったくそれを忘れて最初にあなたの村の名を聞いた 1513  
のは、まことに我が悪かった。悪くとらずにお願いしま  
す。」と  
言ったので私はますますすまなく思った。 1522  
「わが村の名は小イシカリで、男兄弟二人で、妹が一人  
います。貧しく暮らしています。 1526  
今まではちい兄さんだけが山で猟をして、たぐいなくお  
いしいものを食べてきました。 1534  
今日になって初めて猟に出かけたところ貧乏人ばかり  
だ、何も獲れずに頭に来てしまって山を下りると途中で  
猟のあった一族の者たちと出会った。 1539  
鹿の肩と前足の小さいのを一本くれましたが、それでも 1550  
とてもうれしく山を下りていると、どんどん暗くなって  
きて、こん畜生め、我は道に迷ってしまった。  
疲れもし、腹もすいてきました。そこで、一晩中あてど  
なく歩いて石狩へ帰るよりもここに泊まろうと考えて、  
手探りで流れ木の小さな家を作り鹿の肩と足を炙ってい  
ました。」と言った。 1558  
私は心の中で喜んだ。そういうことなら私の思いの人  
にはかならないので、どうしてもう隠し事をするのが  
あるかと、いまこそ、もの言おうと前に垂らした髪のも  
先を真ん中から分けた。すると私の顔の輝きが小さな小  
屋の中にパッと広がった。
- ### 2.4 シヌタブカの娘の告白
- 私の喉が響いた。私の村とか親族のものたちとかはか  
くかくしかじかであって、私は召使を使い、許嫁のある  
身であるが、しかじかの訳で今晚イヨチで祭りがあるの  
で、祭りの間外から覗いてみようと思って来たらこのよ  
うに出会ったこと、今までこのように道に迷い苦しんだ  
ことを話した。 1590

- 1609 恥ずかしく、言葉の合間にむせかえり、言葉の合間声を途切らせるがように、言い終えると神のような若者は静かに耳を傾けていたが、フムと言っとうなずき、にっこりと笑ってこう言った。 1753
- 1626 「感謝、感謝、ありがたいことを言うものだ。いいことを聞いたものだ。まだ何の身分もないわれごときを慕って恋してくれたのだけどとてもありがたくうれしいことだ。 1765
- 1640 ただうわさを聞くだけでも畏れ多い。あのトミサンベツシヌタブカの尊い淑女であったとはなんととっても驚くべきことだ。 1776
- 1649 我のように貧しい男にまだ一度も会っていないのにそう言うてくれた。 1782
- 1655 うわさになってこんな話があるあなたの叔母やらいヨチ彦、あなたがかずく君の耳に届いて気づかれたら、そうなったら我らはともにどうして生きていられるでしょう。 1789
- 1668 貧しい一族の者で我はあるから、わが評判が立っているのやら立っていないのやら、今までは少しも知らなかったが、そういうことだったのか。」と言って驚きの声をあげた。 1802
- 1680 それを聞くと一層愛しく思った。長者であればこそ、首領であればこそ、これほどに神と見まがうほど美しいのであるけれど少しもおごり高ぶることなく、自分の考えを述べたのだから、私は心の底から惚れてしまった。 1813
- 1696 今こそ男といわれる者と言葉を交わせ、とてもうれしかった。 1824
- 1701 脂ののった肉の串、脂身の串を炉からあげて、私のそばに置いたので、私は高く掲げ低く下げて感謝し、食べてみるとなんておいしいことか。とてもおいしい。 1833
- 1712 小イヨチ彦など、卑しい許嫁、どこの馬の骨だかしたるものではない。人のうわさにもものぼらない情けない者だから、獲物さえ狩れず、今まで一度たりとも一切れの肉さえ一片の脂身さえ贈ってくれなかった。 1843
- 1727 そんな不満を心に思わざるをえないが、神のような小石狩彦はすてきな頂き物、獲得した物を手ずから焼いて私に食べさせてくれた。 1850
- 1736 ほんとうに神のおかげと考えた。今はお互い好ましく思い、慈しみあい、少しも隠さずに話した。 1859
- 1744 若者は、ときには声を立てて笑った。ときにはどうしたわけなのだろうか、二つの悲しみの色、三つの悲しみの色を顔を浮かべた。 1868
- ときには怒りの色が表情に浮かんだ。ときには後ろを向いて密かな笑い、密かな嘲りを顔に浮かべているのもやの中からチラリと見えた。 1877
- ほかの男と結婚するはずの女とともにこのような家のない空き地にただ二人だけになって、笑みを交わすというのは良くないことだ、と思っているに違いない。

## 2.5 シヌタブカの娘の誘惑

そこで、私は若者の気を浮き立たせるためにたくさんの愉快な話をしながら食事を楽しんだ。

若者は、ときには何も話さず、ときには口をきいた。私はこう言った。「こんなことでは

心苦しくてたまりません。神のような人よ、私たちは、このように家もない土地で出会いました。夜が明けたらお別れしますが、この後、またいつ会えるものやら分かりません。

そこで神のような人よ、これから私の家について来てください。私はただ一人で、一人っきりでいます。なんの気遣いもありません。

叔母は二、三日戻りません。だから人目を気にせずにあなたのお世話をしたい。二日ほどいっしょに夜を明かしたい。」と言うと、

神のような人は、声をひそめてこう言った。「まことにありがたい言葉です。まったくこんなことは続けられるものではない。そういうことならわれもそうしたいと言いたいところですが、

昔から神のもとまで聞こえた宮居の中でのこのような隠し事は、いかに卑しい身であっても、我にはとてもできません。

遅かれ早かれ我らは追われる身となる。追われたらイヨチ彦とあなたの叔母が恐ろしい。」と若者は言った。

「もっともと思いますが、私たち二人でいつまでもたえいつまでもでも何も言わなければ、このように話していることも誰に気づかれることもないでしょう。」と私が言うと、

若者は「それなら、しばらくここで二人で寝ましょう。」と言って、とても狭いので私の傍らに体を伸ばした。

今はもう神のような人の美しい肌にくっつくことができると思い、心の底から密かに喝采をあげた。

若者が自らのそばに私を横たえると神の匂い、勇者の匂いが強い風となって私をたじたじとさせた。

- 1885 イヨチ彦を私があざ笑うと、若者はただただ笑いながら「イヨチ彦たちもあなたもそれほど他人ではない。その素性を言うなら、我々は同族だそうだ。
- 1895 聞くとところによればイヨチ彦らは神の子孫に続く者と言われているが、どうして、どうしてあまりにも臆病すぎるというではないか。
- 1904 なるほどあんな奴らが尊い宮居を受け継ぎ残すことができようか。」と言って、さらに
- 1911 「臆病な幼いこども、意気地のないわれとのことだから、神の子孫の娘と添い寝することさえできましようか。ただ肩だけに添い寝させましよう。」と言って片手を出して私の肩をつかんで引き離れた。
- 1925 とても残念だった。私も女盛りの娘なのに。
- 1931 娘となるまでこれほど思い焦がれた神のような人をいい具合に人目もなくこのように会えて心の底で思っていることを口にできたが、
- 1944 小石狩彦、神のような人に度胸の備わっていることは見ただけで分かるけれど、イヨチの憎いちい兄さん（小イヨチ彦）の臆病者をことさらに恐れ、肩を触れあわすことだけとは。ほんとうに情けない。」と言うと
- 1960 まったくこうなるとは思ひもしなかったが、神のような人は美しい顔だちだったのに激しい気性を顔に燃え立たせ、
- 1969 「ああ不潔だ。いまましい。小汚い女だ。けがわらしい小娘め。成熟した女であればこそ、かくあらばあれ。小娘のくせにいわゆる淫乱の化け物、色きちがいの魔物にとり憑かれた者、はばかりということを知らない。
- 1981 われでさえまだまだ純潔な貞操、堅いみさおによって、おのれの肌を無垢に保っているのに。
- 1988 淫乱の罰当たり、淫欲の罰当たり。淫らごとにふけり、淫らごとに憑りつかれる、その中でももっとも由々しいことをする者だ。
- 1996 そのうえさらにお前が望んですることといたら、みずからを卑しめ糞まみれになることばかりだ。
- 2002 いつまでも陰口の中でももっとも厳しい非難を受けるだろう。
- 2008 まことお前は神の子孫で卑しい身分のものではない。尊いまことの淑女なら、こころよく人の話に耳を傾け神の住いを守れたはずなのに。
- 2018 たちの悪い犬、魔物のように尻で跳ね回るすさまじい罰当たりであったとは。
- 2023 お前の生い立ちなど誰が知らないものか。我を足裏で踏
- みつけ針で刺し、鍋の底にグジャグジャにこねまわし、搗き碎いたものだ。なにをするにしてもわが守り神を犯すとは。
- それが淑女の習わしというのだろうか。確かに噂の端にもものぼらない卑しく醜いわれではあるが、お前がそんなことをするなら、さぞ神の心になんて、いつまでも幸運に恵まれるだろうよ。
- お前が人間なら、なおいっそうよく考え、悪いことといひことの区別をわきまえたとき、どう考えるのか。
- ここで少しは反省しなかったら、お前はまったくの魔物になってしまうだろう。
- 小石狩彦は、実に良いたぐいまれな勇士であるから心のまにまに惚れてしまうことは悪いことではない。
- 我は恵み薄いものであるから、お前がわれを馬鹿にするのは致し方ない。その上さらに、いつもいつも胸の内でお前をそしり非難するとはどういうわけだ。
- 生きることを恐れ、生き返ることを恐れる者がすることではないか。」
- と言ってパツと立ち上がると私の髪を手に絡ませて私を引きずって外に出ると太い倒れ木、細い倒れ木で私を打ちすえた。
- 若者の心は怒りに満ちていた。若者は意のままにさばる刀の鞘をはらい、私の体を深く裂き、浅く裂き、深く刺し、浅く裂いた。
- 今こそ初めて痛みということを私は知った。傷口の端から端まで樺の皮が巻き込むように痛んだ。「ああ、痛い」と「ああ、辛い」と声をあげて私は泣いた。
- 絹の帯はずばっと切られ、着ている晴れ着もずたずたに切られ、ずたずたに裂かれた。
- 若者は私のむくろを高々と放り投げて、そうしながら言うことには、
- 「げすな女め、悪い女め、淫らごとに跳ね回る者、淫欲に衝き動かされる者。淑女の身の上で淑女のふるまいができるものだから、ほしいままにふるまい、ほしいままに口をきくのもごもっとも。
- いい眺めだ、いいさまだ。神のようなたぐいまれな勇士である小石狩彦が見たらたまげよう。
- そこで初めてお似合いの顔を並べた夫婦になるだろう。どうぞ、どうぞ結ばれて仲良くやってくれ。
- 先祖から伝わる遺言にしたがい、陰ながら身を慎み、純潔を保ってきたが、お前がしたくてしたことこそ愚かなことで、我に恥をかかせたのだから、羨ましいことだが、

お前たちの仲睦まじいところを見てみたいものだ。」と言った。

- 2174 私はちい兄さん（小イヨチ彦）に詫びながら、ちい兄さんに斬られたいのでやみくもに顔を上げて見るとすっかり夜は明けていて、あの小さな流れ木の家もなかった。
- 2188 私は砂浜の上に血まみれになっていた。

## 2.7 赦しを乞う

- 2191 今こそ恥ずかしい気持ちにかられた。私は声をあげて泣いた。泣きながら私はいなくなったちい兄さんにこう言った。
- 2199 「もしもし、神のようなちい兄さん、口をきくのも恥ずかしいことだが、死ぬに先立ちお詫びのことばを一言だけでも申し上げたい。今少し待ってください。今しばらく待ってください。
- 2212 何神を、何人をたぶらかそうとしてか、こんなひどい罰当たりのことをしてしまいました。
- 2218 どうしたことかあなたはすっかりお見通しであるのに、知恵にも霊の力にも乏しい、目の届く先が短い私です。
- 2226 なお、さらにあのような無礼の極みをしたことでした。心の底から胸の底から述べる謝罪、ただ一言でも聞いてください。
- 2237 もはやこの世界でどうして生きて行けましょう。それは無理になりました。
- 2245 ちい兄さん、こんな卑しい者、魔物の心を持った私です。女となった娘、若い女の私ですが、あなたは私の若い肌、尊い肌を投げ捨てて、その上厳しい言葉、手痛い言葉を私に浴びせかけました。その言葉を私は少しも怒っていません。
- 2264 まことに私が悪かったに違いない。そこで人間の心を持って帰り死にたい。
- 2270 神の国に行っても、神にそむく心を抱いたので辛い処罰を受けるでしょう。
- 2277 そこをお願いします。ちい兄さんよ、神である人よ。どれほど私を憎み私に怒りを覚えたにしてもこのように自分が悪かったと反省しているのですから、私を憐れんで、あなたが佩く刀の刃で私を切り殺してくださいな。
- 2292 そうしてくれたらそれだけをよい土産にして天に昇るつもりです。」とむなしく後ろへ向かって言っても、声一つ物音一つしなかった。
- 2302 それから長い昼をずっとそのようにしていたけれど、死

ぬさえもできなかった。

- あのように叔母は懇ろに教え諭しもし、「犬などの痩せて筋張ったのを見たら、それに笑みを投げかけたり言葉をかけたりするな。」と言ったけれど、私の犯したこのふしだらに気づいたら、どれほど怒り、口惜しい思いをするだろう、と思うと、ますます死ぬばかりだと思った。ようやく日が暮れた。もと来た道をたどり私の家に帰って、死にたかった。私がどれほど悪い女でも、こんなところでいやな犬に食べられるような、いやな鳥についばまれるような死に方はごめんだから、とても痛くて苦しいけれど鍋を下げる曲り木のように腰を曲げて変な形の流れ木を杖として身を引きずるようにゆっくりと戻っていくと家に着いた。

## 2.8 傷を癒す

- 寝屋に入って血のついた着物を脱いで、新しい着物だけを身に着けた。絹を裁断する小さなナイフを取り出して自分の小さな胸に激しく突き刺そうとしたが、そのとき数々の楽しかった思い出が次から次へと思い出されて急に手の力がなえてしまった。
- 自殺などとてもできなかった。二度、三度と意を強くして刺そうとしけれどできなかった。涙のしずくをポロポロ流した。もう今はどうしてもこうなのだからだれがお前にやさしい気持ちを向けてくれるだろう。お前のような化け物が死んだところで、何のいいことがあるものか。誰がお前を惜しむものか、と繰り返すように心の奥で言った。死ぬことをあきらめた。
- 日が暮れて外に出て傷口を吹いていやした。傷を洗い息を吹きかけた。
- 食べるのもおっくうで、まったく痛かった。二晩ほど何も食べずに一人で傷をいやしたところ、叔母が戻ってくる音が響き渡った。
- それを聞くと驚きあわてて、痛みも忘れて寝床の上に立ち上がると、私の傷口は端から端まで裂けて割れたように痛んで、私はギリギリと歯ざりしながら火を起こした。
- 濃いもやの中に入って叔母を待った。

## 第3章 小イヨチ彦の赦し

### 3.1 イヨチの土産話

- 叔母は大きな荷を背負い、大きな小ほかいを二つ、三つ

腕に抱えて、とてもうれしそうにして戸口から私に愛想を投げかけ、よく留守番ができたと私をほめた。

- 2445 「もうすっかりお腹は良くなりましたか。お前の許嫁も腹痛に苦しんでいました。妾の甥は小さいときから本宅とは別のいしづえのある小さな板壁の家で育てられて神に食べさせてもらっていました。
- 2459 会ってみたかったけれど腹を痛めて祭りにも先祖祭りにも現れなかったのです。
- 2466 三日ほど過ごして、上の甥と姪とだけを相手に下の甥を見舞ういたわりの言葉を述べますと、小イヨチ彦の言い置きに
- 2473 『今はもうすっかり回復しましたから、叔母さん、そんなに案じることなく、まずはお帰りなさい。今少ししてあなたの宮居に心安らかにお帰りなさい。』とのことだから
- 2485 それでとても喜んで戻ってきたのです。」と言った。それを聞いて、ますます申し訳なくなった。どうしていいか分からなくなった。汗が顔に潮のように流れ、今こそ気づいた。
- 2497 なんと 令名を馳せるのは小イヨチ彦であったのにこれまで、それが石狩彦だと思ひ込んでいたのだ。いたのだった。
- 2505 なぜ、なぜあんな淫らなことをしてしまったのか。あれほどの神、あれほどの人を足ぬぐいのように踏みつけたが、小イヨチ彦はなぜかそれを知っていた。
- 2516 私は驚くとともに恥ずかしい気持ちになった。死ぬよりももっと心苦しくなった。
- 2521 やはり死のうとばかり思いながら、私は今初めてお土産の酒と呼ばれるものを飲んだ。酒粕とか、たぐいなく美味な御馳走を食べたけれど、私の心は混乱して、味もわからなかった。
- 2535 涙とともに泣き崩れたけれど、もやの中に入っていたので、叔母は私がいつものように喜んでいて思っていた。
- 2544 毎日、裁縫道具を前に置いてただただ泣いていた。叔母は私が刺繍をしているとばかり思っていた。
- 2553 さも食事をとっているかのようにみせかけたが、実は少しも食べてはいなかった。もうそれが何日にもなるので、すっかりやせ細って、ただただ骨に皮が巻き付いているかのようになった。
- 2564 夜も昼も自分の心をさいなんだ。死ぬこともできなかった。

### 3.2 小イヨチ彦到着

- ある日、突然トミサンベツの川の源の山に爆発音がした。神が山を下りてくる音が響いた。 2568
- すると叔母は手を止めて針を掲げて耳を傾けた。「甥の小イヨチ彦がとうとうこの宮居に旅立って来たようです。 2575
- 尊い姪よ、神妙にしていなさい。昔から私のちい兄さん（イヨチ彦）に憑いていた守り神と同じ神が尊い甥（小イヨチ彦）にも憑いているようだ。」と言った。 2585
- 日暮れ時になっていたので叔母は縫物に針を刺し止めて後ろへ下げ、帯を直し居ずまいを正した。 2594
- 私も縫物に針を刺し止めて後ろの方へ下げて髪の毛先を前に垂らして慎んだ。 2602
- 神の風の邸に吹きつける大きな音がほのかに鳴った。地面を打つ音がヒューヒュー鳴った。 2610
- 神窓と外の幣棚の間に獲物の鹿の荷を投げ出す音がドスンと響いた。それを聞くと、叔母は立ち上がって手を打つ音を響かせながら豊猟を祝う舞を舞い、歌を歌いながら神窓から獲物を受け入れた。 2615
- ちい兄さん（イヨチ彦）は戸口へまわった。帯びる刀のつばの音が響き渡った。ちい兄さんは下屋の中へ向いた。下屋の中から、訪いを乞う大きな咳払いの若々しい喉には金の響きが結びつき、家の中まで美しく響いた。戸口に下がる御簾の裾が風で揺れた。土間に足を踏み入れる音がしたが、私は顔を上げることも顔を向けることもできなかったが、ちい兄さんが座を伝い私に近づいてくる気配は感じた。そこで私は後ろへ後ずさりした。 2630
- ちい兄さんは私の前で足を運び、炉の先（上座）に音を立てて座った。座るやいなや火の神に手を高々と挙げて、この宮居を守っている神を礼拝しようとした。神の恵みがあるようにと、神が守ってくれるように、などと礼拝したが、なんと賢くもの言うことだろう。 2642
- 家の上座へも外の幣棚へも同じように礼拝した。それから叔母の両腕の中に頭を伸べたようだ。叔母は涙を流しながら「かわいい甥よ、かわいい子よ。」と言いながら、神なる人の兜の下にある頭の上を撫でているようだ。 2654
- 叔母はいつもながらに感情を言葉に出す人なので喜びの言葉、笑いの言葉を交互に繰り返した。 2662
- 神なる人は生肉に刀を通し、火の神に捧げた。それから残りを三つに盛り分けて一盛りを叔母に捧げた。叔母はうやうやしく両手で受け、高く低く上げ下げして礼拝し 2699

た。ハップと言って感謝して食べた。

### 3.3 さいなみ

2716 小イヨチ彦はもう一盛りを両手で持ち、私に差し伸べた。その膳をつかむ手だけが目に入ったが、どうしたことなのだろう。脂の失せてやせ細った手で、骨が透けて見えるほどだった。いったいどうしたのだろう。

2729 慎んでその膳を受け取ると、そんな言葉を聞こうとは思ってもしなかったのに、とても低いさなささやきの言葉が私に向けられ、それが激しい言葉となって、私の耳元がグラグラした。

2740 言うことには、「さあ、さあ、今こそ神のごとき勇者の小石狩彦が巧みに仕留めた獲物を食べてくつろいだ気持ちになり、元気になりな。それからまたもう一度イヨチのやつ、あの狩り下手の食いっばぐれ、ブス男、糞まみれ野郎の一堂の話をもっとしてごらん。聞いてやるよ。どれほどの下卑たやつだったか、聞いたことの半分は忘れてしまったよ。」と言った。

2761 私の心は垢にまみれたように濁った。どう応えたらいいのだろう。泣きながらその膳を受け取り、上へ下へと上げ下げして礼拝し、前に置いた。

2774 叔母は神なる人が私に言ったことにまるで気づかずに、口数多くおしゃべりをしていた。神なる人はふたたび手ずからに大きな鍋に水を入れて火に掛けた。

2785 脂ののった肉と脂身を鍋の中で切り、煮えると再び上げて三つに盛って、一つを叔母に捧げた。もう一つを私にくれた。

2795 さっきと同じようにさいなみの言葉が続いた。本当にどうしていいのかわからなかった。どれほどおいしいものを食べさせられても、このような心のさいなみがいつまでも続いた。聞くだけでもまったく心苦しいだけであった。何を食べても味さえしなかった。

2813 それほど悪いことを、神にそむくふるまいをしたわけではないのに。今はひどい罰を受け、苦しんだ。ちっとも食べられない。出されたものをすべて残した。

2825 私の叔母は御馳走を作って神なる人に食べさせた。神なる人は悠然と食べ続けた。叔母とよもやま話をしていった。

### 3.4 小イヨチ彦の苦しみ

2835 その間、糸のように垂らした前髪を透かしてチラリと男

の方を盗み見ると、ああ、こんな有様を見ようとは。 2844

丈夫が並々ならぬ姿でやって来て、肉をゆでたりして、われをさいなんでああは言ったけれど、何か病気を患っているのに違いなく、すっかりやせ細り、私と同じように何も食べていないのか、頬骨が突き出ていた。表情が萎れたようになっていた。

とはいえ、際立った勇士の面立ちが顔色に匂い立っていた。 2865

私は、ますます腕から力が抜けていくよう思えた。私が悪くて、あさましい女のふるまいで、悪い宿命でこ 2872

うした経過をたどり、神なる人を苦しめたのだった。できることならばわが身が切り刻まれてもかまわない、 2881

とももの味わえないほど自分を責めた。何度も何度も死 2894

のうとしたが、できなかった。叔母はよい寝床を整えて、そこに神なる人を寝かせた。 2894

自分（叔母）は火を灰に埋めた。それから私も寝床の底 2906

に身を沈めた。どうあっても当然、神なる人は私を憎み、私に怒りを 2906

覚えているのだ。どうか、今から帯びる佩刀の刃で私を 2924

斬ってほしいもの、とばかり思って、少しも眠らずに一 2924

晩中涙をこすっていた。神なる人も寝付けずにいるらしい。叔母はよく寝入っ 2924

ていて、眠りが寝息をたてさせた。

3.5 祭りの準備 2931

その翌日神なる人がこう言った。「もしもし、叔母さん、 2931

雑穀の残りでもあれば、炊いて酒を醸しませんか。 2941

尊い神の住いでいささかの酒を醸し、あちらこちらに 2941

住まうわが一族の者らを招き、会見し、喜びを分かち合 2957

いたい。祭りをしたい。そのあとで、先祖祭りなどをし 2957

て、わが心を静めたいのです。」と言った。 2957

叔母はいつもどおりに喜ぶならば不思議はないが、「な 2970

るほどもっともなことです。それこそ望んでいたこと 2970

です。」と言って、帯を高く締め直し、外へ出てやぐら 2970

の上に立った。自分の村のかみとしもとに声を飛ばした。「こういうわ 2970

けだから、一族の者よ、どうか手伝いに来てください。」 2983

という、なんとまあ、近隣の者たちは言うことを聞いて 2983

くれて、応じる声があった。すぐに村のかみと村のしもとに人のざわめきが聞こえ 2983

た。まもなくして、多くの長者とその夫人が慎み深く 2983

入ってきた。

- 2992 六つの樽が倉から出され、雑穀を搗く者、水を汲む者、焚き木を集めるも者、イノウ（幣）の木を切る者、料理の準備をする者立ち混じり手を忙しく動かした。
- 3002 しばらくすると六つのシントコ（ほかい）が上座に並べられた。二日、三日すると、神が食べたいと思うものにほかならないよい酒の香りが家の中にみなぎった。
- 3013 手伝いの者たちが戻ってきて、酒を漉すものはざるを忙しく動かして漉した。イノウを削る音、酒を漉す音が断続して響いた。好ましく思う心が私の内に揺曳した。
- 3023 神なる人が削ったイノウの削り花がまこと多くの神雲となって立ち昇った。長者たちが感嘆する声が響いた。
- 3031 古いイノウは外に出され、新しいイノウで神の住いが飾られた。ますます家の中が白いもやでかすんだ。
- 3040 叔母が女物のかばんに手をいれて取り出したのを見ると、なんという見事な狼の毛皮の、胸元と裾周りに幅広の平金がぐると巻かれて、平金の上はおびたらしい金の模様で飾られていたものだった。その上には神々しい光が数多く輝いていた。
- 3059 立派な鉢巻の麗々しいのととも立派な耳輪と立派な胸飾り、金の胸飾り、それに加えて絹の帯とともに大きな包みを私にくれた。
- 3069 叔母はこう言った。これらのものはお前の母上様が身につけられたものです。お前のためにしまっておきました。今こそ、お前は女になった。これからはこういうものを身にまとい、母親と同様、尊い淑女のようにふるまえるのだから、お前のちい兄さん（小イヨチ彦）のお食事の世話をしなさい。さあ、これを着てお酌をしておなさい。」と言った。
- 3091 まったく死ぬほど死ぬほどあまりにも恥ずかしかった。どうしてだか神なる人はそれを聞くと笑って馬鹿にしているようだった。
- 3099 哀れなことに、叔母はこのように私が言葉にそむき、悪いふるまいの中でももっとも悪いことをしてしまったことにさえ気づかず、いつまでもきりなく良き事を数々、言うので、ひどく恥ずかしい思いをした。
- 3116 私の尊い母がまとったもったいないほどの晴れ着を私のような悪い女が身に着けるのもつらいけれど、その着ると定めされたものに袖をとおしたら、今や人の目にまったく私の体が見えなくなった。濃いもやの中にみずから置いていた。身のまわりが光を放ち、輝いていた。
- 3135 神なる人も、そうでなくとも美しいのに、酒宴の盛装に身を包み、その姿は見られなかった。その周りに神々しい光が広がっていた。
- 叔母も酒宴の晴れ着を身にまとった。光の中で喉を清めて弁の立つ者を差し向けてイヨチ彦（小イヨチ彦）と育ての兄（小イヨチ彦の兄）をその妹ともに招きたい。」と言った）
- よもや耳にしようとは思わなかった言葉をさらに続けて「石狩の人々をその妹ともに招きたい。」と言った。ますます泣きたくなくて、どこかへ逃げられないものか、逃げられるものなら逃げようと思ったが、できなかった。
- 3145
- 3157
- 3164
- ### 3.6 親族が集う
- まもなくして神々がやってくる音鳴りがして次から次へとやぐらの上に降りてきた。
- 家のそばを少なからぬ人が足早に歩いてきた。下屋の中へと身を向けて下屋の中へ大きな咳払いの音を送り込んだ。
- 戸口のすだれの裾をなびかせて入ってきた者を見ると、最初に入ってきたのは小イヨチ彦らの育ての兄のイヨチ彦であるらしく、濃いもやの中に包まれてどうにも讚えようがない美しさであった。
- その背中に接するように娘が入ってきた。この年になって、私よりやや年上に思われ、輝かしいまっつき成長を遂げた者であるからどこもかしこも讚えようがなかった。
- そのあとから入る者を見れば、人の呼ぶ石狩の兄弟二人であることがわかった。
- いまでは成人し、喉ぼとけが出ていて、黒い髭で口の周りが黒々としていた。凡庸であたりまえの容貌で、少しも慕わしく感じられるところがなかった。
- なりなどもとるに足らない。つまらない人々よりもずっと劣っているのを私ははっきりと見て取った。まるであきれ返ってしまった。こんな男に惚れたことが悔しかった。
- どんなことを聞いてもじっとして気を確かに持ち、惑わされずいたならばこんな不快なまいましい思いをしないうで、楽しくしていただろうに、と思った。ただただ密かに泣いてばかりで気を腐らせていた。
- さて、上座では多くの人たちが親族のつどい、穏やかな会見をしていた。
- 私は下座で今こそ私の姉のイヨチ姫（小イヨチ彦の妹）と挨拶を交わした。涙を流してさすりあった。月並みな
- 3173
- 3179
- 3188
- 3200
- 3212
- 3219
- 3231
- 3241
- 3256
- 3262

顔つきをしている石狩姫にも挨拶した。

- 3275 上座で育ての兄（小イヨチ彦の兄）が「妹よ」と言いながら私を抱き寄せさすり、我に挨拶した。私の心は落ち着いていた。イヨチ彦（小イヨチ彦の兄）の美しい手を私は持ち上げ、シントコの陰に座らせた。
- 3289 酒宴の座は長々と伸びていた。座の間で足を運び酌をしてみわった。者がいなかった。いように思われた。
- 3298 祭りが始まった。天に届くほどイナウを立て、杯を掲げて、神祭りは終わった。
- 3304 盛んな先祖祭りなども終わった。ここで一息ついた。
- 3307 それからたぐい酒、神の酒を交わした。多くの人々に酔いがまわって、皆、喜んでいた。
- 3314 小石狩彦たちもすっかり酔っぱらってそのためますますぶざまになった。
- 3319 ちい兄さん（小イヨチ彦）もこうなっては酒の心が顔色に出て、やつれが見えた。なおいっそう神のようになって酔った。
- 3327 ちい兄さんは、ますます人の心をさいなみたくなり、酌をすると、今や口元に笑みを浮かべてかすかな声でこのようにささやいた。
- 3338 「どうした。あんなただのうわさを聞いただけで泣いてばかりで食べもせず、恋しさ募る一方の石狩人たちに今こそ会えてますます恋慕の情けが深まったのか。悲しいことだ。石狩人が美しすぎるので、まだ見ないうちから惚れてしまったとは、驚いたことだ。
- 3356 一方、我は醜い男だそうで、その上、恥をかかされたことを思い出すにつけ、面目を失った思いだ。」と言った。
- 3367 私が悪いのだから、いつまでもこのように私の心をいじめ、私の心を害するようなことをするのだ。それならいつでもいい、さっさと死んでしまおうとうなずいた。
- 3381 酒宴が終わった。大勢の者たちは感謝の言葉とともに帰って行った。育ての兄たち（イヨチ彦の兄と妹）はなお二日ほどよもやま話をしてまた再び会うことを約束して帰ってしまった。叔母は邸のそばにある私のお母さんが天から持ってきた家へ移っていった。

### 3.7 小イヨチ彦思いの丈を語る

- 3397 そのあと、今やたった二人だけになった。神なる人は右座の奥から炉のそばに席を移した。私は左座で前髪の裾を床に垂らして畏まっていた。
- 3410 ちい兄さんは突然、炉のこちらに手を伸ばし、私の片

手をつかみ引き寄せた。私の手が焼けただれるばかりに熱くなると、私を自分の下座に叩き付けるように座らせた。

- 棘のいっばい付いた棍棒を私に向け、激しく打ちすえた。そうしながら、激しい言葉を、身を切り刻むような、突き刺すような言葉を浴びせかけた。 3420
- 「神も恐れぬ汚れたやつ。腐れアマ。さあ、気づけ。われが言わなくとも、もう悪い心とか悪いふるまいが何か、お前にも分つたろう。 3430
- 淑女の気立て、正しいふるまいを心がけてお前の立派な叔母が諭した教えを聞いて、そのとおりにしていたら、こんなに長く後悔して辛い思いをすることなく、この宴を楽しめたのに。 3442
- われがどんなふうにしてお前の悪さをことごとく知りえたのか、とお前は不審に思っているだろう。 3458
- 我は幼いときから神が育てた人間、神の食べるものを食べてきた人間だから、真実を見抜く人間だ。なんであれ心眼で見理解できるのだ。 3464
- お前はあのような心得違いをしたのだから、一刀のもと斬り捨てても構わないけれど、そうなれば多くの者に妬まれ、にくまれたお前の父、あの立派なわが叔父の胤が無くなるので、それはまことに良くない。 3474
- さらに、お前の叔母ほど心正しい人はめったにいないものではない。お前に立派な教育を施したので神から誉められているのに、こんな不正なふるまいをお前がしたということをお前の叔母が気づいたら、あの人は神に申し訳ないと思い、別の世界に行ってしまうに違いない。 3485
- お前を殺してな。我にははっきりと予見できる。 3503
- 我にもいくら落ち度があった。速やかに、そんなことは赦されないことと、お前に教えてやったら良かったのだ。まだ若い幼い男の考えることといたらあのようなことだった。だからお前を責めすぎた。 3508
- 我はこのように生れ育つあいだ陰ながら身を純潔に保ってきたのだが、心外なことにお前は我に無礼を働いた。 3521
- 悪く思われるようなことをお前がしているのを我は見えて、寸でのところであっさり殺すところだったが、さきほど言ったように、先祖の残したものを良くしようというのが我の思いであるからわが心を大きくし、それはこらえてお前の心をいささかさいなんだ。 3531
- そのようにお前をいじめれば、いい気味、ざまあ見ろとわれが思っているとお前は考えるかもしれないが、決してそうではない。さあ、気づけ、速く気づけ。 3547

- 3556 お前が苦しむのに目をふさいで気づかなかったのではなかったのだ。
- 3563 お前は、何度も何度もみずから死のうとしたが、我の力でお前の死のうという気持ちを思いとどませた。それでお前は死ねなかったのだ。
- 3572 その間、ずっと心の半分ではお前をそしり、心の半分ではお前をあわれみ、お前といっしょに泣いた。お前と同じように何を口にしても味がわからず、ほとんど手をつけなかった。夜になっても心穏やかに一度たりとも良い眠りにつくことがなかった。
- 3587 勇士の子孫、首領の胤であるが、このように肌もかさかさになり、やせ細ってしまった。
- 3593 お前の気持ちが少しもわからなかったというのではないのだ。今はお前の悪いところもまた我の物だ、と思ひ直して、お前を赦し、お前を抱きしめたのだ。
- 3604 これからは正真正銘の淑女のたしなみを保って我の世話を見てほしいのだ。
- 3611 もう少しもお前を責めない。今までお前の気持ちをさいなんできたのも、お前が好きでたまらなかったからで、やればやるほど言葉いじめが高じたけれど、我は勇士で首領であるのだから、これからは心を静めて、そんな無益ないじめをお前にしない。
- 3633 石狩人たちは、なんのいわれも知らないでいる。かわいそうに。あの人たちの知らないところでこのようにこんな話をただ二人だけでしている。ほかの人は誰も知らないのだ。これから誰よりも仲良くして行こう。」と言った。
- 3651 私は声をあげて泣いた。「ああ、お兄さん。」と叫んだ。ちい兄さんの腕の中に飛び込んだ。
- 3660 このように心でものを見る人だから、申し訳ないと思う気持ちを抱いていることを見抜いてくれたと理解した。
- 3669 今はどんなことがあろうとも死ぬことはできない。
- 3675 ちい兄さんの良き意にしたがい暮らしていこうと泣きながら謝ると、たくましい丈夫であったのに、萎れたガマのように体を崩し、「わがいとしの妹よ。」と言いながら自分の腕の中に私を入れて、私を抱き寄せ、「妹よ。」と、「我が心臓よ。」と言いながら私の上におびたしい濃い涙を流した。
- 3697 それに応じて「お兄さま。」と言いながら、ちい兄さんの着物の裾を手繰り寄せて、その膝頭をなでさすった。
- 3703 本当に私が悪かったと、二度も三度も言う、「もういいんだ、もういい、そこまで、そこまで。」と言って、か

ずかずのやさしい言葉で私を教え諭した。

### 3.8 結ばれる

- そのあと、「さあ、何か食べるものを食べさせてくれ。すっかり腹が減った。」と言うので、ハッと気づいて、下座に行って、おびたしい水しずくを手にかけて掛けて、美しい小さな鍋を鍋の耳から清め、それに水を入れ火に掛けた。
- 洗って、しまっていた米を鍋の中に注ぎ入れて、おいしいご飯をいささか手ずから炊いた。
- 薄造りのお膳と薄造りのお椀を出して、ほかの品々とともに並べ、この高盛りを恐る恐る頭高に掲げた。
- ちい兄さんはそれを受け取り、幾度も掲げて礼拝し、ゆったりとした食事を続けた。
- 「ようやくうまいめしにありつけた。」とうれしそうに何度も、何度も繰り返し言い、御馳走の半分を私によこした。
- 受け取ると幾度も幾度も感謝して食べてみると、なんともまあ、ちい兄さんがじょうずに盛り付けたもののおいしかったことでしょう。
- 今こそ心静かに食べたものだから、その栄養が私の心臓の隅から隅までしみわたった。速やかに元気が出てきて、うれしかった。
- もう二人とも心の底からホッとした。先祖から続く母の寝床で私たちはぐっすりと眠った。私はちい兄さんの後ろに座る妻となった。
- ちい兄さんは息吹のただ中、心臓のただ中に私を結び付けた。叔母は大層喜んだ。私たちはいつも叔母をいたわった。
- ちい兄さんは山で獲れたものを浜まで降ろし、沖で獲れたものを陸まであげ、いつも猟に恵まれた。
- 私が畑を耕すと、収穫に恵まれ、多くの倉が建った。
- 国中に私たちの良き暮らしが高い評判となって伝わった。宮居である私たちの家を私たちはしっかりと守った。
- イヨチに住む兄（イヨチ兄）も妻をめとった。姉（イヨチ妹）も夫を得た。みんなが幸せになったという評判が私たちの耳にもいつも届いた。
- 私はまったくの悪人であったけれど、ちい兄さん（小イヨチ彦）が心正しかったおかげで、このように本当の淑女になれたのだ。だからこうしてお話しできるのだ。

# 肩だけ触れて

## 第1章 シヌタブカの娘

### 1.1 叔母のしつけ

- 1 A-koro unarbe (p. 474)  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしの叔母が
- 2 i-reshba wa  
イ・レシバ ワ  
我・育てる 接続  
わたしを育み
- 3 tu shukup ramkuru  
トゥ シュクフ ラムクル  
二つの 成長する 年齢 (?)  
二つの成長を
- 4 re shukup ramkuru  
レ シュクフ ラムクル  
三つの 成長する 年齢 (?)  
三つの成長を
- 5 a-unoshbare.  
ア・ウノシバレ.  
我・追いかけてあわせる  
わたしは次々と遂げた。
- 6 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしの叔母は
- 7 upsorbo ne  
ウプソロボ ネ  
ふところ 繫  
肌着の下に
- 8 i-reshu.  
イ・エレシユ.  
我・育てる  
わたしを入れて育ててくれた。
- 9 Hese attom  
ヘセ アトトム  
息をする 中  
息のただ中、
- 10 sambe attom  
サムベ アトトム  
心臓 中  
心臓のただ中に
- 11 i-ekotekar  
イ・エコテカラ  
我・結び付ける  
わたしを結び付けて
- 12 eashka i-eyam  
エアシカ イ・エヤム  
頗る 我・大事にする  
わたしを大切に抱き
- 13 i-toikoomap.  
イ・トイコオマフ.  
我・とても愛する  
わたしをかわいがってくれた。
- 14 Tane ponno  
タネ ポンノ  
今 少し  
今少し
- 15 boro-an ko  
ボロ・アン コ  
大きくなる・我 条件  
大きくなると
- 16 harkiso ne  
ハラキソ ネ  
左座 繫  
左座の
- 17 sarambe tumbu upsor  
サラムベ トウムプ ウプソロ  
絹 寝屋 内部  
絹の寝屋の中で
- 18 i-oreshu.  
イ・オレシユ.  
我・育てる  
わたしを育ててくれた。
- 19 Tokap an ko  
トカフ アン コ  
昼 ある 条件  
昼間は
- 20 soine-an wa  
ソイネ・アン ワ  
外出する・我 接続  
寝屋から出て
- 21 harkisotta  
ハラキソッタ  
左座に  
左座で
- 22 yayuinako-  
ヤユイナコ・  
己を灰といっしょに  
灰の灰を
- 23 batu-an kane  
バトウ・アン カネ  
跳ねらかす・我 同時  
飛ばして
- 24 yaiturashinot-an.  
ヤイトウラシノト・アン.  
一人で遊ぶ・我  
一人遊んだ。
- 25 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 26 shiso sam ne  
シソ サム ネ  
右座 そば 繫  
右座に
- 27 ehorarpa  
エホララパ  
居る  
座り、
- 28 karkar kunip  
カラカラ クニフ  
刺繍する すべきもの  
刺繍に
- 29 attomsama-  
アトムサマ・  
ひたすらのまん中  
余念が
- 30 yayomare.  
ヤヨマレ.  
己を入れる  
なかった。
- 31 Ineapkus  
イネアックス  
何と  
なんて
- 32 ashkai wa  
アシカイ ワ  
上手である 接続  
器用な
- 33 shir an nankora.  
シラン ナンコラ.  
様子 ある だろうか  
ことか、
- 34 Karkar kunip  
カラカラ クニフ  
刺繍する すべきもの  
その作るものに
- 35 eashka a-erayap  
エアシカ ア・エラヤフ  
頗る 我・感心する  
わたしは驚き、
- 36 a-eramasu.  
ア・エラマス.  
我・好ましく思う  
魅惑された。
- 37 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 38 usa shito hene  
ウサ シト ヘネ  
譲歩 餅 も  
餅や
- 39 meshi hene  
メシ ヘネ  
飯 も  
飯や
- 40 kina ratashkep  
キナ ラタシケフ  
草 和え物  
山菜の混ぜ物を作り
- 41 i-ereshpa.  
イ・エレシパ.  
我・育てる  
わたしを養ってくれた。
- 42 Shine an i wano  
シネ アニ ワノ  
一つの ある 形名 から  
ある時、
- 43 sarambe sapte  
サラムベ サフテ  
絹 出す  
絹と
- 44 kem sapte wa  
ケム サフテ ワ  
針 出す 接続  
針とを取り出して
- 45 i-sam o kane  
イ・サム オ カネ  
我・傍ら 入れる 同時  
わたしの傍らに置いて
- 46 ene itak i  
エネ イタキ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 47 “Koninkarkusu (p. 475)  
“コニンカルクス  
(語り掛けの合図)  
「もしもし、
- 48 kamui a-matkarku  
カムイ ア・マトカルク  
神 我・姪  
大切なわらわの姪よ、
- 49 tane bakno okai  
タネ バクノ オカイ  
今 まで ある  
昔から

- 50 matkachi anakne  
マトカチ アナクネ  
少女 は  
女の子というものは
- 51 kemeiki hemem  
ケメイキ ヘメモ  
針仕事をする も  
針仕事でも
- 52 nep ne yakka  
ネプ ネ ヤッカ  
何 繫 譲歩  
なんでも
- 53 menoko ki kushne p  
メノコ キ クシネ プ  
女 する 必然・意志 もの  
女がすべきことを
- 54 obittano  
オビトタノ  
皆  
すべて
- 55 e-yaihanokkar wa  
エ・ヤイハノッカワ  
汝・稽古する 接続  
稽古して
- 56 e-ramokai kushne.  
エ・ラモカイ クシネ.  
汝・理解する 必然・意志  
身につける習わしです。
- 57 Menoko anakne  
メノコ アナクネ  
女 は  
女が
- 58 usa aikap  
ウサ アイカプ  
譲歩 左手  
不器用で
- 59 usa toranne ko anakne  
ウサ トランネ コ アナクネ  
譲歩 怠ける 条件 は  
ものぐさのようでは
- 60 sonno a-eyashtoma p  
ソンノ ア・エヤシトマ プ  
真に 我・恥ずかしい もの  
まったく恥ずかしい
- 61 tap okai na.  
タプ オカイ ナ.  
これ ある (訴え)  
ことです。
- 62 Naa ponno  
ナア ポンノ  
まだ 少し  
今少し
- 63 e-boro i ta anakne  
エ・ボロ イ タ アナクネ  
汝・大きくなる 形名 場所 は  
おまえが大きくなったら
- 64 naa naa boronno  
ナア ナア ボロンノ  
まだ まだたくさん  
もつともつたくさん
- 65 e-bakashnu-an kunip  
エ・エバカシヌ・アン クニプ  
汝・教える・我 すべきもの  
教えて
- 66 okai ruwe ne.  
オカイ ルウェ ネ.  
ある 跡 繫  
あげましょう。
- 67 Anakne hoshkino  
アナクネ ホシキノ  
は 先に  
そこで、始めは
- 68 ikarkar kunak  
イカラカラ クナク  
刺繍する 引用  
針仕事を稽古
- 69 ramu yan.” ari  
ラム ヤン” アリ  
思う 命令 引用  
「しょう。」
- 70 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
そう言ったので、
- 71 sonno a-eramubon-  
ソンノ ア・エラムボ.  
真に 我・心  
わたしはとつても
- 72 bashkosamba.  
バシコサムバ.  
さっと走る  
うれしく胸が躍った。
- 73 Orowano  
オロワノ  
始点  
それから、
- 74 nubetne tura  
ヌベトネ トウラ  
喜ぶ ともに  
喜んで
- 75 rupne bukuru  
ルッネ ブクル  
大きい 布のしわ  
大きな布溜め
- 76 nokan bukuru  
ノカン ブクル  
小さい 布のしわ  
小さな布溜めを
- 77 a-uchiubare.  
ア・ウチウバレ.  
我・連ねる  
連ねて縫った (稚拙な縫い方)。
- 78 A-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母に
- 79 a-nukare chiki  
ア・ヌカレ チキ  
我・見せる 条件  
見せると
- 80 kosanchakata-  
コサンチャカタ.  
口元で  
口元で
- 81 raimina kane  
ライミナ カネ  
ひどく笑う 同時  
ひどく笑いながら
- 82 shietu uina  
シエトゥ ウイナ  
己の鼻 手に取る  
鼻を抑え、
- 83 shibar uina kane  
シバラ ウイナ カネ  
己の口 手に取る 同時  
口を抑え、驚きの仕草をしつつ、
- 84 sonno ashkai-am manu  
ソンノ アシカイ・アム マヌ  
真に じょうずだ・我 という  
とても上手と
- 85 anrekakar.  
アンレカカラ.  
ひどく褒める  
すごく褒めてくれた。
- 86 Sonno am be  
ソンノ アム ベ  
真に ある もの  
わたしは、それを
- 87 ye hawe ne kuni (p. 476)  
イエ ハウェ ネ クニ  
言う 声 繫 必然  
本心から言うことと
- 88 a-ramu kusu  
ア・ラム クス  
我・思う 根拠  
思っ、
- 89 shino nubetne-an koro  
シノ ヌベトネ・アン コロ  
まことに 喜ぶ・我 同時  
とても得意になって
- 90 sui neino\*2  
スイ ネノ  
再び 繫  
またそのとおり
- 91 kemeiki  
ケメイキ  
針仕事をする  
針を
- 92 a-ki awa  
ア・キ アワ  
我・する 展開  
動かしたが、
- 93 kanantano kane  
カナントノ カネ  
変に 音調  
ふと不審に思っ
- 94 inu-an  
イヌ・アン  
聞く・我  
耳を立てた。
- 95 tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
これはなぜなのか、
- 96 inkar-an awa  
インカラ・アン アワ  
見る・我 展開  
見れば
- 97 somo ka un sui  
ソモ カ ウン スイ  
否定 も 文終結 再び  
まさか
- 98 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしの叔母の
- 99 katkoro kuni  
カトコロ クニ  
振舞う 必然  
することとは
- 100 a-ramu rok i  
ア・ラム ロキ  
我・思う 完了 形名  
思いもかけないことには

\*2 原ノートは sui nei. -no を補う。

- 101 shisembir un wa  
シセムビリ ウンワ  
己の後ろ 方向 接続  
自分の後ろに
- 102 shikirba hine  
シキリバ ヒネ  
振り向く 接続  
身を向けて
- 103 bituntunke  
ビトゥントウンケ  
忍びこらえ笑う  
笑いをこらえての
- 104 bikitkitche.  
ビキトキトチエ.  
忍びこらえ笑う  
忍び笑い。
- 105 Mina rusui  
ミナ ルスイ  
笑う したい  
吹き出したくて
- 106 kasui hine  
カスイ ヒネ  
甚だしい 接続  
たまらなく
- 107 bitantarki  
ビタンタヨキ  
笑いをこらえる  
それをこらえている<sup>\*3</sup>
- 108 inkan ne wa  
インカン ネワ  
見る 繋 接続  
それを見た
- 109 a-ki p ne koroka  
ア・キ ヲ ネ コロカ  
我・する もの 繋 逆接  
だけで
- 110 sonno yayikush keutum  
ソンノ ヤイクシ ケウトウム  
真に 悔しい 心  
悔しい気持ち、
- 111 irushka keutum  
イルシカ ケウトウム  
怒る 心  
いまましい気持ちに
- 112 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
かられた。
- 113 A-chishhaukonna-  
ア・チシハウコンナ・  
我・泣く声  
わたしは
- 114 waise kane  
ワイセ カネ  
泣き声がする 同時  
ワイワイ泣いて
- 115 kuttokonno  
クトコンノ  
逆さまに  
逆さまになって
- 116 makachinkan-  
マカチンカン・  
開いた足  
足を開いて
- 117 hokush-an  
ホクシ・アン  
倒れる・我ら  
腰をゆすって
- 118 hotakutaku-an  
ホタクタク・アン  
尻をゆする  
足をバタバタさせ、
- 119 hobiuba-an kane  
ホビウバ・アン カネ  
踏みつける・我 同時  
ドタバタさせて
- 120 chish-an awa  
チシ・アン アワ  
泣く・我 展開  
泣くと、
- 121 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 122 homatpa ruiba p  
ホマトパ ルイバツ  
驚く 激しいもの  
とても驚いて
- 123 inkan ruwe konna  
インカン ルウェ コンナ  
見る 跡 は  
目を
- 124 chainatara.  
チャイナタラ.  
目を見開いている  
開いていた。
- 125 Kurkashike  
クルカシケ  
上  
そうしながら
- 126 itakomare hawe  
イタコマレ ハウエ  
言う 声  
言う
- 127 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
ことは、
- 128 “Usaine tap sui  
“ウサイネ タツ スイ  
色々と これ再び  
「いったいどうしたの、
- 129 Kamui a-matkarku.  
カムイ ア・マトカラク.  
神 我・姪  
大切な姪よ。
- 130 Hemanta tapne  
ヘマンタ タツネ  
何 これである  
いったいなぜ
- 131 chIshkar hawe  
チシカラ ハウエ  
泣く 声  
泣き叫ぶ声、
- 132 i-ramtuipa ki hawe (p. 477)  
イ・ラムトウイバ キ ハウエ  
我・心を切る する 声  
胸を裂くような声を
- 133 okai be ne ya.  
オカイ ベ ネ ヤ.  
ある もの 繋 疑問  
あげるのです。
- 134 Ahun ushiu  
アフン ウシウ  
入る 召使い  
内の召使も
- 135 soyun ushiu utar  
ソユン ウシウ ウタラ  
外にある 召使い たち  
外の召使いも
- 136 konep tap teta  
コネツ タツ テタ  
何 これ ここで  
何事かと
- 137 ye kokatun hawe  
イエ コカトゥン ハウエ  
言う 様子だ 声  
言うで
- 138 okai wa  
オカイワ  
ある 接続  
しょうよ。
- 139 yaikoeramuninno  
ヤイコエラムニンノ  
不注意に  
うっかりして
- 140 ponno a-emina  
ポンノ ア・エミナ  
少し 我・笑う  
笑いを
- 141 shiri ne.  
シリ ネ.  
様子 繋  
漏らしてしまったのです。
- 142 Ene he tap ne  
エネ ヘ タツ ネ  
このように 疑問 これ 繋  
こんなに
- 143 e-ashkai ruwe  
エ・アシカイ ルウェ  
汝・習う 跡  
おまえが上手なのに
- 144 i-rayapka okai  
イ・ラヤッカ オカイ  
我・感心させる ある  
感心した
- 145 ruwe an ko  
ルウェ アン コ  
跡 ある 条件  
のに
- 146 nep kusu  
ネツ クス  
何 根拠  
どうして
- 147 a-emina p ne wa kusu.  
ア・エミナツ ネワ クス.  
我・笑う もの 繋 接続 根拠  
笑ってしまったのでしょ。
- 148 Oar oar somo ne na.  
オアラ オアラ ソモ ネ ナ.  
全く 全く 否定 繋 (訴え)  
少しもそんなこと、ありません。
- 149 Iteki chish.  
イテキチシ.  
決して泣く  
泣かないでね。
- 150 Iteki chish no  
イテキチシ ノ  
決して泣く 接続  
泣かないで
- 151 hokure hokure  
ホクレ ホクレ  
早く 早く  
さあ、さあ

<sup>\*3</sup> bitantarki の意味は不明。とりあえずこのように訳す。bitantarki は bitautarki とも見える。

- 152 ikarkar.” ari  
イカカラ.” アリ  
刺繍する 引用  
針を動かさなさい。」と
- 153 okkeukurkan-  
オッケウクルカン・  
首の骨  
首の骨が
- 154 isam kane  
イサム カネ  
ない 同時  
なくなるほど
- 155 i-henkotpa.  
イ・ヘンコトパ.  
我・口づけする  
うなずいてわたしを愛撫した。
- 156 Shiriki chiki  
シリキ チキ  
見える 条件  
叔母のその様子、
- 157 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
その言葉を
- 158 a-noeisokor  
ア・ノエイソコロ  
我・真に受ける  
真に受けて、
- 159 sui oyap korachi  
スイ オヤッ コラチ  
再び上陸するように  
別人のようになって
- 160 nube tum wa  
ヌベ トウムワ  
涙中から  
涙の間から
- 161 imasasa-an kane  
イマササ・アン カネ  
目を開ける・我 同時  
目をあけて、
- 162 nei bukuru kar  
ネ ブクル カラ  
繫 布のしわ 作る  
しわが寄る下手な運針に
- 163 a-koarikiki.  
ア・コアリキキ.  
我・懸命に働く  
熱中した。
- 164 Keshto ki.  
ケシト キ.  
毎日 する  
毎日そうした。
- 165 Inkar-an ko  
インカラ・アン コ  
見る・我 条件  
気づくと
- 166 ne rok a-tekekar  
ネ ロク ア・テケカラ  
繫 完了 我・手で作る  
それらのわたしが作った
- 167 bukuru utar  
ブクル ウタラ  
布のしわ たち  
袋だめたちは
- 168 ahun ushiu  
アフン ウシウ  
入る 召使い  
内の召使、
- 169 soyun ushiu utar  
ソユン ウシウ ウタラ  
外にある 召使い たち  
外の召使たちの
- 170 osottamba ne kane  
オソットンバ ネ カネ  
未詳 繫 同時  
オソツタンバ<sup>4</sup>になって
- 171 shir okai.  
シリ オカイ.  
様子 ある  
いる。
- 172 Shiyoro keutum  
シヨロ ケウトウム  
驚く 心  
不思議な思いに
- 173 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
かられた。
- 174 Tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
やがて
- 175 shino oramato-an.  
シノ オラマト・アン.  
まことに 物事が分かる  
物が分かるようになった。
- 176 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 177 a-ewak ushike oshkehe  
ア・エワク ウシケ オシケヘ  
我・住む ところ 中  
わが住まいの中を
- 178 pirikano a-nukar kusu  
ピリカノ ア・ヌカラ クス  
良く 我・見る 根拠  
よく見てみると
- 179 taban inuma  
タバン イヌマ  
この 宝壇  
壮麗な宝壇が
- 180 chise kankotor  
チセ カンコトロ  
家 上の曲面  
屋根裏まで
- 181 eush anke  
エウシ アンケ  
顔を付ける しようとする  
届くほどに高く、
- 182 boro ikiri  
ボロ イキリ  
大きい 列  
長い列をなして
- 183 chishiturire.  
チシトゥリレ.  
伸びる  
伸びていた。
- 184 Kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上は
- 185 kamui nubeki  
カムイ ヌベキ  
神 光  
神々しい光が
- 186 komaknatara.  
コマクナタラ.  
輝いている  
照り映えていた。
- 187 Ikit tukari  
イキト トウカリ  
列 手前  
宝列の手前に
- 188 kani amset  
カニ アムセト  
黄金 寝台  
金の寝台、
- 189 chituye amset  
チトウイエ アムセト  
切れた 寝台  
板づくりの寝台が
- 190 chishiturire kane  
チシトゥリレ カネ  
伸びる 音調  
横たわっていた。
- 191 amset okari  
アムセト オガリ  
寝台 まわり  
寝台のまわりには、
- 192 sep birankani  
セップ ビランカニ  
幅広い 平金  
幅広の平金が
- 193 chiekarbare.  
チエカラバレ.  
取り囲む  
巻かれていた。
- (p. 478) 194 Kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上に
- 195 tu kani shiriki  
トゥ カニ シリキ  
二つの 黄金 模様  
おびたらしい
- 196 re kani shiriki  
レ カニ シリキ  
三つの 黄金 模様  
金の文様が
- 197 chietomte kane  
チエトムテ カネ  
輝いている 音調  
輝いていた。
- 198 kurkashike  
クルカシケ  
上  
さらにその上は
- 199 kamui nubeki  
カムイ ヌベキ  
神 光  
神々しい光が
- 200 komaknatara.  
コマクナタラ.  
輝いている  
燦然としていた。
- 201 Mike kane  
ミケ カネ  
輝く 音調  
ピカピカと
- 202 shikaye kane  
シカイエ カネ  
光る 音調  
折れ曲がるように光っていた。

<sup>4</sup> osottamba は osottumba とも見える。

- 203 anramasu  
アンラマス  
まったく好ましい  
讃嘆の心が
- 204 a-uwesuye.  
ア・ウウエスイエ.  
我・思う  
揺れやまない。
- 205 Ikir kesh wano  
イキリケシ ワノ  
列 末端 から  
宝列の下端からは
- 206 kani matshuyop  
カニ マトシユヨブ  
黄金 女物の小箱  
女ものの金の箱の列の
- 207 ikirbok konna  
イキリボク コンナ  
列の下 は  
下が
- 208 meunataru  
メウナタラ  
きらびやかである  
目も彩に美しく、
- 209 utur un shikkeu  
ウトウル ウン シッケウ  
火尻座 方向 隅  
下座の隅にまで
- 210 chieushi kane  
チエウシ カネ  
とどく 音調  
達していた。
- 211 nei kotchake  
ネ コトチャケ  
繋 前  
その前に
- 212 kani mukru  
カニ ムクル  
黄金 枕  
金の枕が
- 213 chieshituri.  
チエシトゥリ.  
伸びている  
横たわっていた。
- 214 Enkashike  
エンカシケ  
離れた上  
その上に
- 215 kani chikirbe  
カニ チキリベ  
黄金 刺繍衣  
金の刺繍衣、
- 216 kamui chikirbe  
カムイ チキリベ  
神 刺繍衣  
神々しい刺繍衣が
- 217 rikun kakenchai  
リクン カケンチャイ  
上にある 掛け竿  
掛け竿の上の竿と
- 218 ranke kakenchai  
ランケ カケンチャイ  
下の 掛け竿  
下の竿とを
- 219 eereweuse.  
エエレウエウセ.  
しなる  
しならせていた。
- 220 Kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上には
- 221 tu kamui chupki  
トゥ カムイ チュフキ  
二つの 神 光  
おびたしい
- 222 re kamui chupki eshimaka.  
レ カムイ チュフキ エシマカ.  
三つの 神 光 輝く  
神の光が輝いている。
- 223 Anramasu (p. 479)  
アンラマス  
まったく好ましい  
まったくの好ましさに
- 224 a-uwesuye.  
ア・ウウエスイエ.  
我・思う  
胸が震える。
- 225 Kani so kurka  
カニ ソ クルカ  
黄金 平面上  
金の床は
- 226 teshnataru  
テシナタラ  
平らである  
広々として、
- 227 kani inumbe  
カニ イヌムベ  
黄金 焔縁  
金の焔縁が
- 228 baye ruwe konna\*5  
バイエ ルウエ コンナ  
行く 跡 は  
伸びるさまは
- 229 rubaetomne.  
ルバエトムネ.  
未詳  
ルバエの色を成していた。\*6
- 230 Tokap an ko  
トカプ アン コ  
昼 ある 条件  
昼になると、
- 231 kunne urar  
クンネ ウララ  
黒い 霧  
黒いもや、
- 232 retar urar  
レタラ ウララ  
白い 霧  
白いもやが
- 233 uwetushnatki kane  
ウウエトウシナトキ カネ  
みなぎる 音調  
たなびき、
- 234 kunne an ko  
クンネ アン コ  
夜 ある 条件  
夜になると
- 235 ikor nubek  
イコロヌベク  
宝物 光  
宝物の光、
- 236 tomi nubek  
トミヌベク  
財宝 光  
財宝の光が
- 237 tokap shikush ne  
トカプ シクシ ネ  
昼 日差し 繋  
昼の光線のように
- 238 chise upshoro  
チセ ウツノロ  
家 内部  
家の中に
- 239 emaknataru.  
エマクナタラ.  
輝く  
まばゆかった。
- 240 Anramasu  
アンラマス  
まったく好ましい  
胸の
- 241 a-uwesuye kane  
ア・ウウエスイエ カネ  
我・思う 音調  
揺すぶられる思いがする。
- 242 inepkusu  
イネアプクス  
何と  
とつても
- 243 a-eaikap kusu  
ア・エアイクアプクス  
我・できない 根拠  
わたしが下手なので、
- 244 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 245 i-oyapnere  
イ・オヤプネレ  
我・別人にする  
なだめて
- 246 haweokai rok  
ハウエオカイ ロク  
言う 完了  
くれたのだが、
- 247 kemeiki  
ケメイキ  
針仕事をする  
その針仕事
- 248 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
今では (巧みになって)
- 249 a-karkar kunip  
ア・カラカラ クニプ  
我・刺繍をする すべきもの  
わたしの縫うものは
- 250 tu kamui nish ne  
トゥ カムイ ニシ ネ  
二つの 神 空 繋  
多くの
- 251 re kamui nish ne  
レ カムイ ニシ ネ  
三つの 神 空 繋  
神の雲となって
- 252 yayebumba.  
ヤイエブムバ.  
立ちのぼる  
昇り立つようであった。

\*5 原文は bayerwe. u を補う。

\*6 rubae は「溶けて流れる」という意味かもしれない。同じ文脈で rumaibe tom ne と言われることもある。この句も未詳。

- 253 Yaikota  
ヤイコタ  
己で  
わたし自身も
- 254 a-tekekar be  
ア・テケカッ ベ  
我・手で作る もの  
自分が作ったもの
- 255 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
ながら、
- 256 sonno ashkai-an ruwe  
ソンノ アシカイ・アン ルウェ  
真に 上手である・我 跡  
まったくみごとと
- 257 a-noeraman  
ア・ノエラマン  
我・よくわかる  
思い、
- 258 a-eyaikiror-  
ア・エヤイキロロ・  
我・喜び  
うれしく
- 259 ante kane  
アンテ カネ  
あらしめる 音調  
思った。
- 260 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラバ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 261 shiarso un  
シアラソ ウン  
己の向かい座 方向  
炬のこちら側に向けて\*7
- 262 tekkakibo  
テッカキボ  
かざした手  
手をかざし、
- 263 rikunruke  
リクンルケ  
高くかざす  
上へ
- 264 raunruke.  
ラウンルケ。  
低くかざす  
下へと礼拝した。
- 265 Katune kane  
カトゥネ カネ  
姿をとる 音調  
型通りに
- 266 ashkai-an ruwe  
アシカイ・アン ルウェ  
上手である・我 跡  
わたしの巧みに
- 267 erayap kunip  
エラヤッ クニッ  
感心する すべきもの  
感心するの
- 268 ne wa ne yakne  
ネ ワ ネ ヤクネ  
繋 接続 繋 条件  
ならば
- 269 kotom korkaiki (p. 480)  
コトム コカイキ  
ようである 逆接  
ありそうだけれど、
- 270 shikchubuchubu  
シクチュブチュブ  
目をすぼめる  
目をパチパチさせて
- 271 shikkomomse kane  
シクコムセ カネ  
目を伏せる 同時  
目を伏せている。叔母は
- 272 “Ene he tap ne  
“エネ ヘ タッ ネ  
このように 疑問 これ 繋  
「わたしの尊い姪は
- 273 hoshkino  
ホシキノ  
先に  
初め
- 274 kamui a-matkarku  
カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
あんなに
- 275 ashkai ruwe okai  
アシカイ ルウェ オカイ  
上手である 跡 ある  
上手だった
- 276 rok awa  
ロク アワ  
完了 展開  
けれど、
- 277 tane aikap  
タネ アイカッ  
今 左手  
今はなんて不器用
- 278 ruwe okai.” ari  
ルウェ オカイ。” アリ  
跡 ある 引用  
「なんでしょう。」と
- 279 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
あべこべのことを言うので、
- 280 pon-an i ta  
ボン・アニ タ  
小さい・我 形名 場所  
まだ幼かったときの
- 281 katkoro-an shiri  
カトコロ・アン シリ  
ふるまう・我 様子  
自分のふるまいを
- 282 a-eshikarun chiki  
ア・エシカルン チキ  
我・思い出す 条件  
思い出し、
- 283 sonno yayikush keutum  
ソンノ ヤイクシ ケウトウム  
真に 恥ずかしい 心  
まったく
- 284 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ。  
我・もつ  
恥ずかしくてたまらない。
- 285 Ashba kisar  
アシバ キサラ  
聞こえない 耳  
わたしは
- 286 a-itanure.  
ア・イトウタヌレ。  
我・向ける  
聞こえないふりをした。
- 287 Seenne ponno  
セエンネ ボンノ  
否定 少し  
わたしは
- 288 a-ekottanu kane  
ア・エコッタヌ カネ  
我・関わる 同時  
叔母に少しも構わずに
- 289 uturu ta  
ウトウル タ  
間 場所  
下座（にいる）
- 290 ahun ushiu  
アフン ウシウ  
入る 召使い  
内の僕
- 291 soyun ushiu  
ソユン ウシウ  
外にある 召使い  
外の僕を
- 292 a-tura wa  
ア・トゥラ ワ  
我・連れる 接続  
伴い
- 293 turepta-an usa  
トゥレプタ・アン ウサ  
ウバユリを採る・我 譲歩  
ウバユリを掘ったり、
- 294 ratashkepkar-an chiki  
ラタシケッカラ・アン チキ  
山菜を取る・我 条件  
山菜をとったりしていると
- 295 sonno nuchaktek keutum  
ソンノ スチャクテク ケウトウム  
真に 喜ぶ 心  
喜ばしい気持ちに
- 296 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ。  
我・もつ  
なった。
- 297 Boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさら も  
叔母は
- 298 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラバ  
我・もつ 叔母  
ますます
- 299 i-henkotpa kane  
イ・ヘンコトパ カネ  
我・口づける 同時  
わたしをかわいがって、
- 300 “Kamui a-matkarku  
“カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
「わたしの大切な姪よ、
- 301 enesomun  
エネソムン  
はたして  
はたして
- 302 e-iki kuni  
エ・イキ クニ  
汝・する 必然  
そうなる
- 303 a-ramu i ne kusu  
ア・ラム イ ネ クス  
我・思う 形名 繋 根拠  
思っていたとおり、

\*7 二人は炬をはさんで向かい合っている。

- 304 e-yuptek shiri.  
エ・ユフテック シリ、  
汝・頑張る 様子  
おまえ、頑張ったね。
- 305 Usa ashkai  
ウサ アシカイ  
譲歩 上手である  
何をして上手で
- 306 usa shiretok  
ウサ シレトク  
譲歩 美貌  
顔だちも美しく
- 307 e-ne ruwe.  
エ・ネ ルウエ、  
汝・である 跡  
なった。
- 308 Tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 309 nep ne yakka  
ネップ ネ ヤッカ  
何 繫 譲歩  
何にせよ
- 310 e-eashkai ko anakne  
エ・エアシカイ コ アナクネ  
汝・上手にする 条件 は  
良くできるのだから
- 311 e-resu kuni  
エ・レス クニ  
汝・育てる 必然  
おまえをそう育てたことが
- 312 aokai sonno ne wa  
アオカイ ソンノ ネ ワ  
我 真に 繫 接続  
わたしには
- 313 a-eyairiktaante (p. 481)  
ア・エヤイリクタアンテ  
我・己を誇る  
誇らしく
- 314 shino nubetne-an  
シノ スベトネ・アン  
まことに 喜ぶ・我  
とてもうれしい
- 315 ruwe ne," ari  
ルウエ ネ," アリ  
跡 繫 引用  
よ。」と
- 316 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言って
- 317 ramma iramyē.  
ラムマ イラムイエ、  
いつも 感謝する  
いつも感謝していた。
- 318 Ineapkusū  
イネアックス  
何と  
なんとも
- 319 a-ewak  
ア・エワク  
我・住む  
わたしの
- 320 kamui shiror hene  
カムイ シロロ ヘネ  
神 場所 も  
住まいは
- 321 pirika wa  
ピリカ ワ  
よい 接続  
美しかった
- 322 shiran nankora.  
シラン ナンコラ、  
有様である だろうか  
ことだろう。
- 323 Kamui ekaichish  
カムイ エカイチシ  
神 頂上の平らな岩山  
頂きの折れた神々しい岩山が
- 324 chiekantoor-  
チエカントオロ、  
天  
天に向けて
- 325 suipa kane  
スイバ カネ  
揺する 音調  
ゆらゆらとそびえていた。
- 326 ekaichish ka ta  
エカイチシ カ タ  
頂上の平らな岩山 上 場所  
その平らな頂上に
- 327 tam boro chise  
タム ボロ チセ  
この 大きい 家  
広大な邸、
- 328 tam boro chashi  
タム ボロ チャシ  
この 大きい チャシ  
宏大な砦が
- 329 uworeroshki  
ウウオレロシキ  
重なってそびえる  
並び建ち、
- 330 nei uporo\*<sup>8</sup>  
ネ ウァノロ  
繫 内部  
その内部に
- 331 a-i-y-ereshba.  
ア・イ・イエレシバ、  
我・育てられる  
わたしは育てられていた。
- 332 Chise soinake  
チセ ソイナケ  
家 家の外  
家の外、
- 333 chashi soinake  
チャシ ソイナケ  
チャシ 家の外  
邸の周囲の
- 334 chitomte ruwe  
チトムテ ルウエ  
輝いている 跡  
輝きは
- 335 oar atanan ainu  
オアラ アタナン アイヌ  
全く ただの 人間  
ただの人が
- 336 ewak ushike  
エワク ウシケ  
住む ところ  
住む住居とは
- 337 somo ne kotomno  
ソモ ネ コトムノ  
否定 繫 ように  
とても
- 338 iramu-an.  
イラム・アン、  
思う・我  
思えなかった。
- 339 Nekon iki wa  
ネコン イキワ  
どのように する 接続  
どうして
- 340 shiko kunip  
シコ クニップ  
目がついている すべきもの  
目がつき、口がつき
- 341 baro kunip  
バロ クニップ  
口がついている すべきもの  
生まれた
- 342 a-ne wa  
ア・ネ ワ  
我・繫 接続  
のかわからないが、
- 343 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 344 unarbe ari  
ウナラベ アリ  
叔母 で  
おばさんと
- 345 iborse-an kane  
イボロセ・アン カネ  
名を呼ぶ・我 同時  
呼び親しむ人と
- 346 ouse tun a-ne wa  
オウセ トウン ア・ネ ワ  
ただ (だけ) 二人 我・繫 接続  
ただ二人で
- 347 batek  
バテック  
のみ  
この二人だけで
- 348 taban boro  
タババン ボロ  
この 大きい  
広大な
- 349 kamui ewaki ta  
カムイ エワキ タ  
神 住まい 場所  
宮居に
- 350 okai-an ruwe  
オカイ・アン ルウエ  
いる・我 跡  
住まっていることに
- 351 shino keutum ot ta  
シノ ケウトウム オトタ  
まことに 心 所 場所  
心の中で
- 352 a-oyamokte kane  
ア・オヤモクテ カネ  
我・不思議に思う 同時  
わたしはいぶかりながら、
- 353 "Hetak ta usa  
"ヘタク タ ウサ  
さあ これ 譲歩  
早く
- 354 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
おばさんが

\*<sup>8</sup> 原綴りは uporo.

- 355 i-bashkuma wa  
イ・バシクマ ワ  
我・物語る 接続  
その訳を
- 356 i-kore okai.” ari  
イ・コレ オカイ.” アリ  
我・与える ある 引用  
話してくれたら、と
- 357 ramma yainu-an kane  
ラムマ ヤイヌ・アン カネ  
いつも 考える・我 同時  
いつも思っていると、
- 358 rabokita  
ラボキタ  
間に  
いつの間にか
- 359 pirika-an kotomne (p. 482)  
ピリカ・アン コトムネ  
美しくある らしい  
わたしは美しくなったようで、
- 360 okutchi urar  
オクトチ ウララ  
たちこめる 霧  
たちこめるもやの
- 361 urar tumu  
ウララ トムム  
霧 中  
中に
- 362 a-yayomare.  
ア・ヤヨマレ.  
我・みずから入れる  
入った。
- 363 A-tomsamkonna-  
ア・トムサムコンナ・  
我・身の周り  
わたしの傍らが
- 364 shikaye kane  
シカイエ カネ  
光る 音調  
輝き
- 365 mike kane  
ミケ カネ  
輝く 音調  
ピカピカした。
- 366 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
おばさんは
- 367 pirika ram ne  
ピリカ ラム ネ  
よい 心 繫  
好ましそうに
- 368 i-kohebumba kushne ko  
イ・コヘブムバ クシネ コ  
我・起き上る 必然・意志 条件  
顔を上げわたしに見ようとしたが、
- 369 ene an kamui  
エネ アン カムイ  
このようにある 神  
おばさんのように
- 370 ene am bito  
エネ アム ビト  
このようにある 人  
尊い人が
- 371 hem shiehose  
ヘム シエホセ  
否定 己をさしおく  
自分を差し置いて
- 372 konep kamuye  
コネプ カムイェ  
何 神  
たいへんな神、
- 373 konep bitoho  
コネプ ビトホ  
何 人  
高貴な人を
- 374 koshikraiba kunip  
コシクライバ クニプ  
目撃する すべきもの  
目をしているかのように
- 375 i-tukaribo  
イ・トゥカリボ  
我・前  
わたしの手前に
- 376 koshikerana-  
コシケラナ・  
目を下に  
目を
- 377 rapte kane  
ラプテ カネ  
下ろす 音調  
落とした。

## 1.2 イシカリ彦の噂

- 378 rabokita  
ラボキタ  
間に  
あるとき、評判が聞こえた。
- 379 ponram or wano  
ボンラム オロ ワノ  
幼少 所 から  
幼いころから
- 380 kisar ne kusu<sup>9</sup>  
キサラ ネ クス  
耳 繫 根拠  
耳そのものであったから、
- 381 inu-an ko  
イヌ・アン コ  
聞く・我 条件  
耳を傾けると、(このようなことだった。)
- 382 kamui asuru  
カムイ アスル  
神 噂  
神の噂にも
- 383 ainu asuru  
アイヌ アスル  
人間 噂  
人の噂にも
- 384 ene okai i.  
エネ オカイ.  
このようにある 形名  
こんなことが言われている。
- 385 Tuima kane  
トゥイマ カネ  
遠い 音調  
遠くの
- 386 Ishkarunkuru  
イシカルンクル  
イシカリ彦  
石狩人は
- 387 tu irwak ne wa  
トゥ イワク ネ ワ  
二つの 兄弟 繫 接続  
二人兄弟で、
- 388 shine turesh ne  
シネ トウレシ ネ  
一つの 妹 繫  
妹が一人
- 389 okai ruwe ne.  
オカイ ルウエ ネ.  
ある 跡 繫  
いた。
- 390 Okkayo sama  
オッカヨ サマ  
若者 そば  
男のほうは
- 391 utarorke  
ウタロロケ  
たち  
二人とも
- 392 koro shiretok  
コロ シレトク  
持つ 美貌  
容貌も
- 393 kor rametok  
コロ ラメトク  
持つ 勇者  
胆力も
- 394 kor bawetok  
コロ バウエトク  
持つ 雄弁  
弁も
- 395 kor ison  
コロ イソン  
持つ 獲物に恵まれる  
猟の腕前も
- 396 kamui ot ta ka  
カムイ オト タ カ  
神 所 場所 も  
神にも
- 397 ainu ot ta ka  
アイヌ オト タ カ  
男 所 場所 も  
人にも
- 398 ebetturashi kunip  
エベトウラシ クニプ  
匹敵する すべきもの  
匹敵する者は
- 399 shinep ka isam.  
シネプ カ イサム.  
一つ も ない  
一人もいない。
- 400 Menoko sama  
メノコ サマ  
女 そば  
女のほうは
- 401 kor shiretok  
コロ シレトク  
持つ 美貌  
美貌と
- 402 kot teketok  
コト テケトク  
持つ 手先が器用だ  
優れた手の技は
- 403 kamui ot ta ka  
カムイ オト タ カ  
神 所 場所 も  
神にも
- 404 eturbak kunip  
エトウルバク クニプ  
並ぶ すべきもの  
匹敵する者は

<sup>9</sup> kisar a-ne kusu と見て解釈する。

- 405 shinep ka isam  
シネッ カ イサム  
一つ も ない  
一人もいない、
- 406 ari okai be  
アリ オカイ ベ  
引用 ある もの  
ということが
- 407 kamui asun ne  
カムイ アスン ネ  
神 噂 繫  
神の評判となって
- 408 tu kotan kama  
トゥ コタン カマ  
二つの村 越える  
多くの
- 409 re kotan kama  
レ コタン カマ  
三つの村 越える  
村々を越えて
- 410 chihobunire. (p. 483)  
チホブニレ.  
起きる  
聞こえた。
- 411 Hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
それを聞き、
- 412 rayap keutum  
ラヤッ ケウトム  
たまげる心  
わたしは
- 413 a-yaikore kane an-an.  
ア・ヤイコレ カネ アナン.  
我・もつ 同時 いる・我  
驚き感心していた。
- 414 Tane anakne  
ダネ アナクネ  
今 は  
今では
- 415 nep ne yakka  
ネッ ネ ヤッカ  
何 繫 譲歩  
何であれ、
- 416 menoko ki kushne p  
メノコ キ クシネ プ  
女 する 必然・意志 もの  
女がすべきこと、
- 417 kar kushne p  
カラ クシネ プ  
作る 必然・意志 もの  
作るべきことは、
- 418 arobittano a-eashkai.  
アロビトタノ ア・エアシカイ.  
すべて 我・できる  
すっかりできるようになっている。
- 421 ene itak i  
エネ イタクイ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 422 “Koninkar kusu  
“コニンカラ クス  
もしもし 根拠  
「もしもし、
- 423 kamui a-matkarku  
カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
尊い姪よ、
- 424 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 425 konep ubashkuma  
コネッ ウバシクマ  
何 言い伝え  
すべてを
- 426 a-ye wa e-nure-an  
ア・イエ ワ エ・ヌレ・アン  
我・言う 接続 汝・聞かせる・我  
語って聞かせ
- 427 kusune na.  
クスネ ナ.  
意志 (訴え)  
よう。
- 428 Pirikano nu yan.  
ピリカノ ス ヤン.  
良く 聞く 命令  
よく聞くのだよ。
- 429 Taban a-kor kotan  
タバン ア・コロ コタン  
この 我・もつ 村  
このわが村は
- 430 rei kor katu  
レ コロ カトゥ  
名 持つ 様子  
名を
- 431 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベチ
- 432 Shinutapka  
シヌタプカ  
地名  
シヌタプカ
- 433 ne ruwe ne.  
ネ ルウェ ネ.  
繫 跡 繫  
というのです。
- 434 Teeta kane  
テエタ カネ  
以前 音調  
昔、
- 435 Shinutapka ta  
シヌタプカ タ  
地名 場所  
シヌタプカに
- 436 e-kor ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえのお父さんは
- 437 yayirwakikoro  
ヤイリワキコロ  
兄弟がいない  
男兄弟がいず、
- 438 shine turesh ne wa  
シネ トウレシ ネ ワ  
一つの妹 繫 接続  
妹一人と
- 439 okai ruwe ne.  
オカイ ルウェ ネ.  
ある 跡 繫  
いたのです。
- 440 E-kor ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえのお父さんは
- 441 koro shiretok  
コロ シレトク  
持つ 美貌  
容姿に優れ、
- 442 kon rametok  
コン ラメトク  
持つ 勇者  
度胸も
- 443 kor bawetok  
コロ バウエトク  
持つ 雄弁  
弁の才も
- 444 kamui ot ta ka  
カムイ オトタ カ  
神 所 場所 も  
神にも
- 445 ainu ot ta ka  
アイヌ オトタ カ  
人間 所 場所 も  
人にも
- 446 eturbak kunip  
エトゥルバク クニッ  
並ぶ すべきもの  
及ぶものが
- 447 shinep ka isam.  
シネッ カ イサム.  
一つ も ない  
一人もいなかった。
- 448 Neino sui  
ネノ スイ  
繫 再び  
おなじように
- 449 e-kor unarbe  
エ・コロ ウナラベ  
汝・持つ 叔母  
おまえのおば(父の妹)も
- 450 shiretok tura  
シレトク トウラ  
美貌 ともに  
美貌と
- 451 teketok tura  
テケトク トウラ  
手先が器用だ ともに  
手わざでもって
- 452 uwesamanno  
ウエサマンノ  
いっしょに  
兄と同様
- 453 kamui asun ne  
カムイ アスン ネ  
神 噂 繫  
神の噂となって
- 454 moshit tuika ta  
モシト トウイカ タ  
国土 上 場所  
国中に
- 455 chihobumbare.  
チホブムバレ.  
起きる  
その評判が立った。
- 456 Okkai bakno  
オッカイ バクノ  
男 まで  
それぞれが男盛り、

### 1.3 シヌタプカとイヨチの結びつき

- 419 Shine an to ta  
シネ アン トタ  
一つの ある 日 場所  
ある日、
- 420 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
おばさんが

- 457 menoko bakno (p. 484)  
メノコ バクノ  
女 まで  
女盛りに
- 458 shikup i ta  
シクッ イ タ  
成長する 形名 場所  
なったとき、
- 459 chihoppa itak  
チホッパ イタク  
残される 言葉  
先祖から伝わる
- 460 shinrit itak  
シンリト イタク  
出自 言葉  
遺言に
- 461 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
ある
- 462 kone p ne kusu  
コネ ッ ネ クス  
繫 もの 繫 根拠  
ように
- 463 hushkotoiwano  
フシコトイワノ  
ずっと  
昔から
- 464 uirkar kotan  
ウイリカラ コタン  
親戚になる 村  
血筋を同じくする村は
- 465 Iyochi ne wa  
イヨチ ネ ワ  
地名 繫 接続  
イヨチであって
- 466 sonno shine shinrit  
ソンノ シネ シンリト  
真に 一つの 出自  
まったく同じ根が
- 467 ukoro kunip  
ウコロ クニッ  
結婚する すべきもの  
結びあっているの
- 468 ne ruwe ne.  
ネ ルウェ ネ.  
繫 跡 繫  
のです。
- 469 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦は、
- 470 arke ainu ne p  
アッケ アイヌ ネ ッ  
半分 人間 繫 もの  
半分は人間で、
- 471 arke kamui ne p  
アッケ カムイ ネ ッ  
半分 神 繫 もの  
半分は神で
- 472 yayirwakikoro  
ヤイリワキコロ  
兄弟がいない  
男兄弟はいないが
- 473 shine turesh  
シネ トウレシ  
一つの 妹  
妹が一人
- 474 ne wa okai  
ネ ワ オカイ  
繫 接続 ある  
いて、
- 475 nei menoko  
ネ メノコ  
繫 女  
その女が
- 476 a-ne ruwe ne.  
ア・ネ ルウェ ネ.  
我・繫 跡 繫  
わたしなのです。
- 477 Menoko bakno  
メノコ バクノ  
女 まで  
わたしが
- 478 shikup-an i ta  
シクッ・アニ タ  
育つ・我 形名 場所  
女盛りになったとき、
- 479 kamui koro be  
カムイ コロ ベ  
神 持つ もの  
神の宝物を
- 480 a-okkeukashi  
ア・オクケウカシ  
我・うなじ  
首に付けられて
- 481 a-epirikare wa  
ア・エピリカレ ワ  
飾りつけられる 接続  
美しく装われ
- 482 Shinutapkashi  
シヌタッカシ  
地名  
シヌタプカに
- 483 koitomnukar a-ki.  
コイトムヌカラ ア・キ.  
結婚する 我・する  
お嫁にきました。
- 484 E-kor ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえのお父さんに
- 485 a-hekote ruwe ne.  
ア・ヘコテ ルウェ ネ.  
我・連れ添う 跡 繫  
わらわは嫁いだのです。
- 486 E-koro unarbe  
エ・コロ ウナラベ  
汝・持つ 叔母  
おまえの叔母は
- 487 kamui kor be  
カムイ コロ ベ  
神 持つ もの  
神の宝物を
- 488 boronno okkeukashi  
ボロンノ オクケウカシ  
たくさん 首筋  
首に下げ
- 489 a-epirikare wa  
ア・エピリカレ ワ  
飾りつけられる 接続  
美しく装われて
- 490 Iyochi kotan  
イヨチ コタン  
地名 村  
イヨチ村に
- 491 koitomnukar.  
コイトムヌカラ.  
結婚する  
嫁ぎました。
- 492 Pon a-kor yubi  
ポン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
わらわのちい兄さん (イヨチ彦) と
- 493 hekote.  
ヘコテ.  
結婚する  
結ばれました。
- 494 Sonno une  
ソンノ ウネ  
真に ともに  
ともに、とても
- 495 uwepirika-an koro  
ウウエピリカ・アン コロ  
幸せに暮らす・我 同時  
仲良く暮らし、
- 496 a-asuru orke\*<sup>10</sup>  
ア・アスル オロケ  
我・噂 所  
わらわ達の噂が
- 497 kamui or bakno  
カムイ オロ バクノ  
神 所 まで  
神のもとまで
- 498 pirika asuru  
ピリカ アスル  
よい 噂  
良き噂となって
- 499 chihobunire.  
チホブニレ.  
起きる  
届きました。

## 1.4 狼神の妹の恋

- 500 Rabokita  
ラボキタ  
間に  
そうこうするうち、
- 501 kanto ot ta  
カント オト タ  
天 所 場所  
天にいます
- 502 horkeu kamui  
ホロケウ カムイ  
狼 神  
狼神には、
- 503 yayirwakikoro (p. 485)  
ヤイリワキコロ  
兄弟がいない  
男兄弟がなく、
- 504 tu turesh ne wa  
トゥ トウレシ ネ ワ  
二つの 妹 繫 接続  
妹が二人いましたが、
- 505 iyotta pom menoko  
イヨッタ ポム メノコ  
最も 小さい 女  
下の妹が
- 506 tane iyoshikote  
タネ イヨシコテ  
今 惚れる  
色を思い

\*<sup>10</sup> 原綴りは aasurur orke。

- 507 ushiebako  
ウシエバコ  
未詳  
(この句未詳)
- 508 kamui ot ta  
カムイ オトタ  
神 所 場所  
神の世界に
- 509 yaikotomka p  
ヤイコトムカ プ  
ふさわしい もの  
お気に入り
- 510 hunara korka  
フナラ コロカ  
探す 逆接  
探したが、
- 511 sambe ramu oshma p  
サムベ ラム オシマ プ  
心臓 思う ぶつかる もの  
心にかなう者が
- 512 shinep ka isam.  
シネッ カ イサム.  
一つ も ない  
一人もいなかったのです。
- 513 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 514 ainu moshiri  
アイヌ モシリ  
人間 国土  
人間の世界を
- 515 moshiri so kurka  
モシリ ソ クルカ  
国土 平面上  
ぐるっと
- 516 uwambare wa  
ウワムバレ ワ  
見て調べる 接続  
調べて
- 517 inkar awa  
インカラ アワ  
見る 展開  
みて、
- 518 e-kor ainu kor  
エ・コロ アイヌ コロ  
汝・持つ男 持つ  
おまえのお父さんの
- 519 shiretok  
シレトク  
美貌  
美しさが
- 520 tap eashiri  
タプ エアシリ  
これ 強調  
すっかり
- 521 arkatetokomare  
アッカテトコマレ  
気に入る  
気に入って、
- 522 oshikote kusu  
オシコテ クス  
惚れる 根拠  
惚れきってしまい、
- 523 ye awa  
イエ アワ  
言う 展開  
それを口に言う
- 524 kamui ot ta  
カムイ オトタ  
神 所 場所  
神の世界で
- 525 a-kokobankar.  
ア・ココバンカラ.  
拒否される  
拒まれた。
- 526 Shino wemburi ne.  
シノ ウェムブリ ネ.  
まことに 悪い振る舞い 繋  
『まったくけしかんこと。』
- 527 Matkor wa okai  
マトコロ ワ オカイ  
妻ある 接続 ある  
妻ある
- 528 ainu or un  
アイヌ オルン  
人間 所 方向  
人間の男に
- 529 kamui ari a-borse p  
カムイ アリ ア・ボロセッ  
神 引用 よばれる もの  
いやしくも神ともあろうものが
- 530 iyoshikote ko anakne  
イヨシコテ コ アナクネ  
惚れる 条件 は  
惚れるのは
- 531 sonno katbak ne.  
ソノノ カトバック ネ.  
真に 罪を犯す 繋  
実に罪なことだ。
- 532 Kamui ot ta isam be  
カムイ オトタ イサム ベ  
神 所 場所 ない もの  
神の世界に絶えてない
- 533 he tap ne.  
ヘ タッ ネ.  
疑問 これ 繋  
ことだ。
- 534 Okkayo ne wa kusu  
オッカヨ ネ ワ クス  
若者 繋 接続 根拠  
若い男
- 535 ainu or un  
アイヌ オルン  
人間 所 方向  
人間の男に、
- 536 matkoro kuru or un  
マトコロ クル オルン  
妻を娶る 人 所 方向  
妻ある者に
- 537 iyoshikote  
イヨシコテ  
惚れる  
惚れるのは
- 538 shino wen wen  
シノ ウェン ウェン  
まことに 悪い 悪い  
だめだ、だめだ。
- 539 Kamui ot ta  
カムイ オトタ  
神 所 場所  
神の国では
- 540 kamui hoku kor kor  
カムイ ホク コロ コロ  
神 夫 持つ 同時  
神の夫を迎えろ、迎えろ。』
- 541 ari a-ye awa  
アリ ア・イエ アワ  
引用 我・言う 展開  
と言われて
- 542 neambe rushka kusu  
ネアムベ ルシカ クス  
それ 怒る 根拠  
それを怒って、
- 543 rayeshinu  
ライエシヌ  
死に際の問え  
いまわのように這いずりまわり、
- 544 “Ene he tap ne (p. 486)  
“エネ ヘ タッ ネ  
このように 疑問 これ 繋  
『そういうことならば、
- 545 a-ramu p somo a-i-kore ko  
ア・ラム プ ソモ ア・イ・コレ コ  
我・思う もの 否定 我・与えられる 条件  
想いがかなわない
- 546 anakne  
アナクネ  
は  
ならば、
- 547 rai-an kusune.” ari  
ライ・アン クスネ.” アリ  
死ぬ・我 意志 引用  
死んでしまおう。』、と
- 548 itak kor  
イタク コロ  
言う 同時  
言って、
- 549 somo ibe no  
ソモ イベ ノ  
否定 食事する 接続  
ものも食べないで
- 550 hemuimuye.  
ヘムイムイェ.  
ふて寝する  
ふて寝してしまった。
- 551 Kamui utara  
カムイ ウタラ  
神 たち  
神々は
- 552 shino eramusarak.  
シノ エラムサラク.  
まことに いまいました  
大変心配してしまった。
- 553 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 554 sabane kamui  
サバネ カムイ  
頭領である 神  
かしらである神に
- 555 tapne nei katu  
タッネ ネ カトウ  
これである 繋 様子  
その由を
- 556 a-nure awa  
ア・ヌレ アワ  
我・聞かせる 展開  
伝えると、
- 557 sabane kamui  
サバネ カムイ  
頭領である 神  
かしの神は
- 558 ene itak i.  
エネ イタキ.  
このように 言う 形名  
こう言った。
- 559 Ochiu ari  
オチウ アリ  
姦通 引用  
『姦通とか

- 560 kinin ari  
キン アリ  
淫乱 引用  
不義とか
- 561 a-borse kunip anakne  
ア・ボロセ クニフ アナクネ  
我・呼ぶ すべきものは  
呼ばれるものは
- 562 ene okai i ne.  
エネ オカイ ネ  
このようにある 形名 繫  
そうしたものは
- 563 Shukup kuru anakne  
シュクフ クル アナクネ  
成長する 人 は  
若く
- 564 nokan kuru anakne  
ノカン クル アナクネ  
小さい 人 は  
幼稚なものは
- 565 ainu hene  
アイヌ ヘネ  
人間 も  
人間であっても
- 566 kamui hene  
カムイ ヘネ  
神 も  
神であっても
- 567 ki yainu i  
キ ヤイヌ イ  
する 考える 形名  
思うことに
- 568 somo uwechutkonno  
ソモ ウウエチユトコンノ  
否定 異なる  
変わらない
- 569 okai be ne kusu  
オカイ ベ ネ クス  
ある もの 繫 根拠  
のであるから
- 570 neino ne  
ネノ ネ  
繫 繫  
そんなに
- 571 hawe ne chiki  
ハウエ ネ チキ  
声 繫 条件  
言うなら
- 572 pommat ne  
ポムマト ネ  
第二夫人 繫  
第二夫人として
- 573 a-ranke yakne  
ア・ランケ ヤクネ  
下ろされる 条件  
降ろしてやれば
- 574 pirika nankor.  
ピリカ ナンコロ.  
よい だろう  
いいだろう。
- 575 Kamui ot ta  
カムイ オトタ  
神 所 場所  
そんな話は
- 576 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
神の世界に
- 577 isam buri somo ne.  
イサム ブリ ソモ ネ.  
ない 行い 否定 繫  
ないことではない。
- 578 Katu renkaine  
カトゥ レンカイネ  
様子 意志に従う  
なりゆきによって、
- 579 sambe renkaine  
サムベ レンカイネ  
心臓 意志に従う  
心のまにまに
- 580 ponmat koro ne.  
ボンマト コロ ネ.  
第二夫人 持つ 繫  
二人目の妻を娶ることがある。
- 581 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベチ
- 582 Shinutapka ta  
シヌタプカ タ  
地名 場所  
シヌタプカで
- 583 ainu ari  
アイヌ アリ  
男 引用  
男と
- 584 a-borse p utar  
ア・ボロセフ ウタラ  
よばれる もの たち  
呼ばれる者たち
- 585 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
ならば
- 586 tu santek ka ta (p. 487)  
トゥ サンテック カ タ  
二つの子孫 上 場所  
子々孫々
- 587 re santek ka ta  
レ サンテック カ タ  
三つの子孫 上 場所  
末代にまで
- 588 kamui kasu no  
カムイ カス ノ  
神 甚だしい 接続  
神を凌ぐ
- 589 pirika kusu  
ピリカ クス  
よい 根拠  
良き者たちであって、
- 590 kamui oro bakno  
カムイ オロ バクノ  
神 所 まで  
神の国にまで
- 591 asuru ash be ne kusu  
アスル アシ ベ ネ クス  
噂 立つ もの 繫 根拠  
名高いその噂が届くだろうから
- 592 a-oshikote i ka  
ア・オシコテ イ カ  
我・恋する 形名 も  
それに惚れることだって
- 593 wen somoki. Ari  
ウエン ソモキ. アリ  
悪い しない 引用  
『そう悪いことではない。』と
- 594 base kamui  
バセ カムイ  
重い 神  
尊い神が
- 595 pirika irenka  
ピリカ イレンカ  
よい 意図  
良き裁きを
- 596 sanke ruwe ne.  
サンケ ルウェ ネ.  
出す 跡 繫  
下した。
- 597 Kamui menoko  
カムイ メノコ  
神 女  
その神の女（狼神の妹）は、
- 598 chise tura  
チセ トウラ  
家 ともに  
家と
- 599 ikot tura  
イコト トウラ  
宝物 ともに  
宝物を持って
- 600 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベチ
- 601 Shinutapkashi  
シヌタプカシ  
地名  
シヌタプカに
- 602 chioranke wa  
チオランケ ワ  
降りる 接続  
下りて、
- 603 utush-an ruwe ne.  
ウトウシ・アン ルウェ ネ.  
相妻になる・我 跡 繫  
二人妻となっていたのです。
- 604 Aokai ainu menoko  
アオカイ アイヌ メノコ  
我 人間 女  
わらわは人間の女で
- 605 a-ne yakka  
ア・ネ ヤッカ  
我・繫 譲歩  
あるけれど、
- 606 sokarmat  
ソカマツ  
家の刀自  
第一夫人で
- 607 a-ne wa kusu  
ア・ネ ワ クス  
我・繫 接続 根拠  
あるから、
- 608 taban shiroma chashi  
タバシ シロマ チャシ  
この 落ち着く チャシ  
この本宅に
- 609 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
この宮居の
- 610 upsoroho  
ウツソロホ  
内部  
中で
- 611 atbake wano  
アトバケ ワノ  
先頭 から  
初めから
- 612 a-chorari wa  
ア・エホラリ ワ  
我・腰を据える 接続  
住んで

- 613 an-an ruwe ne.  
アナン ルウエ ネ.  
いる・我 跡 繫  
いたのです。
- 614 Taan chashi ba ta  
タアン チャシ バ タ  
この チャシ 上 場所  
この邸の傍らにある
- 615 an chashi anakne  
アン チャシ アナクネ  
ある チャシ は  
もう一つ邸は
- 616 kamui menoko  
カムイ メノコ  
神 女  
神の女が
- 617 kanto orowano  
カント オロワノ  
天 始点  
天から
- 618 tura ram be  
トゥラ ラム ベ  
ともに 降るもの  
持ってきたもの
- 619 ne ruwe ne.  
ネ ルウエ ネ.  
繫 跡 繫  
なのです。
- 620 Tane shiri ban ehanke  
タネ シリ バン エハンケ  
今 様子 衰える 近付く  
今や世の衰えも近く、
- 621 tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
それで、
- 622 e-koro ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえの父は
- 623 ohonno ainu moshit ta  
オホノン アイヌ モシト タ  
しばらく 人間 国土 場所  
長く人間世界で
- 624 iraukituba kuni (p. 488)  
イラウキトゥバ クニ  
働く 必然  
働こうと
- 625 eyainunuke  
エヤイヌヌケ  
惜しむ 自重自愛する  
自重自愛の暮らしを
- 626 rabokita  
ラボキタ  
間に  
送っていたところ、
- 627 sonno wembe  
ソンノ ウェムベ  
真に 悪いもの  
まったくわらわは
- 628 a-ne kusu  
ア・ネ クス  
我・繫 根拠  
恵みの薄い女で、
- 629 po ka a-sak  
ポ カ ア・サク  
子も 我・欠く  
子供も生まれず、
- 630 a-hekote kamui hene  
ア・ヘコテ カムイ ヘネ  
我・連れ添う 神 も  
夫も
- 631 aokai hene  
アオカイ ヘネ  
我 も  
わらわ自身も
- 632 nei am be shino  
ネ アム ベ シノ  
繫 あるものまことに  
それをとても
- 633 a-eyairamboken  
ア・エヤイラムボケン  
我・残念に思う  
悲しんだ
- 634 ruwe ne koroka  
ルウエ ネ コロカ  
跡 繫 逆接  
けれど、
- 635 ene a-kar i ka isam.  
エネ ア・カラ イ カ イサム.  
このように 我・する 形名 も ない  
これだけは どうしようもない。
- 636 Kamui menoko orowa  
カムイ メノコ オロワ  
神 女 始点  
しかし神の女からは
- 637 ouse shinen  
オウセ シネン  
ただ (だけ) 一人  
ただ
- 638 e-ne wa  
エネ ワ  
汝・繫 接続  
一人、
- 639 e-shiko ruwe ne.  
エ・シコ ルウエ ネ.  
汝・生まれる 跡 繫  
おまえが生まれたのです。
- 640 Naa e-pon  
ナア エ・ポン  
まだ 汝・幼い  
まだ、おまえが幼く、
- 641 tanebo eto metu kane<sup>\*11</sup>  
タネボ エト メトウ カネ  
今 未詳 未詳 音調  
今こそ (以下意味不明)
- 642 raboketa  
ラボケタ  
おりしも  
おりしも
- 643 e-kor ainu kamui  
エ・コロ アイヌ カムイ  
汝・持つ 男 神  
おまえの父様は
- 644 e-kor totto tura wa  
エ・コロ トット トウラ ワ  
汝・持つ 母 ともに 接続  
おまえの母様といっしょに
- 645 kamui kotan or un  
カムイ コタン オルン  
神 村 所 方向  
神の国へ
- 646 baye ruwe ne.  
バイエ ルウエ ネ.  
行く 跡 繫  
行ってしまわれた。
- 647 Kamui kotan ot ta  
カムイ コタン オト タ  
神 村 所 場所  
神の国に
- 648 baye wa  
バイエ ワ  
行く 接続  
行って
- 649 sonno ukoro ki kusu  
ソンノ ウコロ キ クス  
真に 結婚 する 根拠  
全き和合を
- 650 ne ruwe ne.  
ネ ルウエ ネ.  
繫 跡 繫  
遂げたのです。
- 651 Naa e-pon kusu  
ナア エ・ポン クス  
まだ 汝・幼い 根拠  
おまえはまだ幼かったので、
- 652 sonno yaikota  
ソンノ ヤイコタ  
真に 己で  
わらわが一人で、まるで自分が
- 653 a-yaikosanke p korachi  
ア・ヤイコサンケ ヲ コラチ  
我・産む もの ように  
生んだ児のように
- 654 sambe etok  
サムベ エトク  
心臓 前方  
心臓の先に
- 655 e-eomare-an  
エ・エオマレ・アン  
汝・入れる・我  
おまえを入れて
- 656 upsorbo ne  
ウツソロボ ネ  
ふところ 繫  
懐に入れて
- 657 e-ereshu-an ruwe ne.  
エ・エレシユ・アン ルウエ ネ.  
汝・育てる・我 跡 繫  
育てたのです。
- 658 Menoko e-ne yakka  
メノコ エ・ネ ヤッカ  
女 汝・である 讀歩  
おまえは女ではあるけれど、
- 659 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベツの
- 660 kamui ramachi  
カムイ ラマチ  
神 魂  
たましいで
- 661 e-ne ruwe ne  
エ・ネ ルウエ ネ  
汝・である 跡 繫  
あるのだ
- 662 kush tap ne boo  
クシ タッ ネ ボオ  
根拠 これ 繫 なおさら  
から、なおさら
- 663 e-eyam-an hawe ne.  
エ・エヤム・アン ハウエ ネ.  
汝・大事にされる 声 繫  
おまえを大切に慈しんだのです。

\*11 eto metu 未詳。

## 1.5 いいなずけ

- 664 Eebakita  
エエバキタ  
次に  
それからまた、
- 665 Iyochi un  
イヨチ ウン  
地名 方向  
イヨチの
- 666 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい我・もつ 兄  
わらわのちい兄さん
- 667 umurek utar (p. 489)  
ウムレク ウタラ  
夫婦 (イヨチ彦とシヌタブカ姫) は
- 668 sonno pirika kunine  
ソンノ ピリカ クニネ  
真に よい ように  
まったくめでたいことに
- 669 okkayo tumbish  
オッカヨ トウムビシ  
若者 二人  
男の兄を二人、
- 670 menoko shinen  
メノコ シネン  
女 一人  
女の兄を一人
- 671 ukosapte wa  
ウコサッテ ワ  
産む 接続  
産んで、
- 672 eashka a-ukoomap koro  
エアシカ ア・ウコオマップ コロ  
頗る 我・可愛がる 同時  
夫婦そろって慈しみ\*12
- 673 ukoreshba ruwe ne.  
ウコレシバ ルウェ ネ.  
いっしょに育てる 跡 繋  
育てました。
- 674 Pon a-kor yubi umurek  
ボン ア・コロ ユビ ウムレク  
小さい我・もつ 兄 夫婦  
わらわのちい兄さん夫婦、
- 675 umurek utar  
ウムレク ウタラ  
夫婦 仲間  
二人
- 676 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
とも
- 677 tunashno  
トゥナシノ  
早く  
速やかに
- 678 kamui or un  
カムイ オルン  
神 所 方向  
神の国へと
- 679 baye wa isam  
バイエ ワ イサム  
行く 接続 ない  
去った
- 680 ruwe ne.  
ルウェ ネ.  
跡 繋  
のです。
- 681 Okake ta  
オカケ タ  
あと 場所  
そのあと、
- 682 kamui a-karku utar  
カムイ ア・カラク ウタラ  
神 我・甥 たち  
その神のような甥たちは
- 683 ureshba wa okai.  
ウレシバ ワ オカイ.  
育てる 接続 ある  
助け合って暮らしていました。
- 684 Tan asuru ash be  
タン アスル アシ ベ  
この 噂 立つ もの  
きわめて名高い者であっても、
- 685 konep anun i  
コネプ アヌニ  
何 よその 形名  
異族の者では、
- 686 konep oyabe  
コネプ オヤベ  
何 よそ者  
よそ者では
- 687 asuru ash hawe  
アスル アシ ハウエ  
噂 立つ 声  
それほど高い評判が
- 688 somo tab an na.  
ソモ タバン ナ.  
否定 これ ある (訴え)  
立つものではない。
- 689 Tantebota  
タンテボタ  
たった今  
まして
- 690 e-utari tap ne  
エ・ウタリ タップ ネ  
汝・親族 これ 繋  
おまえの一族であるからこそ
- 691 asuru ash hawe okai.  
アスル アシ ハウエ オカイ.  
噂 立つ 声 ある  
こんなに良く噂されるのです。
- 692 E-kor ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえの父が残した
- 693 i-koitak hopba hawe  
イ・コイタク ホッパ ハウエ  
我・話す 残す 声  
遺言には
- 694 ene okai i.  
エネ オカイ.  
このようにある 形名  
こうあります。
- 695 A-matnepo  
ア・マトネポ  
我・娘  
『わが娘を
- 696 pirikano reshū.  
ピリカノ レシユ.  
良く 育てる  
大切に育ててくれ。
- 697 Katkemat buri  
カトケマト ブリ  
婦人 行い  
淑女の習い、
- 698 kamui buri  
カムイ ブリ  
神 行い  
神のしきたりを
- 699 ebakashnu wa  
エバカシヌ ワ  
言い聞かせる 接続  
教えて
- 700 menoko bakno  
メノコ バクノ  
女 まで  
女となるまで
- 701 shikup wa ne chiki  
シクップ ワ ネ チキ  
成長する 接続 繋 条件  
育ったら
- 702 Iyochi un  
イヨチ ウン  
地名 方向  
イヨチの
- 703 pon a-karku tura  
ボン ア・カラク トウラ  
小さい我・甥 ともに  
小さな甥\*13と
- 704 utomnukare wa  
ウトムヌカレ ワ  
結婚させる 接続  
いっしょにさせて
- 705 taban kamui ewaki (p. 490)  
タバカン カムイ エワキ  
この 神 住まい  
この宮居に
- 706 i-ruokake  
イ・ルオカケ  
我が亡き後  
我が亡き後も
- 707 ehorarbare wa  
エホララバレ ワ  
住まわせる 接続  
住まわせて、
- 708 benkirechiu  
ベンキレチウ  
上流を治める  
この川筋の上と
- 709 bankirechiure wa  
バンキレチウレ ワ  
下流を治めさせる 接続  
下とを治めさせて
- 710 i-kore kunak  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
くれるよう
- 711 ramu yan.  
ラム ヤン.  
思う 命令  
頼む。
- 712 Pirikano  
ピリカノ  
良く  
いつか

\*12 a-ukoomap の a- がないものとして解釈する。

\*13 人の甥のうち年下の者。

- 713 i-ruokake  
イ・ルオカケ  
我が亡き後  
我が亡き後も
- 714 shituri ruwe  
シトウリ ルウエ  
伸びる 跡  
この村が栄えているのを
- 715 a-eraman wa  
ア・エラマン ワ  
我・知る 接続  
見届け
- 716 a-eramushinne i ta  
ア・エラムシンネ イ タ  
我・心落ち着く 形名 場所  
安心したなら
- 717 e-tak-an kushne na.  
エ・タク・アン クシネ ナ.  
汝・招く・我 必然・意志 (訴え)  
おまえを神の国へ招こう。』
- 718 Ari tambe kusu  
アリ タムベ クス  
引用 これ 根拠  
ということです。そこで
- 719 pirikano  
ピリカノ  
良く  
よく
- 720 shinrit itak  
シンリト イタク  
出自 言葉  
先祖の言葉
- 721 chihopba itak  
チホッパ イタク  
残される 言葉  
遺言を
- 722 nu wa  
ヌ ワ  
聞く 接続  
聞いて
- 723 sonno katkemat buri  
ソンノ カトケマト ブリ  
真に 婦人 行い  
全き淑女の習い、
- 724 kamui buri  
カムイ ブリ  
神 行い  
神の習わしを
- 725 e-kor etokush  
エ・コロ エトクシ  
汝・持つ しようとする  
保とうと
- 726 ruwe tab an.  
ルウエ タパン.  
跡 これ ある  
心がけなさい。
- 727 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで、
- 728 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦の
- 729 pon a-karku  
ポン ア・カラク  
小さい 我・甥  
小さな甥のために
- 730 pirikano  
ピリカノ  
良く  
よくよく
- 731 sembirkashi  
セムピリカシ  
陰  
身を
- 732 eyaitursakka wa  
エヤイトウルサッカ ワ  
清潔にする 接続  
慎んで
- 733 seta hene  
セタ ヘネ  
犬 も  
犬のような
- 734 rit ush kane okai be  
リト ウシ カネ オカイ ベ  
筋 ある 同時 ある もの  
瘦せぎすの貧乏人が
- 735 e-nukar chiki  
エ・ヌカラ チキ  
汝・見る 条件  
おまえを見初めても
- 736 ika or un  
イカ オルン  
決してするな 所 方向  
決してそちらへ
- 737 e-itak hene  
エ・イタク ヘネ  
汝・言う も  
言葉を返したり
- 738 e-mina hene  
エ・ミナ ヘネ  
汝・笑う も  
笑みを返したり
- 739 ki kotomno an na.  
キ コトムノ アン ナ.  
するように ある (訴え)  
してはいけません。
- 740 Katkemat anakne  
カトケマト アサクネ  
婦人 は  
淑女というものは、
- 741 katkemat buri  
カトケマト ブリ  
婦人 行い  
淑女のしきたりに
- 742 eashkai wa  
エアシカイ ワ  
できる 接続  
通じているもので、
- 743 uitaknu ko  
ウイタクヌ コ  
言うことを聞く 条件  
そんな者と言葉を交わすと
- 744 kamui oro bakno  
カムイ オロ バクノ  
神 所 まで  
神の国まで
- 745 e-asuru ash ko  
エ・アスル アシ コ  
汝・噂 立つ 条件  
おまえのうわさが流れ、
- 746 sonno a-erayap be  
ソンノ ア・エラヤッ ベ  
真に 我・感心する もの  
あきれ返られる
- 747 tab an na.” ari  
タバン ナ.” アリ  
これ ある (訴え) 引用  
ことになりますよ。」と
- 748 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしのおばは
- 749 sonno maknakiru  
ソンノ マクナキル  
真に 奥へ回す  
まったく後ろに回し向け
- 750 isanakiru (p. 491)  
イサナキル  
炬の向こう側へ向ける  
前に回し向けるの
- 751 semkorachi  
セムコラチ  
まるで (する) ように  
と変わりなく\*14
- 752 base tura  
バセ トウラ  
重い とともに  
懇ろに
- 753 i-toikobakashnu.  
イ・トイゴバカシヌ.  
我・教え諭す  
強く教え諭した。
- 754 Hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
それを聞くと
- 755 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 756 tapne kane  
タッネ カネ  
これである 音調  
このように
- 757 shinrit kor kunip  
シンリト コロ クニッ  
出自 持つ すべきもの  
先祖に恵まれた
- 758 a-ne rok okai.  
ア・ネ ロク オカイ.  
我・繫 完了 ある  
わたしであったのか。
- 759 Naa bashta kane  
ナア バシタ カネ  
まだ 地位の低い 同時  
もっと身分の低い
- 760 okai be oro wa  
オカイ ベ オロ ワ  
ある もの 所 から  
者たちから
- 761 hekatu kunip  
ヘカトゥ クニッ  
生まれる すべきもの  
産まれた
- 762 a-ne kuni  
ア・ネ クニ  
我・繫 必然  
者と
- 763 a-ramu rok wa  
ア・ラム ロク ワ  
我・思う 完了 接続  
思っていたが、

\*14 この行の kiru「回す」の目的語が分からない。考えるに、魚肉を焼き干しにするため炬に立てた串にまんべんなく火を当てることをいう。入念な教え諭しを叙するものであろう。

- 764 oroyachiki  
オロヤチキ  
驚いたことに  
なんとまあ、
- 765 sonno kamui sashi ne  
ソンノ カムイ サシ ネ  
真に 神 子孫 繫  
まこと、神の子孫で
- 766 a-ne hawe okai chiki  
ア・ネ ハウエ オカイ チキ  
我・繫 声 ある 条件  
あるとのこと、
- 767 shiyoro keutum  
シヨロ ケウトウム  
驚く 心  
わたしは驚いて
- 768 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
しまった。
- 769 Nekona shikop  
ネコナ シコッ  
どのように生れる  
どんな目つき
- 770 nekona barop tapne  
ネコナ バロッ タッネ  
どのように生れる これである  
口つきで生れた
- 771 a-kor ainu ne wa  
ア・コロ アイヌ ネ ワ  
我・もつ 人間 繫 接続  
父であるのか、
- 772 horarba ushike batek  
ホラッバ ウシケ バテッ  
居る ところ のみ  
住んでいた住まい（の壮麗さ）ばかりに
- 773 irayapka okai.  
イラヤッカ オカイ.  
人を感心させる ある  
驚いていた。
- 774 Kamui a-kot totto hene  
カムイ ア・コト トット ヘネ  
神 我・持つ 母 も  
神であるわたしの母は
- 775 ouse i-hekature  
オウセ イ・ヘカトゥレ  
ただ（だけ）我・産む  
ただわたしを産んだだけで
- 776 orowa somo a-nukar no  
オロワ ソモ ア・ヌカラ ノ  
始点 否定 我・見る 接続  
わたしが見ないうちに
- 777 kamui or un  
カムイ オルン  
神 所 方向  
神の国へ
- 778 baye wa isam  
バイエ ワ イサム  
行く 接続 ない  
行ってしまわれた
- 779 hawe okai chiki  
ハウエ オカイ チキ  
声 ある 条件  
とのことなので
- 780 shino a-nukan rusui  
シノ ア・ヌカン ルスイ  
まことに我・見る したい  
とても会いたく
- 781 a-keutumkonna-  
ア・ケウトウムコンナ・  
我・心  
わたしの心は
- 782 chishkot kane  
チシコト カネ  
泣く 音調  
泣いて死にそうになつた。
- 783 yakka hunabakunsui  
ヤッカ フナバクンスイ  
譲歩 幸いに  
だけど、幸いにも
- 784 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしの叔母は
- 785 katkemat buri  
カトケマト ブリ  
婦人 行い  
淑女の風、
- 786 kamui buri  
カムイ ブリ  
神 行い  
神のふるまいの
- 787 eashkai kusu  
エアシカイ クス  
できる 根拠  
できる人なので
- 788 chipirikaresu (p. 492)  
チピリカレス  
よく育てること  
良き育み、
- 789 chitomteresu  
チトムテレス  
立派に育てられる  
輝かしめる教育を
- 790 i-y-ekarkar kusu  
イ・イエカラカラ クス  
我・する 根拠  
授けてくれたので、
- 791 Sonno katkemat shikup  
ソンノ カトケマト シクッ  
真に 婦人 成長する  
淑女として
- 792 a-ki ruwe okai chiki  
ア・キ ルウェ オカイ チキ  
我・する 跡 ある 条件  
みごとな成長をとげたのだから、
- 793 eashka keutum ot ta  
エアシカ ケウトウム オト タ  
願る 心 所 場所  
心の中で
- 794 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母に対して
- 795 a-koyairaike.  
ア・コヤイライケ.  
我感謝する  
とても感謝した。
- 796 Chihorkaresu  
チホロカレス  
孝行すること  
お返しの孝養を
- 797 sonno a-nunuke kuni  
ソンノ ア・ヌヌケ クニ  
真に 我・大事にする 必然  
専一にと
- 798 keutum ot ta  
ケウトウム オト タ  
心 所 これ  
心の中で
- 799 a-ehumse kane  
ア・エフムセ カネ  
我・うなずく 音調  
うなずいて
- 800 batek ponno  
バテッ ポンノ  
のみ 少し  
ばかりだったが、少し
- 801 a-eramuuatura p.  
ア・エラムウトウラ ヲ.  
我・他を思う もの  
別の思いもあった。

## 1.6 いいなずけへの憎しみ

- 802 Sonno a-utari  
ソンノ ア・ウタリ  
真に 我・親族  
わが一族の
- 803 Iyochi un utar  
イヨチ ウン ウタラ  
地名 ある 人々  
イヨチ彦たちについては
- 804 ponno boka  
ボンノ ボカ  
少し だけ  
少しの、
- 805 amrash bakno ka  
アマラシ バクノ カ  
爪の切り屑までも  
爪の切り屑ほどの
- 806 asuru ka isam  
アスル カ イサム  
噂 も ない  
世評を聞かない
- 807 ruwe okai ko  
ルウェ オカイ コ  
跡 ある 条件  
のに、
- 808 anun he tap ne  
アヌン ヘ タッ ネ  
よその 疑問 これ 繫  
他人であるか
- 809 aba he tap ne  
アバ ヘ タッ ネ  
同族 疑問 これ 繫  
身内であるか知らないが、
- 810 Ishkarun utara  
イシカルン ウタラ  
イシカリに住む 人々  
イシカリの人たちは、
- 811 irayapka  
イラヤッカ  
人を感心させる  
感心にも
- 812 ponram or wano  
ボンラム オロ ワノ  
幼少 所 から  
幼いときから
- 813 asuruhu  
アスルフ  
噂  
その令名が
- 814 kamui asun ne  
カムイ アスン ネ  
神 噂 繫  
神のうわさとなって、
- 815 a-nu humi okai chiki  
ア・ヌ フミ オカイ チキ  
我・聞く 気配 ある 条件  
わたしの耳にも届き、

- 816 nekon ka ta  
ネコン カタ  
どのようにも 場所  
なんとか
- 817 iki-an wa  
イキ・アンワ  
する・我 接続  
して
- 818 Ishkarun utar  
イシカルン ウタラ  
イシカリに住む 人々  
イシカリの人々に
- 819 a-nukar okai.” ari  
ア・ヌカラ オカイ.” アリ  
我・見る ある 引用  
会いたいものと
- 820 yainu-an chiki  
ヤイヌ・アン チキ  
考える・我 条件  
思っていたが、
- 821 Iyochi un a-utari utar  
イヨチ ウン ア・ウタリ ウタラ  
地名 ある 我・親族 たち  
イヨチのわが一族には
- 822 ponno boka  
ボンノ ボカ  
少し だけ  
少しも
- 823 a-nukan rusui  
ア・ヌカン ルスイ  
我・見る したい  
会いたい
- 824 ari ka yainu-an  
アリ カ ヤイヌ・アン  
引用 も 考える・我  
とは
- 825 somoki kane (p. 493)  
ソモキ カネ  
しない 同時  
思わなかった。
- 826 uweebakita  
ウエエバキタ  
しだいに  
しだいに
- 827 Pon Iyochiumbe  
ボン イヨチウムベ  
小さい イヨチのやつ  
小イヨチ彦のやつが
- 828 a-ebokba.  
ア・エボカバ.  
我・憎む  
憎らしくなってきた。
- 829 Nepka tashi  
ネпка タシ  
何か 強調  
たった一言でも
- 830 ponnoka  
ボンノカ  
少しも  
少しでも
- 831 ainu ne okai be  
アイヌ ネ オカイ ベ  
人間 繋 ある もの  
人間であるならば
- 832 wenno hene  
ウェンノ ヘネ  
悪く も  
たとえ悪いうわでも
- 833 nekonka asuru  
ネコンカ アスル  
どうにか 噂  
なんかの
- 834 ash be ne wa  
アッシュ ベ ネワ  
立つもの 繋 接続  
うわさが聞こえてくるだろうに
- 835 sonno ponno poka  
ソンノ ボンノ ボカ  
真に 少し さえ  
たえて
- 836 asuru ka isam.  
アスル カ イサム.  
噂 も ない  
そんなことはなかった。
- 837 Ene katchakbe  
エネ カトチャクベ  
このように 臆病者  
そんな臆病者が
- 838 nekona tapne  
ネコナ タツネ  
どのように これである  
どうして
- 839 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
この神のすまう
- 840 benkirechiu  
ベンキレチウ  
上流を治める  
川上と
- 841 bankirechiu be  
バンキレチウ ベ  
下流を治める もの  
川下とを
- 842 ne wa kusu.  
ネワ クス.  
繋 接続 根拠  
治めることができよう。
- 843 Orowa sui  
オロワ スイ  
始点 回  
それに
- 844 bashta kunip  
バシタ クニプ  
地位の低い すべきもの  
わたしはそれほど身分の低い
- 845 matnepo a-ne wa kusu.  
マトネポ ア・ネワ クス.  
娘 我・繋 接続 根拠  
娘であろうか。
- 846 Nekona shinrit itak  
ネコナ シンリト イタク  
どのように 出自 言う  
たとえ先祖の言葉
- 847 totto itak  
トット イタク  
母 言う  
母の遺訓
- 848 nea yakka  
ネア ヤッカ  
繋 譲歩  
とはいえ、
- 849 Pon Iyochiumbe  
ボン イヨチウムベ  
小さい イヨチのやつ  
小イヨチ彦のやつなどに
- 850 a-hekote somoki kuni  
ア・ヘゴテ ソモキ クニ  
我・連れ添う しない 必然  
嫁ぐまいと
- 851 a-ramu kane  
ア・ラム カネ  
我・思う 音調  
きめた。
- 852 Pon Ishkarunkuru  
ボン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
小イシカリ彦こそ
- 853 a-monnikoro  
ア・モンニコロ  
我・両腕の間  
わたしの抱擁の
- 854 eerachitke kane  
エエラチトケ カネ  
ぶらさがる 同時  
腕の中にあるべき人と
- 855 yainu-an.  
ヤイヌ・アン.  
考える・我  
考えた。
- 856 Kemeiki-an ko  
ケメイキ・アン コ  
我・運針する 条件  
針を動かしていると
- 857 Pon Iyochiumbe  
ボン イヨチウムベ  
小さい イヨチのやつ  
小イヨチ彦のやつを
- 858 a-kemeninu  
ア・ケメニヌ  
我・針を差し留める  
ブツブツに刺し、
- 859 shuke-an ko  
シュケ・アン コ  
炊事する・我 条件  
鍋を煮ると
- 860 shu asam  
シュ アサム  
鍋 底  
鍋の底を
- 861 a-berakonina  
ア・ベラコニナ  
我・へらでつぶす  
へらでついて
- 862 a-kashupkonina.  
ア・カシユフコニナ.  
我・へらでつぶす  
しゃくしてグジャグジャに
- 863 Apkash-an ko  
アッカシ・アン コ  
歩く・我 条件  
した。歩くときも
- 864 ureasam ne  
ウレアサム ネ  
足裏 繋  
足うらで (敷物を)
- 865 a-kar kane (p. 494)  
ア・カラ カネ  
我・する 同時  
踏みつけた。
- 866 binuno neino  
ビヌノ ネノ  
密かに 繋  
そんなことを密かに
- 867 iki-an yakka  
イキ・アン ヤッカ  
する・我 譲歩  
したけれども
- 868 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は

869 koannotaine.  
コアンノタイネ。  
まったく気付かない  
それに少しも気づかなかった。

870 Kunne an ko  
クンネ アンコ  
夜 ある条件  
夜になって、

871 tumbu upsot ta  
トゥムブ ウツトタ  
寝屋 内部 場所  
寝屋の中で

872 sotki ka ta  
ソトキ カタ  
寝床 上 場所  
臥所の上で

873 a-oyainubeko-  
ア・オヤイヌベコ・  
我・涙  
涙を

874 shiru kane  
シル カネ  
こする 同時  
こすった。

875 nekona shino  
ネコナ シノ  
どのように まことに  
いったいどう

876 iki-an chiki  
イキ・アン チキ  
する・我 条件  
したら

877 Pon Ishkarunkuru  
ポン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
小イシカリ彦に

878 a-nukar  
ア・ヌカラ  
我・見る  
まみえ

879 eashkai be an  
エアシカイ ベ アン  
できる もの ある  
られるのか、

880 ari yainu-an chiki  
アリ ヤイヌ・アン チキ  
引用 考える・我 条件  
と思案を巡らしたが

881 tu okkeutum ne  
トゥ オクケウトウム ネ  
二つの 悲しみ 繫  
悲しみに

882 re okkeutum ne  
レ オクケウトウム ネ  
三つの 悲しみ 繫  
悲しみが

883 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ。  
我・もつ  
深まるばかりだった。

## 1.7 祭りへの招待

884 Tokap an ko  
トカフ アンコ  
昼 ある条件  
昼は

885 oyap korachi  
オヤフ コラチ  
上陸する ように  
ほかの者たちと同じように

886 nepka a-kar kane  
ネツカ ア・カラ カネ  
何か 我・する 同時  
何かしていると、

887 shine an to ta  
シネ アントタ  
一つの ある日 場所  
ある日

888 aba sermak  
アバ セレマク  
簾戸 背後  
戸口の陰に

889 pirika sonko  
ピリカ ソンコ  
よい 伝言  
良き便りが

890 chieomare\*<sup>15</sup> hawe  
チエオマレ ハウエ  
入る 声  
届いた (使者がやって来た)。

891 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
言うには、

892 "Iyochiunkuru  
"イヨチウンクル  
イヨチ彦  
「イヨチ彦、

893 a-hekote kamui  
ア・ヘコテ カムイ  
我・連れ添う 神  
あなたのいいなづけが<sup>\*16</sup>

894 i-uitek hawe  
イ・ウイテク ハウエ  
我・使いに出す 声  
わたくしを使いして

895 ene okai i.  
エネ オカイ。  
このように ある 形名  
こう言いました。

896 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ

897 shinrit chise ta  
シンリト チセ タ  
出自 家 場所  
先祖から続く家で

898 totto chise ta  
トット チセ タ  
母 家 場所  
母なる家で

899 pon tonotobo  
ポン トノトボ  
小さい 酒  
いささかの酒を

900 a-shikupka wa  
ア・シクツカ ワ  
我・醸す 接続  
かもし、

901 tanekuran ne  
タネクラン ネ  
今夜 繫  
今晚

902 a-ekamuinomi  
ア・エカムイノミ  
我・祭りをする  
それで祭りを催すが、

903 ikir kese ta  
イキリ ケセ タ  
列 末端 場所  
最後に

904 shinurapba-an  
シヌラツバ・アン  
先祖を祭る・我  
先祖を祭り

905 kusune na.  
クスネ ナ。  
意志 (訴え)  
たい。

906 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベチ

907 Shinutapka ta  
シヌタツカ タ  
地名 場所  
シヌatapカにいます

908 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わが叔母よ、

909 kamui a-tureshipo  
カムイ ア・トゥレシポ  
神 我・妹  
わが妹背を

910 shitekambare wa (p. 495)  
シテカムバレ ワ  
己の手につかませる 接続  
お連れして

911 nohaukeno  
ノハウケノ  
静かに  
ゆるゆる

912 chikoshireba wa  
チコシレバ ワ  
到着する 接続  
おいで

913 i-kore kunak  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
なさい

914 ramu yan.  
ラム ヤン。  
思う 命令  
ませ。

915 Keran tonoto  
ケラン トノト  
おいしい 酒  
うまし酒を

916 ku wa i-kore yan.  
ク ワ イ・コレ ヤン。  
飲む 接続 我・与える 命令  
お召しください。

917 Shirari e yan."  
シラリ エ ヤン  
麴 食べる 命令  
酒粕をお召ください。]

\*<sup>15</sup> 原綴りは chieomare。

\*<sup>16</sup> a- は二人称の敬称であろう。

- 918 ari hawash awa  
アリ ハワシ アワ  
引用 言われる 展開  
と使者が言うと、
- 919 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 920 katune kane  
カトゥネ カネ  
姿をとる 音調  
型どおりに
- 921 eyaikobuntek be  
エヤイコブンテック ベ  
喜ぶ もの  
喝采をあげ、
- 922 enubetne kunip  
エヌベトネ クニップ  
喜ぶ すべきもの  
うれしがるの
- 923 ne wa ne yakne  
ネ ワ ネ ヤクネ  
繫 接続 繫 条件  
ならば
- 924 kotom korokaiki  
コトム コロカイキ  
ようである 逆接  
あたりまえなのに、
- 925 tek oro un be  
テック オロ ウン ベ  
手 所 方向 もの  
手を
- 926 airuke kane onkami  
アイルケ カネ オンカミ  
音を立てる 同時 礼拝  
打ち鳴らして礼拝し、
- 927 hap ki kane  
ハフ キ カネ  
未詳 する 同時  
感謝の声をあげて、
- 928 “Eashka eashka  
“エアシカ エアシカ  
願る 願る  
「実に、実に
- 929 sonno keutum-  
ソンノ ケウトウム・  
真に 心  
まこと心の
- 930 oshi wano  
オシ ワノ  
中 から  
底から
- 931 ramoshi wano  
ラモシ ワノ  
心の底 から  
胸の中から
- 932 a-chibachiba  
ア・チバチバ  
我・望む  
望んで
- 933 hawash ne  
ハワシ ネ  
言われる 繫  
いたことだから、
- 934 kerai ne kusu  
ケライ ネ クス  
そのため 繫 根拠  
当然承諾すべきことだから
- 935 iku-an etokush  
イク・アン エトクシ  
酒を飲む・我 しようとする  
酒宴に参る用意を
- 936 hawe okai.  
ハウエ オカイ.  
声 ある  
いたします。
- 937 Tane tane  
タネ タネ  
今 今  
すぐに
- 938 kamui a-matkarku  
カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
大切なわらわの姪を
- 939 a-shitekanire wa  
ア・シテカニレ ワ  
我・己の手につかませる 接続  
連れて
- 940 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
神の住まう
- 941 shinrit chashi  
シンリト チャシ  
出自 チャシ  
先祖の家に
- 942 a-koshireba kusu ne  
ア・コシレバ クス ネ  
我・到着する 根拠 繫  
参ります。」
- 943 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言うと、
- 944 sonko kor be  
ソンコ コロ ベ  
伝言 持つ もの  
使者は
- 945 pirika sonko ne  
ピリカ ソンコ ネ  
よい 伝言 繫  
良い便り(叔母の応諾)を持って
- 946 too ehoshippa<sup>\*17</sup> humash.  
トオ エホシッパ フマシ.  
ずっと 帰る 音がする  
帰って行った。
- 947 Okake ta  
オカケ タ  
あと 場所  
そのあと、
- 948 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 949 ene itak i  
エネ イタキ  
このように 言う 形名  
こう言った。
- 950 “Hokure hokure  
“ホクレ ホクレ  
早く 早く  
「さあ、さあ、
- 951 kamui a-matkarku (p. 496)  
カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
大切な姪よ、
- 952 shiyuk yan.  
シユク ヤン.  
装う 命令  
礼服に着替えなさい。
- 953 Nekon ne yakka  
ネコン ネ ヤッカ  
どのように 繫 譲歩  
何はともあれ
- 954 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
もう
- 955 pon a-karku  
ボン ア・カラク  
小さい 我・甥  
わらわの小さな甥が
- 956 a-ewak ushike un  
ア・エワク ウシケ ウン  
我・住む ところ 方向  
われらの住まいに
- 957 ek kuni ehanke.  
エック クニ エハンケ.  
来る 必然 近づく  
まもなく来る日が近づいた。
- 958 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
だから
- 959 nei etoko ta  
ネ エトコ タ  
繫 前方 場所  
その前にわらわらを招いて
- 960 kamui nomi  
カムイ ノミ  
神 祈る  
祭り
- 961 shinurapba  
シヌラッパ  
先祖を祭る  
先祖を祭りたい
- 962 rusui hawe ne.  
ルスイ ハウエ ネ.  
したい 声 繫  
というのだ。
- 963 Hokure shiyuk yan.  
ホクレ シユク ヤン.  
早く 装う 命令  
急いで礼装に改めなさい。
- 964 Baye-an wa  
バイエ・アン ワ  
行く・我 接続  
行って、
- 965 kamui a-karku utar  
カムイ ア・カラク ウタラ  
神 我・甥 たち  
尊い甥たち、
- 966 a-matkarku hemem  
ア・マトカラク ヘメモ  
我・姪 も  
姪にも
- 967 a-nukar kane  
ア・ヌカラ カネ  
我・見る 同時  
会って
- 968 pirika iku  
ピリカ イク  
よい 酒を飲む  
うまい酒、

\*17 原綴りは ehoshba

- 969 keran ibe  
ケラン イベ  
おいしい 食事する  
おいしい食事を
- 970 a-ki kusune na  
ア・キ クスネ ナ  
我・する 意志 (訴え)  
いただきます。]
- 971 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言う。
- 972 pirika itak ne  
ピリカ イタク ネ  
よい 言葉 繋  
確かにいい話と
- 973 a-nu p ne koroka  
ア・ヌ ヲ ネ コロカ  
我・聞くもの 繋 逆接  
聞こえるけれど
- 974 rui rera ne  
ルイ レラ ネ  
激しい 風 繋  
その言葉は激しい風となって
- 975 a-kisarmekka  
ア・キサラメッカ  
我・耳の縁  
わたしの耳の縁を
- 976 chituresu.  
チテスレ.  
かすって逃れる  
かすめて逃れた。
- 977 Itak-an hawe  
イタク・アン ハウエ  
言う・我 声  
応えてわたしは
- 978 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
こう言った。
- 979 “Koninkarkusu  
“コニンカルクス  
(語り掛けの合図)  
「もし、もし、
- 980 a-kor unarbe.  
ア・コロ ウナラベ.  
我・もつ 叔母  
叔母さん。
- 981 Nekon ne humi  
ネコン ネ フミ  
どのように 繋 気配  
どうしたこと
- 982 kone nankora.  
コネ ナンコラ.  
繋 だろうか  
なのでしょう。
- 983 Keutum ot ta anakne  
ケウトウム オト タ アナクネ  
心 所 場所 は  
心から
- 984 shino ikutasa-an rusui.  
シノ イクタサ・アン ルスイ.  
まことに 盃を交わす・我 したい  
盃を交わしたいのです、
- 985 Pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さん (小イヨチ彦)
- 986 utarorke hene  
ウタロロケ ヘネ  
たち も  
たちや
- 987 pon a-kor sapo hene  
ボン ア・コロ サポ ヘネ  
小さい 我・もつ 姉 も  
小さな姉さん\*18にも
- 988 boronno a-nukar  
ボロンノ ア・ヌカラ  
たくさん 我・見る  
とつても会いたいの
- 989 rusui korka  
ルスイ コロカ  
したい 逆接  
ですが、
- 990 ponno a-tuyeh  
ボンノ ア・トゥイェ  
少し 我・腹  
すこしお腹が
- 991 arka katu  
アッカ カトゥ  
痛い 様子  
痛く、
- 992 toranne-an. (p. 497)  
トランネ・アン.  
おっくうだ・我  
もの愛いのです。
- 993 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
それで
- 994 oman-an ekatubase na.  
オマン・アン エカトゥバセ ナ.  
行く・我 嫌がる (訴え)  
出歩くのがつらいのです。
- 995 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母さん、
- 996 shinen ne boka  
シネン ネ ボカ  
一人 繋 だけ  
お一人で
- 997 oman wa  
オマン ワ  
行く 接続  
いらっしゃり
- 998 nubetneno  
ヌベトネノ  
喜んで  
楽しんで
- 999 iku yan  
イク ヤン  
酒を飲む 命令  
酒を飲み、
- 1000 ibe yan.  
イベ ヤン.  
食事する 命令  
御馳走になってきてください。
- 1001 Nekona keraha  
ネコナ ケラハ  
どのように 味  
どんなにおいしい
- 1002 okai be tap ne  
オカイ ベ タブ ネ  
ある もの これ 繋  
ものでも
- 1003 tonoto ne ya  
トノト ネ ヤ  
酒 繋 疑問  
酒でも
- 1004 shirari ne ya  
シラリ ネ ヤ  
麴 繋 疑問  
酒粕でも
- 1005 boronno  
ボロンノ  
たくさん  
たくさん、
- 1006 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母さん、
- 1007 i-koiyemetu.  
イ・コイイエトウ.  
我・土産をもらう  
お土産に持ってきてください。
- 1008 Orowa tutko bakno  
オロワ トウトコ バクノ  
始点 二日 まで  
二日でも
- 1009 rerko bakno  
レレコ バクノ  
三日 まで  
三日でもお休みになって
- 1010 shini uweneusar.  
シニ ウエネウサラ.  
休む お話しをする  
歓談を尽くしてください。
- 1011 Orowa arki kunak  
オロワ アッキクナク  
始点 来る 引用  
それからお帰り
- 1012 ramu yan.” ari  
ラム ヤン.” アリ  
思う 命令 引用  
ください。」と
- 1013 sunke-an awa  
スンケ・アン アワ  
嘘をつく・我 展開  
偽って言うと、
- 1014 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 1015 okkeukurkan-  
オクケウクルカン・  
首の骨  
深く
- 1016 isam kane  
イサム カネ  
ない 音調  
うなずいて
- 1017 sonno pombe korachi  
ソンノ ポムベ コラチ  
真に 赤事 ように  
幼子のように、
- 1018 teinep korachi  
テイネッ コラチ  
赤子 ように  
赤ん坊のように
- 1019 otu henkuror  
オトゥ ヘンクソロ  
二つの うなずくこと  
何度も何度も

\*18 小イヨチ彦の妹

- 1020 ore henkuror  
オレ ヘンクロロ  
三つのうなずくこと  
うなずきを
- 1021 i-koanukar kane  
イ・コアヌカラ カネ  
我・置く 同時  
わたしに返し、
- 1022 kosancha ot ta  
コサンチャ オト タ  
口元 所 場所  
口元に
- 1023 mina kane  
ミナ カネ  
笑う 同時  
笑みを浮かべて
- 1024 ene itak i  
エネ イタキ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 1025 “Pirika pirika.  
“ピリカ ピリカ.  
よい よい  
「よし、よし。
- 1026 Shino a-eraman hawe ne.  
シノ ア・エラマン ハウェ ネ.  
まことに我・知る 声 繫  
よく分かった。
- 1027 Tambe rei kor  
タムベ レ コロ  
これ 名 持つ  
それはいわゆる
- 1028 shukup kuru keutum  
シュクフ クル ケウトウム  
成長する人 心  
若い人の心、
- 1029 nokan kuru keutum  
ノカン クル ケウトウム  
小さい人 心  
幼い人の心が
- 1030 ueyaishiknuina ne.  
ウエヤイシクヌイナ ネ.  
己の目を隠す 繫  
本心を隠してのことだよ。
- 1031 Ramma tashi  
ラムマ タシ  
いつも 強調  
いつだって
- 1032 okake ta  
オカケ タ  
あと 場所  
あとになって
- 1033 pirika unukar  
ピリカ ウヌカラ  
よい 会見  
よき逢瀬を
- 1034 oainusakno (p. 498)  
オアイヌサクノ  
誰もいなく  
だれもない
- 1035 samashiksakno  
サマシクサクノ  
人目もなく  
人目がないところで
- 1036 echi-ki kusune ko.  
エチ・キ クスネ コ.  
汝ら・する 意志 条件  
するんだよ。
- 1037 Tane echi-unukar apkusu  
タネ エチ・ウヌカラ アックス  
今 汝ら・見合う としても  
今おまえたちが会ったところで、
- 1038 nepka echi-eukoitak boka  
ネッカ エチ・エウコイタク だけ  
何か 汝ら・会話する さえ  
言葉を交わすことにさえ
- 1039 e-shikibip nankoro.  
エ・シキビップ ナンコロ.  
汝・気後れする だろう  
気後れするでしょうよ。
- 1040 Aokai ne yakka  
アオカイ ネ ヤッカ  
我 繫 譲歩  
わらわだって
- 1041 teeta kane  
テエタ カネ  
以前 音調  
昔、
- 1042 uben-an i ta  
ウベン・アニ タ  
若い・我 形名 場所  
若かったとき
- 1043 beure-an i ta  
ベウレ・アニ タ  
若い・我 形名 場所  
年若かったとき
- 1044 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい我・もつ 兄  
夫となる人と出会い
- 1045 a-oshikote i ta  
ア・オシコテイ タ  
我・恋する 形名 場所  
恋したとき、
- 1046 ene ene  
エネ エネ  
このように このように  
やっぱり
- 1047 a-eyaishiknuina i  
ア・エヤイシクヌイナ イ  
我・己の目を隠す 形名  
自分の目を隠した<sup>\*19</sup>
- 1048 tab an.” ari  
タバ ン” アリ  
これ ある 引用  
ものだ。」と
- 1049 somo setakno  
ソモ セタクノ  
否定 長い時間に  
ながながと
- 1050 usaine usaine  
ウサイン ウサイン  
色々と 色々と  
いろいろなことを
- 1051 nubetne kasui wa  
ヌベトネ カスイ ワ  
喜ぶ 甚だしい 接続  
余りに喜ばし気に
- 1052 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言うが、
- 1053 rauki mina  
ラウキ ミナ  
密かな 笑う  
わたしは密かな
- 1054 rauki sapse  
ラウキ サッセ  
密かな 笑う  
嘲りの笑いを
- 1055 a-uwesuye.  
ア・ウウエスイエ.  
我・思う  
心に揺曳させた。
- 1056 Pon Iyochiumbé  
ボン イヨチウムベ  
小さいイヨチのやつ  
小イヨチ彦のやつなんか
- 1057 ponno hene or un  
ボンノ ヘネ オルン  
少しも 所 方向  
少しも
- 1058 yainu-am be  
ヤイヌ・アム ベ  
考える・我 もの  
想いをかけたことなんか
- 1059 ne wa kusu.  
ネ ワ クス.  
繫 接続 根拠  
あるものか。
- 1060 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 1061 monak pirika p  
モナク ピリカ プ  
そうでなくても よい もの  
さらでだに美しいのに
- 1062 sui chikup shiyuk  
スイ チクフ シユク  
再び 酒宴 装う  
宴の正装に
- 1063 uwechiure  
ウウエチウレ  
重なり合う  
身を包み、
- 1064 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさらも  
ますます
- 1065 imeru kusu  
イメル クス  
光 根拠  
放つ光のため
- 1066 urar kusu  
ウララ クス  
霧 根拠  
包むもやのため
- 1067 a-nukar boka  
ア・ヌカラ だけ  
我・見る さえ  
目を向けることさえ
- 1068 ewen kane  
エウエン カネ  
できない 同時  
できないほどで、
- 1069 kamui shiri ne  
カムイ シリ ネ  
神 様子 繫  
神のようで
- 1070 okai wa  
オカイ ワ  
ある 接続  
あった。

\*19 目を伏せた、ということであろう。

- 1071 “Pirikano pirikano  
“ピリカノ ピリカノ  
良く 良く  
「よくよく
- 1072 yaishikkashima\*<sup>20</sup> wa  
ヤイシッカシマ  
自らを守る  
身を慎んで、  
ワ  
接続
- 1073 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
この宮居を
- 1074 shikkashima wa  
シッカシマ  
見守る  
守っていて  
ワ  
接続
- 1075 i-kore yan.  
イ・コレ ヤン.  
我・与える 命令  
ください。」
- 1076 ari itak kane (p. 499)  
アリ イタク カネ  
引用 言う 同時  
と叔母は言っ、
- 1077 boro boshtoko  
ボロ ボシトコ  
大きい 小さなシントコ  
大きな小ほかいを
- 1078 amba kane  
アマバ カネ  
持つ 同時  
手に持って
- 1079 chisoinaraiaba.  
チソイナライバ、  
家の外に出る  
外へ出て行った。
- 1080 Soyun yakura  
ソユン ヤクラ  
外にある 槽  
外のやぐらの
- 1081 yakura ka wa  
ヤクラ カワ  
槽 上 から  
上から
- 1082 kamui nish ka  
カムイ ニシ カ  
神 空 上  
空に
- 1083 korikoshma  
コリコシマ  
飛び上がる  
昇り、
- 1084 inki moshiri  
インキ モシリ  
どの 国土  
どの国の
- 1085 moshit tapkashi  
モシト タッカシ  
国土 頂き  
国の頂きでか、
- 1086 kohumterkere.  
コフムテレケレ.  
音を走らせる  
轟音をとどろかせた。
- 1087 Kohumokake  
コフモカケ  
音の後  
音がやむと
- 1088 chakkosamba.  
チャッコサムバ.  
急に静まる  
静まり返った。
- 1089 Shiyoro keutum  
シヨロ ケウトウム  
驚く 心  
わたしは
- 1090 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
驚いてしまった。
- 1091 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 1092 ituren humi  
イトウレン フミ  
憑く 音  
憑神がついていて、
- 1093 nekona tapne  
ネコナ タッネ  
どのように これである  
どうしたわけか
- 1094 uben i ta  
ウベニ タ  
若い 形名 場所  
若い
- 1095 beure i ta  
ベウレ イ タ  
若い 形名 場所  
ときから
- 1096 ituren humi  
イトウレン フミ  
憑く 音  
憑神が
- 1097 okai be ta an  
オカイ ベ タ アン  
ある もの これある  
ついていたのだな、
- 1098 ari yainu-an.  
アリ ヤイヌ・アン.  
引用 考える・我  
と思った。
- 1104 rabokita  
ラボキタ  
間に  
その間
- 1105 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母の
- 1106 ene oman katu  
エネ オマン カトゥ  
このように 行く 様子  
行った先を
- 1107 a-ramebakari wa  
ア・ラメバカリ ワ  
我・思案する  
推し量って  
ワ  
接続
- 1108 inkar-an ko  
インカラ・アン コ  
見る・我 条件  
みると
- 1109 Iyochi kotan  
イヨチ コタン  
地名 村  
イヨチ村への道筋を
- 1110 sonno a-eraman noine  
ソンノ ア・エラマン ノイネ  
真に 我・知る らしく  
自分でもよく知っているように
- 1111 iramu-an.  
イラム・アン.  
思う・我  
思われた。
- 1112 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 1113 naa ponno  
ナア ポンノ  
まだ 少し  
今少し
- 1114 shiran ko  
シラン コ  
ときがたつ 条件  
したら、
- 1115 abunno  
アブンノ  
静かに  
ひっそりと
- 1116 nuinak-an korachi  
ヌイナク・アン コラチ  
隠れる・我ら ように  
身を隠すようにして
- 1117 Iyochi un  
イヨチ ウン  
地名 ある  
イヨチ村へ
- 1118 oman-an wa  
オマン・アン ワ  
行く・我 接続  
行っ
- 1119 awohotanu-an wa  
アウオホタヌ・アン ワ  
家の中を覗き見る 接続  
館の中を除いて
- 1120 Iyochi un rup  
イヨチ ウン ルッ  
地名 ある 群れ  
イヨチの者どもを

\*<sup>20</sup> 原綴りは yaishikkashi. -ma を補う。

- 1121 a-nukar kusu ne ari (p. 500)  
ア・ヌカラクス ネ アリ  
我・見る 根拠 繋 引用  
見てやろう、と
- 1122 nisap ram katu  
ニサッ ラム カトゥ  
急に 心 様子  
急な思いつきで
- 1123 yainu-an.  
ヤイス・アン.  
考える・我  
決めた。
- 1124 Ene asuru ka  
エネ アスル カ  
このように 噂 も  
さしたる世評も
- 1125 isam be  
イサム ベ  
ない もの  
ない者が
- 1126 koohanebo  
コオハネボ  
笑止にも  
あきれたことに
- 1127 kamui nomi boka  
カムイ ノミ ボカ  
神 祈る だけ  
祭りの作法も
- 1128 eramokai be  
エラモカイ ベ  
知る もの  
知らない
- 1129 he tap ne  
ヘ タッ ネ  
疑問 これ 繋  
くせに
- 1130 sake kar wa  
サケ カッ ワ  
酒 作る 接続  
酒を醸し
- 1131 unahupte hawe  
ウナフツテ ハウエ  
人を招く 声  
人を招く
- 1132 okai chiki  
オカイ チキ  
ある 条件  
とは、
- 1133 sonno a-emina  
ソンノ ア・エミナ  
真に 我・笑う  
笑止千万、
- 1134 a-esapse kane  
ア・エサッセ カネ  
我・嘲笑う 同時  
笑ってしまう。
- 1135 tane tokesh bakita  
タネ トケシ バキタ  
今 日暮れ 頃に  
午後になって
- 1136 a-yaikokutkoro-  
ア・ヤイコクトコロ・  
我・帯  
帯を
- 1137 yubu kane  
ユブ カネ  
強める 同時  
締め、
- 1138 useno momok  
ウセノ モモク  
あたりまえの 並みである  
ふだんの
- 1139 amip batek  
アミッ バテク  
着物 のみ  
着物だけを
- 1140 a-mi kane  
ア・ミ カネ  
我・着る 同時  
まとして
- 1141 soi wa sam ne  
ソイ ワ サム ネ  
家の外 から そば 繋  
家の外へ
- 1142 a-oshiraye.  
ア・オシライエ.  
我・移動する  
出た。
- 1143 Ekaichish tapka  
エカイチシ タツカ  
頂上の平らな岩山 頂き  
頂の折れた岩山の頂上から
- 1144 ebisun ran kiroro  
エビスン ラン キロロ  
浜へ 下がる 広い路  
浜へ下る
- 1145 kiroro kurka  
キロロ クルカ  
広い路 上  
道を
- 1146 a-i-y-esorore  
ア・イ・イエソロレ  
我・川下へ下らせられる  
飛ぶように下り、
- 1147 sanota kurka  
サノタ クルカ  
砂浜 上  
砂浜に
- 1148 a-i-y-esanke.  
ア・イ・イエサンケ.  
我・出て行く  
出た。
- 1149 Orowano  
オロワノ  
始点  
それから
- 1150 Iyochi kotan  
イヨチ コタン  
地名 村  
イヨチ村
- 1151 kobakun wa  
コバクン ワ  
方へ から  
へ
- 1152 otu tuika ta  
オトゥ トウイカ タ  
二つの 上 場所  
長い道を\*21
- 1153 bashno karip  
バシノ カリッ  
よく走る 投げ輪  
よくまわる輪の
- 1154 a-shikobayar.  
ア・シコバヤラ.  
我・見せかける  
ように走った。
- 1155 A-batu ota  
ア・バトゥ オタ  
我・跳ね飛ばす 砂  
蹴られてあがる砂が
- 1156 kuttek nish ne  
クトテク ニシ ネ  
黒い 空 繋  
黒い雲となって
- 1157 a-shiokote kane  
ア・シオコテ カネ  
我・引き連れる 音調  
わたしの後ろに続いた。

## 2.6 小イヨチ彦に罰せられる

- 1158 seenne ka sui  
セエンネ カ スイ  
否定 も 再び  
こんなに
- 1159 ene tunashno  
エネ トウナシノ  
このように 早く  
早く
- 1160 shiri kunne kuni  
シリ クンネ クニ  
様子 暗い 必然  
日が暮れると
- 1161 a-ramu rok i  
ア・ラム ロキ  
我・思う 完了 形名  
思わなかった。
- 1162 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベツから
- 1163 Iyochi kotan  
イヨチ コタン  
地名 村  
イヨチ村までの
- 1164 shir ubak noshki  
シリ ウバク ノシキ  
様子 対等の 真中  
ちょうど半分の道のり
- 1165 ne kuni  
ネ クニ  
繋 必然  
になったと
- 1166 a-ramu i ta (p. 501)  
ア・ラム イ タ  
我・思う 形名 場所  
思われるところ
- 1167 ek-an awa  
エック・アン アワ  
来る・我 展開  
来たら、
- 1168 annisapno  
アンニサッノ  
急に  
急速に
- 1169 shirikunne  
シリクンネ  
日が暮れる  
日が暮れて
- 1170 i-etoko i-okake  
イ・エトコ イ・オカケ  
我・先 我・あと  
前も後ろも

\*21 原文の otu に kiroro 「道」を補って解釈する。otu kiroro 「数多くの道」

- 1171 **kunne nishkuru**  
クンネ ニシクル  
黒い 雲  
黒雲が
- 1172 **koetushtushke.**  
コエトウシトウシケ.  
湧き上がる  
湧き上がった。
- 1173 **Toyekurok.**  
トイェクロク.  
地面が暗い  
地面も闇に包まれた。
- 1174 **Tambe kusu**  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 1175 **Iyochi un**  
イヨチ ウン  
地名 ある  
イヨチへ
- 1176 **nekona shino**  
ネコナ シノ  
どのように まことに  
いったいどう
- 1177 **iki-an wa**  
イキ・アン ワ  
する・我 接続  
したら
- 1178 **oman-an ko**  
オマン・アン コ  
行く・我 条件  
どう行ったら
- 1179 **pirika ya**  
ピリカ ヤ  
よい 疑問  
いいのか
- 1180 **oar ene**  
オアラ エネ  
全く このように  
まるで
- 1181 **oman-an i ka**  
オマン・アニ カ  
行く・我 形名 も  
行き方さえ
- 1182 **a-erambetek.**  
ア・エラムベテク.  
人々・知らない  
分からなくなった。
- 1183 **Hetobo**  
ヘトボ  
逆に  
もと来たほうへ
- 1184 **a-ewak ushike un**  
ア・エワク ウシケ ウン  
我・住む ところ 方向  
わたしの家に
- 1185 **hoshibi-an**  
ホシビ・アン  
戻る・我  
戻りたく
- 1186 **rusui yakka**  
ルスイ ヤッカ  
したい 譲歩  
なったが、
- 1187 **ene hoshibi-an i ka**  
エネ ホシビ・アニ カ  
このように 戻る・我 形名 も  
どう帰るのかも
- 1188 **isam.**  
イサム.  
ない  
分からなくなった。
- 1189 **Sonno yaikouyebeker-an.**  
ソンノ ヤイコウイェベケレ・アン.  
真に 一人思案にくれる  
思案にくれ、独り言を言った。
- 1190 **Hemanta**  
ヘマンタ  
何  
わたしは何を
- 1191 **a-ye shiri ta okai**  
ア・イエ シリ タ オカイ  
我・言う 様子 これ ある  
言っているのか。\*22
- 1192 **orowa tane anakne**  
オロワ タネ アナクネ  
始点 今 は  
今は
- 1193 **somokaun**  
ソモカウン  
よもや  
よもや
- 1194 **kamui bak buri**  
カムイ バク ブリ  
神 背く 行い  
神に赦されない風が
- 1195 **a-kor wa**  
ア・コロ ワ  
我・もつ 接続  
わたしにあるから\*23
- 1196 **wen barkoat**  
ウェン バラコアト  
悪い 罰  
ひどい
- 1197 **toi barkoat**  
トイ バラコアト  
土 罰  
罰に
- 1198 **a-ki shiri he okai.**  
ア・キ シリ ヘ オカイ.  
我・する 様子 疑問 ある  
当たったのか。
- 1199 **Naa chup ri kane**  
ナア チュプリ カネ  
まだ 日 高い 音調  
まだ日が高かったら
- 1200 **ene he tap ne**  
エネ ヘ タプ ネ  
このように 疑問 これ 繋  
それならば
- 1201 **hoyubu-an humi**  
ホユブ・アン フミ  
走る・我 気配  
走ったり
- 1202 **nitan-an humi**  
ニタン・アン フミ  
速く歩く・我 気配  
速歩きが
- 1203 **okai awa.**  
オカイ アワ.  
ある 展開  
できるのに。
- 1204 **Arekushkonna**  
アレクシコンナ  
突然  
あつという間に
- 1205 **shiri kunne shiri**  
シリ クンネ シリ  
様子 暗い 様子  
日が暮れたのが
- 1206 **shino a-oyamokte.**  
シノ ア・オヤモクテ.  
まことに 我・不思議に思う  
不思議に思えた。
- 1207 **Iteki ek-an a yakne**  
イテッキ エク・アン ア ヤクネ  
決して 来る・我 完了 条件  
来なければ
- 1208 **pirika p." ari**  
ピリカ プ" アリ  
よいもの 引用  
よかった。と
- 1209 **orhetobo**  
オロヘトボ  
もと来た方へ  
もと来た方へ\*24
- 1210 **yayashish keutum**  
ヤヤシシ ケウトムム  
くやしがる 心  
後悔
- 1211 **a-yaikore.**  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
した。
- 1212 **shirush tuntu ne (p. 502)**  
シルシ トウントウ ネ  
地面に付く 柱 繋  
地面に突き刺さった柱のように
- 1213 **sanota kurka**  
サノタ クルカ  
砂浜 上  
砂浜の上に
- 1214 **a-i-y-eashi.**  
ア・イ・イエアシ.  
我・立たせられる  
立ったなり動けなくなった。
- 1215 **Tapkarachi**  
タップカラチ  
足踏みする  
足踏みして
- 1216 **an-an aine**  
アナン アイネ  
いる・我 接続  
いるうちに
- 1217 **shiri bekere yak**  
シリ ベケレ ヤク  
様子 明るい 引用  
夜が明けたら
- 1218 **eashiri a-ewak i un**  
エアシリ ア・エワク イ ウン  
強調 我・住む 形名 方向  
家に
- 1219 **hoshibi-an**  
ホシビ・アン  
戻る・我  
帰れる

\*22 この行の意味はよく分からない。

\*23 ほかの男に心を寄せることをいう。

\*24 この句はうまく解釈できない。

- 1220 eashiri ki ruwe ne  
エアシリ キ ルウエ ネ  
強調 する 跡 繋  
だろ
- 1221 ari yainu-an chiki  
アリ ヤイヌ・アン チキ  
引用 考える・我 条件  
と考えて
- 1222 toi yayashish  
トイ ヤヤシシ  
土 くやしがる  
すごく
- 1223 wen yayashish  
ウエン ヤヤシシ  
悪い くやしがる  
激しく
- 1224 a-ki kane  
ア・キ カネ  
我・する 同時  
後悔しつづ
- 1225 sonno nishmu keutum  
ソンノ ニシム ケウトウム  
真に 寂しい 心  
一人ぼっちのさびしい気持ち
- 1226 ramuchuptek keutum  
ラムチュプテック ケウトウム  
心細い 心  
心細い気持ちに
- 1227 a-yaikore kane  
ア・ヤイコレ カネ  
我・もつ 同時  
なった。
- 1228 neino an-an aine  
ネノ アナン アイネ  
繋 いる・我 接続  
そうしている、
- 1229 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
今度は
- 1230 shino iberusui-an.  
シノ イベルスイ・アン.  
まことに空腹である・我  
お腹が減ってきた。
- 1231 Oro ta eashiri  
オロ タ エアシリ  
所 場所 強調  
ここでようやく
- 1232 tanto yaikoshiramse batek  
タント ヤイコシラムセ バテック  
今日 考える のみ  
今日一日考えごとばかり
- 1233 a-ki aine  
ア・キ アイネ  
我・する 接続  
していて
- 1234 ibe boka  
イベ ボカ  
食事する だけ  
食べることさえ
- 1235 a-oirā awan.  
ア・オイラ アワン.  
我・忘れる のだった  
忘れていたのに気づいた。
- 2.2 小屋の若者
- 1236 Sonno tanto anakne  
ソンノ タント アナクネ  
真に 今日 は  
まったく今日は
- 1237 nep ne yakka  
ネップ ネ ヤッカ  
何 繋 譲歩  
何につけ
- 1238 a-ewen shiri  
ア・エウエン シリ  
我・病気になる 様子  
しくじった
- 1239 okai chiki  
オカイ チキ  
ある 条件  
わけで、
- 1240 tu chish keutum ne  
トゥ チシ ケウトウム ネ  
二つの 泣く 心 繋  
ワンワン泣きたい
- 1241 re chish keutum ne  
レ チシ ケウトウム ネ  
三つの 泣く 心 繋  
気持ちに
- 1242 a-yaikore kane  
ア・ヤイコレ カネ  
我・もつ 同時  
なった
- 1243 an-an awa  
アナン アワ  
いる・我 展開  
ところ、
- 1244 hunak wa  
フナック ワ  
どこ から  
どこからか
- 1245 abe hura  
アベ フラ  
火 匂い  
火の匂いが
- 1246 barkosamba.  
バラコサムバ.  
翻る  
匂った。
- 1247 Sonno a-kurka konna  
ソンノ ア・クルカ コンナ  
真に 我・身体 は  
わたしの体が
- 1248 charkosamba  
チャラコサムバ  
弾ける  
弾ける
- 1249 semkorachi  
セムコラチ  
まるで (する) ように  
ように
- 1250 yainu-an kane  
ヤイヌ・アン カネ  
考える・我 同時  
頭を巡らした。
- 1251 hunak wa tapne  
フナック ワ タップネ  
どこ から これである  
どこから
- 1252 humash be ne ya  
フマシ ベ ネ ヤ  
気配がする もの 繋 疑問  
匂いが立っているのか
- 1253 ari yainu-an kusu  
アリ ヤイヌ・アン クス  
引用 考える・我 根拠  
と考えると
- 1254 hotku-an hine (p. 503)  
ホトク・アン ヒネ  
かがむ・我 接続  
かがんで
- 1255 arekeshne  
アレケッシネ  
あちらこちら  
あちらこちらを
- 1256 yayinkar-  
ヤイインカラ・  
己の視力  
目を
- 1257 pirikare-an wa  
ピリカレ・アン ワ  
良くする・我 接続  
凝らして
- 1258 shirwante-an awa  
シリワンテ・アン アワ  
辺りを調べる・我 展開  
調べると
- 1259 i-bekano  
イ・ベカノ  
我・いるあたりに  
わたしのいるあたり、
- 1260 tap ehankeno  
タップ エハンケノ  
これ 近くに  
すぐ近くに
- 1261 abenubek an kane  
アベヌベック アン カネ  
火の光 ある 同時  
火の明かりがあるの
- 1262 shir an chiki  
シラン チキ  
様子 ある 条件  
が見えた。
- 1263 shiyoro keutum  
シヨロ ケウトウム  
驚く 心  
わたしは不思議に
- 1264 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
思った。
- 1265 Shino iyoyamokte-an.  
シノ イヨヤモクテ・アン.  
まことに 不思議に思う・我  
不審でならない。
- 1266 Hemanta  
ヘマンタ  
何  
誰か
- 1267 ainu he tap ne  
アイヌ ヘ タップ ネ  
人間 疑問 これ 繋  
人間なのか
- 1268 kamui he tap ne  
カムイ ヘ タップ ネ  
神 疑問 これ 繋  
神なのか
- 1269 abe kor wa  
アベ コロ ワ  
火 持つ 接続  
火を持って
- 1270 shir an chiki  
シラン チキ  
様子 ある 条件  
来たようなので
- 1271 ikaira-an wa  
イクイラ・アン ワ  
忍び寄る・我 接続  
忍び寄って

- 1272 oman-an  
オマン・アン  
行く・我  
行き
- 1273 inkar-an awa  
インカラ・アン アワ  
見る・我 展開  
見ると、
- 1274 tap a-kar awan.  
タッ ア・カラ アワン.  
これ我・するのだった  
意外にも(?)<sup>\*25</sup>流れ木を
- 1275 Pon yapni  
ボン ヤッニ  
小さいうちあげられた木  
寄りかけて建てた
- 1276 euturashi p  
エウトウラシ フ  
寄りかかりあうもの  
ささやかな小屋があって、
- 1277 ni utur beka  
ニウトウル ベカ  
木間  
木の間から
- 1278 abe nubek  
アベヌベク  
火光  
ほど火の光が
- 1279 maknatara.  
マクナタラ.  
輝いている  
漏れていた。
- 1280 Shir an chiki  
シラン チキ  
様子 ある条件  
そこで
- 1281 yapni utur  
ヤッニ ウトウル  
うちあげられた木間  
流れ木の間から
- 1282 a-shikbekare  
ア・シクベカレ  
我・覗く  
中をのぞいて
- 1283 inkar-an ko  
インカラ・アン コ  
見る・我 条件  
見ると、
- 1284 sonno pon chise  
ソンノ ボン チセ  
真に 小さい家  
とても小さな家です
- 1285 ouse tun  
オウセ トウン  
ただ(だけ) 二人  
二人しか
- 1286 ea ushi bakno  
エア ウシ バクノ  
に座るところまで  
座れないほどの
- 1287 hutne ushike ta  
フトネ ウシケ タ  
狭い 場所  
狭いかまえて、
- 1288 boro abe a kane  
ボロ アベア カネ  
大きい火 座る 同時  
大きな火を焚いていた。
- 1289 abe okarino  
アベ オカリノ  
火 まわりに  
その火のまわりに
- 1290 a-ye manu  
ア・イエ マヌ  
我・言うという  
いわゆる
- 1291 kam biye i  
カム ビイエ イ  
肉 脂がつく 形名  
肉の脂がのつたのと
- 1292 kirbu biye i  
キリーブ ビイエ イ  
脂身 脂がつく 形名  
脂身のギトギトしたのを刺した
- 1293 imanit  
イマニト  
焼き串  
串が林のように
- 1294 tayeroshki kane  
タイエロシキ カネ  
林立する 同時  
立っていた。
- 1295 oshumtabishishke.  
オシユムタバシシケ.  
脂が垂れる  
脂が垂れていた。<sup>\*26</sup>
- 1296 Sonno keran huraha  
ソンノ ケラン フラハ  
真に おいしいの匂い  
とてもおいしそう匂いが
- 1297 bararse kane  
バララセ カネ  
翻る 同時  
漂っていた。
- 1298 hoka etok ne  
ホカ エトク ネ  
炉 前方 繫  
炉の上座と
- 1299 kushne i ta  
クシネ イ タ  
必然・意志 形名 場所  
思われるところに
- 1300 okutchi urar  
オクッチ ウララ  
たちこめる 霧  
濃いもやが、
- 1301 pon urar tapkop (p. 504)  
ボン ウララ タポコフ  
小さい霧 小山  
小さいもやの小山が
- 1302 chishireanu.  
チシレアヌ.  
おかれる  
立っていた。
- 1303 Urar tumu  
ウララ トウム  
霧 中  
そのもやの中を
- 1304 a-shikechari  
ア・シケチャリ  
我・目で散らす  
目で散らして
- 1305 ki p ne koroka  
キ ッ ネ コロカ  
するもの 繫 逆接  
見ようとしたが、
- 1306 naani tu sui  
ナアニ トウ スイ  
大方 二つの回  
それを何度も
- 1307 naani re sui  
ナアニ レ スイ  
大方 三つの回  
試みたが、
- 1308 ainu katne  
アイヌ カトネ  
人間 姿をとる  
人間の姿に
- 1309 a-kar eaikap.  
ア・カラ エアイカフ.  
我・する できない  
することができなかった。
- 1310 Hushkotoiwano  
フシコトイワノ  
ずっと  
しばらく
- 1311 a-kar aine  
ア・カラ アイネ  
我・する 接続  
試みていると
- 1312 a-shiketoko  
ア・シゲトコ  
我・目先  
目の先が
- 1313 raikosamba.  
ライコサムバ.  
青ざめる  
眩んだ。
- 1314 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今初めて
- 1315 okkayo ari  
オッカヨ アリ  
若者 引用  
男と
- 1316 a-borse kunip  
ア・ボロセ クニフ  
よばれる すべきもの  
いうものを
- 1317 a-nukar kusu.  
ア・ヌカラ クス.  
我・見る 根拠  
見た。
- 1318 Neita tu kotan ta  
ネタ トウ コタン タ  
繫 二つの村 場所  
村は数多いが
- 1319 neita re kotan ta  
ネタ レ コタン タ  
繫 三つの村 場所  
どの村に
- 1320 ene okai be  
エネ オカイ ベ  
このようにあるもの  
こんな人が
- 1321 okai ko  
オカイ コ  
ある 条件  
いるだろうか。まったく美しい。

<sup>\*25</sup> この句の意味はよく分からない。逐語訳ならば、「我はこれをしたのか、今わかった。」ほどの訳になるだろう。

<sup>\*26</sup> bishishke の意味がわからないので、仮に訳す。

- 1322 Tu asur kesh ta  
トゥ アスル ケシ タ  
二つの 噂 末端 場所  
噂の
- 1323 re asur kesh ta  
レ アスル ケシ タ  
三つの 噂 末端 場所  
端にすら
- 1324 kokishnu rok be  
コキシヌ ロク ベ  
静まる 完了 もの  
のぼらない
- 1325 okai nankora.  
オカイ ナンコラ.  
ある だろうか  
とは。
- 1326 Oar hekachi  
オアヲ ヘカチ  
全く 子供  
まったくの子供、
- 1327 okkaipo  
オッカイポ  
男の子  
少年で
- 1328 kani kosonte  
カニ コソント  
黄金 小袖  
金の小袖を
- 1329 nina<sup>\*27</sup> imi ne  
ニナ イミ ネ  
たき木を集める 着物 繫  
普段着にして
- 1330 arutomechiu  
アルトメチウ  
身にまとう  
身にまとい、
- 1331 uwok kani kut  
ウウオク カニ クト  
引っかけあう 黄金 帯  
留め金のついた金の帯を
- 1332 tumamkosaiba  
トゥマムコサイバ  
胴に巻く  
胴に巻き付け、
- 1333 kamui ranke tam  
カムイ ランケ タム  
神 下ろす 刀  
神授の剣は
- 1334 shirika tanne  
シリカ タンネ  
表面 長い  
鞘も長く
- 1335 teshba kane  
テシバ カネ  
反らせる 同時  
反り返って、
- 1336 konru tom ne p  
コンル トム ネ プ  
氷 色 繫 もの  
氷の色を帯びて、
- 1337 etembokkonna-  
エテムボクコンナ・  
脇の下  
剣を下げた脇の下が
- 1338 chashnatara.  
チャシナタラ.  
きらびやかである  
きらびやかだった。
- 1339 Kani pon kasa  
カニ ポン カサ  
黄金 小さい 笠  
金の小さな兜の
- 1340 kasa ran tubep  
カサ ラン トゥベプ  
笠 下がる 紐  
垂れさがった紐を
- 1341 eyaisannankashi-  
エイアイサンナンカシ・  
己の表情  
顔の上に
- 1342 yupba kane  
ユェバ カネ  
締める 同時  
締めていた。
- 1343 kasa kepsam ta  
カサ ケプサム タ  
笠 端 場所  
兜の縁に
- 1344 kamui sannanu  
カムイ サンナヌ  
神 顔  
神のような顔が
- 1345 rikoma chup ne  
リコマ チュプ ネ  
高所にある 日 繫  
南天にある日の光のように
- 1346 inantasare.  
イナントサレ.  
顔を交わらせる  
輝いている。
- 1347 rametok ibor (p. 505)  
ラメトク イボロ  
勇者 顔色  
勇士の気品により
- 1348 eibottumu-  
エイボトトゥム・  
顔色  
容貌が
- 1349 shinnai kane  
シンナイ カネ  
違った 音調  
世に超異する。
- 1350 chitomtereshu p  
チトムテレシュ プ  
美しく育てられる もの  
懇ろな養い、
- 1351 chiarareshu p  
チアラレシュ プ  
大切に育てられる もの  
全き教育を受けた者
- 1352 sone kusu  
ソネ クス  
らしく 根拠  
らしく、
- 1353 sonno kamui shiri ne.  
ソノノ カムイ シリ ネ.  
真に 神 様子 繫  
まこと神のたたずまいだった。
- 1354 Ainu anakne  
アイヌ アナクネ  
人間 は  
これはもう
- 1355 oar somo ne.  
オアヲ ソモ ネ.  
全く 否定 繫  
人間ではない。
- 1356 Sonno chinomi kamui  
ソノノ チノミ カムイ  
真に 祭られる 神  
祭られる神が
- 1357 toika oran  
トイカ オラン  
地面 降りる  
下界に下りて
- 1358 ki wa ne yakne  
キ ワ ネ ヤクネ  
する 接続 繫 条件  
来たならば
- 1359 arukorachi  
アルコラチ  
同じく  
まさにこうで
- 1360 ne ruwe ne.  
ネ ルウエ ネ.  
繫 跡 繫  
あろう。
- 1361 Ene an kamui  
エネ アン カムイ  
このようにある 神  
そんな神が
- 1362 konep tap teta  
コネプ タプ テタ  
何 これ ここで  
いったい何を
- 1363 eoknatara wa  
エオクナタラ ワ  
悲しむ 接続  
悲しんで
- 1364 okai nankora.  
オカイ ナンコラ.  
ある だろうか  
いるのだろう。
- 1365 Tu okne ibor  
トゥ オクネ イボロ  
二つの 悲しむ 顔色  
二つの悲しみの色
- 1366 re okne ibor  
レ オクネ イボロ  
三つの 悲しむ 顔色  
三つの悲しみの色を
- 1367 enuratkire kane  
エヌラトキレ カネ  
顔に浮かべる 同時  
顔に浮かべて
- 1368 shir an chiki  
シラン チキ  
様子 ある 条件  
いる。
- 1369 shino iyoyamokte keutum  
シノ イヨヤモクテ ケウトウム  
まことに 不思議に思う 心  
不思議で
- 1370 a-yaikore kane  
ア・ヤイコレ カネ  
我・もつ 同時  
ならない。
- 1371 ene he tap ne  
エネ ヘ タプ ネ  
このように 疑問 これ 繫  
このように
- 1372 kunne shitoma-an humi  
クンネ シトマ・アン フミ  
夜 恐がる・我 気配  
夜の恐れがあるのか

\*27 原綴りは nena.

- 1373 yaikouyebeker-an humi  
ヤイコウイェベケレ・アン フミ  
一人思案にくれる 気配  
思いわずらいが
- 1374 okai rok awa  
オカイ ロク アワ  
ある 完了 展開  
あるのか
- 1375 kamui he tap ne  
カムイ ヘ タップ ネ  
神 疑問 これ 繋  
神とも
- 1376 ainu he tap ne  
アイヌ ヘ タップ ネ  
人間 疑問 これ 繋  
人とも思える人が
- 1377 a-kor kotani  
ア・コロ コタニ  
我・もつ 村  
わたしの村の
- 1378 koehankenō  
コエハンケン  
近くに  
ほど遠からぬところで
- 1379 konep tap teta  
コネッ タップ テタ  
何 これ ここで  
いったい何を
- 1380 eoknatara kane  
エオクナタラ カネ  
悲しむ 同時  
悲しんでいるのか。
- 1381 konep kotan wa  
コネッ コタン ワ  
何 村 から  
どこの村から
- 1382 arki wa  
アッキ ワ  
来る 接続  
やって来た
- 1383 shir an chiki  
シラン チキ  
様子 ある 条件  
のだろう。
- 1384 somoun  
ソモウン  
もしかして  
もしかして
- 1385 e-ahun wa  
エ・アファン ワ  
汝・入る 接続  
家に入って、\*28
- 1386 oribak tura  
オリバットウラ  
畏まる ともに  
畏れ多い
- 1387 iki a yakka  
イキ ア ヤッカ  
する 完了 譲歩  
けれど
- 1388 nishpa amkir (p. 506)  
ニシパ アムキリ  
長者 知遇  
長者の知遇、
- 1389 utarpa amkir  
ウタラパ アムキリ  
首領 知遇  
首領の知遇を
- 1390 a-ki ne,\*29 ari  
ア・キ ネ アリ  
我・する 繋 引用  
得てみたら、と
- 1391 yainu-an kusu  
ヤイス・アン クス  
考える・我 根拠  
考えて
- 1392 tanebo ek kunip  
タネボ エク クニップ  
今 来る すべきもの  
いま着いたばかりを
- 1393 a-shikobayar  
ア・シコバヤラ  
我・見せかける  
よそおって
- 1394 yapni pon chise  
ヤプニ ボン チセ  
うちあげられた木 小さい 家  
流れ木の小さな家の
- 1395 aba ot ta  
アバ オト タ  
廉戸 所 場所  
戸口から
- 1396 haukeno  
ハウケン  
緩やかに  
声細く
- 1397 omkeomke-an kane  
オムケオムケ・アン カネ  
咳をする・我 同時  
おとないの咳払いをして
- 1398 shinu-an kane  
シヌ・アン カネ  
いざる・我 同時  
手を付き
- 1399 reye-an kane  
レイエ・アン カネ  
這う・我 同時  
膝行して入った。
- 1400 sonno pon chise  
ソンノ ボン チセ  
真に 小さい 家  
ちいさな家
- 1401 ne kusu  
ネ クス  
繋 根拠  
であるから
- 1402 “Aba.”\*30 ari  
“アバ。” アリ  
座る 引用  
「お座りなさい。」と
- 1403 i-tak-an yakka  
イ・タク・アン ヤッカ  
我・招き入れられる 譲歩  
招き入れられたけれど、
- 1404 sonno kamui ne am be  
ソンノ カムイ ネ アム ベ  
真に 神 繋 あるもの  
神のような人の
- 1405 aroushke ta  
アロウシケ タ  
すぐそば 場所  
膝もとに
- 1406 korachi no  
コラチ ノ  
ように 接続  
座っているような気がして、
- 1407 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神のような人
- 1408 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
も
- 1409 ponno boka  
ボンノ ボカ  
少し だけ  
こんなところに
- 1410 orota ainu  
オロタ アイヌ  
そこで 人間  
人がいようとほ
- 1411 eshikarun ka  
エシカルン カ  
思い出す も  
少しも
- 1412 somoki i ta  
ソモキ イ タ  
しない 形名 場所  
思いつかない
- 1413 ari yainu p  
アリ ヤイス ヲ  
引用 考える もの  
といぶかっている
- 1414 ne kotom ne.  
ネ コトム ネ  
繋 ようである 繋  
ようであった。
- 1415 Sonno i-ehomatu kunip  
ソンノ イ・エホマトウ クニップ  
真に 我・驚く すべきもの  
わたしがいることに
- 1416 kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
繋 もの 繋 根拠  
驚いて
- 1417 i-kohebumba  
イ・コヘブムバ  
我・起き上る  
わたしに顔をあげて
- 1418 a-urari  
ア・ウラリ  
我・もや  
わたしを包むもやを
- 1419 shikeshitaiki  
シケシタイキ  
目撃する  
目でもって打ち払い
- 1420 tu urar ikkeu  
トゥ ウララ イクケウ  
二つの 霧 元  
多くの

\*28 e を二人称の接辞とする。独り言の中で「おまえ」は自分を指す。

\*29 この ne の意味は不明。とりあえずないものとして解釈する。

\*30 aba を a「座る」の複数形とみなした。しかし、a の複数形は rok だから、この解釈は不確実。

- 1421 re urar ikkeu  
レ ウララ イッケウ  
三つの霧 元  
もやの根元を
- 1422 i-kocharikar.  
イ・コチャリカラ.  
我・払う  
散らした。
- 1423 Kipnekoroka  
キツネコロカ  
しかし  
だけど
- 1424 naani tu sui  
ナアニ トウ スイ  
大方 二つの 回  
ほとんど
- 1425 naani re sui  
ナアニ レ スイ  
大方 三つの 回  
無限回、それを繰り返しても
- 1426 ainu kat ne  
アイヌ カト ネ  
人間 姿 繫  
人間 (わたし) の姿を
- 1427 i-kar eaikap.  
イ・カラ エアイカプ.  
我・する できない  
頭わすことができなかつた。
- 1428 Hushkotoiwano  
フシコトイワノ  
ずっと  
しばらく
- 1429 i-kar aine  
イ・カラ アイネ  
我・する 接続  
わたしにそうしているうちに
- 1430 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
ようやく
- 1431 i-nukar kunip (p. 507)  
イ・ヌカラ クニフ  
我・見る すべきもの  
わたしを認めると
- 1432 kanibor kashi  
カニボロ カシ  
顔色 上  
顔色が
- 1433 korai kosamba.  
コライコサムバ.  
蒼ざめる  
サッと蒼ざめた。
- 1434 Ene an kamui  
エネ アン カムイ  
このようにある 神  
このような神とも
- 1435 ene am bito  
エネ アム ビト  
このようにある 人  
人とも見まがう者が
- 1436 hemshiehose  
ヘムシエホセ  
みずからを差し置いて  
自分の高貴なのを差し置いて
- 1437 konep erayap kunip  
コネフ エラヤフ クニフ  
何 感心する すべきもの  
何に驚いたのか
- 1438 i-tukarikebo  
イ・トゥカリケボ  
我・前  
わたしの手前に
- 1439 koshikerana-  
コシケラナ・  
目を下に  
目を
- 1440 atte kane  
アトテ カネ  
たたせる 同時  
落とし、
- 1441 huihuinawano  
フイフイナワノ  
隅々まで  
わたしを隅々まで
- 1442 i-uwambare.  
イ・ウワムバレ.  
我・調べる  
見定めようとした。
- 1443 Shino iyoyamokte noine.  
シノ イヨヤモクテ ノイネ.  
まことに 不思議に思う らしく  
まったく不審に思ったらしい。
- 1444 Katun shiri  
カトゥン シリ  
形をとる 様子  
そのふるまいを
- 1445 otopka utur  
オトツカ ウトゥル  
髪 間  
わたしは前に垂らした
- 1446 an-ebekare wa  
アネベカレ ワ  
我・透かす 接続  
髪の間から
- 1447 a-nukar.  
ア・ヌカラ.  
我・見る  
盗み見た。
- 1448 Itak ne manu  
イタク ネ マヌ  
言葉 繫 という  
言葉というものが
- 1449 ehautumkonna-  
エハウトゥムコンナ・  
声  
声の中に
- 1450 tununitara.  
トゥヌニタラ.  
美しい音が響く  
響いた。
- 1451 Itak hawe  
イタク ハウエ  
言う 声  
言うこと
- 1452 ene okai i  
エネ オカイ  
このようにある 形名  
には、
- 1453 "Usaine tap sui.  
"ウサイネ タフ スイ.  
(呼びかけ) これ 再び  
「驚いた。
- 1454 Shir an ruwe  
シラン ルウェ  
様子 ある 跡  
こんなことを
- 1455 a-oyamokte na.  
ア・オヤモクテ ナ.  
我・不思議に思う (訴え)  
目にしようとは。
- 1456 Seenne ka tap ne  
セエンネ カ タフ ネ  
否定 も これ 繫  
今頃このように
- 1457 tabakita  
タバキタ  
今頃  
人が歩いているとは
- 1458 ainu bayekai kuni ka  
アイヌ バイエカイ クニ カ  
人間 行き来する 必然 も  
思いも
- 1459 somo a-ramu rok i<sup>\*31</sup>  
ソモ ア・ラム ロキ  
否定 我・思う 完了 形名  
しなかったのに、
- 1460 kone wa tap ne  
コネ ワ タフ ネ  
繫 接続 これ 繫  
こんな
- 1461 kamui mataba  
カムイ マタバ  
神 女  
神の女
- 1462 he tap ne  
ヘ タフ ネ  
疑問 これ 繫  
か
- 1463 ainu mataba  
アイヌ マタバ  
人間 女  
人間の女
- 1464 he tap ne  
ヘ タフ ネ  
疑問 これ 繫  
か
- 1465 orsaureko  
オロサウレコ  
とんでもなく  
まったく軽くない
- 1466 okai wa  
オカイ ワ  
ある 接続  
身分の人が<sup>g</sup>
- 1467 bayekai shiri  
バイエカイ シリ  
行き来する 様子  
旅して
- 1468 okai be ne ya.  
オカイ ベ ネ ヤ.  
ある もの 繫 疑問  
いるとは。
- 1469 Konep ainu  
コネフ アイヌ  
何 人間  
どんな人が<sup>g</sup>
- 1470 ene okai i  
エネ オカイ  
このようにある 形名  
そんなことを
- 1471 ne wa kusu.  
ネ ワ クス.  
繫 接続 根拠  
するのでしょうか。

\*31 前に否定の senne があるのに、ここにまた否定の somo がある。ふつう、somo はないので、ないものとして解釈する。

- 1472 Kamui tashi  
カムイ タシ  
神 強調  
神にこそ
- 1473 ne nankor be.  
ネ ナンコロ ベ  
繫 だるう もの  
違いな。
- 1474 Kotan kusu  
コタン クス  
村 根拠  
村の名によって
- 1475 moshiri kusu  
モシリ クス  
国土 根拠  
国の名によって
- 1476 uamkir be tap ne  
ウアムキリ ベ タブ ネ  
知り合う もの これ 繫  
その素性が分かる、
- 1477 ainu ne na. (p. 508)  
アイヌ ネ ナ  
人間 繫 (訴え)  
というのが人というものです。
- 1478 Kamui pon katkemat  
カムイ ボン カトケマト  
神 小さい 婦人  
尊い娘さん、
- 1479 keke hetak  
ケケ ヘタク  
さあ さあ  
さあ、
- 1480 e-koro kotan  
エ・コロ コタン  
汝・持つ村  
おまえの生まれた村の
- 1481 rekore<sup>\*32</sup> ki yan.  
レコレ キ ヤン  
名を言う する 命令  
名を
- 1482 a-nu kushne na.”  
ア・ヌ クシネ ナ”  
我・聞く 必然・意志 (訴え)  
聞きたいものです。」
- 1483 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と尋ねられた。
- 1484 nisap ram ka ta  
ニサップ ラム カ タ  
急に 心 土 場所  
急いで頭を巡らして、
- 1485 a-koro kotan  
ア・コロ コタン  
我・もつ村  
自分の村の
- 1486 a-reko<sup>\*33</sup> chiki  
ア・レコ チキ  
我・名を言う 条件  
名を言うことが
- 1487 pirika p he okai  
ピリカ ヲ ヘ オカイ  
よい もの 疑問 ある  
いいことなのか
- 1488 wen ruwe he okai.  
ウエン ルウェ ヘ オカイ  
悪い 跡 疑問 ある  
悪いことなのか。
- 1489 Tap ne okai  
タブ ネ オカイ  
これ 繫 ある  
あんな
- 1490 yainu kusu  
ヤイヌ クス  
考える 根拠  
思いがあつて
- 1491 kunneapkaash-an ruwe ne  
クンネアッカシ・アン ルウェ ネ  
夜歩きする・我 跡 繫  
夜歩きしたことを
- 1492 tambe ponno hokamba ari  
タムベ ボンノ ホカムバ アリ  
これ 少し 難しい 引用  
言うのは、少し面倒なことになると
- 1493 yainu-an kusu  
ヤイヌ・アン クス  
考える・我 根拠  
思うと
- 1494 a-kurka konna  
ア・クルカ コンナ  
我・身体 は  
わたしの体が
- 1495 uyanitara.  
ウヤニタラ  
こわばっている  
こわばってしまった。
- 1496 Nisapno  
ニサップノ  
突然  
急に口を閉ざして
- 1497 somo nep a-ye awa  
ソモ ネッ ア・イエ アワ  
否定 何 我・言う 展開  
何も言わないでいると、
- 2.3 若者の話
- 1498 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 あるもの  
神のような少年は
- 1499 annisapno  
アンニサップノ  
急に  
突然
- 1500 yaisabaka-  
ヤイサバカ  
己の頭の表面  
自分の頭を
- 1501 kiki kane  
キキ カネ  
掻く 同時  
掻きながらこう言った。
- 1502 “Ohaine kane  
“オハイネ カネ  
なるほど 音調  
「なるほど
- 1503 sonno haitakuru  
ソンノ ハイタクル  
真に 愚か者  
われはとても
- 1504 a-ne awan.  
ア・ネ アワン  
我・繫 のだった  
馬鹿だった。
- 1505 Ki okkayo  
キ オクカヨ  
する 若者  
生意気な若男 (がすることですが、)
- 1506 a-eoyanene p tapne  
ア・エオヤネネ ヲ タブネ  
我・嫌う もの これである  
われが嫌うのは
- 1507 yaikotanor-  
ヤイコタンロ  
己の村  
自分の村を
- 1508 eshina ne awa.  
エシナ ネ アワ  
隠す 繫 展開  
隠すことです。
- 1509 A-kor kotan  
ア・コロ コタン  
我・もつ村  
わが村の名を
- 1510 hoshkino  
ホシキノ  
先に  
初めに
- 1511 a-reko orowa  
ア・レコ オロワ  
我・名を言う 始点  
述べて
- 1512 tapne  
タブネ  
これである  
それから
- 1513 uyebekennu ne rok wa.  
ウイェベケンヌ ネ ロク ワ  
相談する 繫 完了 接続  
尋ねるべきでした。
- 1514 Oar oar  
オアラ オアラ  
全く 全く  
まったくそれを
- 1515 a-oirā hine  
ア・オイラ ヒネ  
我・忘れる 接続  
忘れて
- 1516 Hoshkino  
ホシキノ  
先に  
最初に
- 1517 e-kor kotan  
エ・コロ コタン  
汝・持つ村  
あなたの村の名を
- 1518 a-nu rusui hawe  
ア・ヌ ルスイ ハウエ  
我・聞く したい 声  
聞いたのは、
- 1519 sonno wen-an ruwe ne.  
ソンノ ウエン・アン ルウェ ネ  
真に 悪い・我 跡 繫  
まことに我が悪かった。
- 1520 iteki chiwennoramū (p. 509)  
イテキ チウエンノラム  
決して 悪く思われる  
悪くとらずに

\*32 原綴りは reko。

\*33 原綴りは areko。reko は rekore の略記か。

- 1521 i-y-ekarkar kunak  
イ・イエカラカラ クナク  
我・する 引用  
お願い
- 1522 ramu yan.” ari  
ラム ヤン” アリ  
思う 命令 引用  
します。」と
- 1523 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言ったので
- 1524 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさらも  
わたしはますます
- 1525 shino yaikataikap keutum  
シノ ヤイカタイカフ ケウトウム  
まことに 気の毒に思う 心  
すまなく
- 1526 a-yaikore kane  
ア・ヤイコレ カネ  
我・もつ 同時  
思った。
- 1527 “A-kor kotani  
“ア・コロ コタニ  
我・もつ 村  
「わが村の
- 1528 rei koro katu  
レ コロ カトゥ  
名 持つ 様子  
名は
- 1529 Pon Ishkar ne wa  
ボン イシカラ ネ ワ  
小さい 地名 繋 接続  
小イシカリで、
- 1530 tu irwak ne  
トゥ イリワク ネ  
二つの 兄弟 繋  
男兄弟二人で、
- 1531 shine turesh ne.  
シネ トウレシ ネ.  
一つの 妹 繋  
妹が一人います。
- 1532 Wenkur utar  
ウェンクル ウタラ  
貧乏人 たち  
貧しく
- 1533 a-ne wa okai-an  
ア・ネ ワ オカイ・アン  
我・繋 接続 いる・我  
暮らして
- 1534 ruwe ne.  
ルウェ ネ.  
跡 繋  
います。
- 1535 Tane bakno  
タネ バクノ  
今 まで  
今までは
- 1536 pon a-kor yubi batek  
ボン ア・コロ ユビ バテク  
小さい 我・もつ 兄 のみ  
ちい兄さんだけが
- 1537 ekimne wa  
エキムネ ワ  
山に行く 接続  
山で猟をして、
- 1538 shisakbe a-e koro  
シサクベ ア・エ コロ  
またとなきもの 我・食べる 引用  
たぐいなくおいしいものを
- 1539 okai-an ruwe ne.  
オカイ・アン ルウェ ネ.  
いる・我 跡 繋  
食べてきました。
- 1540 Tanto tanebo konna  
タント タネボ コンナ  
今日 今 は  
今日になって
- 1541 ekimne-an kusu  
エキムネ・アン クス  
山に行く・我 根拠  
初めて猟に
- 1542 iki-an awa  
イキ・アン アワ  
する・我 展開  
出かけたところ
- 1543 wenrokbe kushta  
ウェンロクベ クシタ  
貧乏人たち であればこそ  
貧乏人ばかりだ、
- 1544 omuken-an wa  
オムケン・アン ワ  
獲物が得られない・我 接続  
何も獲れずに
- 1545 irushka-an koro  
イルシカ・アン コロ  
怒る・我 引用  
頭にきてしまつて
- 1546 san-an awa  
サン・アン アワ  
くだる・我 展開  
山を下りると
- 1547 ru hontom ta  
ル ホントム タ  
道 途中 場所  
途中で
- 1548 a-utari utar  
ア・ウタリ ウタラ  
我・親族 たち  
猟のあつた
- 1549 isoun  
イソウン  
猟運に恵まれる  
一族の者たちと
- 1550 a-koekari hine  
ア・コエカリ ヒネ  
我・出会う 接続  
出会つた。
- 1551 shine pon yuk tapkir  
シネ ボン ユク タフキリ  
一つの 小さい 鹿 鹿の肩と前足  
鹿の肩と前足の小さいのを一本
- 1552 a-i-kore yakka  
ア・イ・コレ ヤッカ  
我・与えられる 譲歩  
くれましたが、
- 1553 shino a-eyaikobuntek koro  
シノ ア・エヤイコブンテク コロ  
まことに 我・喜ぶ 同時  
それでもともうれしく
- 1554 san-an awa  
サン・アン アワ  
くだる・我 展開  
山を下りていると、
- 1555 arekushkonna  
アレクシコンナ  
突然  
どンドン
- 1556 shiri kunne hine  
シリ クンネ ヒネ  
様子 暗い 接続  
暗くなってきて
- 1557 ikiap  
イキアッ  
こいつ  
こん畜生め、
- 1558 shitturainu-an.  
シトトゥライヌ・アン.  
道に迷う・我  
われは道に迷ってしまった。
- 1559 Usa shinki-an  
ウサ シンキ・アン  
譲歩 疲れる・我  
疲れもし、
- 1560 usa iberusui-an.  
ウサ イベルスイ・アン.  
譲歩 空腹である・我  
腹もすいてきました。
- 1561 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで、
- 1562 anebittano (p. 510)  
アネビタノ  
夜間ずっと  
一晩中
- 1563 shitturainu-an kor  
シトトゥライヌ・アン コロ  
道に迷う・我 同時  
あてどなく歩いて
- 1564 Ishkar un  
イシカラ ウン  
地名 方向  
イシカリへ
- 1565 hoshihi-an kasuno  
ホシビ・アン カスノ  
戻る・我 以上  
帰るよりも
- 1566 teta reushi-an ari  
テタ レウシ・アン アリ  
ここで 泊まる・我 引用  
ここに泊まろうと
- 1567 yainu-an kusu  
ヤイヌ・アン クス  
考える・我 根拠  
考えて、
- 1568 shittembatemba-an kane  
シテムバテムバ・アン カネ  
手探りする 同時  
手探りで
- 1569 pon yapni  
ボン ヤプニ  
小さい うちあげられた木  
流れ木の小さな
- 1570 chise a-kar wa  
チセ ア・カラ ワ  
家 我・する 接続  
家を作り
- 1571 a-kor pon yuktapkir  
ア・コロ ボン ユクタフキリ  
我・もつ 小さい 鹿の肩と前足  
鹿の肩と足を
- 1572 a-ma kor an-an  
ア・マ コロ アナン  
我・あぶる 同時 いる・我  
炙つて
- 1573 shiri ne.”  
シリ ネ.”  
様子 繋  
いました。」

- 1574 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言った。
- 1575 keutum ot ta  
ケウトウム オトタ  
心 所 場所  
わたしは心の中で
- 1576 shino nubetne-an.  
シノ ヌベトネ・アン.  
まことに 喜ぶ・我  
喜んだ。
- 1577 Ene he tap ne kusu  
エネ ヘ タプ ネ クス  
このように 疑問 これ 繋 根拠  
そういう ことなら
- 1578 yainu-an humi  
ヤイヌ・アン フミ  
考える・我 気配  
わたしが考えていた
- 1579 okai rok be  
オカイ ロク ベ  
ある 完了 もの  
ことと
- 1580 a-koekari hawe  
ア・コエカリ ハウエ  
我・出会う 声  
一致する
- 1581 okai chiki  
オカイ チキ  
ある 条件  
ので、
- 1582 nep kusu  
ネフ クス  
何 根拠  
どうしてもう
- 1583 e-eshina p ari  
エ・エシナ プ アリ  
汝・秘密にする もの 引用  
隠し事をする ことがある、と
- 1584 yainu-an kane  
ヤイヌ・アン カネ  
考える・我 同時  
思い、
- 1585 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
いまこそ、もの言おうと
- 1586 kanru chinki  
カンル チンキ  
髪 裾  
前に垂らした髪の毛先を
- 1587 a-usaraiba.  
ア・ウサライバ、  
我・まん中から分ける  
真ん中から分けた。
- 1588 A-nannubeki  
ア・ナンヌベキ  
我・顔の輝き  
するとわたしの顔の輝きが
- 1589 pon chise upsor  
ボン チセ ウフソロ  
小さい 家 内部  
小さな小屋の中に
- 1590 emakkosamba.  
エマクゴサムバ、  
急に広がる  
パッと広がった。

## 2.4 シヌタブカの娘の告白

- 1591 A-kutsumkonna-  
ア・クトスムコンナ・  
我・喉  
わたしの喉が
- 1592 uwetunuisse.  
ウウェトウスイセ、  
美しく響く  
響いた。
- 1593 A-kor kotan hene  
ア・コロ コタン ヘネ  
我・もつ 村 も  
わたしの村とか
- 1594 a-shinrichi utari hene<sup>\*34</sup>  
ア・シンリチ ウタリ ヘネ  
我・先祖 たち も  
親族のものたちとかは
- 1595 tapne kane  
タップネ カネ  
これである 音調  
かくかくしかじかであって、
- 1596 utar kor be a-ne  
ウタラ コロ ベ ア・ネ  
召使たち 持つ もの 我・繋  
わたしは召使を使い、
- 1597 hokukoshikup be  
ホクコシクフ ベ  
幼いときから許嫁が決まっている もの  
許嫁のある
- 1598 a-ne koroka  
ア・ネ コロカ  
我・繋 逆接  
身であるが、
- 1599 tapne tapne kusu  
タップネ タップネ クス  
これである これである 根拠  
しかじかの訳で
- 1600 tanekuran  
タネクラン  
今夜  
今晚
- 1601 Iyochi ta iku-an  
イヨチ タ イク・アン  
地名 場所 酒を飲む・我  
イヨチで祭りがあるので、
- 1602 rabokita (p. 511)  
ラボキタ  
間に  
祭りの間
- 1603 awohotanu-an kusu  
アウオホタヌ・アン クス  
家の中を覗き見る 根拠  
外から覗いてみよう
- 1604 ek-an awa  
エック・アン アワ  
来る・我 展開  
やって来たら
- 1605 tapne ne wa  
タップネ ネ ワ  
これである 繋 接続  
このように
- 1606 teta ukoekarba-an katu  
テタ ウコエカバ・アン カトゥ  
ここで 出会う・我ら 様子  
出会ったこと、

- 1607 tane bakno  
タネ バクノ  
今 まで  
今まで
- 1608 ene ene  
エネ エネ  
このように このように  
このように
- 1609 yairamkoiki-an katu  
ヤイラムコイキ・アン カトゥ  
己の気持ちをさいなむ・我 様子  
道に迷い苦しんだことを話した。
- 1610 Yashtoma-am be ne kusu  
ヤシトマ・アム ベ ネ クス  
恥ずかしい・我 もの 繋 根拠  
恥ずかしく、
- 1611 itak uturu  
イタク ウトゥル  
言葉 間  
言葉の合間に
- 1612 a-mushish kane  
ア・ムシシ カネ  
我・むせかえる 同時  
むせかえり、
- 1613 itak uturu  
イタク ウトゥル  
言葉 間  
言葉の合間
- 1614 a-rakup kane  
ア・ラクフ カネ  
我・途切らせる 同時  
声を途切らせるが
- 1615 an korachi  
アン コラチ  
ある ように  
ように、
- 1616 a-ye wa  
ア・イエ ワ  
我・言う 接続  
言い
- 1617 a-okere awa  
ア・オケレ アワ  
我・終わる 展開  
終わると
- 1618 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 ある もの  
神のような少年は
- 1619 mono pirikano  
モノ ビリカノ  
静かに 良く  
静かに
- 1620 ikokanu wa  
イコカヌ ワ  
聞く 接続  
耳を
- 1621 okai rok ine  
オカイ ロク イネ  
ある 完了 接続  
傾けていたが、
- 1622 humse kane  
フムセ カネ  
声を出す 同時  
フムと言って
- 1623 hetchekar kane  
ヘトチュエカラ カネ  
合の手を入れる 同時  
うなずき、

\*34 原ノートの ashir の r の上に n が書き添えられている。それを採用する。

- 1624 emina hau kan  
エミナ ハウ カン  
それを笑う 声 は  
にっこりと
- 1625 tununitara kane  
トゥヌニタラ カネ  
美しい音が響く 同時  
笑って
- 1626 ene itak i  
エネ イタキ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 1627 “Iyairaikere ta  
“イヤイライケレ タ  
ありがとう これ  
「感謝、感謝、
- 1628 i-onkamire ta  
イ・オンカミレ タ  
我・感謝させる これ  
ありがたいことを
- 1629 hawash hawe.  
ハワシ ハウエ.  
言われる 声  
言うものだ。
- 1630 Inu-an humi  
イヌ・アン フミ  
聞く・我 気配  
いいことを
- 1631 okai be ne ya.  
オカイ ベ ネ ヤ.  
ある もの 繫 疑問  
聞いたものだ。
- 1632 Naa bashta  
ナア バシタ  
まだ 地位の低い  
まだ何の身分も
- 1633 kane okai be  
カネ オカイ ベ  
同時 ある もの  
ないわれごときを
- 1634 chioshikote  
チオシコテ  
恋慕  
慕って
- 1635 chioshiknuka  
チオシクヌカ  
愛  
恋して
- 1636 i-y-ekarkar i  
イ・イエカラカライ  
我・する 形名  
くれたの
- 1637 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
だけど
- 1638 eashka  
エアシカ  
頗る  
とても
- 1639 a-eyairaike  
ア・エヤイライケ  
我・感謝する  
ありがたく
- 1640 a-enubetne p ne kusu  
ア・エヌベトネ ヲ ネ クス  
我・喜ぶ もの 繫 根拠  
うれしいことだ。
- 1641 Heru asuru  
ヘル アスル  
ただの 噂  
ただうわさを
- 1642 a-nu yakka  
ア・ヌ ヤッカ  
我・聞く 譲歩  
聞くだけでも
- 1643 a-eoribak be.  
ア・エオリバク ベ.  
我・畏れかしこまる もの  
畏れ多い。
- 1644 Tapne Tomisambechi  
タップネ トミサムベチ  
これである 地名  
あのトミサンベツ
- 1645 Shinutapka ta  
シヌタップカ タ  
地名 場所  
シスタプカの
- 1646 kamui katkemat (p. 512)  
カムイ カトケマト  
神 婦人  
尊い淑女
- 1647 ne rok wa  
ネ ロク ワ  
繫 完了 接続  
であったとは
- 1648 nekon ne hawe  
ネコン ネ ハウエ  
どのように 繫 声  
なんといっても
- 1649 iyoserkere.  
イヨセレケレ.  
驚くべし  
驚くべきことだ。
- 1650 Aokai neepkor okai  
アオカイ ネエッコロ オカイ  
我 のように ある  
われのように
- 1651 wenkuru  
ウエンクル  
貧乏人  
貧しい男に
- 1652 naa somo arsuno boka  
ナア ソモ アラスノ ボカ  
まだ 否定 一度 だけ  
まだ一度も
- 1653 unukar an ka  
ウヌカラ アン カ  
会見 ある も  
会って
- 1654 somokino  
ソモキノ  
しないうちに  
いないのに
- 1655 tapne ne hawe.  
タップネ ネ ハウエ.  
これである 繫 声  
そう言ってくれた。
- 1656 Bahau ne kusu  
バハウ ネ クス  
噂 繫 根拠  
うわさになって
- 1657 taban orushbe  
タバノ オルシベ  
この 話  
こんな話が
- 1658 e-kor unarbe hene  
エ・コロ ウナラベ ヘネ  
汝・持つ 叔母 も  
あなたの叔母やら
- 1659 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦、
- 1660 e-ante hoku  
エ・アンテ ホク  
汝・嫁ぐ 夫  
あなたがかしづく
- 1661 e-sokar hoku  
エ・ソカラ ホク  
汝・傍に仕える 夫  
君の耳に
- 1662 chikobashte  
チコバシテ  
走る  
届いて
- 1663 e-ekarkar wa  
エ・エカラカラ ワ  
汝・する 接続  
気づかれたら、
- 1664 ne wa ne chiki  
ネ ワ ネ チキ  
繫 接続 繫 条件  
そうになったら
- 1665 ukokushishba  
ウコクシシバ  
ともに  
われらはともに
- 1666 konep shiknu  
コネッ シクヌ  
何 生きている  
どうして
- 1667 konep tusaha  
コネッ トゥサハ  
何 快復  
生きて
- 1668 a-ki p ta okai.  
ア・キ ヲ タ オカイ.  
我・する もの これ ある  
いられるでしょう。
- 1669 Wen kuru utar  
ウエンクル ウタラ  
悪い 人 たち  
貧しい一族の者で
- 1670 a-ne kusu  
ア・ネ クス  
我・繫 根拠  
われはあるから
- 1671 a-asuru  
ア・アスル  
我・噂  
わが評判が
- 1672 ash ruwe ne ya  
アシ ルウエ ネ ヤ  
立つ 跡 繫 疑問  
立っているのやら
- 1673 somo ruwe ne ya  
ソモ ルウエ ネ ヤ  
否定 跡 繫 疑問  
立っていないのやら
- 1674 oar tane bakno  
オアラ タネ バクノ  
全く 今 まで  
今までは
- 1675 ponno ka  
ボンノ カ  
少し も  
少しも
- 1676 a-erambetek awa  
ア・エラムベテク アワ  
人々・知らない 展開  
知らなかったが、

- 1677 tap tap hawash." ari  
タッ タッ ハワシ." アリ  
これこれ 言われる 引用  
そういうことだったのか。」と
- 1678 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言っ
- 1679 shiyorohaukan-  
シヨロハウカン・  
驚きの声  
驚きの声を
- 1680 kari kane  
カリ カネ  
回る 音調  
あげた。
- 1681 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
それを聞くと
- 1682 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさら も  
一層
- 1683 a-oshiknuka.  
ア・オシックスカ.  
我・慕う  
愛しく思った。
- 1684 Nishpa kushta  
ニシパ クシタ  
長者 であればこそ  
長者であればこそ
- 1685 utarpa kushta  
ウダラパ クシタ  
首領 であればこそ  
首領であればこそ
- 1686 ene he tap ne  
エネ ヘ タッ ネ  
このように 疑問 これ 繫  
これほどに
- 1687 kamui korachi  
カムイ コラチ  
神 ように  
神と見まがうほど
- 1688 pirika kashba  
ピリカ カシバ  
よい 甚だしい  
美しい
- 1689 ruwe okai yakka  
ルウェ オカイ ヤッカ  
跡 ある 譲歩  
のであるけれど
- 1690 ponno ka yairiktaante (p. 513)  
ボンノ カ ヤイリクッタアンテ  
少し も 己を誇る  
少しもおごり高ぶる
- 1691 somokino  
ソモキノ  
しないうちに  
ことなく、
- 1692 yayainuyere\*<sup>35</sup>  
ヤヤイヌイエレ  
己の考えを言う。  
自分の考えを述べたの
- 1693 hawe okai chiki  
ハウエ オカイ チキ  
声 ある 条件  
だから
- 1694 sonno ramoshi wano  
ソンノ ラモシ ワノ  
真に 心の底 から  
わたしは心の底から
- 1695 chioshiknuka  
チオシックスカ  
愛  
惚れて
- 1696 a-ekarkar.  
ア・エカラカラ.  
我・する  
しまった。
- 1697 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 1698 okkayo ari  
オッカヨ アリ  
若者 引用  
男と
- 1699 a-borse kunip tura  
ア・ボロセ クニッ トウラ  
よばれる すべきもの ともに  
いわれる者と
- 1700 ukoitak-an.  
ウコイタク・アン.  
話し合う・我ら  
言葉を交わせ、
- 1701 Sonno a-ekirooran.  
ソンノ ア・エキロロアン.  
真に 我・喜ぶ  
とてもうれしかった。
- 1702 Biye kam imanit  
ビイエ カム イマニト  
脂がつく 肉 焼き串  
脂ののった肉の串、
- 1703 kirbu imanit  
キリブ イマニト  
脂身 焼き串  
脂身の串を
- 1704 yapte hine  
ヤッテ ヒネ  
火から下ろす 接続  
焔からあげて
- 1705 i-sam o chiki  
イ・サム オ チキ  
我・傍ら 入れる 条件  
わたしのそばに置いたので
- 1706 a-rikunruke  
ア・リクンルケ  
我・高くさしあげる  
わたしは高く掲げ
- 1707 a-raunruke  
ア・ラウンルケ  
我・低くかざす  
低く下げて感謝し、
- 1708 a-e wa inkar-an ko  
ア・エ ワ インカラ・アン コ  
我・食べる 接続 見る・我 条件  
食べてみると
- 1709 konepnamunsui  
コネプナムンスイ  
何とまた  
なんて
- 1710 kera pirika wa  
ケラ ピリカ ワ  
味 よい 接続  
おいしい
- 1711 humash nankora.  
フマシ ナンコラ.  
気配がする だろうか  
ことか。
- 1712 Sonno keran.  
ソンノ ケラン.  
真に おいしい  
とてもおいしい。
- 1713 Nekona shikop  
ネコナ シコッ  
どのように 生れる  
小イヨチ彦など
- 1714 nekona barop tap ne  
ネコナ バロッ タッ ネ  
どのように 生れる これ 繫  
卑しい許嫁、
- 1715 Pon Iyochiunkuru  
ボン イヨチウンクル  
小さい イヨチ彦  
どこの 馬の骨だか
- 1716 pon a-wenyubi ne wa.  
ボン ア・ウェンユビ ネ ワ.  
小さい 我・悪い兄 繫 文終結  
しれたものではない。
- 1717 Oasurkesh ta  
オアスルケシタ  
噂の端 場所  
人のうわさにも
- 1718 kokishnatara p  
コキシナタラ プ  
静まる もの  
のぼらない
- 1719 kone p ne kusu  
コネ プ ネ クス  
繫 もの 繫 根拠  
情けない者だから
- 1720 koiki p boka  
コイキ プ ボカ  
攻撃する もの だけ  
獲物さえ
- 1721 chikoturaira p ne kusu  
チコトゥライバ プ ネ クス  
来るのを嫌がる (?) もの 繫 根拠  
狩れない者なので
- 1722 tane bakno  
タネ バクノ  
今 まで  
今まで
- 1723 shukup tuika ta  
シュクッ トウイカ タ  
成長する 上 場所  
一度たりとも
- 1724 shine kam not boka  
シネ カム ノト ボカ  
一つの肉 一口分 だけ  
一切れの肉さえ
- 1725 shine kirbu not boka  
シネ キリブ ノト ボカ  
一つの脂身 一口分 だけ  
一片の脂身さえ
- 1726 i-eikrakar ka  
イ・エイカラカラ カ  
我・贈る も  
贈って
- 1727 somoki rok wa. (p. 514)  
ソモキ ロク ワ.  
しない 完了 接続  
くれなかった。

\*<sup>35</sup> yay-yaynu-ye-re の短縮形。

- 1728 Ene he tap ne  
エネ ヘ タブ ネ  
このように疑問これ繋  
そんな不満を
- 1729 a-ramu humi  
ア・ラム フミ  
我・思う気配  
心に思わざるを
- 1730 okai rok be  
オカイ ロク ベ  
ある完了もの  
えないが、
- 1731 Pon Ishkarunkuru  
ポン イシカルンクル  
小さいイシカリ彦  
神のような
- 1732 kamui ne okai be  
カムイ ネ オカイ ベ  
神繋あるもの  
小イシカリ彦は
- 1733 pirika eunkrai be  
ピリカ エウンクライ ベ  
よいもらうもの  
すてきな頂き物、
- 1734 eitomot be  
エイトモト ベ  
獲るもの  
獲得した物を
- 1735 yayoteknare ma wa  
ヤヨテッナレ マ ワ  
みずから手を下す泳ぐ接続  
手ずから焼いて
- 1736 i-ere shiri.  
イ・エレ シリ、  
我・食べさせる様子  
わたしに食べさせてくれた。
- 1737 Sonno kamui renkaine  
ソンノ カムイ レンカイネ  
真に神意志に従う  
ほんとうに神のおかげ
- 1738 ne ari yainu-an kane  
ネ アリ ヤイヌ・アン カネ  
繋引用考える・我同時  
と考えた。
- 1739 tane anakne  
タネ アナクネ  
今は  
今は
- 1740 shino uweramush-an  
シノ ウウエラムシ・アン  
まことに好ましく思いあう・我ら  
お互い好ましく思い
- 1741 uwekatarotke-an  
ウウエカタロトケ・アン  
仲がいい・我ら  
慈しみあい、
- 1742 nep ne yakka  
ネプ ネ ヤッカ  
何繋譲歩  
少しも
- 1743 a-eshina somoki no  
ア・エシナ ソモキ ノ  
我・秘密にするしない接続  
隠さずに
- 1744 a-ye chiki  
ア・イエ チキ  
我・言う条件  
話した。
- 1745 makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
少年は、ときには
- 1746 emina hau kan  
エミナ ハウ カン  
それを笑う声は  
声を立てて
- 1747 tununitara.  
トゥヌニタラ、  
美しい音が響く  
笑った。
- 1748 Makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
ときには
- 1749 orhemkusu  
オロヘムクス  
いったいどうして  
どうした
- 1750 okai nankora.  
オカイ ナンコラ、  
あるだろうか  
わけなのだろうか、
- 1751 Tu okne ibor  
トゥ オクネ イボロ  
二つの悲しむ顔色  
二つの悲しみの色、
- 1752 re okne ibor  
レ オクネ イボロ  
三つの悲しむ顔色  
三つの悲しみの色を
- 1753 enuratki.  
エヌラトキレ、  
顔に浮かべる  
顔を浮かべた。
- 1754 Makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
ときには
- 1755 irushka ibor  
イルシカ イボロ  
怒る顔色  
怒りの色が
- 1756 eibottumu-  
エイボトトウム、  
顔色  
表情に
- 1757 koniunatarata.  
コノウナタラ、  
こわばらせている  
浮かんだ。
- 1758 Makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
ときには
- 1759 shisembirunno  
シセムビルンノ  
己の後ろへ  
後ろを
- 1760 shikirba ko  
シキリバ コ  
振り向く条件  
向いて
- 1761 rauki mina  
ラウキ ミナ  
密かな笑う  
密かな笑い
- 1762 rauki sapse  
ラウキ サッセ  
密かな笑う  
密かな嘲りを
- 1763 uwesuiba shiri  
ウウエスイバ シリ  
揺する様子  
顔に浮かべているのが
- 1764 urar tum un  
ウララ トウム ウン  
霧中方向  
もやの中に
- 1765 a-wennukar.  
ア・ウエヌカラ、  
我・チラリと見る  
チラリと見えた。
- 1766 Nekon ne yakka  
ネコン ネ ヤッカ  
どのように繋譲歩  
どうあろうとも
- 1767 moshma kuru  
モシマ クル  
ほか人  
別の男と
- 1768 kor kushne p  
コロ クシネ プ  
持つ必然・意志もの  
結婚するはずの女と
- 1769 turanno  
トゥランノ  
ともに  
ともに
- 1770 tap korachi  
タップ コラチ  
これように  
このような
- 1771 ouse shit ta  
オウセ シト タ  
ただ(だけ)場所場所  
家のない空き地に
- 1772 ouse tumbish ne  
オウセ トウムビシ ネ  
ただ(だけ)二人繋  
ただ二人だけになって、
- 1773 uweminaushi-an shiri (p. 515)  
ウウエミナウシ・アン シリ  
微笑みあう・我ら様子  
笑みを交わすというのは
- 1774 sonno wemburi ne  
ソンノ ウエムプリ ネ  
真に悪い振る舞い繋  
良くないことだ、
- 1775 ari yainu katu  
アリ ヤイヌ カトウ  
引用考える様子  
と思っているに
- 1776 a-eraman.  
ア・エラマン、  
我・知る  
違うない。

## 2.5 シヌタブカの娘の誘惑

- 1777 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ根拠  
そこで、
- 1778 a-omaoma  
ア・オマオマ  
我・なだめる  
わたしは若者の気を
- 1779 tu mina itak  
トゥ ミナ イタク  
二つの笑う言葉  
浮き立たせるために
- 1780 re mina itak  
レ ミナ イタク  
三つの笑う言葉  
たくさんの愉快的な

- 1781 a-etasare kane  
ア・エタサレ カネ  
我ら・交わす 同時  
話をしながら
- 1782 ibe-an.  
イベ・アン.  
食事する・我  
食事をとった。
- 1783 Makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
若者は、ときには
- 1784 somo tashnu  
ソモ タシヌ  
否定 話す  
何も話さず、
- 1785 makanneko  
マカンネコ  
あるときには  
ときには
- 1786 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
口をきいた。
- 1787 itak-an hawe  
イタク・アン ハウエ  
言う・我 声  
わたしは
- 1788 ene okai i  
エネ オカイ  
このようにある 形名  
こう言った。
- 1789 “Ene he tap ne kusu  
“エネ ヘ タップ ネ クス  
このように疑問 これ 繋 根拠  
「こんなことでは
- 1790 yairamkoiki-an humi  
ヤイラムコイキ・アン フミ  
己の気持ちをさいなむ・我 気配  
心苦しくて
- 1791 okai rok.  
オカイ ロク.  
ある 完了  
たまりません。
- 1792 Kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神のような人よ、
- 1793 tap korachi  
タップ コラチ  
これように  
わたしたちは、このように
- 1794 ouse shit ta  
オウセ シット  
ただ(だけ) 土地 場所  
家もない土地で
- 1795 ukoekari-an.  
ウゴエカリ・アン.  
出会う・我ら  
出会いました。
- 1796 Orowa shiri beker ko  
オロワ シリ ベケル コ  
始点 様子 明るい 条件  
夜が明けたら
- 1797 uwehopba-an  
ウエホッパ・アン  
別れる・我ら  
お別れしますが、
- 1798 imakaketa  
イマカケタ  
その後  
この後、
- 1799 sui hembara  
スイ ヘムバラ  
再び いつ  
またいつ
- 1800 unukar kunip  
ウヌカラ クニップ  
会见 すべきもの  
会える
- 1801 a-ne ya  
ア・ネ ヤ  
我・繋 疑問  
ものやら
- 1802 a-erambetek.  
ア・エラムベテク.  
人々・知らない  
分かりません。
- 1803 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 1804 tan tewano  
タン テワノ  
このこれから  
神のような人よ、
- 1805 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
これから
- 1806 a-unihi un  
ア・ウニヒ ウン  
我・住む所 方向  
わたしの家に
- 1807 i-tura wa i-kore  
イ・トゥラ ワ イ・コレ  
我・連れる 接続 我・与える  
ついて来て
- 1808 kunak ramu yan.  
クナク ラム ヤン.  
引用 思う 命令  
ください。
- 1809 Ouse shinep  
オウセ シネップ  
ただ(だけ) 一つ  
わたしはただ一人
- 1810 a-ne wa  
ア・ネ ワ  
我・繋 接続  
で、
- 1811 batek an-an.  
バテック アナン.  
のみ いる・我  
一人っきりでいます。
- 1812 Nepka a-koshikibip  
ネッカ ア・コシキビップ  
何か 我・気遣う  
なんの気遣いも
- 1813 be ka isam.  
ベ カ イサム.  
ものもない  
いりません。
- 1814 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 1815 tutko rerko  
トゥトコ レレコ  
二日 三日  
二、三日
- 1816 somo ek ruwe ne.  
ソモ エック ルウェ ネ.  
否定 来る 跡 繋  
戻りません。
- 1817 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
だから
- 1818 oainusakno  
オアイヌサクノ  
誰もいなく  
人目を
- 1819 samashiksakno (p. 516)  
サマシックスノ  
人目もなく  
気にせずに
- 1820 chibaroshke  
チバロシケ  
養い  
あなたの
- 1821 e-ekarkar-an rusui.  
エ・エカラカラ・アン ルスイ.  
汝・する・我 したい  
お世話をしたい。
- 1822 Tutko bakno  
トゥトコ バクノ  
二日 まで  
二日ほど
- 1823 ukoreushi-an rusui.”  
ウコレウシ・アン ルスイ.”  
一緒に泊まる・我ら したい  
いっしょに夜を明かしたい。]
- 1824 ari itak-an chiki  
アリ イタク・アン チキ  
引用 言う・我 条件  
と言うと、
- 1825 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神のような人は、
- 1826 hakma hakma kane  
ハクマ ハクマ カネ  
ひそひそと話す ひそひそと話す 同時  
声をひそめて
- 1827 ene itak i  
エネ イタキ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 1828 “Sonno yairaike-an hawe ne.  
“ソノン ヤイライケ・アン ハウエ ネ.  
真に 感謝する・我 声 繋  
「まことにありがたい言葉です。
- 1829 Sonno neeno ikichi-an  
ソノン ネエノ イキチ・アン  
真に 繋 する・我  
まったくこんなことは
- 1830 eashkai be.  
エアシカイ ベ.  
できる もの  
続けられるものではない。
- 1831 Ne wa ne yakne  
ネ ワ ネ ヤクネ  
繋 接続 繋 条件  
そういうことなら
- 1832 boronno a-chibachiba  
ボロンノ ア・チバチバ  
たくさん 我・望む  
わたしもそうしたい
- 1833 hawash ne koroka  
ハワシ ネ コロカ  
言われる 繋 逆接  
と言いたいところですが、

- 1834 hushkotoiwano  
フシコトイワノ  
ずっと  
昔から
- 1835 kamui or bakno  
カムイ オロ バクノ  
神 所 まで  
神のもとまで
- 1836 asuru ash  
アスル アシ  
嘘 立つ  
聞こえた
- 1837 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
宮居の
- 1838 upsoro ta  
ウァソロ タ  
内部 場所  
中での
- 1839 neino okai  
ネノ オカイ  
繫 ある  
このような
- 1840 nuina buri  
ヌイナ ブリ  
隠す 行い  
隠し事は
- 1841 nekona wenkuru  
ネコナ ウェンクル  
どのように 貧乏人  
いかに卑しい身で
- 1842 a-ne a yakka  
ア・ネ ア ヤッカ  
我・繫 完了 譲歩  
あっても
- 1843 sonno a-eikap ruwe ne.  
ソンノ ア・エアイカプ ルウェ ネ.  
真に 我・できない 跡 繫  
われにはとてもできません。
- 1844 Moire tunash  
モイレ トゥナシ  
遅い 素早い  
遅かれ早かれ
- 1845 a-i-kobashte.  
ア・イ・コバシテ.  
我・追いかけられる  
われらは追われる身となる。
- 1846 Ko anakne sonno  
コ アナクネ ソンノ  
条件 は 真に  
追われたら
- 1847 Iyochiunkuru newa  
イヨチウンクル ネワ  
イヨチ彦 と  
イヨチ彦と
- 1848 e-kor unarbe  
エ・コロ ウナラバ  
汝・持つ 叔母  
あなたの叔母が
- 1849 a-shitoma ruwe ne.”  
ア・シトマ ルウェ ネ.”  
我・恐ろしい 跡 繫  
恐ろしい。」
- 1850 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
と若者は言った。
- 1851 “Ohainekane ari hemem  
“オハイネカネ アリ ヘメモ  
なるほど 引用 も  
「もつともと
- 1852 yainu-an koroka  
ヤイヌ・アン コロカ  
考える・我 逆接  
思いますが、
- 1853 tun a-ne wa  
トゥン ア・ネワ  
二人 我・繫 接続  
わたしたち二人で
- 1854 ne i ta bakno  
ネ イ タ バクノ  
繫 形名 場所 まで  
いつまでも
- 1855 ne wa ne yakka  
ネワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
たとえいつまでも
- 1856 somo a-ye yakun  
ソモ ア・イエ ヤクン  
否定 我・言う 条件  
何も言わなければ、
- 1857 tapne haweokai-an katu  
タプネ ハウエオカイ・アン カトゥ  
これである 我・言う 様子  
このように話していることも
- 1858 nenka erametek nankor.”  
ネンカ エラムベテク ナンコロ.”  
誰か 知らない だろう  
誰に気づかれることも
- 1859 ari itak-an chiki  
アリ イタク・アン チキ  
引用 言う・我 条件  
ないでしょう。」とわたしが言うと、
- 1860 “Yakun irukai (p. 517)  
“ヤクン イルカイ  
条件 しばらくの間  
若者は「それなら、しばらく
- 1861 teta utura hotke-an  
テタ ウトゥラ ホトケ・アン  
ここで いっしょに 寝る・我  
ここで二人で寝て
- 1862 kusu ne.” ari  
クス ネ.” アリ  
根拠 繫 引用  
いよう。」と
- 1863 itak koro.  
イタク コロ.  
言う 同時  
言って、
- 1864 shino shiri hutne p  
シノ シリ フトネ プ  
まことに 様子 狭い もの  
とても
- 1865 ne kusu  
ネ クス  
繫 根拠  
狭いので
- 1866 i-sambeka  
イ・サムベカ  
我・傍ら  
わたしの傍らに
- 1867 chiotanne-  
チオタンネ・  
長く  
体を
- 1868 turba kane  
トゥルバ カネ  
伸ばす 音調  
伸ばした。
- 1869 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
今はもう
- 1870 kamui ne  
カムイ ネ  
神 繫  
神のような<sup>\*36</sup>
- 1871 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 あるもの  
神のような人の
- 1872 pirika kamkashike  
ピリカ カムカシケ  
よい 肉の上  
美しい体に
- 1873 a-kotuk hawe ne kuni  
ア・コトゥク ハウエ ネ クニ  
我・くつつく 声 繫 必然  
くつつくことができる
- 1874 a-ramu kusu  
ア・ラム クス  
我・思う 根拠  
思い、
- 1875 sonno ramoshi wano  
ソンノ ラモシ ワノ  
真に 心の底 から  
心の底から
- 1876 binuramta  
ビヌラムタ  
密かに  
密かに
- 1877 a-eyaikobuntek awa  
ア・エヤイコブンテク アワ  
我・喜ぶ 展開  
喝采をあげた。
- 1878 shisam beka  
シサム ベカ  
己の側 で  
若者が自らのそばに
- 1879 i-turi kane  
イ・トゥリ カネ  
我・伸ばす 同時  
わたしを横たえると
- 1880 kamui hura  
カムイ フラ  
神 匂い  
神の匂い、
- 1881 rametok hura  
ラメトク フラ  
勇者 匂い  
勇者の匂いが
- 1882 rui rera ne  
ルイ レラ ネ  
激しい 風 繫  
強い風となって
- 1883 i-emaknakur-  
イ・エマクナクル・  
我・奥  
わたしを後ずさり
- 1884 raiba kane  
ライバ カネ  
移動させる 同時  
させるようだった。

\*36 この句は不要。

- 1885 orowano  
オロワノ  
始点  
それから、
- 1886 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦を
- 1887 a-emina  
ア・エミナ  
我・笑う  
わたしが
- 1888 a-esapse chiki  
ア・エサツセ チキ  
我・嘲笑う 条件  
あざ笑うと、
- 1889 ouse emina kane  
オウセ エミナ カネ  
ただ(だけ) それを笑う 同時  
若者はただただ笑いながら
- 1890 “Iyochi un utar hene  
“イヨチ ウン ウタラ ヘネ  
地名 ある人々も  
「イヨチ彦たちも
- 1891 eani hene  
エアニ ヘネ  
汝 も  
あなたも
- 1892 mashkino  
マシキノ  
あまりに  
それほど
- 1893 anun somo ne.  
アヌン ソモ ネ  
よその 否定 繫  
他人ではない。
- 1894 Shinrichi a-ye ko anakne  
シンリチ ア・イエ コ アナクネ  
先祖 我・言う 条件  
その素性を言うなら
- 1895 shine utar a-ne yak a-ye.  
シネ ウタラ ア・ネ ヤク ア・イエ.  
一つの人々 我・繫 と 我・言う  
われわれは同族だそうだ。
- 1896 Inu-an ko  
イヌ・アン コ  
聞く・我 条件  
聞くところによれば
- 1897 Iyochi un utar  
イヨチ ウン ウタラ  
地名 ある人々  
イヨチ彦らは
- 1898 kamui sashi  
カムイ サシ  
神 子孫  
神の子孫に
- 1899 eebaki<sup>\*37</sup> ne yak  
エエバキ ネ ヤク  
次 繫 条件  
続く者と
- 1900 a-ye rok be  
ア・イエ ロク ベ  
我・言う 完了もの  
言われているが、
- 1901 nep kusu  
ネッ クス  
何 根拠  
どうして、どうして
- 1902 ene mashkino  
エネ マシキノ  
このように あまりに  
あまりにも
- 1903 katchak kashba (p. 518)  
カトチャク カシバ  
臆病な 甚だしい  
臆病すぎる
- 1904 hawe okai i ta an.  
ハウエ オカイ イ タ アン.  
声 ある 形名 これ ある  
というのではないか。
- 1905 Ohaine kane  
オハイン カネ  
なるほど 音調  
なるほど
- 1906 ene okai be  
エネ オカイ ベ  
このように ある もの  
あんな奴らが
- 1907 base kamui ewaki<sup>\*38</sup>  
バセ カムイ エワキ  
重い 神 住まい  
尊い宮居を
- 1908 ruwokake  
ルウオカケ  
跡  
受け継ぎ
- 1909 turi eashkai  
トゥリ エアシカイ  
伸ばす できる  
残すことが
- 1910 kunip he an.”  
クニッ ヘ アン.”  
すべきもの 疑問 ある  
できようか。」
- 1911 ari itak kane  
アリ イタク カネ  
引用 言う 同時  
と言って、さらに
- 1912 “Shiyoro shukup hekachi  
“シヨロ シュクupp ヘカチ  
驚く 成長する 子供  
「臆病な<sup>\*39</sup> 幼いこども、
- 1913 katchak kunip  
カトチャク クニッ  
臆病な すべきもの  
意気地のない
- 1914 a-ne manu kusu  
ア・ネ マヌ クス  
我・繫 という 根拠  
われとのことだから、
- 1915 kamui pon katkemat  
カムイ ボン カトケマト  
神 小さい 婦人  
神の子孫の娘と
- 1916 ouse usamehotke batek  
オウセ ウサメホトケ バテク  
ただ(だけ) 並んで寝る のみ  
添い寝することさえ
- 1917 a-ki p he an.  
ア・キ ッ ヘ アン.  
我・するもの 疑問 ある  
できましようか。
- 1918 Ouse tapshut boka  
オウセ タプシュト ボカ  
ただ(だけ) 肩 だけ  
ただ肩だけに
- 1919 a-utumamte.”  
ア・ウトウマムテ.”  
我・添い寝させる  
添い寝させましよう。」
- 1920 ari itak kane  
アリ イタク カネ  
引用 言う 同時  
と言って
- 1921 oatteke  
オアトアケ  
片手  
片手を
- 1922 oashinke wa  
オアシンケ ワ  
出す 接続  
出して
- 1923 a-tapshutu  
ア・タプシュトゥ  
我・肩  
わたしの肩を
- 1924 kotuk kane  
コトウク カネ  
くつつく 同時  
つかんで
- 1925 turba chiki  
トゥルバ チキ  
伸ばす 条件  
引き離れた。
- 1926 shino a-eyairamboken.  
シノ ア・エヤイラムボケン.  
まことに 我・残念に思う  
とても残念だった。
- 1927 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 1928 aokai ne yakka  
アオカイ ネ ヤッカ  
我 繫 譲歩  
わたしも
- 1929 shukup menoko  
シュクupp メノコ  
成長する 女  
女盛りの
- 1930 shukup matkachi  
シュクupp マトカチ  
成長する 少女  
娘
- 1931 a-ne awa  
ア・ネ アワ  
我・繫 展開  
なのに、
- 1932 shukup tuika ta  
シュクupp トウイカ タ  
成長する 上 場所  
娘となるまで

\*37 原綴りは eebake。

\*38 原綴りは ewake。

\*39 shiyor patek — kira patek — aki aine 「驚きてのみ・逃げてのみ・われ居り居り」(ユ研 p.) を参照して解釈した。

- 1933 tapne a-ramu  
タッネ ア・ラム  
これである 我・思う  
これほど思った
- 1934 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 あるもの  
神のような人を
- 1935 moteki  
モチキ  
いい塩梅に  
いい具合に
- 1936 oainusakno  
オアイヌサクノ  
誰もいなく  
人目も
- 1937 samashiksakno  
サマシックスノ  
人目もなく  
なく
- 1938 tap korachi  
タッ コラチ  
これのように  
このように
- 1939 a-nukar wa  
ア・ヌカラ ワ  
我・見る 接続  
会えて
- 1940 ramoshi wano  
ラモシ ワノ  
心の底 から  
心の底で
- 1941 ene ene  
エネ エネ  
このように このように  
思っている
- 1942 yainu-an katu  
ヤイヌ・アン カトゥ  
考える・我 様子  
ことを
- 1943 a-ye yakka  
ア・イエ ヤッカ  
我・言う 譲歩  
口にすると、
- 1944 sonno he tap ne  
ソンノ ヘ タッ ネ  
真に 疑問 これ 繫  
まったく
- 1945 Pon Ishkarunkuru  
ボン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
小イシカリ彦、
- 1946 ene an kamui  
エネ アン カムイ  
このようにある 神  
神のような人に
- 1947 rametok kon ruwe  
ラメトク コン ルウエ  
勇者 持つ 跡  
度胸の備わっていることは
- 1948 kashike wano  
カシケ ワノ  
上 から  
見ただけで
- 1949 a-koeraman (p. 519)  
ア・コエラマン  
我・知る  
分かる
- 1950 ruwe okai ko  
ルウエ オカイ コ  
跡 ある 条件  
のに、
- 1951 ormashkino  
オロマシキノ  
あまりにも  
あまりにも
- 1952 Iyochi pon a-wenyubi  
イヨチ ポン ア・ウエンユビ  
地名 小さい 我・悪い兄  
イヨチの憎いちい兄さん (小イヨチ彦) の
- 1953 wen katchakbe  
ウエン カトチャクベ  
悪い 臆病者  
臆病者を
- 1954 shitoma kasui kusu  
シトマ カスイ クス  
恐れる 甚だしい 根拠  
ことさらに恐れ、
- 1955 ouse tapshut  
オウセ タプシュト  
ただ (だけ) 肩  
肩を触れあわすことだけを
- 1956 a-utumamtere shiri  
ア・ウトゥマムテレ シリ  
我・添い寝させることをさせる 様子  
若者にさせる
- 1957 kone p ta<sup>\*40</sup> am be ta an.  
コネ ヲ タ アム ベ タ アン.  
繫 もの 場所 あるもの これある  
とは。
- 1958 Shino yayeramboken-an  
シノ ヤイエラムボケン・アン  
まことに 己を憐れむ・我  
ほんとうに情け
- 1959 ruwe ne.” ari  
ルウエ ネ.” アリ  
跡 繫 引用  
ない。」と
- 1960 itak-an awa  
イタク・アン アワ  
言う・我 展開  
言う
- 1961 seenne kasui  
セエンネ カスイ  
否定 甚だしい  
まったく
- 1962 shiriki kuni  
シリキ クニ  
見える 必然  
こうなるとは
- 1963 a-ramu rok i  
ア・ラム ロキ  
我・思う 完了 形名  
思いもしなかったが、
- 1964 kamui ne okai be  
カムイ ネ オカイ ベ  
神 繫 あるもの  
神のような人は
- 1965 ibor kor ruwe  
イボロ コロ ルウエ  
顔色 持つ 跡  
美しい
- 1966 pirika rok be  
ピリカ ロク ベ  
よい 完了 もの  
顔だちだったのに
- 1967 kor wemburi  
コロ ウェムブリ  
持つ 悪い振る舞い  
持ち前の激しい気性を
- 1968 enantuikashi-  
エナントウイカシ・  
顔の上  
顔に
- 1969 chibarsere  
チバラスレ  
広がる  
燃え立たせ、
- 1970 “Achikarata.  
“アチカラタ.  
イヤッ!  
「ああ不潔だ。
- 1971 Ayakannata.  
アヤカンナタ.  
ろくでもないことだ  
いまいましい。
- 1972 Shirum menoko.  
シルム メノコ.  
汚い 女  
小汚い女だ。
- 1973 Wem menoko matkachi.  
ウェム メノコ マトカチ.  
悪い 女 少女  
けがわらしい小娘め。
- 1974 Boro menoko  
ボロ メノコ  
大きい 女  
成熟した女、
- 1975 boro okai wa namne.  
ボロ オカイ ワ ナムネ.  
大きい ある 接続 強調  
成熟しこそすれ、かくあらばあれ。
- 1976 A-ye rok okai  
ア・イエ ロク オカイ  
我・言う 完了 ある  
(小娘のくせに) いわゆる
- 1977 ochiu shinnaisam  
オチウ シンナイサム  
姦通 妖怪  
淫乱の化け物、
- 1978 kinin shinnaisam  
キニン シンナイサム  
淫乱 妖怪  
色さちがいの魔物に
- 1979 eyaitushtekka p  
エヤイトウシテッカ ヲ  
沈黙する もの  
とり憑かれた者、
- 1980 chikosomokur-  
チコンモクル・  
否定  
はばかりということ
- 1981 yaikatanu.  
ヤイカタン.  
畏れはばかる  
知らない。
- 1982 Aokai ka tap ne  
アオカイ カ タッ ネ  
我 も これ 繫  
われでさえ
- 1983 naa naa  
ナア ナア  
まだ まだ  
まだまだ

\*40 原綴りは konepra.

- 1984 yepnu upsorka  
イエヌ ムソロカ  
無垢な 貞操  
純潔な貞操、
- 1985 base upsorka  
バセ ムソロカ  
重い 貞操  
堅いみさおによって、
- 1986 eyaiupsoro-  
エヤイウソロ・  
己のふところ  
おのれの肌を
- 1987 borore kunip  
ボロレ クニフ  
大きくする すべきもの  
無垢に保って
- 1988 a-ne awa.  
ア・ネ アワ。  
我・繫 展開  
いるのに。
- 1989 Ochiu barkoat be  
オチウ バコアト ベ  
姦通 罰 もの  
淫乱の罰当たり、
- 1990 kinin barkoat be.  
キニン バコアト ベ。  
淫乱 罰 もの  
淫欲の罰当たり。
- 1991 ochiu etushtek (p. 520)  
オチウ エトウシテク  
姦通 夢中になって黙る  
淫らごとにふけり、
- 1992 kinin etushtek  
キニン エトウシテク  
淫乱 夢中になって黙る  
淫らごとに憑りつかれる、
- 1993 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
その中でも
- 1994 orsaureko  
オロサウレコ  
とんでもなく  
もつとも由々しいことを
- 1995 kiba hawe  
キバ ハウエ  
する 声  
する
- 1996 okai be ne ya.  
オカイ ベ ネ ヤ。  
ある もの 繫 疑問  
者ではないか。
- 1997 Kashikobakta  
カシコバクタ  
その上に  
そのうえさらに
- 1998 a-ki rusui wa  
ア・キ ルスイ ワ  
我・する したい 接続  
おまえが望んで
- 1999 a-ki p he tap ne  
ア・キ フ ヘ タフ ネ  
我・する もの 疑問 これ 繫  
することといたら、\*41
- 2000 ibokash ne  
イボカシ ネ  
容貌が醜い 繫  
みずからを卑しめ
- 2001 yayeshiniukesh  
ヤイエシニウケシ  
己の糞にまみれ苦しむ  
糞まみれになる
- 2002 ne wa kusu.  
ネ ワ クス。  
繫 接続 根拠  
ことばかりだ。
- 2003 Neitabakno ne yakka  
ネタバクノ ネ ヤッカ  
いつまでも 繫 譲歩  
いつまでも
- 2004 chisembiroitak  
チセムビロイタク  
陰口  
陰口の
- 2005 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
中でも
- 2006 orsaureko  
オロサウレコ  
とんでもなく  
もつとも厳しい
- 2007 i-y-ekarkar hawe  
イ・イエカカラ ハウエ  
我・する 声  
非難を
- 2008 okai be ne ya.  
オカイ ベ ネ ヤ。  
ある もの 繫 疑問  
受けるだろう。
- 2009 Sonno he tap ne  
ソンノ ヘ タフ ネ  
真に 疑問 これ 繫  
まこと
- 2010 kamui sashi ne p  
カムイ サシ ネ フ  
神 子孫 繫 もの  
おまえは神の子孫で
- 2011 bashtakuru somo ne.  
バシタクフル ソモ ネ。  
低い身分の者 否定 繫  
卑しい身分のものではない。
- 2012 Base  
バセ  
重い  
尊い
- 2013 shino kamui katkemat  
シノ カムイ カトケマト  
まことに 神 婦人  
まことの淑女
- 2014 iramashureno  
イラマシュレノ  
好ましく  
こころよく
- 2015 uitaknu wa  
ウイタクヌ ワ  
言うことを聞く 接続  
人の話に耳を傾け
- 2016 kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
神の住いを
- 2017 shikkashima  
シッカシマ  
見守る  
守れる
- 2018 eashkai shiri.  
エアシカイ シリ。  
できる 様子  
はずなのに。
- 2019 Sonno wen seta  
ソンノ ウエン セタ  
真に 悪い 犬  
たちの悪い犬、
- 2020 nitne kamui korachi  
ニトネ カムイ コラチ  
悪い 神 ように  
魔物のように
- 2021 osoreterke  
オソレテレケ  
尻で飛ぶ  
尻で跳ね回る
- 2022 wen bauchikorbe  
ウエン バウチコロベ  
悪い 罰当たり  
すさまじい罰当たりで
- 2023 ne rokokai.  
ネ ロコカイ。  
繫 判明  
あったとは。
- 2024 E-shikup shiri  
エ・シクフ シリ  
汝・成長する 様子  
おまえの生い立ちなど
- 2025 konennamora  
コネンナモラ  
誰が(反語)  
知らない者が
- 2026 erambetek ya.  
エラムベテク ヤ。  
知らない 疑問  
いるだろうか。
- 2027 Ureasamne e-i-kar  
ウレアサムネ エ・イ・カラ  
足裏で 汝・我・為す  
足裏で踏みつけ
- 2028 chikemeninu  
チケメニヌ  
針で刺す  
針で刺し、
- 2029 shu asam ne  
シュ アサム ネ  
鍋 底 繫  
鍋の底に
- 2030 e-i-enina  
エ・イ・エニナ  
汝・我・こねる  
グジャグジャにこねまわし、
- 2031 e-i-yeotke.  
エ・イ・イエオトケ。  
汝・我・搗く  
搗き碎いたものだ。
- 2032 Nep e-kar yakka  
ネフ エ・カラ ヤッカ  
何 汝・する 譲歩  
なにをするにしても
- 2033 a-sermakkashi  
ア・セレマッカシ  
我・背後  
わが守り神を
- 2034 e-uraurakka shiri. (p. 521)  
エ・ウラウラッカ シリ。  
汝・そしる 様子  
犯すとは。

\*41 この行の a- を e- と読み替えて解釈する。

- 2035 Tambe katkemat buri  
タムベ カトケマト プリ  
これ 婦人 行い  
それが淑女の習わしだと
- 2036 ne ruwe he an.  
ネ ルウェ ヘ アン.  
繫 跡 疑問 ある  
いうのだろうか。
- 2037 Nekona hene  
ネコナ ヘネ  
どのようにも  
どうしても
- 2038 oasur ta  
オアスル タ  
噂 場所  
噂の端にも
- 2039 kokishnu kunip  
コキシヌ クニプ  
静まる すべきもの  
のぼらない
- 2040 wen ibokash be  
ウェン イボカシ ベ  
悪い 容貌が醜いもの  
卑しく醜い
- 2041 a-ne apkusu  
ア・ネ アックス  
我・繫 としても  
われではあるが、
- 2042 tapne am buri  
タップネ アム プリ  
これである ある 行い  
おまえがそんなことを
- 2043 e-ki ko  
エ・キ コ  
汝・する 条件  
するなら、
- 2044 kamui ramu  
カムイ ラム  
神 思う  
さぞ神の
- 2045 oshma wa  
オシマ ワ  
ぶつかる 接続  
心になんて、
- 2046 neitabakno  
ネタバッコ  
いつまでも  
いつまで
- 2047 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繫 譲歩  
でも
- 2048 e-emaupirika kuni  
エ・エマウコピリカ クニ  
汝・運がいい 必然  
幸運に
- 2049 e-ramu p he an.  
エ・ラム プ ヘ アン.  
汝・思うもの 疑問 ある  
恵まれるだろうよ。
- 2050 Ainu e-ne a chiki  
アイヌ エ・ネ ア チキ  
人間 汝・である 完了 条件  
おまえが人間なら
- 2051 kanna ruino  
カンナ ルイノ  
上 甚だしく  
なおいつそう
- 2052 pirikano  
ピリカノ  
良く  
よく
- 2053 yaikoshiramse wa  
ヤイコシラムセ ワ  
考える 接続  
考え、
- 2054 wembe pirikap  
ウェムベ ピリカプ  
悪いもの いいこと  
悪いことといいことの区別を
- 2055 e-eraman i ta  
エ・エラムニ タ  
汝・知る 形名 場所  
わきまえたとき、
- 2056 nekona tap ne  
ネコナ タップ ネ  
どのように これ 繫  
どう
- 2057 e-yainu nankora.  
エ・ヤイヌ ナンコラ.  
汝・考える だろうか  
考えるのか。
- 2058 Ne i ta  
ネ イ タ  
繫 形名 場所  
ここで
- 2059 ponno hene  
ボンノ ヘネ  
少し も  
少しは
- 2060 e-yayokunure  
エ・ヤヨクヌレ  
汝・反省する  
反省し
- 2061 somoki ko anakne  
ソモキ コ アナクネ  
しない 条件 は  
なかったら、
- 2062 annitnekamui  
アンニトネカムイ  
全くの魔物  
おまえはまったくの魔物に
- 2063 e-ne nankor na.  
エ・ネ ナンコロ ナ.  
汝・である だろう (訴え)  
なってしまうだろう。
- 2064 Pon Ishkarunkuru  
ボン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
小イシカリ彦は、
- 2065 sonno pirika  
ソンノ ピリカ  
真に よい  
実に良い
- 2066 shisak rametok ne kusu  
シサク ラメトク ネ クス  
またとない 勇者 繫 根拠  
たぐいまれな勇士であるから
- 2067 sambe renkaine  
サムベ レンカイネ  
心臓 意志に従う  
心のまにまに
- 2068 chioshikote  
チオシコテ  
恋慕  
惚れて
- 2069 e-ekarkar i  
エ・エカラカラ イ  
汝・する 形名  
しまうことは
- 2070 wen ka somoki.  
ウェン カ ソモキ.  
悪い も しない  
悪いことではない。
- 2071 Wembe a-ne kusu  
ウェムベ ア・ネ クス  
悪いもの 我・繫 根拠  
われは恵み薄いものであるから、
- 2072 chiyaibokashte  
チヤイボカシテ  
自らを貶める  
おまえがわれを
- 2073 e-i-y-ekarkar i  
エ・イ・イエカラカラ イ  
汝・我・する 形名  
馬鹿にするのは
- 2074 ene a-kar i ka isam.  
エネ ア・カラ イ カ イサム.  
このように 我・する 形名 も ない  
致し方ない。
- 2075 Kashikobakta  
カシコバクタ  
その上に  
その上さらに
- 2076 neitabakno  
ネタバッコ  
いつまでも  
いつも
- 2077 ne yakka (p. 522)  
ネ ヤッカ  
繫 譲歩  
いつも
- 2078 chisembiroitak  
チセムピロイタク  
陰口  
胸の内
- 2079 e-i-y-kar  
エ・イ・イ・カラ  
汝・我・作る  
われをそしり
- 2080 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
非難するとは
- 2081 tambe ne ya.  
タムベ ネ ヤ.  
これ 繫 疑問  
どういわけだ。
- 2082 Shiknu ihoma p  
シクヌ イホマ プ  
生きている 恐れるもの  
生きることを恐れ、
- 2083 tusa ihoma p  
トゥサ イホマ プ  
袖 恐れるもの  
生き返るのを恐れる者が
- 2084 katkoro have  
カトコロ ハウエ  
振舞う 声  
すること
- 2085 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
では
- 2086 tambe ne ya.”  
タムベ ネ ヤ.”  
これ 繫 疑問  
ないか。」
- 2087 ari itak kane  
アリ イタク カネ  
引用 言う 同時  
と言って

- 2088 matke humi  
マトケ フミ  
起き上がる音  
パッと
- 2089 shiukosamba.  
シウコサムバ、  
一瞬シユウと音する  
立ち上がると
- 2090 A-bake ush be  
ア・バケ ウシ ベ  
我・頭 あるもの  
わたしの髪を
- 2091 tekkonoiba  
テッコノイバ  
手に絡ませる  
手に絡ませて
- 2092 orowano soi ta terke  
オロワノ ソイ タ テレケ  
始点 家の外 場所 跳ねる  
わたしを引きずって外に出ると
- 2093 rupne samauni  
ルッネ サマウニ  
大きい 倒木  
太い倒れ木、
- 2094 nokan samauni  
ノカン サマウニ  
小さい 倒木  
細い倒れ木を棒に
- 2095 i-ekikkik humi  
イ・エキキキ フミ  
我・叩く 音  
わたしをボコボコに
- 2096 rimnatara.  
リムナタラ、  
ドスンと響く  
打ちすえた。
- 2097 Kon ram konna  
コン ラム コンナ  
持つ 心 は  
若者の心は
- 2098 yaunatarara.  
ヤウナタラ、  
怒る  
怒りに満ちていた。
- 2099 Ramkobashtep  
ラムコバシテッ  
宝刀  
若者は意のままにさばしる刀の
- 2100 osautekka  
オサウテッカ  
鞘を払う  
鞘をはらい、
- 2101 i-rauneyasa  
イ・ラウネヤサ  
我・深く裂く  
わたしの体を深く裂き、
- 2102 i-kashreyasa  
イ・カシレヤサ  
我・浅く裂く  
浅く裂き、
- 2103 i-rauneotke  
イ・ラウネオトケ  
我・深く刺す  
深く刺し、
- 2104 i-kashreotke.  
イ・カシレオトケ、  
我・浅く刺す  
浅く裂いた。
- 2105 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ初めて
- 2106 arka kunip  
アラカ クニッ  
痛い すべきもの  
痛みということ
- 2107 a-yaiaimkire.  
ア・ヤイアムキレ、  
我・知る  
わたしは知った。
- 2108 A-birbake wa  
ア・ビリバケ ワ  
我・傷先 から  
傷口の端から
- 2109 a-birkese wa  
ア・ビリケセ ワ  
我・傷末 から  
端まで
- 2110 tat kararse  
タト カララセ  
権皮 くるくる回る  
権の皮が巻き込む
- 2111 ekannayukar.  
エカンナユカラ、  
ようである  
ように痛んだ。
- 2112 “Ayabo.” ari  
“アヤボ。” アリ  
感嘆 引用  
「ああ、痛い」と
- 2113 “Oyoyo.” ari  
“オヨヨ。” アリ  
感嘆 引用  
「ああ、辛い」と
- 2114 a-chishhau konna  
ア・チシハウ コンナ  
我・泣き声 は  
声をあげて
- 2115 tununitara.  
トゥヌニタラ、  
美しい音が響く  
わたしは泣いた。
- 2116 A-sarambekuchi  
ア・サラムベクチ  
我・絹の帯  
絹の帯は
- 2117 a-i-kotuitekka  
ア・イ・コトウイテッカ  
我・ブツと切られる  
ずばっと切られ、
- 2118 a-mi chikirbe  
ア・ミ チキリベ  
我・着る 刺繍衣  
着ている晴れ着も
- 2119 a-i-kobetbetu  
ア・イ・コベトベトウ  
我・ずたずたに切られる  
ずたずたに切られ
- 2120 a-i-koyashba yashba.  
ア・イ・コヤシバ ヤシバ、  
我・裂かれる 裂ける  
ずたずたに裂かれた。
- 2121 Tan rikbeka  
タン リッベカ  
この 高く  
若者はわたしのむくろを
- 2122 a-raihurkabu  
ア・ライフルカブ  
我・死体  
高々と
- 2123 eyapkir kane  
エヤッキリ カネ  
投げる 同時  
放り投げて
- 2124 kurkashike (p. 523)  
クルカシケ  
上  
そうしながら
- 2125 itakomare hawe  
イタコマレ ハウエ  
言う 声  
言うこと
- 2126 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
には、
- 2127 “Shirum menoko  
“シルム メノコ  
汚い 女  
「げすな女め、
- 2128 wem menoko  
ウェム メノコ  
悪い 女  
悪い女め、
- 2129 ochiu eterke p  
オチウ エテレケ ヲ  
姦通 跳ね回るもの  
淫らごとに跳ね回る者、
- 2130 kinin eterke p  
キニン エテレケ ヲ  
淫乱 跳ね回るもの  
淫欲に衝き動かされる者、
- 2131 katkemat kashta  
カトケマト カシタ  
婦人 上で  
淑女の身の上で
- 2132 katkemat buri  
カトケマト ブリ  
婦人 行い  
淑女のふるまいが
- 2133 eashkai kusu  
エアシカイ クス  
できる 根拠  
できるから
- 2134 e-ki rusui kusu  
エ・キ ルスイ クス  
汝・する したい 根拠  
ほしいままに
- 2135 e-iki p  
エ・イキ ヲ  
汝・するもの  
ふるまい、
- 2136 e-haweam be.  
エ・ハウエム ベ、  
汝・言うもの  
話をして立派なものだ。
- 2137 Kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
であるもの 繫 根拠  
だから
- 2138 iramasureno  
イラマスレノ  
好ましく  
まあ、いい眺めだ、
- 2139 e-katu pirika  
エ・カトゥ ピリカ  
汝・姿 よい  
いい様
- 2140 ruwe okai.  
ルウェ オカイ、  
跡 ある  
だ。

- 2141 Nekona tapne  
ネコナ タツネ  
どのように これである  
どうしたって
- 2142 taan korachi  
タアン コラチ  
この ように  
おまえがこのように
- 2143 e-an wa  
エ・アン ワ  
汝・ある 接続  
している と
- 2144 Pon Ishkarunkuru  
ボン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
神のような
- 2145 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 ある もの  
たぐい まれな 勇士 である
- 2146 shisak rametok  
シサク ラメトク  
またとない 勇者  
小イシカリ彦が
- 2147 e-nukar chiki  
エ・ヌカラ チキ  
汝・見る 条件  
おまえを見たら
- 2148 erayap humi  
エラヤフ フミ  
感心する 気配  
驚く
- 2149 okai nankora.  
オカイ ナンコラ.  
ある だろうか  
だろう。
- 2150 Sonno tap eashiri  
ソンノ タフ エアシリ  
真に これ 強調  
そこで初めて
- 2151 sonno ukotom nanka  
ソンノ ウコトム ナンカ  
真に ふさわしい 顔面  
お似合いの
- 2152 ukotom shirika  
ウコトム シリカ  
ふさわしい 表面  
顔を並べた
- 2153 echi-ne ruwe ne.  
エチ・ネ ルウエ ネ.  
汝ら・である 跡 繋  
夫婦になるだろう。
- 2154 Pirikano uhekotba wa  
ピリカノ ウヘコトバ ワ  
良く 連れ添う 接続  
どうぞ、どうぞ結ばれて
- 2155 uwepirika yan.  
ウウエピリカ ヤン.  
幸せに暮らす 命令  
仲良くやってくれ。
- 2156 Aokai anakne  
アオカイ アナクネ  
我 は  
われは
- 2157 shinrit itak  
シンリト イタク  
出自 言う  
先祖から伝わる
- 2158 chihopba itak  
チホッパ イタク  
残される 言う  
遺言に
- 2159 ene okai ne kusu  
エネ オカイ ネ クス  
このように ある 繋 根拠  
したが、
- 2160 i-sembirkashi  
イ・セムビリカシ  
我・陰  
陰ながら
- 2161 eyaitursakka  
エヤイトウルサクカ  
清潔にする  
身を慎み、
- 2162 a-ki a koroka  
ア・キ ア コロカ  
我・する 完了 逆接  
純潔を保ってきたが、
- 2163 e-ki rusui wa (p. 524)  
エ・キ ルスイ ワ  
汝・する したい 接続  
おまえがしたくて
- 2164 e-ki p<sup>\*42</sup> he tap ne  
エ・キ ッ ヘ タフ ネ  
汝・する もの 疑問 これ 繋  
したことこそ
- 2165 ibokash ne wa  
イボカシ ネ ワ  
容貌が醜い 繋 接続  
愚かなことで、
- 2166 chiyabokashte  
チヤイボカシテ  
自らを貶める  
われに恥を
- 2167 e-i-y-ekarkar kusu  
エ・イ・イエカラカラ クス  
汝・我・する 根拠  
かかせたのだから、
- 2168 sonno ikoituiba koro  
ソンノ イコイトウイバ コロ  
真に ねたむ 同時  
羨ましいことだが、
- 2169 echi-uwepirika shiri  
エチ・ウウエピリカ シリ  
汝ら・仲良く暮らす 様子  
おまえたちの仲睦まじいところを
- 2170 a-nukar kusune na.”  
ア・ヌカラ クスネ ナ.”  
我・見る 意志 (訴え)  
見てみたいものだ。」
- 2171 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言った。
- 2172 eashka  
エアシカ  
願る  
とても
- 2173 sonno rai korachi  
ソンノ ライ コラチ  
真に 死ぬ ように  
同じ死
- 2174 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
でも
- 2175 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
わたしはちい兄さん (小イヨチ彦) に
- 2176 a-koyayababu wa  
ア・コヤヤバブ ワ  
我・詫びる 接続  
詫びたく
- 2177 kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上で
- 2178 a-shiotuyere  
ア・シオトウイエレ  
我・己を切らせる  
ちい兄さんに斬られ
- 2179 rusui kusu  
ルスイクス  
したい 根拠  
たいので
- 2180 etarkaiki  
エタラカイキ  
やみくもに  
やみくもに<sup>\*43</sup>
- 2181 hebuni-an wa  
ヘブニ・アン ワ  
顔を上げる・我 接続  
顔を上げて
- 2182 inkar-an ko  
インカラ・アン コ  
見る・我 条件  
見ると
- 2183 tane toikoshiribeker  
タネ トイコシリベケレ  
今 夜が明け放たれる  
すっかり夜は
- 2184 okere kane  
オケレ カネ  
完了 同時  
明けていて
- 2185 nea pon yapni  
ネア ボン ヤプニ  
繋 小さい うちあげられた木  
あの小さな流れ木の
- 2186 chise ka isam.  
チセ カ イサム.  
家 も ない  
家もなかった。
- 2187 Pon a-kor yubi ka  
ボン ア・コロ ユビ カ  
小さい 我・もつ 兄 も  
ちい兄さんも
- 2188 konepka isam.  
コネッカ イサム.  
何か ない  
何もなかった。
- 2189 Sanota ka ta  
サノタ カ タ  
砂浜 上 場所  
砂浜の上に
- 2190 chikemkonoiba-an kane  
チケムコノイバ・アン カネ  
血まみれになる・我 同時  
血まみれになって

\*42 原綴りは akip。これを ekip とみなして解釈する。

\*43 原綴りは etarka ike。この行の解釈は不確実。etarkaiki 「やみくもに行う」とみなす。

- 2191 an-an.  
アナン.  
いる・我  
いた。
- 2192 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 2193 yayikush keutum  
ヤイクシ ケウトウム  
悔しい 心  
恥ずかしい気持ちに
- 2194 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
かられた。
- 2195 A-chishhaukonna-  
ア・チシハウコンナ・  
我・泣く声  
わたしは声をあげて
- 2196 tununitara.  
トゥヌニタラ.  
美しい音が響く  
泣いた。
- 2197 Kurkashike  
クルカシケ  
上  
泣きながら
- 2198 a-itakomare hawe  
ア・イタコマレ ハウエ  
我・言う 声  
わたしは (いなくなったちい兄さんに)
- 2199 ene okai i.  
エネ オカイ.  
このように ある 形名  
こう言った。
- 2200 “Koninkarkusu  
“コンンカルクス  
(語り掛の合図)  
「もしもし、
- 2201 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
神のような
- 2202 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 あるもの  
ちい兄さんよ、
- 2203 a-ye boka  
ア・イエ ボカ  
我・言う だけ  
口を聞くのも
- 2204 eyashtoma p  
エヤシトマ プ  
恥じる もの  
恥ずかしいこと
- 2205 ne koroka  
ネ コロカ  
繫 逆接  
だが、
- 2206 tane rai-an etoko ta  
タネ ライ・アン エトコ タ  
今 死ぬ・我 前方 場所  
死ぬに先立ち
- 2207 yayababu itak (p. 525)  
ヤヤバブ イタク  
詫びを言う 言う  
お詫びのことばを
- 2208 shine itak boka  
シネ イタク ボカ  
一つの言う だけ  
一言だけでも
- 2209 a-ye rusui.  
ア・イエ ルスイ.  
我・言う したい  
申し上げたい。
- 2210 Ponno i-tere.  
ボンノ イ・テレ.  
少し 我・待つ  
今少し待ってください。
- 2211 Irukai i-tere wa  
イルカイ イ・テレ ワ  
しばらくの間 我・待つ 接続  
今しばらく待って
- 2212 i-kore.  
イ・コレ.  
我・与える  
ください。
- 2213 Konep kamuye  
コネプ カムイェ  
何 神  
何神を
- 2214 konep bito  
コネプ ビト  
何 人  
何人を
- 2215 a-shikatkare kusu  
ア・シカトカレ クス  
我・たぶらかす 根拠  
たぶらかそうと
- 2216 tap ne okai  
タップ ネ オカイ  
これ 繫 ある  
こんな
- 2217 wen bauchikor  
ウェン バウチコロ  
悪い 罰当たりなこと  
ひどい罰当たりのことを
- 2218 a-ki katu.  
ア・キ カトゥ.  
我・する 様子  
してしまいました。
- 2219 Nekona ne wa  
ネコナ ネ ワ  
どのようにに 繫 接続  
どうしたことが
- 2220 arobittano  
アロビトタノ  
すべて  
あなたはすっかり
- 2221 e-eraman rokokai ko  
エ・エラマン ロコカイ コ  
汝・知る 判明 条件  
お見通しであるのに、
- 2222 nubur sak kunip  
ヌブル サク クニプ  
霊力 欠く すべきもの  
知恵にも
- 2223 tusu sak kunip  
トゥス サク クニプ  
霊能力 欠く すべきもの  
霊の力にも乏しい
- 2224 shiketoko  
シケトコ  
目の先  
目の届く先が
- 2225 takne kunip  
タクネ クニプ  
短い すべきもの  
短い
- 2226 a-ne p ne kusu.  
ア・ネ プ ネ クス.  
我・繫 もの 繫 根拠  
わたしです。
- 2227 Naa kashikun  
ナア カシクン  
まだ さらに  
なお、さらに
- 2228 tapne tapne  
タップネ タップネ  
これである これである  
あのよう
- 2229 chikosomokur-  
チコソモクル・  
否定  
無礼の
- 2230 yaikatanu  
ヤイカタヌ  
畏れはばかる  
極みを
- 2231 e-ekarkar hawe  
エ・エカラカラ ハウエ  
汝・する 声  
したことでした。<sup>\*44</sup>
- 2232 sonno ramoshi wano  
ソンノ ラモシ ワノ  
真に 心の底 から  
心の底から
- 2233 keutumoshi wano  
ケウトウモシ ワノ  
心の中 から  
胸の底から
- 2234 sonno yaikokatbak-an katu  
ソンノ ヤイコカトバック・アン カトゥ  
真に 謝罪の念を抱く・我 様子  
述べる謝罪、
- 2235 ouse shine itak boka  
オウセ シネ イタク ボカ  
ただ (だけ) 一つの言葉 だけ  
ただ一言でも
- 2236 nu wa i-kore  
ヌ ワ イ・コレ  
聞く 接続 我・与える  
聞いて
- 2237 kunak ramu yan.  
クナク ラム ヤン.  
引用 思う 命令  
ください。
- 2238 Tane anakne  
タネ アナクネ  
今 はや  
もはや
- 2239 a-neikeshiko  
ア・ネケシコ  
我・どこに目がある  
わたしが
- 2240 a-neikebaro wa  
ア・ネケパロ ワ  
我・どこに口がある 接続  
生まれた

\*44 e-ekarkar (原綴りは eekarka) を e-ekarkar-an 「我、汝になす」とみなして解釈する。

- 2241 tam moshiri ka ta  
タム モシリ カ タ  
この 国土 上 場所  
この世界で
- 2242 shiknu-an wa  
シクヌ・アン ワ  
生きている・我 接続  
生きて
- 2243 an-am be ta an.  
アナム ベ タ アン.  
いる・我もの これ ある  
行けましょう。
- 2244 Oar a-eaikap.  
オアラ ア・エアイクア.  
全く 我・できない  
それは無理になりました。
- 2245 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 2246 pon a-kor yubi  
ポン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さんよ、
- 2247 tap korachi (p. 526)  
タップ コラチ  
これ ように  
こんな
- 2248 wembe  
ウエムベ  
悪いもの  
卑しい者、
- 2249 nitne kamui  
ニトネ カムイ  
悪い 神  
魔物の
- 2250 keutum kor be  
ケウトウム コロ ベ  
心 持つもの  
心を持った
- 2251 a-ne a kusu.  
ア・ネ ア クス.  
我・繋 完了 根拠  
わたしです。
- 2252 Shukup matkachi  
シュクツ マトカチ  
成長する 少女  
女となった娘
- 2253 shukup menoko  
シュクツ メノコ  
成長する 女  
若い女の
- 2254 a-ne awa  
ア・ネ アワ  
我・繋 展開  
わたしですが
- 2255 shukup upsorka  
シュクツ ウソソロカ  
成長する 貞操  
あなたはわたしの若い肌を
- 2256 base upsorka  
バセ ウソソロカ  
重い 貞操  
尊い肌を
- 2257 e-i-kochari kane  
エ・イ・コチャリ カネ  
汝・我・散らす 同時  
投げ捨てて、
- 2258 kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上
- 2259 tu arka itak  
トゥ アッカ イタク  
二つの 痛い 言葉  
厳しい言葉
- 2260 re arka itak  
レ アッカ イタク  
三つの 痛い 言葉  
手痛い言葉を
- 2261 e-i-y-ekarkar hawe.  
エ・イ・イエカラカラ ハウエ.  
汝・我・する 声  
わたしに浴びせかけました。
- 2262 Ponnoka  
ポンノカ  
少しも  
その言葉をわたしは
- 2263 a-rushka anakne  
ア・ルシカ アナクネ  
我・怒る は  
少しも
- 2264 somoki.  
ソモキ.  
しない  
怒っていません。
- 2265 Sonno wen-an wa  
ソンノ ウェン・アン ワ  
真に 悪い・我 接続  
まことにわたしが
- 2266 kusu ne.  
クス ネ.  
根拠 繋  
悪かったに違いない。
- 2267 Kushkeraibo  
クシケライボ  
そこで  
そこで
- 2268 ainu keutum  
アイヌ ケウトウム  
人間 心  
人間の心を
- 2269 a-kohoshihi wa  
ア・コホシビ ワ  
我・に戻る 接続  
持って帰り
- 2270 rai-an rusui.  
ライ・アン ルスイ.  
死ぬ・我 したい  
死にたい。
- 2271 Kamui ot ta  
カムイ オトタ  
神 所 場所  
神の国に
- 2272 oman-an wa  
オマン・アン ワ  
行く・我 接続  
行つて
- 2273 ne a yakka  
ネ ア ヤッカ  
繋 完了 譲歩  
も
- 2274 kamui bak keutum  
カムイ バク ケウトウム  
神 背く心  
神にそむく心を
- 2275 a-kor a kusu  
ア・コロ ア クス  
我・もつ 完了 根拠  
抱いたので
- 2276 chiraibanakte  
チライバナクテ  
きついお仕置き  
辛い処罰を
- 2277 a-i-y-ekarkar nankoro.  
ア・イ・イエカラカラ ナンコロ.  
我・される だらう  
受けるでしょう。
- 2278 Tambe kusu.  
タムベ クス.  
これ 根拠  
そこでお願いです。
- 2279 Pon a-kor yubi  
ポン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さんよ、
- 2280 kamui ne am be.  
カムイ ネ アム ベ.  
神 繋 あるもの  
神である人よ。
- 2281 Nekona shino  
ネコナ シノ  
どのように まことに  
どれほど
- 2282 e-i-y-ebokba  
エ・イ・イエボクバ  
汝・我・憎む  
わたしを憎み
- 2283 e-i-koirushka a yakka  
エ・イ・コイルッカ ア ヤッカ  
汝・我・怒る 完了 譲歩  
わたしに怒りを覚えたにしても
- 2284 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 2285 sonno wen-an katu  
ソンノ ウェン・アン カトゥ  
真に 悪い・我 様子  
自分が悪かったと
- 2286 a-eraman ruwe ne kusu  
ア・エラマン ルウェ ネ クス  
我・知る 跡 繋 根拠  
反省しているのですから
- 2287 i-eramboken wa  
イ・エラムボケン ワ  
我・憐れむ 接続  
わたしを憐れんで
- 2288 e-mut chimuttam  
エ・ムト チムツタム  
汝・帯びる 佩刀  
あなたが佩く刀の
- 2289 notak kurka  
ノタク クルカ  
刃 上  
刃で
- 2290 chietuyekar wa  
チエトウイエカラ ワ  
斬る 接続  
わたしを切り殺して
- 2291 i-kore kunak  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
ください
- 2292 ramu yan.  
ラム ヤン.  
思う 命令  
な。
- 2293 Yak anakne  
ヤク アナクネ  
条件 は  
そうしてくれたら

- 2294 tambe boka (p. 527)  
タムベ ボカ  
これ だけ  
それだけを、
- 2295 anrai orwa  
アンライ オロワ  
ひどく死ぬ 始点  
完全な死滅から免れて
- 2296 pirika itukap ne  
ピリカ イトゥカネ  
よい 土産 繫  
よい土産に
- 2297 a-kor kushne na.” ari  
ア・コロ クシネ ナ” アリ  
我・もつ 必然・意志 (訴え) 引用  
持って (天に昇る) つもりです。」と
- 2298 ouse ruashirun  
オウセ ルアシルン  
ただ (だけ) 未詳  
むなくもわたしの後ろへ\*45
- 2299 itak-an yakka  
イタク・アン ヤッカ  
言う・我 譲歩  
言っても
- 2300 konep hawe ka  
コネフ ハウエカ  
何 声 も  
声一つ
- 2301 konep humi ka  
コネフ フミ カ  
何 音 も  
物音一つ
- 2302 oarar isam.  
オアラ イサム.  
全く ない  
しなかった。
- 2303 Orowano  
オロワノ  
始点  
それから
- 2304 tanne to  
タンネ ト  
長い 沼  
長い日を
- 2305 ebittano  
エビトタノ  
一面中  
一日中
- 2306 neino  
ネノ  
繫  
そのようにして
- 2307 an-an yakka  
アナン ヤッカ  
いる・我 譲歩  
いたけれど、
- 2308 rai boka  
ライ ボカ  
死ぬ だけ  
死ぬさえも
- 2309 a-koyaikush.  
ア・コヤイクシ.  
我・できない  
できなかった。
- 2310 Ene he tap ne  
エネ ヘ タプ ネ  
このように 疑問 これ 繫  
あののように
- 2311 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2312 isanakiru  
イサナキル  
焔の向こう側へ向ける  
懇ろに
- 2313 imaknakiru kane  
イマクナキル カネ  
焔の手前に向ける 同時  
くどくどと
- 2314 i-raibakashnu i ka  
イ・ライバカシヌ イ カ  
我・教え諭す 形名 も  
教え諭しもし、
- 2315 “Seta hene  
“セタ ヘネ  
犬 も  
「犬などの
- 2316 rit ush kane  
リトウシ カネ  
筋 ある 同時  
痩せて筋張った
- 2317 okai be  
オカイ ベ  
ある もの  
のを
- 2318 a-nukar ko  
ア・ヌカラ コ  
我・見る 条件  
見たら
- 2319 ika\*46 or un  
イカ オルン  
決してするな 所 方向  
それに
- 2320 mina-an hene  
ミナ・アン ヘネ  
笑う・我 も  
笑みを投げかけたり
- 2321 itak-an hene  
イタク・アン ヘネ  
言う・我 も  
言葉をかけた
- 2322 ki kotomno  
キ コトムノ  
するように  
する
- 2323 an na.” ari  
アン ナ” アリ  
ある (訴え) 引用  
な。」と
- 2324 haweokai rok wa  
ハウエオカイ ロク ワ  
言う 完了 接続  
言ったけれど、
- 2325 taban a-ki hoiyo  
タバンのア・キ ホイヨ  
この 我・する 乱心する  
わたしの犯したこのふしだらに
- 2326 i-kobashte i ta  
イ・コバシテ イ タ  
我・気付く 形名 場所  
気づいたら
- 2327 nekona tapne irushka  
ネコナ タプネ イルシカ  
どのように これである 怒る  
どれほど怒り、
- 2328 yayashish  
ヤヤシシ  
くやしがる  
口惜しい
- 2329 kunip ne nankora.  
クニフ ネ ナンコラ.  
すべきもの 繫 だろうか  
思いをするだろう、
- 2330 Ari yainu-an chiki  
アリ ヤイス・アン チキ  
引用 考える・我 条件  
と思うと、
- 2331 boo rai-an kuni  
ボオ ライ・アン クニ  
なおさら 死ぬ・我 必然  
ますます死ぬ
- 2332 batek a-ramu kane  
バテク ア・ラム カネ  
のみ 我・思う 同時  
ばかりだと思った。
- 2333 tane shiri kunne ko.  
タネ シリ クンネ コ.  
今 様子 暗い 条件  
ようやく日が暮れた。
- 2334 Orhetobo sui  
オロヘトボ スイ  
もと来た方へ 再び  
もと来た道をたどり
- 2335 a-ewak ushike ta  
ア・エワク ウシケ タ  
我・住む ところ 場所  
わたしの家に
- 2336 oman-an wa  
オマン・アン ワ  
行く・我 接続  
帰って、
- 2337 a-yaikeuor-  
ア・ヤイケウオロ・  
我・体  
わたしの体を
- 2338 ochiwe rusui (p. 528)  
オチウエ ルスイ  
捨てる したい  
捨てたかった (死にたかった)。\*47
- 2339 nekona wem be  
ネコナ ウェム ベ  
どのように 悪い もの  
わたしがどれほど
- 2340 a-ne a yakka  
ア・ネ ア ヤッカ  
我・繫 完了 譲歩  
悪い女でも
- 2341 taban ushike ta  
タバンのウシケ タ  
この ところ 場所  
こんなところで
- 2342 wen seta e rai  
ウェン セタ エ ライ  
悪い 犬 食べる 死ぬ  
いやな犬に食べられるような、

\*45 この行の解釈は不確実。ruashirun を a-shiruwoka un「私の行く後へ」と見て解釈した。

\*46 この語、原ノートにはない。補って読む必要がある。

\*47 a-yaikeuor-ochiwe を yaikeuro-ochiwe-an と見て解釈する。

- 2343 wen chikap e rai  
ウエン チカプ エ ライ  
悪い 鳥 食べる 死ぬ  
いやな鳥についはまれるような
- 2344 a-niukesh  
ア・ニウケシ  
我・しかねる  
死に方はごめん
- 2345 tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
だから、
- 2346 shino iyunin-an koroka  
シノ イユニン・アン コロカ  
まことに 傷つく・我 逆接  
とても痛くて苦しいけれど
- 2347 shuni reubo  
シュニ レウボ  
鍋木 曲がり  
鍋を下げる
- 2348 a-ikoanu  
ア・イコアヌ  
我・まねる  
曲り木\*48のように腰を曲げて
- 2349 hemanta yapni  
ヘマンタ ヤプニ  
何 うちあげられた木  
変な形の流れ木を
- 2350 a-eyaitete  
ア・エヤイテテ  
我・身を支える  
杖として
- 2351 yairutrutu-an kane  
ヤイルトルトゥ・アン カネ  
身を引かず・我 同時  
身を引かずに
- 2352 moiretara  
モイレタラ  
緩やかに  
ゆっくりと
- 2353 ek-an aine  
エック・アン アイネ  
来る・我 接続  
戻っていくと
- 2354 a-ewak ushike  
ア・エワック ウシケ  
我・住む ところ  
家に
- 2355 a-koshireba.  
ア・コシレバ、  
我・到着する  
着いた。
- 2.8 傷を癒す
- 2356 A-kor tumbu uporo  
ア・コロ トウムブ ウッソロ  
我・もつ 寝屋 内部  
寝屋の中に
- 2357 a-oahun wa  
ア・オアフン ワ  
我・入る 接続  
入って
- 2358 kemush a-mi p  
ケムシ ア・ミ プ  
血がついている 我・着る もの  
血のついた着物を
- 2359 a-yaikoare  
ア・ヤイコアレ  
我・脱ぐ  
脱いで、
- 2360 ashiribe batek  
アシリベ バテック  
新しい物 のみ  
新しい着物だけを
- 2361 a-utomechuu.  
ア・ウトメチウ.  
我・着物を着る  
身に着けた。
- 2362 Sarambe cha  
サラムベ チャ  
絹 切る  
絹を裁断する
- 2363 pon makiri  
ボン マキリ  
小さい ナイフ  
小さなナイフを
- 2364 a-sawekatta  
ア・サウェカッタ  
我・取り出す  
取り出して
- 2365 a-ponreraru  
ア・ボンレラル  
我・小さい胸  
自分の小さな胸に
- 2366 a-shirikootke  
ア・シリコウトケ  
我・激しく突く  
激しく突き刺そうと
- 2367 kushne ko  
クシネ コ  
必然・意志 条件  
したが
- 2368 rabokita  
ラボキタ  
間に  
そのとき
- 2369 tu pirika kunip  
トゥ ビリカ クニプ  
二つの よい すべきもの  
数々の
- 2370 re pirika kunip  
レ ビリカ クニプ  
三つの よい すべきもの  
楽しかった思い出が
- 2371 uoshiohi  
ウオシオシ  
次々と  
次から次へと
- 2372 a-eyaikoshiramse chiki  
ア・エヤイコシラムセ チキ  
我・思い返す 条件  
思い出されて
- 2373 annisapno  
アンニサプノ  
急に  
急に
- 2374 a-montumkonna-  
ア・モントウムコンナ・  
我・腕  
手の力が
- 2375 koshumnataru.  
コシユムナタラ.  
萎れている  
なえてしまった。
- 2376 Oar oar  
オアラ オアラ  
全く 全く  
自殺など
- 2377 yairaike a-eaikap.  
ヤイライケ ア・エアイカプ.  
自殺する 我・できない  
とてもできなかった。
- 2378 Otu sui an ta\*49  
オトゥ スイ アン タ  
二つの 回 ある これ  
二度、
- 2379 ore sui an ta  
オレ スイ アン タ  
三つの 回 ある これ  
三度と
- 2380 yupke rambo  
ユッケ ラムボ  
強い 心  
意を
- 2381 a-yaikosanke  
ア・ヤイコサンケ  
我・産む  
強くして刺そうとし
- 2382 ki p ne korka  
キ プ ネ コロカ  
するもの 繋 逆接  
けれど
- 2383 oar a-eaikap chiki  
オアラ ア・エアイカプ チキ  
全く 我・できない 条件  
できなかった。
- 2384 otu chish wembe (p. 529)  
オトゥ チシ ウェムベ  
二つの 泣く 涙のしずく  
涙の
- 2385 ore chish wembe  
オレ チシ ウェムベ  
三つの 泣く 涙のしずく  
しずくを
- 2386 a-yayekote.  
ア・ヤイエコテ.  
我・己に結び付ける  
ポロポロ流した。
- 2387 “Tane anakne  
“タネ アナクネ  
今 は  
もう今は
- 2388 nekona hene  
ネコナ ヘネ  
どのようにも  
どうしても
- 2389 ne a p kusu  
ネ ア プ クス  
繋 完了もの 根拠  
こうなのだから
- 2390 konen tap ora  
コネン タップ オラ  
誰 これ 始点  
だけれが
- 2391 chipirikaramu  
チピリカラム  
いい心を持つこと  
おまえにやさしい気持ちを

\*48 reubo 山で鍋を掛けるとき臨時に立てられる。

\*49 原綴りは otusui ante. ante はおそらく an ita の短縮形。arsui an ita「ある日」が参考になる。

- 2392 e-ekarkar be  
エ・エカラカラ ベ  
汝・する もの  
向けてくれる\*50
- 2393 ne wa kusu.  
ネ ワ クス.  
繋 接続 根拠  
だろう。
- 2394 E-nepkorō kane  
エ・ネッコロ カネ  
汝・のように 音調  
おまえのような
- 2395 arkamiashi  
アラカミアシ  
化物  
化け物が
- 2396 rai apkusu  
ライ アックス  
死ぬとしても  
死んだところで
- 2397 konep rakaam be an.  
コネッ ラカアム ベ アン.  
何 成果がある もの ある  
何のいいことがあるものか。
- 2398 Konen tap ora  
コネン タッ オラ  
誰 これ 始点  
誰が
- 2399 e-oshkor be an.” ari  
エ・オシッコロ ベ アン.” アリ  
汝・惜しむ もの ある 引用  
おまえを惜しむものか、と
- 2400 hetobo sui  
ヘトボ スイ  
逆に 再び  
繰り返しのように
- 2401 yairaukiitak-an.  
ヤイラウキイタク・アン.  
声に出さず言う  
心の奥で言った。
- 2402 Rai-an kuni  
ライ・アン クニ  
死ぬ・我 必然  
死ぬことを
- 2403 a-eyairamkikkar.  
ア・エイラムキッカラ.  
我・あきらめる  
あきらめた。
- 2404 Kunne i ta  
クンネ イ タ  
暗い 形名 場所  
日が暮れて
- 2405 soine-an wa  
ソイネ・アン ワ  
外出する・我 接続  
外に出て
- 2406 nimaucar-an.\*51  
ニマウカラ・アン.  
息吹を当てて傷をいやす  
傷口を吹いていやす。
- 2407 A-birihī a-huraye  
ア・ビリヒ ア・フライエ  
我・傷 我・洗う  
傷を洗い
- 2408 a-nimauekar kane  
ア・ニマウエカラ カネ  
我・息を吹きかける 同時  
息を吹きかけた。
- 2409 ibe boka a-etoranne  
イベ ボカ ア・エトランネ  
食事する だけ 我・大儀に思う  
食べるのもおっくうで
- 2410 sonno iyunin-an.  
ソンノ イユニン・アン.  
真に 傷つく・我  
まったく痛かった。
- 2411 Tane tu anchikar bakno  
タネ トウ アンチカラ バクノ  
今 二つの 晩 まで  
二晩ほど
- 2412 somo ibe-an no  
ソモ イベ・アン ノ  
否定 食事する・我 接続  
何も食べずに
- 2413 yaikahuye-an awa  
ヤイカフイエ・アン アワ  
みずからを癒す 展開  
一人で傷をいやしたところ、
- 2414 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母が
- 2415 ek hum konna  
エク フム コンナ  
来る 音 は  
戻ってくる音が
- 2416 keurototke.  
ケウロトトケ.  
響く  
響き渡った。
- 2417 Humash chiki  
フマシ チキ  
音がする 条件  
それを聞くと
- 2418 homatu rui be  
ホマトウルイ ベ  
驚く 激しい もの  
驚きあわてて
- 2419 iyunin-an a i ka  
イユニン・アン ア イ カ  
傷つく・我 完了 形名 も  
痛みも
- 2420 a-oira no  
ア・オイラ ノ  
我・忘れる 接続  
忘れて
- 2421 sotki ka ta  
ソトキ カ タ  
寝床 上 場所  
寝床の上に
- 2422 a-matkosamba chiki  
ア・マトコサムバ チキ  
我・立ち上がる 条件  
立ち上がると、
- 2423 a-birbake  
ア・ビリバケ  
我・傷先  
わたしの傷口は
- 2424 a-birkese  
ア・ビルケセ  
我・傷末  
端から端まで
- 2425 ukoyasashke (p. 530)  
ウコヤサシケ  
ともに裂ける  
裂けて
- 2426 ukobererke  
ウコベレレケ  
ともに割れる  
割れた
- 2427 semkorachi  
セムコラチ  
まるで (する) ように  
ように
- 2428 humash chiki  
フマシ チキ  
気配がする 条件  
痛んで、
- 2429 nirewewe-an  
ニレウエウエ・アン  
歯ざしりする・我  
わたしはギリギリと
- 2430 niyorkar-an kane  
ニヨロカラ・アン カネ  
歯ざしりする・我 同時  
歯ざしりしながら
- 2431 abeare-an.  
アベアレ・アン.  
火をたく・我  
火を起こした。
- 2432 Okutchi urar  
オクトチ ウララ  
たちこめる 霧  
濃いもやの
- 2433 urar tumu  
ウララ トウム  
霧 中  
中に
- 2434 a-yayomare kane  
ア・ヤヨマレ カネ  
我・みずから入れる 同時  
入って叔母を待った。

## 第3章 小イヨチ彦の赦し

## 3.1 イヨチの土産話

- 2435 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2436 boroshikeki kane  
ボロシケキ カネ  
大きな荷を持つ 同時  
大きな荷を背負い、
- 2437 boro boshtoko  
ボロ ボシトコ  
大きい 小さなシントコ  
大きな小ほかいを
- 2438 tup rep  
トゥッ レッ  
二つ 三つ  
二つ、三つ
- 2439 ukoamba kane  
ウコアムバ カネ  
抱える 同時  
腕に抱えて、
- 2440 Shino nubetne kunip  
シノ スベトネ クニッ  
まことに喜ぶ すべきもの  
とてもうれしそうに

\*50 二人称の e- は独り言の中で一人称として使われる。

\*51 この語に続いて an があるが (原綴りは nimau karan an) これを落として解釈する。

- 2441 kone p ne kusu  
コネ フ ネ クス  
繫 もの 繫 根拠  
して
- 2442 aba orowano  
アバ オロワノ  
簾戸 始点  
戸口から
- 2443 i-henkotba kane  
イ・ヘンコトバ カネ  
我・愛撫する 同時  
わたしに愛想を投げかけ
- 2444 shiruwe-an<sup>\*52</sup> eashkai i  
シルウェ・アン エアシカイ イ  
留守番する・我 できる 形名  
よく留守番ができた
- 2445 i-ekobuntok kane  
イ・エコブンテック カネ  
我・誉める 同時  
わたしをほめた。
- 2446 “Sone sone  
“ソネ ソネ  
らしくらしく  
「もうすっかり
- 2447 e-tuye hemem  
エ・トゥイエ ヘメモ  
汝・腹 も  
お腹は
- 2448 riten ruwe he an.  
リテン ルウェ ヘ アン.  
軟らかい 跡 疑問 ある  
良くなったのか。
- 2449 Ukoeramno okai be  
ウコエラムノ オカイ ベ  
一緒に ある もの  
おまえの許嫁も
- 2450 tuye arka ne kusu.  
トゥイエ アラカ ネ クス.  
斬る 痛い 繫 根拠  
腹痛に苦しんでいました。
- 2451 Pon a-karku anakne  
ボン ア・カラク アナクネ  
小さい 我・甥 は  
わらわの甥<sup>\*53</sup>は
- 2452 ponram orowano  
ボンラム オロワノ  
幼少 始点  
小さいときから
- 2453 shinnai chise  
シンナイ チセ  
違った 家  
本宅とは別の
- 2454 okemaush  
オケマウシ  
土台がついている  
いしづえのある
- 2455 pon itaya oro  
ボン イタヤ オロ  
小さい 板屋 所  
小さな板壁の家で
- 2456 a-oreshu wa  
ア・オレシユ ワ  
育てられる 接続  
育てられて
- 2457 kamui orowano  
カムイ オロワノ  
神 始点  
神に
- 2458 ibe kuru ne awa.  
イベ クル ネ アワ.  
食事する 人 繫 展開  
食べさせてもらっていた。
- 2459 Ene he tap ne  
エネ ヘ タプ ネ  
このように 疑問 これ 繫  
そこで
- 2460 a-nukan rusui humi  
ア・ヌカン ルスイ フミ  
我・見る したい 気配  
会ってみたかった
- 2461 okai a koroka  
オカイ ア コロカ  
ある 完了 逆接  
けれど
- 2462 tuye arka hine  
トゥイエ アラカ ヒネ  
斬る 痛い 接続  
腹を痛めて
- 2463 kamui nomi  
カムイ ノミ  
神 祈る  
祭り
- 2464 ot ta hene  
オトタ ヘネ  
所 場所 も  
にも
- 2465 shinurapba ot ta hene  
シヌラッパ オトタ ヘネ  
先祖を祭る 所 場所 も  
先祖祭りにも
- 2466 somo ek.  
ソモ エク.  
否定 来る  
現れなかった。<sup>\*54</sup>
- 2467 Tane rerko bakno an-an.  
タネ レレコ バクノ アナン.  
今 三日 まで いる・我  
もう三日ほど過ごして、
- 2468 Boro a-karku newa  
ボロ ア・カラク ネワ  
大きい 我・甥 と  
上の甥と
- 2469 a-matkarku batek  
ア・マトカラク バテック  
我・姪 のみ  
姪とだけを相手に
- 2470 shino inunuke-an (p. 531)  
シノ イヌヌケ・アン  
まことに 懇ろにいたわる・我  
下の甥を見舞う
- 2471 nisomap-an kusu  
ニソマツ・アン クス  
心配する・我 根拠  
いたわりの
- 2472 uyebekennu-an ko  
ウエベケンヌ・アン コ  
相談する・我ら 条件  
言葉を述べますと、
- 2473 tane shino  
タネ シノ  
今 まことに  
(小イヨチ彦の言い置きに)
- 2474 tumashnu-an  
トゥマッシュ・アン  
元気になる・我  
『今はもうすっかり回復しました
- 2475 ruwe ne kusu  
ルウェ ネ クス  
跡 繫 根拠  
から、
- 2476 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母さん、
- 2477 iteki mashkino  
イテキ マシキノ  
決してあまりに  
そんなに
- 2478 i-enisomap no  
イ・エニソマップ ノ  
我・心配する 接続  
案じることなく
- 2479 hoshkino  
ホシキノ  
先に  
まずは
- 2480 hoshihi ko pirika.  
ホシビ コ ビリカ.  
帰る 条件 よい  
お帰りなさい。
- 2481 Naa ponno shiran ko  
ナア ボンノ シラン コ  
まだ 少し ときがたつ 条件  
今少しして
- 2482 kamui ewak i un  
カムイ エワク イ ウン  
神 住む 形名 方向  
あなたの宮居に
- 2483 shiromano  
シロマノ  
安らかに  
心安らかに
- 2484 omanan kusune na  
オマナン クスネ ナ  
行き来する 意志 (訴え)  
お帰りなさい。』
- 2485 ari itak yak a-ye.  
アリ イタク ヤク ア・イエ.  
引用 言う と 我・言う  
とのことだから
- 2486 tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
それで
- 2487 shino nubetne no  
シノ ヌベツネ ノ  
まことに 喜ぶ 接続  
とても喜んで
- 2488 ek-an ruwe tab an.”  
エック・アン ルウェ タバン.”  
来る・我 跡 これ ある  
戻ってきたのです。」
- 2489 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言った。

\*52 原綴りは shirwe an.

\*53 許嫁である小イヨチ彦。

\*54 小イヨチ彦は、実は、シスタブカの娘を試みにあわすため、シスタブカ近傍に向かっており、板屋にいなかった。

- 2490 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさらも  
それを聞いて、ますます
- 2491 yaikokatbak-an.  
ヤイコカトバク・アン.  
謝罪の念を抱く・我  
申し訳なくなった。
- 2492 Ene wa boka  
エネ ワ ボカ  
このように 接続 だけ  
どうしていいか
- 2493 iki-an i ka isam.  
イキ・アニ カ イサム.  
する・我 形名 も ない  
分からなくなった。
- 2494 A-nankakonna-  
ア・ナンカコンナ・  
我・顔  
汗が顔に
- 2495 chiunu kane  
チウヌ カネ  
流れ出る 同時  
潮のように流れ、
- 2496 tap eashiri  
タップ エアシリ  
これ 強調  
今こそ
- 2497 inu-an ko.  
イヌ・アン コ.  
聞く・我 条件  
気づいた。
- 2498 Oroyachiki  
オロヤチキ  
驚いたことに  
なんと
- 2499 tane bakno  
タネ バクノ  
今 まで  
命名を
- 2500 asuru ash be  
アスル アシ ベ  
噂 立つもの  
馳せるのは
- 2501 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
小イヨチ彦
- 2502 a-yubutari  
ア・ユブタリ  
我・兄たち  
であったのに
- 2503 ne rokokai ko  
ネ ロコカイ コ  
繋 判明 条件  
これまで、
- 2504 oyainu a-ki humi  
オヤイヌ ア・キ フミ  
誤って聞く我・する 気配  
(イシカリ彦と) 誤って聞いて
- 2505 ne rokokai.  
ネ ロコカイ.  
繋 判明  
いたのだった。
- 2506 Nekona ne a p kusu  
ネコナ ネ ア ヲ クス  
どのように 繋 完了もの 根拠  
なぜ、
- 2507 nep kusu  
ネプ クス  
何 根拠  
なぜ
- 2508 ene okai  
エネ オカイ  
このように ある  
あんな
- 2509 hoiyo a-ki shiri.  
ホイヨ ア・キ シリ.  
乱心する 我・する 様子  
淫らなことをしてしまったのか。
- 2510 Ene an<sup>\*55</sup> kamui  
エネ アン カマイ  
このように ある 神  
あれほどの神、
- 2511 ene am bito  
エネ アム ビト  
このように ある 人  
あれほどの人を
- 2512 uresokkar ne  
ウレスクカラ ネ  
足ぬぐいのマット 繋  
足ぬぐいのように
- 2513 a-kar shiri yakka (p. 532)  
ア・カラ シリ ヤッカ  
我・する 様子 譲歩  
したが、
- 2514 nekona ne wa  
ネコナ ネ ワ  
どのように 繋 接続  
(小イヨチ彦は) どうしてだか
- 2515 eraman kusu  
エラマン クス  
分かる 根拠  
それを知っていた
- 2516 hawe okai chiki  
ハウエ オカイ チキ  
声 ある 条件  
ということに気づき、
- 2517 sonno shiyoro keutum  
ソンノ シヨロ ケウトウム  
真に 驚く 心  
わたしは驚くとともに
- 2518 yashtoma keutum  
ヤシトマ ケウトウム  
恥ずかしい 心  
恥ずかしい気持ちに
- 2519 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
なった。
- 2520 Rai kasu no  
ライ カス ノ  
死ぬ 甚だしい 接続  
死ぬよりも
- 2521 a-keutumwen.  
ア・エケウトウムウエン.  
我・心苦しい  
もっと心苦しくなった。
- 2522 Ramma rai-an kuni  
ラムマ ライ・アン クニ  
いつも 死ぬ・我  
やはり死のうと 必然
- 2523 batek a-ramu kane  
バテック ア・ラム カネ  
のみ 我・思う 同時  
ばかり思いながら
- 2524 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
わたしは今初めて
- 2525 tonoto ari  
トノト アリ  
酒 引用  
(お土産の) 酒と
- 2526 a-borse kunip  
ア・ボロセ クニップ  
よばれる すべきもの  
呼ばれるものを
- 2527 a-ku.  
ア・ク.  
我・飲む  
飲んだ。
- 2528 Usa shirari hene  
ウサ シラリ ヘネ  
譲歩 麴 も  
酒粕とか
- 2529 usa shisakbe  
ウサ シサクベ  
譲歩 またときもの  
たぐいなく美味なお土産を
- 2530 a-e yakka  
ア・エ ヤッカ  
我・食べる 譲歩  
食べたけれど
- 2531 sonno a-keutum<sup>\*56</sup>  
ソンノ ア・ケウトウム  
真に 我・心  
わたしの心は
- 2532 chiukoboiba p  
チウコボイバ ヲ  
混ざり合うもの  
混乱して、<sup>\*57</sup>
- 2533 kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
繋 もの 根拠  
それで
- 2534 kera boka  
ケラ ボカ  
味 だけ  
味も
- 2535 a-erambetek.  
ア・エラムベテック.  
人々・知らない  
わからなかった。
- 2536 Yainubeko-  
ヤイヌベコ・  
自らの涙  
涙とともに
- 2537 ranke-an yakka  
ランケ・アン ヤッカ  
降ろす・我 譲歩  
泣き崩れたけれど、

\*55 この語は原ノートにはない。補う。

\*56 原綴りは akeutum。末尾に-uを補う。

\*57 chiukoboiba: 「混乱して」という意味か。

- 2538 urar tum  
ウラト トム  
霧 中  
もやの中に
- 2539 a-omap ne kusu  
ア・オマフ ネ クス  
我・可愛がる 繫 根拠  
入っていたので
- 2540 ramma ukorachi  
ラムマ ウコラチ  
いつも 同じように  
叔母は、わたしが
- 2541 nubetne no an-an  
ヌベトネ ノ アナン  
喜ぶ 接続 いる・我  
いつものように
- 2542 ruwe ne kuni  
ルウェ ネ クニ  
跡 繫 必然  
喜んで
- 2543 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
いると
- 2544 ramu kane  
ラム カネ  
思う 同時  
思った。
- 2545 keshto a-karkar kunip  
ケシト ア・カラカラ クニフ  
毎日 我・刺繍をする すべきもの  
毎日、裁縫道具を
- 2546 a-shikotcha-  
ア・シコトチャ・  
我・己の前  
前に
- 2547 omare kane  
オマレ カネ  
置く 同時  
置いて
- 2548 chish batek a-ki.  
チシ バテク ア・キ.  
泣くのみ 我・する  
ただただ泣いていた。
- 2549 Ikarkar-an kor  
イカラカラ・アン コロ  
刺繍をする・我 引用  
叔母は
- 2550 an-an ruwe ne  
アナン ルウェ ネ  
いる・我 跡 繫  
わたしが刺繍を
- 2551 kuni batek  
クニ バテク  
必然のみ  
している
- 2552 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
ばかり
- 2553 ramu kane  
ラム カネ  
思う 同時  
思っていた。
- 2554 ibe an apkor  
イベ アン アフコロ  
食事する ある かのよう  
さも食事をとっているかの
- 2555 iki-an yakka  
イキ・アン ヤッカ  
する・我 譲歩  
ようにみせかけたが、
- 2556 ponnoka somo  
ボンノカ ソモ  
少しも 否定  
実は少しも
- 2557 ibe-am be ne kusu  
イベ・アム ベ ネ クス  
食事する・我 もの 繫 根拠  
食べてはいなかった
- 2558 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
もうそれが
- 2559 otu wan keshto  
オトゥ ワン ケシト  
二つの 十の 毎日  
何日にも
- 2560 ore wan keshto  
オレ ワン ケシト  
三つの 十の 毎日  
何日にも
- 2561 kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
繫 もの 繫 根拠  
なるので、
- 2562 sattek-an (p. 533)  
サテテク・アン  
やせ細る  
すっかりやせ細って、
- 2563 a-ousebone-  
ア・オウセボネ・  
我・ただ骨だけ  
ただただ骨に皮が巻き付いて
- 2564 chikapkokarba kane  
チカフコカラバ カネ  
皮膚が巻き付く 音調  
いるかのようになった。
- 2565 kunne hene  
クンネ ヘネ  
夜 も  
夜も
- 2566 tokap hene  
トカフ ヘネ  
昼 も  
昼も
- 2567 yairamkoiki-an.  
ヤイラムコイキ・アン.  
己の気持ちをさいなむ・我  
自分の心を苛んだ。
- 2568 Rai ka a-koyaikush.  
ライカ ア・コヤイクシ.  
死ぬも 我・できない  
死ぬこともできなかった。
- 2571 Tomisambechi  
トミサムベチ  
地名  
トミサンベツの
- 2572 betetoko  
ベテトコ  
川の源  
川の源の山に
- 2573 bushkosamba.  
ブシコサムバ.  
爆発音がする  
爆発音がした。
- 2574 Kamui san humi  
カムイ サン フミ  
神 くだる 音  
神が山を下りてくる音が
- 2575 keurototke.  
ケウロトケ.  
響く  
響いた。
- 2576 Humash awa  
フマシ アワ  
音がする 展開  
すると
- 2577 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は手を止めて
- 2578 kem tarara  
ケム タララ  
針 掲げる  
針を掲げて
- 2579 kisar uebare<sup>\*58</sup> kane an. (p. 144)  
キサウヘバレ カネ アン.  
耳 傾ける(?) 同時 ある  
耳を傾けた。
- 2580 “Iyochiunkuru  
“イヨチウンクル  
イヨチ彦  
「(小) イヨチ彦、
- 2581 pon a-karku  
ボン ア・カラク  
小さい 我・甥  
甥の弟の方が
- 2582 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
とうとう
- 2583 kamui ewaki un  
カムイ エワキ ウン  
神 住まい 方向  
この宮居に
- 2584 shiotarino  
シオタリノ  
旅立って  
旅立って
- 2585 ek humi ne.  
エック フミ ネ.  
来る 気配 繫  
来たようだ。
- 2586 Kamui a-matkarku  
カムイ ア・マトカラク  
神 我・姪  
尊い姪よ、
- 2587 pirikano oribak yan.  
ピリカノ オリバク ヤン.  
良く 畏まる 命令  
神妙にしていなさい。

\*58 神話・聖伝の研究の神話、144 行目に heupa「傾ける」という語根がみられる。これと関係があるとみなして解釈する。

- 2588 Teeta kane  
テエタ カネ  
以前 音調  
昔から
- 2589 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい我・もつ兄  
わたしのちい兄さんに
- 2590 turen kashkamui  
トゥレン カシカムイ  
憑依する 守り神  
憑いていた守り神と
- 2591 sonno ukorachi ne  
ソンノ ウコラチ ネ  
真に 同じように 繫  
同じ神が
- 2592 kamui a-karku ne  
カムイ ア・カラク ネ  
神 我・甥 繫  
尊い甥にも憑いて
- 2593 humash.” ari  
フマシ” アリ  
気配がする 引用  
いるようだ。」と
- 2594 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言った。
- 2595 tane tokesh ne kusu  
タネ トケシ ネ クス  
今 日暮れ 繫 根拠  
日暮れ時になっていたの
- 2596 karkar kunip  
カッカカ クニフ  
刺繍する すべきもの  
叔母は縫物に
- 2597 kemeninu  
ケメニス  
針を留める  
針を刺し止めて
- 2598 shioshmak ne  
シオシマク ネ  
己の後ろ 繫  
後ろへ
- 2599 orarba kane  
オラバ カネ  
ずらす 同時  
下げ、
- 2600 yaikokutkoro-  
ヤイコクトコロ・  
己の体に帯を  
帯を
- 2601 yupba kane  
ユバ カネ  
縮める 同時  
直し
- 2602 oribak kane  
オリバク カネ  
畏まる 同時  
居ずまいを正した。
- 2603 a-karkar kunip  
ア・カッカカ クニフ  
我・刺繍をする すべきもの  
わたしも縫物に
- 2604 a-kemeninu  
ア・ケメニス  
我・針を差し留める  
針を刺し止め
- 2605 shioshmak un wa (p. 534)  
シオシマク ウン フ  
己の後ろ 方向 接続  
後ろの方へ
- 2606 a-oraiiba  
ア・オライバ  
握えられる  
下げて
- 2607 otop chinki  
オトフ チンキ  
髪 裾  
髪の毛先を
- 2608 a-eshitchiure kane  
ア・エシチウレ カネ  
我・床に垂らす 音調  
前に垂らして慎んだ。
- 2609 rabokita  
ラボキタ  
間に  
そのとき、
- 2610 tane eashiri  
タネ エアシリ  
今 強調  
今初めて
- 2611 taban kamui mau  
タバム カムイ マウ  
この 神 風  
大きな神の風の
- 2612 chashi kar be  
チャシ カラ ベ  
チャシ 打つもの  
邸に吹きつける音が
- 2613 kosebebatki.  
コセババトキ.  
鳴る  
ほのかに鳴った。
- 2614 Toyan kar be  
トヤン カラ ベ  
地面 打つもの  
地面を打つ音が
- 2615 koturimimse kane  
コトゥリミムセ カネ  
響き渡る 同時  
ヒューヒュー鳴った。
- 2616 rorunburai newa  
ロルンブライ ネワ  
神窓 と  
神窓と
- 2617 inausan ukouturke un  
イナウサン ウコウトウルケ ウン  
祭壇 間 方向  
外の幣棚の間に
- 2618 boro yukshike  
ボロ ユクシケ  
大きい 鹿の荷  
大きな獲物の鹿の荷を
- 2619 a-eyapkiri humi  
ア・エヤッカリ フミ  
我・投げる 音  
投げ出す音が
- 2620 rimkosamba.  
リムコサムバ.  
ドスンと鳴る  
ドスンと響いた。
- 2621 Humash awa  
フマシ アワ  
音がする 展開  
それを聞くと、
- 2622 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2623 chirikibumba  
チリキブムバ  
立ち上がる  
立ち上がって
- 2624 tekorumbe  
テコルムベ  
手の中のもの  
手を打つ音を
- 2625 airuke  
アイルケ  
音を立てる  
響かせながら
- 2626 iso etapkar  
イソ エタフカラ  
狐果 舞う  
豊獵を祝う
- 2627 iso erimse  
イソ エリムセ  
狐果 舞う  
舞を舞い、
- 2628 ehautumkonna-  
エハウトゥムコンナ・  
声  
歌を
- 2629 tununitara kane  
トゥヌニダラ カネ  
美しい音が響く 同時  
歌いながら
- 2630 ikokamahupte.  
イコカマフテ.  
獲物を神窓から入れる  
神窓から獲物を受け入れた。
- 2631 Chise sam ka ta  
チセ サム カ タ  
家 そば上 場所  
ちい兄さん(イヨチ彦)は
- 2632 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい我・もつ兄  
戸口へまわった。
- 2633 tumba mai kan  
トゥムバ マイ カン  
鐙 音 は  
帯びる刀のつばの音が
- 2634 tununitara.  
トゥヌニダラ.  
美しい音が響く  
響き渡った。
- 2635 Mosem tuyor  
モセム トウヨロ  
玄閣納屋 中  
ちい兄さんは下屋の中へ
- 2636 eshikirba.  
エシキリバ.  
向く  
向いた。
- 2637 Mosem tuyor un  
モセム トウイオルン  
玄閣納屋 中 方向  
下屋の中から、おとないを乞う
- 2638 taban chikutkesh  
タバム チクトケシ  
この 咳払い  
大きな咳払いの
- 2639 beure kutor  
ベウレ クトロ  
若い 喉  
若々しい喉には
- 2640 chiokanimai-  
チオカニマイ・  
金の響き  
金の響きが

- 2641 kotba kane  
コトバ カネ  
つける 同時  
結びつき、
- 2642 chimaknaraiba.  
チマクナライバ、  
中に入る  
家の中まで美しく響いた。
- 2643 Ratki aba  
ラトキ アバ  
垂れ下がった 簾戸  
戸口に下がる 御簾の裾が
- 2644 omausuibare.  
オマウスイバレ、  
風で揺れる  
風で揺れた。
- 2645 Mintar ka ta  
ミンタラ カ タ  
土間 上 場所  
土間に
- 2646 rutkosamba  
ルトコサムバ  
サッと入り  
足を踏み入れる
- 2647 humi ash koroka  
フミ アシ コロカ  
気配 立つ 逆接  
音がしたが、
- 2648 hebuni boka  
ヘブニ ボカ  
顔を上げる さえ  
わたしは顔を上げることも
- 2649 hosari boka  
ホサリ ボカ  
振り向く だけ  
顔を向けることも
- 2650 a-yainiukeshte kane  
ア・ヤイニウケシテ カネ  
我・できない 同時  
できないで
- 2651 i-kosoturashi humash  
イ・コソトゥラシ フマシ  
我に向かって座を横切る 気配がする  
座を伝いわたしに近づいてくる
- 2652 tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
気配を感じた。そこで
- 2653 hemakashi wa  
ヘマカシ ワ  
奥から から  
わたしは後ろへ
- 2654 hoshishibi-an chiki (p. 535)  
ホシシビ・アン チキ  
後ずさりする・我 条件  
後ずさりした。
- 2655 i-kotcha ne  
イ・コトチャ ネ  
我・前 繋  
わたしの前を
- 2656 urekushte  
ウレクシテ  
足を運ぶ  
足を運び、
- 2657 hoka etok ta  
ホカ エトク タ  
炉 前方 場所  
炉の先 (上座) に
- 2658 a hum konna  
ア フム コンナ  
座る 音 は  
音を立てて
- 2659 naikosamba.  
ナイコサムバ、  
鳴り響く  
座った。
- 2660 A i moire  
ア イ モイレ  
座る 形名 遅い  
座るやいなや
- 2661 kamui huchi  
カムイ フチ  
神 祖母  
火の神に
- 2662 kotekrikikur-  
コテクリキクル・  
手を高々と  
手を高々と
- 2663 bumba kane  
ブムバ カネ  
上げる 同時  
挙げて、
- 2664 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ、
- 2665 tan tewano\*<sup>59</sup>  
タン テワノ  
この これから  
今から、
- 2666 kamui ewaki  
カムイ エウキ  
神 住まい  
この宮居を
- 2667 shikkashima wa  
シッカシマ ワ  
見守る 接続  
守っている
- 2668 kamui nomi kuni  
カムイ ノミ クニ  
神 祈る 必然  
神を礼拝しようとした。
- 2669 Kamui koinkar  
カムイ コインカラ  
神 見守る  
神の恵みがあるようにと、
- 2670 kamui shikaobikire  
カムイ シカオビキレ  
神 守ってもらう  
神が守ってくれるように、などと
- 2671 kuni hene  
クニ ヘネ  
必然 も  
礼拝したが、
- 2672 ineapkusku  
イネアックス  
何と  
なんと
- 2673 wayashnu wa  
ワヤシヌ ワ  
賢い 接続  
賢くもの言う
- 2674 hawash nankora.  
ハワシ ナンコラ、  
言われる だろうか  
ことだろう。
- 2675 Chise soba un hene  
チセ ソバ ウン ヘネ  
家 上座 方向 も  
家の上座へも
- 2676 inausan or un hene  
イナウサン オルン ヘネ  
祭壇 所 方向 も  
外の幣棚へも
- 2677 arukorachi  
アルコラチ  
同じく  
同じように
- 2678 kamuikoitak.  
カムイコイタク、  
神に祈る  
礼拝した。
- 2679 Tap orowa  
タップ オロワ  
これ 始点  
それから
- 2680 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母の
- 2681 temkorkashi  
テムコロカシ  
両手の上  
両腕の中に
- 2682 osabaturiri noine  
オサバトゥリリ ノイネ  
頭を伸ばす らしく  
頭を伸ばす
- 2683 iramu-an chiki  
イラム・アン チキ  
思われる 条件  
ようだ。
- 2684 a-kor unarabe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2685 chish turanno  
チシ トウランノ  
泣く ともに  
涙を流しながら
- 2686 “Karkupo sambe  
“カルクポ サムベ  
甥 心臓  
「かわいい甥よ、
- 2687 popo sambe.”  
ポポ サムベ”  
子供 心臓  
かわいい子よ。」
- 2688 ari itak kane  
アリ イタク カネ  
引用 言う 同時  
と言いながら、
- 2689 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 ある もの  
神なる人の
- 2690 kasa reubok un  
カサ レウボク ウン  
笠 下 ある  
兜の下にある
- 2691 kimuikashike  
キムイカシケ  
頭の上  
頭の上を

\*<sup>59</sup> 原綴りは tentewano。

- 2692 koruiruiba humash  
コルイルイバ フマシ  
撫ぜる 気配がする  
撫でているようだ。\*60
- 2693 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2694 isenramkusu  
イセンラムクス  
いつものように  
いつもながらに
- 2695 itak rui kunip  
イタクルイ クニフ  
言葉 激しい すべきもの  
感情を言葉に出す\*61
- 2696 kone p ne kusu  
コネ プ ネ クス  
繋 もの 繋 根拠  
人なので
- 2697 nubetne itak  
ヌベトネ イタク  
喜ぶ 言葉  
喜びの言葉
- 2698 tu mina itak (p. 536)  
トゥ ミナ イタク  
二つの 笑う 言葉  
笑いの言葉を
- 2699 itashbare kane  
イタシバレ カネ  
交差させる 同時  
交互に繰り返した。
- 2700 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 ある もの  
神なる人
- 2701 huibe oro  
フイベ オロ  
生肉 所  
生肉に
- 2702 emush kushbare  
エムシ クシバレ  
刀 何度も通す  
刀を通し、
- 2703 kamui huchi  
カムイ フチ  
神 祖母  
火の神に
- 2704 baro iyushi.  
バロ イユシ.  
口 付ける  
捧げた。
- 2705 Tap orowa  
タフ オロワ  
これ 始点  
それから
- 2706 re sonabi kar wa  
レ ソナビ カラ ワ  
三つの 高盛の椀 作る 接続  
残りを三つに盛り分けて
- 2707 shine sonabi  
シネ ソナビ  
一つの 高盛の椀  
一盛りを
- 2708 a-koro unarbe kobuni.  
ア・コロ ウナラベ コブン.  
我・もつ 叔母 差し上げる  
叔母に捧げた。
- 2709 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2710 oribak tura  
オリバク トウラ  
畏まる とともに  
うやうやしく
- 2711 uturentekkor  
ウトウレンテックコロ  
両手で  
両手で
- 2712 uina wa  
ウイナ ワ  
手に取る 接続  
受け、
- 2713 rikunruke  
リクンルケ  
高くかざす  
高く
- 2714 raunruke  
ラウンルケ  
低くかざす  
低く上げ下げして
- 2715 koonkami wa  
コオンカミ ワ  
拝礼する 接続  
礼拝した。
- 2716 ohapseechiu kane e.  
オハプセエチウ カネ エ.  
ハップと言って感謝する 同時 食べる  
ハップと言って感謝して食べた。
- 3.3 苛み
- 2717 Shine sonabi  
シネ ソナビ  
一つの 高盛の椀  
(小イヨチ彦) はもう一盛りを
- 2718 uturentekkor  
ウトウレンテックコロ  
両手で持ち運ぶ  
両手で持ち、
- 2719 i-kotchake ta turiri.  
イ・コトチャケ タ トウリリ.  
我・前 場所 伸ばす  
わたしに差し伸べた。
- 2720 Ouse ochike kishma  
オウセ オチケ キシマ  
ただ (だけ) 膳 抱える  
その膳をつかむ
- 2721 barateke batek  
バラテケ バテック  
彼の手 のみ  
手だけが
- 2722 a-nukar chiki  
ア・ヌカチキ  
我・見る 条件  
目に入ったが、
- 2723 nekon ne ruwe  
ネコン ネ ルウエ  
どのように 繋 跡  
どうした
- 2724 ne nankora.  
ネ ナンコラ.  
繋 だろうか  
ことなのだろう。
- 2725 Sonno sattek hine  
ソンノ サトテック ヒネ  
真に やせた 接続  
脂の失せてやせ細った手で、
- 2726 bonekan-  
ボネカン・  
骨  
骨が
- 2727 tararke kane  
タララケ カネ  
露わになる 音調  
透けて見えるほどだった。
- 2728 shiran chiki  
シラン チキ  
有様である 条件  
それを見て
- 2729 iyoyamokte-an kane  
イヨヤモクテ・アン カネ  
不思議に思う・我 同時  
どうしたのだろう、と不思議に思った。\*62
- 2730 oribak tura  
オリバク トウラ  
畏まる とともに  
慎んで
- 2731 taban ochike  
タバン オチケ  
この 膳  
その膳を
- 2732 a-uina awa  
ア・ウイナ アワ  
我・取る 展開  
受け取ると、
- 2733 seenenaksui  
セエネナクスイ  
よもやまた  
そんな言葉を
- 2734 hawash kuni  
ハワシ クニ  
言われる 必然  
聞こうとは
- 2735 a-ramu rok i  
ア・ラム ロキ  
我・思う 完了 形名  
思いもしなかったのに、
- 2736 hakakno itak  
ハカクノ イタク  
ほんのかすかにささやく 言葉  
とても低いさなささやきの
- 2737 i-koterkere  
イ・コテレケレ  
我・とばす  
言葉がわたしに向けられ、
- 2738 rui itak ne  
ルイ イタク ネ  
激しい 言葉 繋  
それが激しい言葉となって
- 2739 a-buishutkashi  
ア・ブイシュトカシ  
我・耳穴  
わたしの耳元が
- 2740 chiikurure hawe  
チイクルレ ハウエ  
届く 声  
グラグラした。

\*60 「わたし」は顔を伏せているので、これらの情景を見ていない。

\*61 itak rui 「言葉が激しい」は、喜びや悲しみなど、感情表現が強く言葉に出る、ということであろう。

\*62 イヨチ彦の苦しみが暗示されている。

- 2741 ene okai i  
エネ オカイ  
このようにある 形名  
言うことには、
- 2742 “Hokure hokure  
“ホクレ ホクレ  
早く 早く  
「さあ、さあ、
- 2743 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 2744 Pon Ishkarunkuru  
ポン イシカルンクル  
小さい イシカリ彦  
神のごとき勇者の
- 2745 kamui rametok (p. 537)  
カムイ ラメトク  
神 勇者  
小イシカリ彦が
- 2746 pirikakoiki p e wa  
ピリカコイキ ヲ エ ワ  
上手に仕留めるもの 食べる 接続  
巧みに仕留めた獲物を食べて
- 2747 esambeshituri<sup>\*63</sup> yan  
エサムベシトゥリ ヤン  
心落ち着く 命令  
くつろいだ気持ちになり、
- 2748 etumashnu yan.  
エトゥマシヌ ヤン.  
元気になる 命令  
元気になりな。
- 2749 Orowa sui  
オロワ スイ  
始点 再び  
それからまた
- 2750 kanna ruino  
カンナ ルイノ  
上 甚だしく  
もう一度
- 2751 Iyochiumbe  
イヨチウムベ  
イヨチのやつ  
イヨチのやつ、あの
- 2752 wen ibesakbe  
ウェン イベサクベ  
悪い 獣の下手な者  
狩り下手の食いつぱぐれ、
- 2753 wen ibokashbe  
ウェン イボカシベ  
悪い 醜い容貌の者  
ブス男、
- 2754 yayeshiniukesh be  
ヤイエシニウケシ ベ  
己の糞にまみれ苦しむもの  
糞まみれ野郎の
- 2755 utarorke orushbe  
ウタロロケ オルシベ  
たち 話  
一党の話を
- 2756 naa ye yan.  
ナア イェ ヤン.  
まだ言う 命令  
もつとしてごらん。
- 2757 A-nu kushne na.  
ア・ヌ クシネ ナ.  
我・聞く 必然・意志 (訴え)  
聞いてやるよ。
- 2758 Nekona turbak  
ネコナ トウルバク  
どのように 届く  
どれほどの
- 2759 tapne rok  
タップネ ロク  
これである 完了  
下車たやつだったか、
- 2760 a-nimara a-oira na.”  
ア・ニマラ ア・オイラ ナ.”  
我・半分 我・忘れる (訴え)  
半分は忘れてしまったよ。]
- 2761 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言った。
- 2762 sonno a-keutumkurka  
ソンノ ア・ケウトウムクルカ  
真に 我・心  
わたしの心は
- 2763 turushitara.  
トゥルシタラ.  
もうろうとなる  
垢にまみれたように濁った。
- 2764 Nekona shino  
ネコナ シノ  
どのように まことに  
どう応え
- 2765 iki-an chiki  
イキ・アン チキ  
する・我 条件  
たら
- 2766 pirika nankora.  
ピリカ ナンコラ.  
よい だろうか  
いいのだろう。
- 2767 Chish turanno  
チシ トウランノ  
泣く とともに  
泣きながら
- 2768 taban ochike  
タバン オチケ  
この 膳  
その膳を
- 2769 a-uina  
ア・ウイナ  
我・取る  
受け取り、
- 2770 a-rikunruke  
ア・リクンルケ  
我・高くさしあげる  
上へ
- 2771 a-raunruke  
ア・ラウンルケ  
我・低くかざす  
下へと上げ下げして
- 2772 a-koonkami  
ア・コオンカミ  
我・拝礼する  
礼拝し、
- 2773 shikotcha ne  
シコトチャ ネ  
己の前 繫  
前に
- 2774 a-eante.  
ア・エアンテ.  
我・置く  
置いた。
- 2775 A-kor unarbe anakne  
ア・コロ ウナラベ アナクネ  
我・もつ 叔母 は  
叔母は
- 2776 tap i-ye-an hawe ka  
タップ イ・イエ・アン ハウェ カ  
これ 我・言われる 声 も  
神なる人がわたしに言ったことに
- 2777 koannotaine  
コアンノタイネ  
まったく気付かない  
まるで気づかずに
- 2778 ramma barorui  
ラムマ バロルイ  
いつも 口数多い  
口数多く
- 2779 koro okai.  
コロ オカイ.  
同時 ある  
おしゃべりをしていた。
- 2780 Kamui ne okai be  
カムイ ネ オカイ ベ  
神 繫 あるもの  
神なる人は
- 2781 sui yayoteknare  
スイ ヤヨテクナレ  
再び みずから手を下す  
ふたたび手ずからに
- 2782 boro shu oro  
ボロ シュ オロ  
大きい 鍋 所  
大きな鍋に
- 2783 wakka o wa  
ワッカ オ ワ  
水 入れる 接続  
水を入れて
- 2784 hoka tuika  
ホカ トウイカ  
炉 上  
火に
- 2785 eterkere.  
エテレケレ.  
跳ねとばす  
掛けた。
- 2786 Kam biye i  
カム ビイエ イ  
肉 脂がつく 形名  
脂ののった肉と
- 2787 kirbu biye i  
キルブ ビイエ イ  
脂身 脂がつく 形名  
脂身を
- 2788 shuworotauki  
シュウォロタウキ  
鍋の中でぶつぶつに切る  
鍋の中で切り、
- 2789 shu chi ko  
シュ チ コ  
鍋 煮える 条件  
煮えると
- 2790 sui yapte wa (p. 538)  
スイ ヤッテ ワ  
再び 火から下ろす 接続  
再び上げて
- 2791 re boro sonabi  
レ ボロ ソナビ  
三つの 大きい 高盛の碗  
三つに

\*63 原綴りは esambeshituri.

- 2792 kar wa shinep  
カラ ワ シネフ  
する 接続 一つ  
盛って、一つを
- 2793 a-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母に
- 2794 kobunikar.  
コブニカラ.  
供する  
捧げた。
- 2795 Shinep i-kobuni kor.  
シネフ イ・コブニ コロ.  
一つ 我・捧げる 同時  
もう一つをわたしにくれた。
- 2796 Hoshki ukorachi  
ホシキ ウコラチ  
先に 同じように  
さっきと同じように
- 2797 haweokai chiki  
ハウエオカイ チキ  
言う 条件  
言葉を掛けた。
- 2798 sonno ene wa boka  
ソンノ エネ ワ ボカ  
真に このように 接続 だけ  
本当に
- 2799 iki-an i ka isam.  
イキ・アニ カ イサム.  
する・我 形名 も ない  
どうしていいのかわからなかった。
- 2800 Nekona kera pirika p  
ネコナ ケラ ビリカ フ  
どのように 味 よい もの  
どれほどおいしいものを
- 2801 a-i-ere yakka  
ア・イ・エレ ヤッカ  
我・食べさせられる 譲歩  
食べさせられても
- 2802 tap korachi okai  
タフ コラチ オカイ  
これように ある  
このような
- 2803 chiramkoiki  
チラムコイキ  
心の苛み  
心の苛みが
- 2804 neitabakno  
ネタバクノ  
いつまでも  
いつまで
- 2805 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
緊 接続 緊 譲歩  
も
- 2806 a-i-y-ekarkar.  
ア・イ・イエカカラ.  
我・される  
続いた。
- 2807 Hawe ne ko anakne  
ハウエ ネ コ アナクネ  
声 緊 条件 は  
聞くだけでも
- 2808 sonno yairamushitne  
ソンノ ヤイラムシトネ  
真に 心苦しい  
まったく心苦しい
- 2809 takup ne.  
タクフ ネ.  
限定 緊  
だけであった。
- 2810 Nep a-e wa  
ネフ ア・エ ワ  
何 我・食べる 接続  
何を食べて
- 2811 ne yakka  
ネ ヤッカ  
緊 譲歩  
も
- 2812 keraha boka  
ケラハ ボカ  
味 だけ  
味さえ
- 2813 a-erambetek.  
ア・エラムベテク.  
人々・知らない  
しなかった。
- 2814 Sonno wembe  
ソンノ ウエムベ  
真に 悪いもの  
悪いことを、
- 2815 kamui bak buri  
カムイ バク ブリ  
神 背く 行い  
神にそむくふるまいを
- 2816 a-ki p somo ne  
ア・キ フ ソモ ネ  
我・するもの 否定 緊  
したわけでは
- 2817 rok okai.  
ロク オカイ.  
完了 ある  
ないのに。\*64
- 2818 Tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
今は
- 2819 toi barkoat  
トイ バラコアト  
土 罰  
ひどい
- 2820 wen barkoat a-ki  
ウェン バラコアト ア・キ  
悪い 罰 我・する  
罰を受け、
- 2821 sonno ramubekamam-an.  
ソンノ ラムベカマム・アン.  
真に 苦勞する・我  
苦しんだ。
- 2822 Ponnoka ibe ka  
ボンノカ イベ カ  
少しも 食事するも  
ちっとも食べ
- 2823 a-nukuri.  
ア・ヌクリ.  
我・嫌う  
られない。
- 2824 A-ebi obittano  
ア・エビ オビタノ  
我・食べ物 皆  
出されたものを
- 2825 a-mekare.  
ア・メカレ.  
我・食べ残す  
すべて残した。
- 2826 A-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
わたしの叔母は
- 2827 pirika shuke ki wa  
ピリカ シュケ キ ワ  
よい 炊事する 接続  
御馳走を作って
- 2828 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 緊 あるもの  
神なる人に
- 2829 ibere.  
イベレ.  
食べさせる  
食べさせた。
- 2830 Kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 緊 あるもの  
神なる人は
- 2831 moire ibe  
モイレ イベ  
遅い 食事する  
悠然と
- 2832 koyaikurka-  
コヤイクルカ・  
自らの上  
食べ
- 2833 oma kane  
オマ カネ  
ある 同時  
続けた。
- 2834 a-kor unarbe tura  
ア・コロ ウナラベ トウラ  
我・もつ 叔母 ともに  
叔母と
- 2835 uweneusar.  
ウウエネウサラ.  
お話しをする  
よもやま話をしていた。

## 3.4 小イヨチ彦の苦しみ

- 2836 Rabokita  
ラボキタ  
間に  
その間、
- 2837 otop ka utur  
オトフ カ ウトゥル  
髪 糸 間  
糸のように垂らした
- 2838 an-ebekare wa (p. 539)  
アネベカレ ワ  
我・透かす 接続  
前髪を透かして
- 2839 ponno or un  
ボンノ オルン  
少し 所 方向  
チラリと男の方を
- 2840 inkar-an awa  
インカラ・アン アフ  
見る・我 展開  
盗み見ると、
- 2841 somo ka un sui  
ソモ カ ウン スイ  
否定 も ある 再び  
ああ、

\*64 実際には交わらなかった、ということか。

- 2842 shiran kuni  
シラン クニ  
有様である 必然  
こんな有様を見ようとは
- 2843 a-ramu rok wa  
ア・ラム ロク ワ  
我・思う 完了 接続  
思いもしなかったのに、
- 2844 sonno homatu-an.  
ソンノ ホマトウ・アン.  
真に 驚く・我  
わたしは驚いた。
- 2845 Tumashnu p he tap ne  
トゥマシヌ プ ヘ タプ ネ  
丈夫になる もの 疑問 これ 繋  
丈夫が
- 2846 orsaureko  
オロサウレコ  
とんでもなく  
並々ならぬ (姿で)
- 2847 bayekai humi  
バイエカイ フミ  
行き来する 気配  
やって来て
- 2848 shuke kusu hene  
シュケ クス ヘネ  
炊事する 根拠 も  
肉をゆでたり
- 2849 ikichi  
イキチ  
する  
して、
- 2850 i-ramkoiki  
イ・ラムコイキ  
我・心を苛む  
われを苛んで
- 2851 hawe hene okai  
ハウエ ヘネ オカイ  
声 も ある  
ああは
- 2852 rok awa  
ロク アワ  
完了 展開  
言ったけれど、
- 2853 konep tashumi  
コネプ タシュミ  
何 病  
何か病気を
- 2854 konep ikoni  
コネプ イコニ  
何 病  
患い
- 2855 kichi rok be  
キチ ロク ベ  
する 完了 もの  
続けているのに違いなく、
- 2856 shino sattek  
シノ サトテク  
まことに やせた  
すっかりやせ細り、
- 2857 sonno  
ソンノ  
真に  
まるで
- 2858 ene an-an i  
エネ アン・アン イ  
このように いる・我 形名  
わたしと
- 2859 korachi  
コラチ  
ように  
同じように
- 2860 somo ibe p  
ソモ イベ プ  
否定 食事するもの  
何も食べていない
- 2861 ne kotom ne  
ネ コトム ネ  
繋 ようである 繋  
のか、
- 2862 nanbone ka  
ナンボネ カ  
頬骨 上  
頬骨が
- 2863 chikotarara kane  
チコタララ カネ  
突き出す 同時  
突き出していた。
- 2864 ibottum konna  
イボトウム コンナ  
顔色 は  
表情が
- 2865 koshumnatara kane  
コシユムナタラ カネ  
萎れている 同時  
萎れたようになっていた。
- 2866 kipnekoroka  
キップネコロカ  
しかし  
とはいえ、
- 2867 rametok iboro  
ラメトク イボロ  
勇者 顔色  
際立った勇士の面立ちが
- 2868 eibottumu-  
エイボトウム・  
顔色  
顔色に
- 2869 shinnai kane  
シンナイ カネ  
違った 音調  
際立っていた。
- 2870 eashka boo hene  
エアシカ ボオ ヘネ  
顔る なおさら も  
わたしは、ますます
- 2871 a-montumkonna-  
ア・モントウムコンナ・  
我・腕  
腕から
- 2872 koshumnatara.  
コシユムナタラ.  
萎れている  
力が抜けていくよう思えた。
- 2873 Wen-an shiri  
ウエン・アン シリ  
悪い・我 様子  
わたしが悪くて、
- 2874 otui-an shiri  
オトウイ・アン シリ  
女のような・我 様子  
あさましい女のふるまいで
- 2875 a-wenrenkabi  
ア・ウエンレンカビ  
我・悪しき定め  
悪い宿命で
- 2876 oman ikiri  
オマン イキリ  
行く 列  
こうしたいきさつと
- 2877 kusu nesun  
クス ネスン  
根拠 こそ  
なったのか、
- 2878 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 2879 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神なる人を
- 2880 a-chishte ruwe  
ア・チシテ ルウェ  
我・泣かせる 跡  
苦しませたの
- 2881 okai chiki  
オカイ チキ  
ある 条件  
だった。
- 2882 sonno a-eashkai be  
ソンノ ア・エアシカイ ベ  
真に 我・できる もの  
できること
- 2883 ne wa ne yakne  
ネ ワ ネ ヤクネ  
繋 接続 繋 条件  
ならば
- 2884 taban a-netoba  
タバン ア・ネトバ  
この 我・体  
わが身が
- 2885 a-tatatata yakka  
ア・タタタタ ヤッカ  
我・切り刻む 譲歩  
切り刻まれてもかまわない、と
- 2886 kera a-nu somoki  
ケラ ア・ヌ ソモキ  
味 我・聞くしない  
ものも味わえない
- 2887 bakno yayebokba-an. (p. 540)  
バックノ ヤイエボクバ・アン.  
まで 自らを責める  
ほど自分を責めた。
- 2888 Otu sui an ta  
オトゥ スイ アン タ  
二つの回 ある これ  
何度も
- 2889 ore sui an ta  
オレ スイ アン タ  
三つの回 ある これ  
何度も
- 2890 a-yaikeuor-  
ア・ヤイケウオロ・  
我・体  
死のうと
- 2891 ochiwe kushne yakka  
オチウエ クシネ ヤッカ  
捨てる 必然・意志 譲歩  
したが、
- 2892 a-eaikap shiri.  
ア・エアイカプ シリ.  
我・できない 様子  
できなかった。
- 2893 Ene wa boka  
エネ ワ だけ  
このように 接続 さえ  
どうしようも
- 2894 iki-an i ka isam.  
イキ・アニカ イサム.  
する・我 形名 も ない  
なかった。

- 2895 **Amsset ka ta**  
アムセト カ タ  
寝台 上 場所  
叔母は
- 2896 **pirika sotki**  
ピリカ ソトキ  
よい 寝床  
寝台に
- 2897 **a-kor unarbe**  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
よい寝床を
- 2898 **kar wa**  
カラ ワ  
する 接続  
整えて、
- 2899 **oro ta kamui ne am be**  
オロ タ カムイ ネ アム ベ  
所 場所 神 繋 あるもの  
そこに神なる人を
- 2900 **hotkere.**  
ホトケレ.  
寝かせる  
寝かせた。
- 2901 **Anihi ne yakka**  
アニヒ ネ ヤッカ  
彼 繋 譲歩  
自分(叔母)は
- 2902 **hotke abe erawo.**<sup>\*65</sup>  
ホトケ アベ エラウオ.  
寝る 火 うずめる  
火を灰に埋めた。
- 2903 **Tap orowa**  
タフ オロワ  
これ 始点  
それから
- 2904 **aokai ne yakka**  
アオカイ ネ ヤッカ  
我 繋 譲歩  
わたしも
- 2905 **sotki asam**  
ソトキ アサム  
寝床 底  
寝床の底に
- 2906 **a-korawoshma.**  
ア・コラウoshマ.  
我・に突進する  
身を沈めた。
- 2907 **Nekona tap ne**  
ネコナ タフ ネ  
どのようにこれ 繋  
どうあっても
- 2908 **ohaine kane**  
オハイン カネ  
なるほど 音調  
当然、
- 2909 **kamui ne am be**  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神なる人は
- 2910 **i-ebokba**  
イ・エボクバ  
我・憎む  
わたしを憎み、
- 2911 **i-koirushka humi**  
イ・コイルシカ フミ  
我・怒る 気配  
わたしに怒りを覚えて
- 2912 **okai be an.**  
オカイ ベ アン.  
あるもの ある  
いるのだ。
- 2913 **Nekon ka tane wa**  
ネコン カ タネ ワ  
どのようにも 今 から  
どうか、今から
- 2914 **mut chimuttam**  
ムト チムトタム  
差す 佩刀  
帯びる佩刀の
- 2915 **notak kurkashi**  
ノタク クルカシ  
刃 上  
刃で
- 2916 **i-etuye wa**  
イ・エトウイェ ワ  
我・切る 接続  
わたしを斬って
- 2917 **i-kore okai**  
イ・コレ オカイ  
我・与える ある  
ほしいもの
- 2918 **ari batek**  
アリ バテック  
引用のみ  
とばかり
- 2919 **yainu-an kane**  
ヤイヌ・アン カネ  
考える・我 同時  
思っ、
- 2920 **ponnoka somo**  
ボンノカ ソモ  
少しも 否定  
少しも
- 2921 **mokor-an no**  
モコロ・アン ノ  
眠る・我ら 接続  
眠らずに
- 2922 **anebittano**  
アネビタノ  
夜間ずっと  
一晩中
- 2923 **a-yainube-**  
ア・ヤイヌベ.  
我・己の涙  
涙を
- 2924 **koshiru kane**  
コシル カネ  
こする 同時  
こすっていた。
- 2925 **kamui ne am be**  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神なる人
- 2926 **ne wa ne yakka**  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
も
- 2927 **somo mokor kotomno**  
ソモ モコロ コトムノ  
否定 眠る ように  
寝付けられない
- 2928 **iramu-an.**  
イラム・アン.  
思われる  
らしい。
- 2929 **A-kor unarbe anakne**  
ア・コロ ウナラベ アナクネ  
我・もつ 叔母 は  
叔母は
- 2930 **sonno mokonno p ne kusu**  
ソンノ モコンノ フ ネ クス  
真に よく眠る もの 繋 根拠  
よく寝入っていて、
- 2931 **mokor hesere.**  
モコロ ヘセレ.  
眠る 息をたてさせる  
眠りが寝息をたてさせた。

## 3.5 祭りの準備

- 2932 **Nei shimke**  
ネ シムケ  
繋 翌日  
その翌日
- 2933 **kamui ne am be**  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 あるもの  
神なる人が
- 2934 **ene itak i**  
エネ イタキ  
このように言う 形名  
こう言った。
- 2935 **“Konin kusu**  
“コニン クス  
もしもし 根拠  
「もしもし、
- 2936 **a-kor unarbe** (p. 541)  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母さん、
- 2937 **harukesh boka**  
ハルケシ ボカ  
食物の残り だけ  
雑穀の残りでも
- 2938 **okai chiki**  
オカイ チキ  
ある 条件  
あれば、
- 2939 **sake shuiba wa**  
サケ シュイバ ワ  
酒 炊く 接続  
炊いて
- 2940 **i-kore kunak**  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
酒を醸し
- 2941 **ramu yan.**  
ラム ヤン.  
思う 命令  
ませんか。
- 2942 **Tanebo konna**  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 2943 **base kamui ewaki**  
ハセ カムイ エワキ  
重い 神 住まい  
尊い神の住いの
- 2944 **upsoro ta**  
ウツソロ タ  
内部 場所  
中で、

\*65 原綴りは erawo an。この an を省く。

- 2945 pon tonoto boka<sup>\*66</sup>  
ボン トノト ボカ  
小さい 酒 さえ  
いささかの酒を
- 2946 a-shikupka wa  
ア・シクッカ ワ  
我・醸す 接続  
醸し、
- 2947 oyakak ta okai  
オヤカク タ オカイ  
あちらこちら 場所 ある  
あちらこちらに住まう
- 2948 a-utari utar  
ア・ウタリ ウタラ  
我・親族 たち  
わが一族の者らを
- 2949 a-tak unukar-an  
ア・タク ウヌカラ・アン  
我・招く 会う・我  
招き、会見し、
- 2950 uwenubetne-an.  
ウウエヌベトネ・アン.  
喜ぶ・我  
喜びを分かち合いたい。
- 2951 Kamuinomi-an.  
カムイノミ・アン.  
神に祈る・我  
祭りをしたい。
- 2952 Ikir kesh ta  
イキリ ケシ タ  
列 末端 場所  
そのあとで、
- 2953 shinurapba hemem  
シヌラッパ ヘメモ  
先祖を祭る も  
先祖祭りなどを
- 2954 a-ki wa  
ア・キ ワ  
我・する 接続  
して、
- 2955 a-eramushinne  
ア・エラムシンネ  
我・心落ち着く  
わが心を静めたい
- 2956 kusune na.” ari  
クスネ ナ” アリ  
意志 (訴え) 引用  
のです。」と
- 2957 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言った。
- 2958 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 2959 katune kane  
カトゥネ カネ  
姿をとる 音調  
いつもどおりに
- 2960 enubetne kunip  
エヌベトネ クニッ  
喜ぶ すべきもの  
喜ぶ
- 2961 ne wa ne yakne  
ネ ワ ネ ヤクネ  
繋 接続 繋 条件  
ならば
- 2962 kotom korokaiki  
コトム コロカイキ  
ようである 逆接  
不思議はないが、
- 2963 “Ruweun ohaine.  
“ルウェウン オハイネ.  
そうだ(肯定) なるほど  
「なるほどもっともなことです。」
- 2964 Sonno a-chibachiba  
ソンノ ア・チバチバ  
真に 我・望む  
それこそ望んでいた
- 2965 rok be.” ari  
ロク ベ” アリ  
完了 もの 引用  
ことです。」と
- 2966 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言って、
- 2967 orikutkoro kane  
オリクトコロ カネ  
帯高に締める 同時  
帯を高く締め直し、
- 2968 soyoterke  
ソヨテレケ  
外に出る  
外へ出て
- 2969 yakura kurka  
ヤクラ クルカ  
樽 上  
やぐらの上に
- 2970 chieashi.  
チエアシ.  
立つ  
立った。
- 2971 Yaikotan bake  
ヤイコタン バケ  
己の村 先頭  
自分の村のかみと
- 2972 yaikotan kesh  
ヤイコタン ケシ  
己の村 末端  
しもとに
- 2973 kohawotuire.  
コハワウトウイレ.  
声を飛ばす  
声を飛ばした。
- 2974 “Tapne ne kusu  
“タフネ ネ クス  
これである 繋 根拠  
「こういうわけだから、
- 2975 a-utari utar  
ア・ウタリ ウタラ  
我・親族 たち  
一族の者よ、
- 2976 i-kasui wa  
イ・カスイ ワ  
我・手伝う 接続  
どうか
- 2977 i-kore kunak  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
手伝いに
- 2978 ramu yan.” ari  
ラム ヤン” アリ  
思う 命令 引用  
来てください。」と
- 2979 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
いうと、
- 2980 inerokbekusu  
イネロクベクス  
感嘆  
なんとまあ、
- 2981 a-utari utar  
ア・ウタリ ウタラ  
我・親族 たち  
近隣の者たちは
- 2982 uitaknu wa  
ウイタクヌ ワ  
言うことを聞く 接続  
言うことを聞いてくれて、
- 2983 hawash. (p. 542)  
ハワシ.  
言われる  
応じる声があった。
- 2984 Nani kotam bake  
ナニ コタム バケ  
すぐに 村 先頭  
すぐに村のかみと
- 2985 kotan kese  
コタン ケセ  
村 末端  
村のしもとに
- 2986 ainu kutkesh  
アイヌ クトケシ  
人間 喉の末  
人のざわめきが
- 2987 sarasara.  
サラサラ.  
人の立てる音がする  
聞こえた。
- 2988 Ponno shiran tekko  
ボンノ シラン テッコ  
少し ときがたつ ちょっとして  
まもなくして、
- 2989 nishpa moyono  
ニシパ モヨノ  
長者 少なく  
数少ない長者と
- 2990 katkemat moyono  
カトケマト モヨノ  
婦人 少なく  
その夫人が
- 2991 oribak tura  
オリバクトウラ  
畏まる とともに  
慎重深く
- 2992 shiaworaiba.  
シアウオリイバ.  
家の中に入る  
入ってきた。
- 2993 Iwan kutomap  
イワン クトマップ  
六 樽  
六つの樽が
- 2994 a-ebuikare  
ア・エブイカレ  
我・倉から出す  
倉から出され、
- 2995 iyuta p  
イユタ プ  
白をつくもの  
雑穀を搗くもの、

\*66 原綴りは pontonoboka. tono を tonoto とする。

- 2996 wakkata p  
ワッカタ プ  
水を汲む もの  
水を汲むもの、
- 2997 nina p  
ニナ プ  
たき木を集める もの  
焚き木を集めるもの、
- 2998 inauni tuiba p  
イナウニ トウイバ  
木幣にする木 切る もの  
イナウ (幣) の木を切るもの、
- 2999 shuke kunip  
シュケ クニプ  
炊事する すべきもの  
料理の準備をするものが
- 3000 chitashbare  
チウタシバレ  
入り混じる  
立ち混じり
- 3001 uwemombok  
ウウエモムボク  
手  
手を
- 3002 tushmak kane  
トゥシマク カネ  
競う 同時  
忙しく動かした。
- 3003 irukai ne ko  
イルカイ ネ コ  
しばらくの間 繫 条件  
しばらくすると
- 3004 iwanshintoko  
イワン シントコ  
六人 ほかい  
六つのシントコ (ほかい) が
- 3005 ror a-oraiba.  
ロロ ア・オライバ.  
上座 揺えられる  
上座に並べられた。
- 3006 Tutko rerko  
トゥトコ レレコ  
二日 三日  
二日、三日
- 3007 shiri an chiki  
シリ アン チキ  
様子 ある 条件  
すると、
- 3008 kamui e rusui kunip  
カムイ エ ルスイクニプ  
神 食べる したい すべきもの  
神が食べたいと思うものに
- 3009 kone p ne kusu  
コネ プ ネ クス  
繫 もの 繫 根拠  
ほかならないから、
- 3010 pirika tonoto  
ピリカ トノト  
よい 酒  
よい酒の
- 3011 keran hura mawe  
ケラン フラ マウエ  
おいしい 匂い 風  
おいしい香りが
- 3012 chise upsoroho  
チセ ウッソロホ  
家 内部  
家の中に
- 3013 eetushnatki.  
エエトウシナトキ.  
満ちる  
みなぎった。
- 3014 Sui a-utari uwekarba  
スイ ア・ウタリ ウエカラバ  
再び 我・親族 集まる  
手伝いの者たちが戻ってきて
- 3015 inumba kunip  
イヌムバ クニプ  
濾す すべきもの  
酒を濾すものは
- 3016 ukoichari-  
ウコイチヤリ.  
酒を濾す  
ざるを忙しく動かして
- 3017 bashte kane  
バシテ カネ  
走らせる 音調  
漉した。
- 3018 inauke sash hum  
イナウケ サシ フム  
木幣を削る 噪音を立てる 1音  
イナウを削る音、
- 3019 inumba sash hum  
イヌムバ サシ フム  
濾す 噪音を立てる 1音  
酒を漉す音が
- 3020 uwobuk humi  
ウウオブク フミ  
連続して音が響く 音  
断続して
- 3021 kosashnatara.  
コサシナタラ.  
響く  
響いた。
- 3022 Anramasu  
アンラマス  
まったく好ましい  
好ましく思う心が
- 3023 a-uwesuye.  
ア・ウウエスイエ.  
我・思う  
わたしの内に揺曳した。
- 3024 Kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 ある もの  
神なる人が
- 3025 ke inau  
ケ イナウ  
削る 木幣  
削ったイナウの削り花が
- 3026 sonno tu kamui nish ne  
ソノン トウ カムイ ニシ ネ  
真に 二つの 神 空 繫  
まこと多くの神雲と
- 3027 re kamui nish ne  
レ カムイ ニシ ネ  
三つの 神 空 繫  
なって
- 3028 yayebumba.  
ヤイエブムバ.  
立ちのぼる  
立ち昇った。
- 3029 Nishpa utar  
ニシパ ウタラ  
長者 たち  
長者たちが
- 3030 ukoerayap hawe  
ウコエラヤフ ハウエ  
皆驚く 声  
感嘆する声が
- 3031 roise kane  
ロイセ カネ  
大勢の人の声をする 同時  
響いた。
- 3032 hushko inau  
フシコ イナウ  
以前 木幣  
古いイナウは
- 3033 soi a-o  
ソイ ア・オ  
家の外 我・入れる  
外に出され、
- 3034 ashiri inau  
アシリ イナウ  
新しい 木幣  
新しいイナウで
- 3035 kamui ewaki (p. 543)  
カムイ エワキ  
神 住まい  
神の住いが
- 3036 a-etomte.  
ア・エトムテ.  
輝いている  
飾られた。
- 3037 Boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさらも  
ますます
- 3038 chise upsororo  
チセ ウッソロ  
家 内部  
家の中が
- 3039 retar urar  
レタラ ウララ  
白い 霧  
白い霧やで
- 3040 eetushnatatki.  
エエトウシナトナトキ.  
みなぎる  
かすんだ。
- 3041 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母が
- 3042 shutketushi  
シュトケトウシ  
女物の鞆  
女物のかばんに
- 3043 tekkushbare  
テックシバレ  
手を通す  
手をいれて
- 3044 sapte kunip  
サッテ クニプ  
出す すべきもの  
取り出したものを
- 3045 a-nukar chiki  
ア・ヌカラ チキ  
我・見る 条件  
わたしは見ると、
- 3046 iyainumare  
イヤイヌマレ  
驚いた  
なんという見事なもの、
- 3047 horkeu hebur  
ホロケウ ヘブル  
狼 毛皮  
狼の毛皮の
- 3048 kotbar ka ta  
コトバラ カ タ  
襟元 上 場所  
胸元と

- 3049 **chinki ka ta**  
チンキ カ タ  
裾 上 場所  
裾周りに
- 3050 **sep birankani**  
セツ ビランカニ  
幅広い 平金  
幅広の平金が
- 3051 **chiekarbare**  
チエカラバレ  
取り囲む  
ぐるりと巻いていて、
- 3052 **birankani kurka**  
ビランカニ クルカ  
平金 上  
平金の上は
- 3053 **tu kani shiriki**  
トゥ カニ シリキ  
二つの 黄金 模様  
おびただしい金の
- 3054 **re kani shiriki**  
レ カニ シリキ  
三つの 黄金 模様  
模様で
- 3055 **chietomtekar.**  
チエトムテカラ.  
飾られている  
飾られていた。
- 3056 **Kurkashike**  
クルカシケ  
上  
その上には
- 3057 **tu kamui chupki**  
トゥ カムイ チュフキ  
二つの 神 光  
神々しい光が
- 3058 **re kamui chupki**  
レ カムイ チュフキ  
三つの 神 光  
数多く
- 3059 **uweshimaka.**  
ウエシマカ.  
盛んに光る  
輝いていた。
- 3060 **Kamui chibanup**  
カムイ チバナフ  
神 冠り物  
立派な鉢巻の
- 3061 **chitomtep**  
チトムテフ  
輝かしい物  
麗々しいのと
- 3062 **koeun kane**  
コエウン カネ  
いっしょに 音調  
ともに
- 3063 **kamui ninkari**  
カムイ ニンカリ  
神 耳飾り  
立派な耳輪と
- 3064 **kamui tamasai**  
カムイ タマサイ  
神 胸飾り  
立派な胸飾り、
- 3065 **kani tamasai**  
カニ タマサイ  
黄金 胸飾り  
金の胸飾り、
- 3066 **koeun kane**  
コエウン カネ  
いっしょに 音調  
それに加えて
- 3067 **sarambe kut turanno**  
サラムベ クト トウランノ  
絹 帯 ともに  
絹の帯とともに
- 3068 **boro tutukko<sup>\*67</sup> i-kore.**  
ボロ トウトウッコ イ・コレ.  
大きい 小包 我・与える  
大きな包みをわたしにくれた。
- 3069 **Kurkashike**  
クルカシケ  
上  
くれながら
- 3070 **itakomare**  
イタコマレ  
言う  
叔母は
- 3071 **hawe ene okai i**  
ハウエ エネ オカイ  
声 このように ある 形名  
こう言った。
- 3072 **“Tap okai be anakne**  
“タップ オカイ ベ アナクネ  
これ ある もの は  
これらのものは
- 3073 **kamui e-kot totto**  
カムイ エ・コト トトト  
神 汝・持つ 母  
おまへの母上様が
- 3074 **eshiyuk be**  
エシユク ベ  
盛装する もの  
身につけられた
- 3075 **tap tap okai.**  
タップ タップ オカイ.  
これ これ ある  
ものです。おまへのために
- 3076 **E-koshikkashima-am be ne.**  
エ・コシッカシマ・アム ベ ネ.  
汝・ためにしまう・我 もの 繫  
しまっておきました。
- 3077 **Tanebo konna**  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ、おまへは
- 3078 **menoko bakno**  
メノコ バクノ  
女 まで  
女に
- 3079 **e-shikup.**  
エ・シクフ.  
汝・成長する  
なった。
- 3080 **Tan tewano**  
タン テワノ  
この これから  
これからは
- 3081 **tan okai be**  
タン オカイ ベ  
この ある もの  
こういうものを
- 3082 **e-shiyuk wa**  
エ・シユク ワ  
汝・身に着ける 接続  
身にまとい、
- 3083 **e-kot totto ukorachino**  
エ・コト トトト ウコラチノ  
汝・持つ 母 同じように  
母親と同様、
- 3084 **kamui katkemat buri (p. 544)**  
カムイ カトケマト ブリ  
神 婦人 行い  
尊い淑女のようにふるまえる
- 3085 **eashkai<sup>\*68</sup> wa**  
エアシカイ ワ  
できる 接続  
のだから、
- 3086 **pon e-kor yubi**  
ポン エ・コロ ユビ  
小さい 汝・持つ 兄  
おまへのちい兄さん（ちい兄さん）の
- 3087 **chibaroshuke**  
チバロシユケ  
世話をする  
お食事の世話を
- 3088 **e-ekarkar kusune no.**  
エ・エカラカラ クスネ ノ.  
汝・する 意志 接続  
しなさい。
- 3089 **Tane mi wa**  
タネ ミ ワ  
今 着る 接続  
さあ、これを着て
- 3090 **iyomare yan.” ari**  
イヨマレ ヤン.” アリ  
酒を注ぐ 命令 引用  
お酌をしてあげなさい。」と
- 3091 **hawash chiki**  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言った。
- 3092 **sonno isam-an anke**  
ソンノ イサム・アン アンケ  
真に 死ぬ・我 しようとする  
まったく死ぬほど
- 3093 **rai<sup>\*69</sup> anke**  
ライ アンケ  
死ぬ しようとする  
死ぬほど
- 3094 **yash toma-an kasui.**  
ヤシトマ・アン カスイ.  
恥ずかしい・我 甚だしい  
あまりにも恥ずかしかった。
- 3095 **Nekona tap ne**  
ネコナ タップ ネ  
どのようにこれ 繫  
どうしてだか
- 3096 **kamui ne am be**  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 ある もの  
神なる人は

\*67 原綴りは tutuko.

\*68 e-eashkai となるべきところ。

\*69 rai-an となるべきところ。

- 3097 nu ko emina  
ヌ コ エミナ  
聞く 条件 それを笑う  
それを聞くと笑って
- 3098 esapse humi  
エサナセ フミ  
馬鹿にする 気配  
馬鹿にしている
- 3099 okai be an.  
オカイ ベ アン.  
ある もの ある  
ようだった。
- 3100 Inunukashiki  
イヌヌカシキ  
可哀想に  
哀れなことに
- 3101 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 3102 tapne kane  
タップネ カネ  
これである 音調  
このように
- 3103 a-koitakkashi wa  
ア・コイタッカシ ワ  
我・言葉にそむく 接続  
わたしが言葉にそむき、
- 3104 wemburi ne yakka  
ウエムブリ ネ ヤッカ  
悪い振る舞い 繋 譲歩  
悪いふるまいの中でも
- 3105 senne saure  
センネ サウレ  
否定 軽輩の  
もっとも悪いことを
- 3106 a-ki i ka  
ア・キ イ カ  
我・する 形名 も  
してしまったことにさえ
- 3107 koannotaine kane  
コアンノタイネ カネ  
まったく気付かない 同時  
気づかずに
- 3108 neitabakno  
ネタバクノ  
いつまでも  
いつまでも
- 3109 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繋 譲歩  
きりなく
- 3110 tu pirika kunip  
トゥ ビリカ クニプ  
二つの よい すべきもの  
良き事を
- 3111 re pirika kunip  
レ ビリカ クニプ  
三つの よい すべきもの  
数々、
- 3112 batek i-ebakashnu  
バテク イ・エバカシヌ  
のみ 我・教える  
そればかりを
- 3113 hawe okai chiki  
ハウエ オカイ チキ  
声 ある 条件  
言うので、
- 3114 sonno wen yashtoma  
ソンノ ウエン ヤシトマ  
真に 悪い 恥ずかしい  
ひどくひどく恥ずかしい
- 3115 toiyashtoma a-ki kane  
トイヤシトマ ア・キ カネ  
ひどく恥ずかしい 我・する 同時  
思いをした。
- 3116 eebakita  
エエバキタ  
次に  
次に
- 3117 kamui a-kot totto  
カムイ ア・コト トトト  
神 我・持つ 母  
わたしの尊い母が
- 3118 eshiyuk be  
エシユク ベ  
盛装する もの  
まとった晴れ着の
- 3119 saureko okai be  
サウレコ オカイ ベ  
少なからず ある もの  
おろそかにできない立派なものを
- 3120 wembe a-ne shiri  
ウエムベ ア・ネ シリ  
悪いもの 我・繋 様子  
わたしのような悪い女が
- 3121 a-mi boka  
ア・ミ ボカ  
我・着る だけ  
着るのも
- 3122 niukesh koroka  
ニウケシ コロカ  
しかねる 逆接  
つらいけれど、
- 3123 a-mi kusu ne a p  
ア・ミ クス ネ ア プ  
我・着る 根拠 繋 完了 もの  
その着ると定めされたものに
- 3124 a-mi wa  
ア・ミ ワ  
我・着る 接続  
袖とおし、
- 3125 shiyuk-an wa  
シユク・アン ワ  
盛装する 接続  
盛装して
- 3126 inkar-an ko  
インカラ・アン コ  
見る・我 条件  
みたら、
- 3127 sonno tane anakne  
ソンノ タネ アナクネ  
真に 今 は  
今やまったく
- 3128 a-netobake  
ア・ネットバケ  
我・身体  
自分の体が
- 3129 ponno ka somo a-nukar.  
ボンノ カ ソモ ア・ヌカラ.  
少し も 否定 我・見る  
少しも見えなくなった。
- 3130 Okutchi urar  
オクトチ ウララ  
たちこめる 霧  
濃いもやの
- 3131 urar tumu  
ウララ トムム  
霧 中  
中に
- 3132 a-yayomare.  
ア・ヤヨマレ.  
我・みずから入れる  
みずから置いていた。
- 3133 a-tomsamkonna- (p. 545)  
ア・トムサムコンナ・  
我・身の周り  
身のまわりが
- 3134 shikaye kane  
シカイエ カネ  
光る 音調  
光を放ち、
- 3135 mike kane  
ミケ カネ  
輝く 音調  
輝いていた。
- 3136 kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繋 ある もの  
神なる人
- 3137 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
も
- 3138 monak pirika p sui  
モナク ビリカ プ スイ  
そうでなくても よい もの 再び  
そうでなくとも美しいのに、また
- 3139 chikup shiyuk  
チクプ シユク  
酒宴 装う  
酒宴の盛装に
- 3140 uwechiure  
ウウエチウレ  
重なり合う  
身を包み、
- 3141 netobashiri  
ネットバシリ  
身体  
その姿は
- 3142 somo a-nukar.  
ソモ ア・ヌカラ.  
否定 我・見る  
見られなかった。
- 3143 Bishkanike  
ビシカニケ  
周囲  
その周りに
- 3144 kamui imeru  
カムイ イメル  
神 光  
神々しい光が
- 3145 eshimaka.  
エシマカ.  
輝く  
広がっていた。
- 3146 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母
- 3147 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
も
- 3148 chikushiyuk  
チクシユク  
酒宴の晴れ着  
酒宴の晴れ着を
- 3149 uwechiure.  
ウウエチウレ.  
重なり合う  
身にまとった。

- 3150 sonno oimeruta-  
ソノ オイメルタ・  
真に 光に  
光の中で
- 3151 kutatke kane  
クタトケ カネ  
未詳 同時  
喉を清めて\*70
- 3152 “Shino bawetok  
“シノ バウエトク  
まことに 雄弁  
弁の立つ者を
- 3153 a-uitek wa  
ア・ウイテク ワ  
我・用いる 接続  
差し向けて
- 3154 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦なる
- 3155 iresu yubi  
イレス ユビ  
育てる 兄  
育ての兄 (小イヨチ彦の兄) を
- 3156 turesh turanno  
トゥレシ トウランノ  
妹 ともに  
その妹ともに
- 3157 a-tak.”  
ア・タック.”  
我・招く  
招き (たい)。(と言った)
- 3158 Seennenaksui  
セエンネナクスイ  
よもや  
よもや
- 3159 hawash kuni  
ハワシ クニ  
言われる 必然  
耳にしようとは
- 3160 a-ramu rok i  
ア・ラム ロキ  
我・思う 完了 形名  
思わなかった言葉をさらに続けて
- 3161 “Ishkarun utar  
“イシカルン ウタラ  
イシカリに住む 人々  
「イシカリの人々を
- 3162 turesh turanno hemem  
トゥレシ トウランノ ヘMEM  
妹 ともに も  
妹もともに
- 3163 a-tak.” ari  
ア・タック.” アリ  
我・招く 引用  
招きたい。」と
- 3164 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言った。
- 3165 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさら も  
ますます
- 3166 chish-an kane  
チシ・アン カネ  
泣く・我 同時  
泣きたくなって、
- 3167 neun ka  
ネウン カ  
どこにも  
どこかへ
- 3168 kira hene  
キラ ヘネ  
逃げる も  
逃げられない
- 3169 a-eashkai be  
ア・エアシカイ ベ  
我・できる もの  
ものか、
- 3170 ne a yakne  
ネ ア ヤクネ  
緊 完了 条件  
逃げられるものなら
- 3171 kira-an anke hene  
キラ・アン アンケ ヘネ  
逃げる・我 しようとする も  
逃げようと
- 3172 yainu-an yakka  
ヤイヌ・アン ヤッカ  
考える・我 譲歩  
思ったが、
- 3173 a-eaikap.  
ア・エアイカプ.  
我・できない  
できなかった。

## 3.6 親族が集う

- 3174 Rabokita  
ラボキタ  
間に  
まもなくして
- 3175 kamui arki hum  
カムイ アロキ フム  
神 来る 音  
神々がやってくる\*71
- 3176 keurototke  
ケウロトトケ  
響く  
音鳴りがして
- 3177 uweomanno  
ウウエオマンノ  
しだいに  
次から次へと
- 3178 yakura kurka  
ヤクラ クルカ  
櫓 上  
やぐらの上に
- 3179 chierapte.  
チエラプテ.  
落下している  
降りてきた。
- 3180 Chise sam ka ta  
チセ サム カ タ  
家 そば 上 場所  
家のそばを
- 3181 senne moyono  
センネ モヨノ  
否定 少なく  
少なからぬ
- 3182 ainu apkash hum (p. 546)  
アイヌ アプカシ フム  
人間 歩く 音  
人が足早に
- 3183 tunash kane  
トゥナン カネ  
素早い 音調  
歩いてきた。
- 3184 mosem tuyor  
モセム トウヨロ  
玄関納屋 中  
下屋の中へと
- 3185 eshikirba  
エシキリバ  
向く  
身を向けて
- 3186 mosem tuyor un  
モセム トウイオルン  
玄関納屋 中 方向  
下屋の中へ
- 3187 taban chikutkesh  
タバン チクトケシ  
この 咳払い  
大きな咳払いの音を
- 3188 chimaknaraiaba.  
チマクナライバ.  
中に入る  
送り込んだ。
- 3189 Ratki aba  
ラトキ アバ  
垂れ下がった 簾戸  
戸口のすだれの
- 3190 omausuibare p  
オマウスイバレ プ  
風で揺れる もの  
裾をなびかせて入ってきた者を
- 3191 a-nukar kusu  
ア・ヌカラ クス  
我・見る 根拠  
見ると、
- 3192 hoshki ahum be  
ホシキ アフム ベ  
先に 入る もの  
最初に入ってきたのは
- 3193 Iyochiunkuru  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
小イヨチ彦らの育ての兄の
- 3194 iresu yubi  
イレス ユビ  
育てる 兄  
イヨチ彦で
- 3195 an-ekotomka p  
アネコトムカ プ  
我・推定する もの  
あるらしく、
- 3196 okutchi urar  
オクトチ ウララ  
たちこめる 霧  
濃いもやの
- 3197 urar tumu  
ウララ トウム  
霧 中  
中に
- 3198 yayomare  
ヤヨマレ  
己を入れる  
包まれて

\*70 この行、意味不明。あるいは kut-satke かと考えて、こう訳した。但し kutsatke という語は知られていない。Batchelor に atke 「木の皮を剥ぐ」があるので、「帯を解いて」という意味かもしれない。神の前に立つとき、女は帯を解く。

\*71 神々とはイヨチやイシカリの人々に憑いている守り神のことであろう。

- 3199 ene wa boka\*72  
エネ ワ ボカ  
このように 接続 さえ  
どうにも
- 3200 a-reka i ka isam kane  
ア・レカ イ カ イサム カネ  
我・ほめる 形名 も ない 音調  
讚えようがない美しさであった。
- 3201 setur kashike  
セトウル カシケ  
背 上  
その背中に
- 3202 yairarire p  
ヤイラリレ プ  
己を押し付ける もの  
接するように
- 3203 pom menoko.  
ポム メノコ.  
小さい 女  
娘が入ってきた。
- 3204 Tamba teta  
タムバ テタ  
今年 ここで  
この年になって、
- 3205 ponno i-turkasuno  
ボンノ イ・トウルカスノ  
少し 我・以上  
わたしより
- 3206 chishikupka  
チシクッカ  
成長する  
やや年上に
- 3207 noine okai be  
ノイネ オカイ ベ  
らしくある もの  
思われ、
- 3208 chitomtereshu p  
チトムテレシユ プ  
美しく育てられる もの  
輝かしい
- 3209 chiarashu p  
チアラレシユ プ  
大切に育てられる もの  
まったき成長を遂げた
- 3210 kone p ne kusu  
コネ プ ネ クス  
繋 もの 繋 根拠  
者であるから
- 3211 huihuinawano  
フイフイナワノ  
隅々まで  
どこもかしこも
- 3212 a-reka kashba.  
ア・レカ カシバ.  
我・ほめる 甚だしい  
讚えようがなかった。
- 3213 Oshi wa  
オシ ワ  
追いかけて 接続  
そのあとから
- 3214 ahup kunip  
アフクニプ  
入る すべきもの  
入ろうとする者を
- 3215 a-nukar kusu  
ア・ヌカラ クス  
我・見る 根拠  
見れば、
- 3216 a-ye rok okai  
ア・イエ ロク オカイ  
我・言う 完了 ある  
人の呼ぶ
- 3217 Ishkarun utar  
イシカルン ウタラ  
イシカリに住む 人々  
イシカリの
- 3218 tu irwak ne i  
トゥ イリワク ネ イ  
二つの 兄弟 繋 形名  
兄弟二人であることが
- 3219 a-koeraman.  
ア・コエラマン.  
我・知る  
わかった。
- 3220 Tane shino  
タネ シノ  
今 まことに  
いまでは
- 3221 rupne shikup kane  
ルプネ シクッ カネ  
大きい 成長する 同時  
成人し、
- 3222 rektukkaba  
レクトゥッカバ  
喉仏が突き出ている  
喉ぼとけが出ていて、
- 3223 kunne reki  
クンネ レキ  
黒い 髭  
黒い髭で
- 3224 ebakurkashi-  
エバクルカシ・  
頭上  
口の周りが
- 3225 kurun kane  
クルン カネ  
陰になる 音調  
黒々としていた。
- 3226 tumuan shirika  
トゥムアン シリカ  
凡庸な 表面  
凡庸で
- 3227 tumuan nanka  
トゥムアン ナンカ  
凡庸な 顔面  
あたりまえの
- 3228 yaikorbare kane  
ヤイコロバレ カネ  
持つ 同時  
容貌で、
- 3229 ponno boka (p. 547)  
ボンノ ボカ  
少し だけ  
少しも
- 3230 a-oshiknuka  
ア・オシクヌカ  
我・慕う  
慕わしく感じられる
- 3231 ushike ka isam.  
ウシケ カ イサム.  
ところ も ない  
ところがなかった。
- 3232 Shibopkeba ruwe hene  
シボッケバ ルウェ ヘネ  
装おう 跡 も  
なりなども
- 3233 shino chanan.  
シノ チヤナン.  
まことに とるに足らない  
とるに足らない。
- 3234 Use utar kasuno  
ウセ ウタラ カスノ  
並の人々 以上  
つまらない人々よりもずっと
- 3235 irabokkarba p  
イラボクカラバ プ  
人の下手を通る もの  
劣って
- 3236 nei katu  
ネ カトゥ  
繋 様子  
いるのを
- 3237 usetara a-noeraman.  
ウセタラ ア・ノエラマン.  
はっきり 我・よくわかる  
わたしははっきりと見て取った。
- 3238 Eashka shiyoro keutum  
エアシカ シヨロ ケウトウム  
頗る 驚く 心  
まるであきれ返って
- 3239 a-yaikore.  
ア・ヤイコレ.  
我・もつ  
しまった。
- 3240 Wen yayashish  
ウエン ヤヤシシ  
悪い くやしがる  
こんな男に惚れたことが
- 3241 a-ki kane  
ア・キ カネ  
我・する 同時  
悔しかった。
- 3242 nekona inu-an wa  
ネコナ イヌ・アン ワ  
どのように 聞く・我 接続  
どんなことを
- 3243 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繋 譲歩  
聞いても
- 3244 mono yairamatte-an  
モノ ヤイラマテ・アン  
静かに 気をしっかり持つ・我  
じっとして気を確かに持ち、
- 3245 itaknu-an wa  
イタクヌ・アン ワ  
聞き訳がいい・我 接続  
惑わされず
- 3246 an-an a yakne  
アナン ア ヤクネ  
いる・我 完了 条件  
いたならば
- 3247 tap korachi okai  
タップ コラチ オカイ  
これように ある  
こんな
- 3248 yayeramushitne  
ヤイエラムシトネ  
気を腐らせる  
不快な
- 3249 wen ramusarak  
ウエン ラムサラク  
悪い いまいましい  
いまいましい思いを

\*72 原綴りは enewabka。

- 3250 **somo a-ki no**  
ソモ ア・キ ノ  
否定 我・する 接続  
しないで、
- 3251 **nubetneno**  
ヌベトネノ  
喜んで  
楽しく
- 3252 **an-an noine am be**  
アナン ノイネ アム ベ  
いる・我らしくあるもの  
していただろうに、
- 3253 **ari yainu-an chiki**  
アリ ヤイヌ・アン チキ  
引用 考える・我 条件  
と思った。
- 3254 **ouse arorkeshne**  
オウセ アロロケシネ  
ただ(だけ) ひそかに  
ただただ密かに
- 3255 **chish batek**  
チシ バテク  
泣く のみ  
泣いてばかりで
- 3256 **a-eyairamshitne.**  
ア・エイイラムシトネ.  
気を腐らせる  
気を腐らせていた。
- 3257 **Rorunso ka ta**  
ロルンソ カタ  
上座 上 場所  
さて、
- 3258 **tanebo konna**  
タネボ コンナ  
今 は  
上座では
- 3259 **inne utara**  
インネ ウタラ  
大勢である 人々  
多くの人たちが
- 3260 **irkur unukar**  
イリクル ウヌカラ  
親族 会見  
親族のつどい、
- 3261 **ratchi unukar**  
ラトチ ウヌカラ  
穏やかな 会見  
穏やかな会見を
- 3262 **kiba.**  
キバ.  
する  
していた。
- 3263 **Utut ta**  
ウトウトタ  
火尻座 場所  
わたしは下座で
- 3264 **tanebo konna**  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 3265 **Iyochiummat**  
イヨチウムマト  
イヨチ姫  
わたしの姉の
- 3266 **pon a-kor sapo tura**  
ポン ア・コロ サポ トウラ  
小さい 我・もつ 姉 ともに  
イヨチ姫(小イヨチ彦の妹)と
- 3267 **uwekap-an.**  
ウウエカプ・アン.  
挨拶する  
挨拶を交わした。
- 3268 **Chish turanno**  
チシ トウランノ  
泣く ともに  
涙を流して
- 3269 **uruiruiba-an kane**  
ウルイルイバ・アン カネ  
さすりあう・我ら 同時  
さすりあった。
- 3270 **ishkarunmat**  
イシカルンマト  
イシカリ姫  
イシカリ姫
- 3271 **ne wa ne yakka** (p. 548)  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
にも
- 3272 **tumuan shirika**  
トゥムアン シリカ  
凡庸な 表面  
あたりまえの
- 3273 **tumuan nanka**  
トゥムアン ナンカ  
凡庸な 顔面  
月並みな顔つきを
- 3274 **kor kane okai be**  
コロ カネ オカイ ベ  
持つ 同時 ある もの  
している女だけど
- 3275 **a-ekap.**  
ア・エカプ.  
我・挨拶する  
挨拶した。
- 3276 **Rorunso ka ta**  
ロルンソ カタ  
上座 上 場所  
上座で
- 3277 **iresu yubi**  
イレス ユビ  
育てる 兄  
育ての兄(小イヨチ彦の兄)<sup>\*73</sup>
- 3278 **tanebo konna**  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 3279 **“Tureshbo.” ari**  
“トゥレシボ.” アリ  
妹 引用  
「妹よ」と
- 3280 **itak kane**  
イタク カネ  
言う 同時  
言いながら
- 3281 **i-shikoruiba**  
イ・シコルイバ  
我・撫でる  
わたしを抱き寄せさすり、
- 3282 **i-ekap.**  
イ・エカプ.  
我・挨拶する  
われに挨拶した。
- 3283 **An-eramushinne.**  
アネラムシンネ.  
我・安心する  
わたしの心は落ち着いた。
- 3284 **Iyochiunkuru**  
イヨチウンクル  
イヨチ彦  
イヨチ彦なる
- 3285 **iresu yubi**  
イレス ユビ  
育てる 兄  
育ての兄(小イヨチ彦の兄)の
- 3286 **pirika ashke**  
ピリカ アシケ  
よい 手  
美しい手を
- 3287 **a-riknabuni**  
ア・リクナブニ  
我・高くあげる  
わたしは持ち上げ、
- 3288 **shintoko oshmak**  
シントコ オシマク  
ほかい 陰  
シントコの陰に
- 3289 **a-earekar.**  
ア・エアレカラ.  
我・置く  
座らせた。
- 3290 **Tanne chikupso**  
タンネ チクプソ  
長い 酒宴の座  
酒宴の座は
- 3291 **chishiturire.**  
チシトゥリレ.  
伸びる  
長々と伸びていた。
- 3292 **Chikupso utur**  
チクプソ ウトゥル  
酒宴の座 間  
座の間で
- 3293 **a-erututke**  
ア・エルトゥツケ  
我・足を運ぶ  
足を運び
- 3294 **iyomare-an.**  
イヨマレ・アン.  
酌をする・我  
酌をしてまわった。
- 3295 **Shinen ka pirikano**  
シネン カピリカノ  
一人 も 良く  
誰一人として
- 3296 **a-netobake nukar kuru**  
ア・ネットバケヌカラ クル  
我・身体 見る 人  
わたしの美しさに目を向ける
- 3297 **isam kotomno**  
イサム コトムノ  
ない ように  
者がいないように
- 3298 **iramu-an.**  
イラム・アン.  
思われる  
思われた。
- 3299 **Kamui nomi heashi.**  
カムイ ノミ ヘアシ.  
神 祈る 始まる  
祭りが始まった。
- 3300 **Kanto or bakno**  
カント オロ バクノ  
天 所 まで  
天に届くほど

\*73 小イヨチ彦と妹を親代わりになって育てたのでこう呼ばれる。

- 3301 inau ebumba  
イナウ エブムバ  
木幣 頭を上げる  
イナウを立て、
- 3302 tonoto ebumba  
トノト エブムバ  
酒 頭を上げる  
杯を掲げて、
- 3303 a-okere.  
ア・オケレ.  
我・終わる  
神祭りは終わった。
- 3304 Tap orowano  
タッ オロワノ  
これ 始点  
それから、
- 3305 boro shinurapba hene  
ボロ シヌラッパ ヘネ  
大きい 先祖を祭る も  
盛んな先祖祭りなども
- 3306 a-okerba.  
ア・オケレバ.  
我・終わらせる  
終わった。
- 3307 Shino a-eramushinne.  
シノ ア・エラムシンネ.  
まことに 我・心落ち着く  
ここで一息ついた。
- 3308 Oro wano  
オロ ワノ  
所 から  
それから
- 3309 shisak tonoto  
シサク トノト  
またとない 酒  
たぐいがない酒、
- 3310 kamui tonoto  
カムイ トノト  
神 酒  
神の酒を
- 3311 a-ukoante.  
ア・ウコアンテ.  
我・ととのえる  
交わした。
- 3312 Inne utar  
インネ ウタラ  
大勢である 人々  
多くの人々に
- 3313 shino ihoshki wa  
シノ イホシキ ワ  
まことに 酔う 接続  
酔いがまわって、
- 3314 nubetneba.  
ヌベトネバ.  
皆喜ぶ  
皆、喜んでいた。
- 3315 Pon Ishkarun utar hene  
ポン イシカルン ウタラ ヘネ  
小さい イシカリに住む 人々 も  
小イシカリ彦たちも
- 3316 shino ihoshkiba ko  
シノ イホシキバ コ  
まことに 酔う 条件  
すっかり酔っぱらって
- 3317 boo hene kerai  
ボオ ヘネ ケライ  
なおさら も そのため  
そのためますます
- 3318 ibokash kashba kane (p. 549)  
イボカシ カシバ カネ  
容貌が醜い 甚だしい 音調  
ぶざまになった。
- 3319 pon a-kor yubi  
ポン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さん (小イヨチ彦)
- 3320 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繋 接続 繋 譲歩  
も
- 3321 tane ne kusu  
タネ ネ クス  
今 繋 根拠  
こうなつては
- 3322 tonoto keutum  
トノト ケウトム  
酒 心  
酒の心が
- 3323 eibottumu  
エイボトムム  
顔色  
顔色に出て、
- 3324 korennatara.  
コレンナタラ.  
沈む  
やつれが見えた。
- 3325 Boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさら も  
なおいっそう
- 3326 kamui shiri ne  
カムイ シリ ネ  
神 様子 繋  
神のように
- 3327 ihoshki awa  
イホシキ アワ  
酔う 展開  
酔うと、
- 3328 boo hene  
ボオ ヘネ  
なおさら も  
ますます
- 3329 iram koiki  
イラム コイキ  
心 攻撃する  
人の心を苛み
- 3330 rusui be  
ルスイ ベ  
したいもの  
たく
- 3331 kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
繋 もの 繋 根拠  
なつたので、
- 3332 a-koiyomare ko  
ア・コイヨマレ コ  
酌をされる 条件  
わたしに酌をされると
- 3333 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今や
- 3334 kosancha ot ta  
コサンチャ オト タ  
口元 所 場所  
口元に
- 3335 mina kane  
ミナ カネ  
笑う 同時  
笑みを浮かべて
- 3336 hakakno itak  
ハカクノ イタク  
ほんのかすかにささやく 言葉  
かすかな声で
- 3337 i-koterkere  
イ・コテレケレ  
我・とばす  
このように
- 3338 hawe ene okai i  
ハウエ エネ オカイ  
声 このようにある 形名  
わたしにささやいた。
- 3339 “Nekona ne ya.  
“ネコナ ネ ヤ.  
どのように 繋 疑問  
「どうした。」
- 3340 Ene ene heru asuru  
エネ エネ ヘル アスル  
このように このように ただの 噂  
あんなただのうわさを
- 3341 e-nu wa ne yakka  
エ・ヌ ワ ネ ヤッカ  
汝・聞く 接続 繋 譲歩  
聞いただけで
- 3342 chish turanno  
チシ トウランノ  
泣く とともに  
泣いてばかりで
- 3343 somo e-ibe no  
ソモ エ・イベ ノ  
否定 汝・食事を摂る 接続  
食べもせず、
- 3344 chioshikote  
チオシコテ  
恋慕  
恋しさ
- 3345 e-ekarkar  
エ・エカラカラ  
汝・する  
募る一方の
- 3346 Ishkarun utar  
イシカルン ウタラ  
イシカリに住む 人々  
イシカリ人たちに
- 3347 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 3348 e-nukar wa  
エ・ヌカラ ワ  
汝・見る 接続  
会えて
- 3349 boo nekona tap ne  
ボオ ネコナ タッ ネ  
なおさら どのように これ 繋  
ますます
- 3350 e-oshikote humi  
エ・オシコテ フミ  
汝・惚れる 気配  
恋慕の情けが
- 3351 okai be an.  
オカイ ベ アン.  
ある もの ある  
深まったのか。
- 3352 Ainubata un sui.  
アイヌバタ ウン スイ.  
悲しいことだ ある 再び  
悲しいことだ。
- 3353 Pirika kashba kusu  
ピリカ カシバ クス  
よい 甚だしい 根拠  
イシカリ人が美しすぎるので

- 3354 naa somo a-nukar i wano  
ナア ソモ ア・スカライ ワノ  
まだ 否定 我・見る 形名 から  
まだ見ないうちから
- 3355 a-oshikote hawe  
ア・オシコテ ハウエ  
我・恋する 声  
惚れてしまったとは、\*74
- 3356 irayapka okai ko.  
イラヤッカ オカイ コ  
人を感心させる ある 条件  
驚いたことだ。
- 3357 Rabokita  
ラボキタ  
間に  
一方、
- 3358 wen ibokash be  
ウェン イボカシ ベ  
悪い 容貌が醜いもの  
われは醜い男だ
- 3359 a-ne manu  
ア・ネ マヌ  
我・繫 という  
そうで、
- 3360 kurkashike  
クルカシケ  
上  
その上、
- 3361 chieyashtomare  
チエヤシトマレ  
恥をかく  
恥をかかされた
- 3362 a-i-y-ekarkar rok i (p. 550)  
ア・イ・イエカラカラ ロキ  
我・される 完了 形名  
ことを
- 3363 a-eshikarun ko  
ア・エシカルン コ  
我・思い出す 条件  
思い出すにつけ、
- 3364 sonno yashtoma-an." ari  
ソンノ ヤシトマ・アン" アリ  
真に 恥ずかしい・我 引用  
面目を失った思いだ。」と
- 3365 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言った。
- 3366 konepkeukata  
コネップケウカタ  
(無意味な句)  
コネップケウカタ
- 3367 konepkashita  
コネッカシタ  
(無意味な句)  
コネップカシタ
- 3368 wembe a-ne  
ウエムベ ア・ネ  
悪いもの 我・繫  
わたしが
- 3369 manu kusu  
マヌ クス  
という 根拠  
悪いのだから、
- 3370 neitabakno  
ネタバクノ  
いつまでも  
いつまで
- 3371 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繫 譲歩  
も
- 3372 tap korachino  
タッ コラチノ  
これように  
このように
- 3373 wen chiramkoiki  
ウェン チラムコイキ  
悪い 心の苛み  
わたしの心をいじめ、
- 3374 chiramshitnere  
チラムシトネレ  
苦しめられる  
わたしの心を害するようなことを
- 3375 a-i-y-ekarkar hawe  
ア・イ・イエカラカラ ハウエ  
我・される 声  
する
- 3376 okai chiki  
オカイ チキ  
ある 条件  
のだ。それなら
- 3377 ramma  
ラムマ  
いつも  
いつでもいい、
- 3378 moire tunash  
モイレ トウナシ  
遅い 素早い  
さっさと
- 3379 a-yaikewor-  
ア・ヤイケウオロ・  
我・己の体  
死んでしまおう
- 3380 ochiwe kuni  
オチウェ クニ  
捨てる 必然  
と
- 3381 a-ehumse kane  
ア・エフムセ カネ  
我・うなずく 音調  
うなずいた。
- 3382 tane iku oka an.  
タネ イク オカ アン.  
今 酒を飲む あと ある  
酒宴が終わった。
- 3383 Inne utar  
インネ ウタラ  
大勢である 人々  
大勢の者たちは
- 3384 yayiraike koro  
ヤイライケ コロ  
感謝 同時  
感謝の言葉とともに
- 3385 hoshippa.\*75  
ホシッパ.  
帰る  
帰って行った。
- 3386 Iresu yubi utar  
イレス ユビ ウタラ  
育てる 兄 たち  
育ての兄たち (イヨチ彦の兄と妹) は
- 3387 tutko bak no  
トゥトコ バク ノ  
二日 まで 接続  
もう二日ほど
- 3388 uweneusar-an aine  
ウウェネウサラ・アン アイネ  
お話しをする・我ら 接続  
よもやま話をして
- 3389 kannasui  
カンナスイ  
再び  
また再び
- 3390 unukar-an kuni  
ウヌカラ・アン クニ  
会う・我 必然  
会うことを
- 3391 a-uweraman kane  
ア・ウウエラマン カネ  
我・理解し合う 同時  
約束して
- 3392 baye wa isam.  
バイエ ワ イサム.  
行く 接続 ない  
帰ってしまった。
- 3393 A-kor unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 3394 chashi ba un  
チャシ バ ウン  
チャシ そば ある  
邸のそばにある
- 3395 kamui a-kottotto  
カムイ ア・コトトトト  
神 我・母  
わたしのお母さんが
- 3396 ewaki un  
エワキ ウン  
住まい 方向  
天から持ってきた家へ
- 3397 tup wa oman.  
トゥッ ワ オマン.  
移住する 接続 行く  
移っていった。

## 3.7 小イヨチ彦思いの丈を語る

- 3398 Okake ta  
オカケ タ  
あと 場所  
そのあと、
- 3399 tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今や
- 3400 ouse tumbish  
オウセ トウムビシ  
ただ (だけ) 二人  
たった二人だけに
- 3401 a-ne wa.  
ア・ネ ワ.  
我・繫 接続  
なった。
- 3402 Kamui ne am be  
カムイ ネ アム ベ  
神 繫 ある もの  
神なる人は
- 3403 oshiso un  
オシソ ウン  
右座 方向  
右座の奥から

\*74 この行の a- を e- と読み替えて解釈する。

\*75 原綴りは hoshba.

- 3404 abe teksam ne  
アベ テクサム ネ  
火 すぐそば 繫  
炉のそばに
- 3405 ehorarba.  
エホララバ、  
居る  
席を移した。
- 3406 Aokai oharkiso un ne  
アオカイ オハラキソ ウン ネ  
我 左座 方向 繫  
わたしは左座で
- 3407 otop chinki  
オトッ チンキ  
髪 裾  
前髪の裾を
- 3408 an-eshitchiure kane  
アネシトチウレ カネ  
我・先を床に垂らす 同時  
床に垂らして
- 3409 oribak-an kane  
オリバツ・アン カネ  
畏まる・我 同時  
畏まって
- 3410 an-an awa.  
アナン アワ、  
いる・我 展開  
いた。
- 3411 Arekushkonna  
アレクシコンナ  
突然  
ちい兄さんは
- 3412 hoka tomotuyue  
ホカ トモトウイエ  
炉 横切る  
突然、
- 3413 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
炉のこちらに手を伸ばし、
- 3414 a-oattekehe (p. 551)  
ア・オアトテケヘ  
我・片手  
わたしの片手をつかみ
- 3415 shikoetaiba.  
シコエタイバ、  
引き寄せる  
引き寄せた。
- 3416 Eashka a-teke unno  
エアシカ ア・テケ ウンノ  
顔る 我・手 未詳  
わたしの手が
- 3417 sonno yomomke anke  
ソンノ ヨモムケ アンケ  
真に 縮れる しようとする  
焼けただれるばかりに
- 3418 sesek humi okai koro  
セセク フミ オカイ コロ  
熱い 気配 ある 引用  
熱くなると、
- 3419 Shiuturke un ne  
シウトウルケ ウン ネ  
己より下座 方向 繫  
わたしを自分の下座に
- 3420 i-eshitaiki.  
イ・エシタイキ、  
我・打ちつける  
叩き付けるように座らせた。
- 3421 Tu rum un sutu  
トゥ ルム ウン ストゥ  
二つの 矢じり ある 棍棒  
棘のいっぱい付いた
- 3422 re rum un sutu  
レ ルム ウン ストゥ  
三つの 矢じり ある 棍棒  
棍棒を
- 3423 i-esankekar  
イ・エサンケカラ  
我・くださ  
わたしに向け、
- 3424 i-toikokikkik kane  
イ・トイコキッキク カネ  
我・ひどく打ち叩く 同時  
わたしを激しくたたいた。
- 3425 kurkashike  
クルカシケ  
上  
そうしながら、
- 3426 tanarka itak  
タナラカ イタク  
激しく痛い 言葉  
激しい言葉を、
- 3427 i-tuye shinne  
イ・トウイエ シンネ  
我・切る のように  
身を切り刻むような、
- 3428 i-otke shinne  
イ・オトケ シンネ  
我・突く のように  
突き刺すような言葉を
- 3429 i-ebarsere hawe  
イ・エバラセレ ハウエ  
我・翻す 声  
浴びせ
- 3430 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
かけた。
- 3431 "Achikara ta.  
"アチカラ タ、  
いやなことだ これ  
「神も畏れぬ
- 3432 Ayakanna ta.  
アヤカンナ タ、  
るくでもないことだ これ  
汚れたやつめ。
- 3433 A-wen tureshi  
ア・ウエン トウレシ  
我・悪い 妹  
わが妹の
- 3434 a-otuiike.  
ア・オトウイイケ、  
我・尻の切れた者  
腐れアマめ。
- 3435 Hokure inkar.  
ホクレ インカラ、  
早く 見る  
さあ、気づけ。
- 3436 Somo a-ye wa  
ソモ ア・イエ ワ  
否定 我・言う 接続  
われが言わなく
- 3437 ne a yakka  
ネ ア ヤッカ  
繫 完了 譲歩  
とも
- 3438 tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
もう
- 3439 wen keutum  
ウエン ケウトウム  
悪い 心  
悪い心とか
- 3440 wemburi ari  
ウエムブリ アリ  
悪い振る舞い 引用  
悪いふるまいと
- 3441 a-borse p  
ア・ボロセ ヲ  
よばれる もの  
いわれるものが
- 3442 shino e-eraman nankoro.  
シノ エ・エラマン ナンコロ、  
まことに 汝・知る だろう  
おまえにも分つたらう。
- 3443 Katkemat keutum  
カトケマト ケウトウム  
婦人 心  
淑女の気立て、
- 3444 pirika buri  
ピリカ ブリ  
よい 行い  
正しいふるまいに
- 3445 e-kor wa  
エ・コロ ワ  
汝・持つ 接続  
心がけて
- 3446 e-koro pirika unarbe  
エ・コロ ピリカ ウナラベ  
汝・持つ よい 叔母  
おまえの立派な叔母が
- 3447 ki a i-bakashnu  
キ ア イ・バカシヌ  
する 完了 我・教える  
諭した教えを
- 3448 e-nu wa neino  
エ・ヌ ワ ネノ  
汝・聞く 接続 繫  
聞いて、そのとおりに
- 3449 e-iki a yakne  
エ・イキ ア ヤクネ  
汝・する 完了 条件  
していたら、
- 3450 tap korachi  
タッ コラチ  
これように  
こんなに
- 3451 orsetakko  
オロセタッコ  
長い間  
長く
- 3452 wen yayeramushitne  
ウエン ヤイエラムシトネ  
悪い 気を腐らせる  
後悔して
- 3453 yairambekamam  
ヤイラムベカマム  
苦勞する  
辛い思いを
- 3454 somo e-ki no  
ソモ エ・キ ノ  
否定 汝・する 接続  
することなく、
- 3455 utar ehoshki  
ウタラ エホシキ  
仲間 先頭に立つ  
みんなの先頭に立って
- 3456 toikonubetneno  
トイコヌベトネノ  
大変喜んで  
すごく楽しい思いで

- 3457 e-an nankor be  
エ・アン ナンコロ ベ  
汝・ある だろう もの  
いられた
- 3458 ne kusu.  
ネ クス.  
繫 根拠  
のに。
- 3459 Nekona iki-an wa  
ネコナ イキ・アン ワ  
どのようにする・我 接続  
われがどんなふうにして
- 3460 e-ki wemburi  
エ・キ ウェムブリ  
汝・する 悪い振る舞い  
おまえの悪さを
- 3461 arobittano  
アロビトタノ  
すべて  
ことごとく
- 3462 a-eraman i (p. 552)  
ア・エラマニ  
我・知る 形名  
知りえたの
- 3463 ta an ari  
タ アン アリ  
これ ある 引用  
か、と
- 3464 shino e-oyamokte nankor.  
シノ エ・オヤモクテ ナンコロ.  
まことに汝・不思議に思う だろう  
おまえは不審に思っているだろう。
- 3465 Aokai anakne  
アオカイ アナクネ  
我 は  
われは
- 3466 ponram or wano  
ボンラム オロ ワノ  
幼少 所 から  
幼いときから
- 3467 kamui resu kuru  
カムイ レス クル  
神 育てる 人  
神が育てた人間、
- 3468 kamui oro ibe kuru  
カムイ オロ イベ クル  
神 所 食事する 人  
神の食べるものを食べてきた人間
- 3469 a-ne kusu  
ア・ネ クス  
我・繫 根拠  
だから
- 3470 uweinkar kuru a-ne.  
ウウエインカラ クル ア・ネ.  
相手の心を見抜く 人 我・繫  
真実を見抜く人間だ。
- 3471 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで
- 3472 nep ne yakka  
ネプ ネ ヤッカ  
何 繫 譲歩  
なんであれ
- 3473 a-ramnukare wa  
ア・ラムヌカレ ワ  
我・見抜く 接続  
心眼で見てる
- 3474 a-eraman ruwe ne.  
ア・エラマン ルウェ ネ.  
我・知る 跡 繫  
理解できるのだ。
- 3475 Tapne an wen yainu  
タップネ アン ウェン ヤイス  
これである ある 悪い 考える  
おまえはあのような心得違いを
- 3476 e-ki kusu  
エ・キ クス  
汝・する 根拠  
したのだから、
- 3477 chiattamnere  
チアトタムネレ  
一刀のもとに斬る  
一刀のもと
- 3478 e-ekarkar-an yakka  
エ・エカカカラ・アン ヤッカ  
汝・する・我 譲歩  
斬り捨てても
- 3479 pirika koroka  
ピリカ コロカ  
よい 逆接  
構わなければ、
- 3480 neino ne chiki  
ネノ ネ チキ  
繫 繫 条件  
そうなれば
- 3481 a-ukokeshke kunip  
ア・ウコケシケ クニプ  
皆に妬まれる すべきもの  
多くの者に妬まれ、にくまれた
- 3482 e-kor ainu  
エ・コロ アイヌ  
汝・持つ 男  
おまえの父、
- 3483 kamui a-keusutu  
カムイ ア・ケウストゥ  
神 我・伯父  
あの立派なわが叔父の
- 3484 ponnoka ruwokake isam ko  
ボンノカ ルウオカケ イサム コ  
少しも 跡 ない 条件  
胤が少しでも無くなるので、
- 3485 shino wen ruwe ne.  
シノ ウェン ルウェ ネ.  
まことに悪い 跡 繫  
それはまことに良くない。
- 3486 Eebakita  
エエバキタ  
次に  
さらに、
- 3487 taan a-koro unarbe bakno  
タアン ア・コロ ウナラベ バクノ  
この 我・もつ 叔母 まで  
あのおまえの叔母ほど
- 3488 keutum pirika p  
ケウトウム ピリカ ッ  
心 よい もの  
心正しい人は
- 3489 umama isam ruwe ne.  
ウママ イサム ルウェ ネ.  
強調 ない 跡 繫  
めったにいないものではない。
- 3490 Chipirikareshu  
チピリカレシュ  
良きはぐくみ  
おまえに立派な教育を
- 3491 e-ekarkar kusu  
エ・エカカカラ クス  
汝・する 根拠  
施したので
- 3492 kamui or wano  
カムイ オロ ワノ  
神 所 から  
神から
- 3493 ramu-a-ye awa  
ラム・ア・イエ アワ  
誉められる 展開  
誉められているのに、
- 3494 tapne wemburi  
タップネ ウェムブリ  
これである 悪い振る舞い  
こんな不正なふるまいを
- 3495 e-ki katu  
エ・キ カトゥ  
汝・する 様子  
おまえがしたということ
- 3496 a-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
おまえの叔母が
- 3497 e-kobashte ko anakne  
エ・コバシテ コ アナクネ  
汝・気づく 条件 は  
気づいたら、
- 3498 sonno anihi  
ソンノ アニヒ  
真に 彼  
あの人は
- 3499 kamui or un  
カムイ オルン  
神 所 方向  
神に
- 3500 oitaksak ari  
オイタクサク アリ  
言葉もない 引用  
申し訳ないと
- 3501 yainu kusu  
ヤイス クス  
考える 根拠  
思い、
- 3502 shinnai moshiri  
シンナイ モシリ  
違った 国土  
別の世界(死の世界?)に
- 3503 koikesui.  
コイケスイ.  
去る  
行ってしまうに違いない。
- 3504 Eani hemem  
エアニ ヘMEM  
汝 も  
おまえをさえ
- 3505 chitoikoraikē  
チトイコライケ  
殺害  
ひどく殺して
- 3506 e-ekarkar kuni (p. 553)  
エ・エカカカラ クニ  
汝・する 必然  
しまうだろう、と
- 3507 usetara  
ウセタラ  
はっきり  
われにははっきりと
- 3508 a-noeraman.  
ア・ノエラマン.  
我・よくわかる  
予見できる。
- 3509 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そういう次第で

- 3510 aokai ne yakka  
アオカイ ネ ヤッカ  
我 繫 譲歩  
われにも
- 3511 ponno wen-an ruwe ne.  
ボンノ ウェン・アン ルウェ ネ.  
少し 悪い・我 跡 繫  
いくらか落ち度があった。
- 3512 Orotunashno  
オロトゥナシノ  
一刻も早く  
速やかに、
- 3513 tapne ne ko  
タップネ ネ コ  
これである 繫 条件  
そんなことは
- 3514 shino wen ruwe ne  
シノ ウェン ルウェ ネ  
まことに 悪い 跡 繫  
赦されないことと
- 3515 ari e-bakashnu-an yakka  
アリ エ・バカシヌ・アン ヤッカ  
引用 汝・教える・我 譲歩  
おまえに教えてやったら
- 3516 pirika koroka  
ピリカ コロカ  
よい 逆接  
良かったのだから、
- 3517 shukup kuru yainu  
シュクツ クル ヤイス  
成長する 人 考える  
まだ若い
- 3518 nokan kuru yainu  
ノカン クル ヤイス  
小さい 人 考える  
幼い男の考えることといたら
- 3519 ene okai i  
エネ オカイ  
このように ある 形名  
あのようなこと
- 3520 ne rokokai kusu  
ネ ロコカイ クス  
繫 判明 根拠  
だった。だから
- 3521 shino e-ebokba-an kasui.  
シノ エ・エボクバ・アン カスイ.  
まことに 汝・誹る・我 甚だしい  
おまえを責めすぎた。
- 3522 Ene he tap ne  
エネ ヘ タップ ネ  
このように 疑問 これ 繫  
われはこのように
- 3523 shukup tuika ta  
シュクツ トウイカ タ  
成長する 上 場所  
生れ育つあいだ
- 3524 e-eyaisembir-  
エ・エヤイセムビリ・  
汝・陰  
陰ながら
- 3525 eyaitursakka  
エヤイトウルサクカ  
清潔にする  
身を純潔に
- 3526 a-ki humi  
ア・キ フミ  
我・する 気配  
保って
- 3527 okai rok awa  
オカイ ロック アワ  
ある 完了 展開  
きたのだが、
- 3528 orsaureko  
オロサウレコ  
とんでもなく  
心外なことに
- 3529 chikosomokur-  
チコンモクル・  
否定  
おまえはわれに
- 3530 yaikatanu  
ヤイカタヌ  
畏れはばかる  
無礼を
- 3531 e-i-y-ekarkar.  
エ・イ・イエカラカラ.  
汝・我・する  
働いた。
- 3532 Chiwennoramuru  
チウェンノラム  
悪く思われる  
悪く思われるようなことを
- 3533 e-ki shiri  
エ・キ シリ  
汝・する 様子  
おまえがしているのを
- 3534 a-nukar chiki  
ア・ヌカラ チキ  
我・見る 条件  
われは見て、
- 3535 chikibonewa  
チキボネワ  
もう少しで  
寸でのところで
- 3536 chitunashraike  
チトゥナシライケ  
手早い殺し  
あっさりと殺す
- 3537 e-ekarkar-an anke  
エ・エカラカラ・アン アンケ  
汝・する・我 しようとする  
ところ
- 3538 yainu-an koroka  
ヤイス・アン コロカ  
考える・我 逆接  
だったが、
- 3539 tap a-ye i korachi  
タップ ア・イエ イ コラチ  
これ 我・言う 形名 ように  
さきほど言ったように、
- 3540 shinrit oka  
シンリト オカ  
出自 あと  
先祖の残したものを
- 3541 a-pirikare kusu  
ア・ピリカレ クス  
我・良くする 根拠  
良くしようと
- 3542 am be a-ne wa kusu  
アム ベ ア・ネ ワ クス  
ある 我・繫 接続 根拠  
いうのがわれの思いであるから
- 3543 yairamatte-an  
ヤイラマツテ・アン  
気をしっかり持つ・我  
わが心を大きくし、
- 3544 yaishiborore-an wa  
ヤイシボロレ・アン ワ  
堪え忍ぶ・我 接続  
我慢して
- 3545 pon chiramkoiki  
ボン チラムコイキ  
小さい 心の 苛み  
おまえの心を
- 3546 e-ekarkar-an  
エ・エカラカラ・アン  
汝・する・我  
いささか苛んだ
- 3547 shiri ne yakka  
シリ ネ ヤッカ  
様子 繫 譲歩  
ようだが、
- 3548 tapne kane  
タップネ カネ  
これである 音調  
そのように
- 3549 chiramkoiki  
チラムコイキ  
心の 苛み  
おまえを
- 3550 e-ekarkar-an wa  
エ・エカラカラ・アン ワ  
汝・する・我 接続  
いじめれば、
- 3551 shino a-ehese  
シノ ア・エヘセ  
まことに 我・息をつく  
いい気味、
- 3552 a-enubetne kuni (p. 554)  
ア・エヌベトネ クニ  
我・喜ぶ 必然  
ざまあ見るとわれが思っていると
- 3553 e-ramu yakka  
エ・ラム ヤッカ  
汝・思う 譲歩  
おまえは考えるかもしれないが、
- 3554 sonno sono ne.  
ソノ ソモ ネ.  
真に 否定 繫  
決してそうではない。
- 3555 Hokure inkar  
ホクレ インカラ  
早く 見る  
さあ、気づけ、
- 3556 hetak inkar.  
ヘタク インカラ.  
さあ 見る  
速く気づけ。
- 3557 Orsetakko  
オロセタクコ  
長い間  
長い間、
- 3558 yayeramushitne  
ヤイエラムシトネ  
気を腐らせる  
おまえが
- 3559 e-ki shiri  
エ・キ シリ  
汝・する 様子  
苦しむのに
- 3560 a-eshiknak wa  
ア・エシクナク ワ  
我・盲目になる 接続  
目をふさいで
- 3561 a-erambetek wa  
ア・エラムベテク ワ  
人々・知らない 接続  
気づかなかった
- 3562 an-an ruwe ka  
アナン ルウェ カ  
いる・我 跡 も  
のでは

- 3563 **somo ne.**  
ソモ ネ.  
否定 繫  
なかったのだ。
- 3564 **Otu sui an ta**  
オトゥ スイ アン タ  
二つの回 ある これ  
おまえは、何度も
- 3565 **ore sui an ta**  
オレ スイ アン タ  
三つの回 ある これ  
何度も
- 3566 **e-yaikueor-**  
エ・ヤイケウオロ・  
汝・己の体  
みずから
- 3567 **ochiwe kushne yakka**  
オチウエ クシネ ヤッカ  
捨てる 必然・意志 譲歩  
身を捨てよう(死のう)としても
- 3568 **a-renkaine no**  
ア・レンカイネ ノ  
我・意志で 接続  
われの力で
- 3569 **e-keutumkashi**  
エ・ケウトウムカシ  
汝・心  
おまえの死のうという気持ちを
- 3570 **a-itasare.**  
ア・イタサレ.  
我・返す  
思いとどまらせた。
- 3571 **Tambe kusu**  
タムベ クス  
これ 根拠  
それでお前は
- 3572 **e-eikap ruwe ne.**  
エ・エアイカプ ルウェ ネ.  
汝・できない 跡 繫  
死ねなかったのだ。
- 3573 **Ne i ebittano**  
ネ イ エビタノ  
繫 形名 一面中  
その間、ずっと
- 3574 **arkehe ta**  
アッケヘ タ  
半分 場所  
心の半分では
- 3575 **e-ebokba-an kane**  
エ・エボクバ・アン カネ  
汝・諍る・我 同時  
おまえをそしり、
- 3576 **arkehe ta**  
アッケヘ タ  
半分 場所  
心の半分では
- 3577 **e-eramboken-an kane**  
エ・エラムボケン・アン カネ  
汝・憐れむ・我 同時  
おまえをあわれみ、
- 3578 **e-erbakno chish-an.**  
エ・エイリバクノ チシ・アン.  
汝・とともに 泣く・我  
おまえといっしょに泣いた。
- 3579 **E-nepkoro kane**  
エ・ネッコロ カネ  
汝・のように 音調  
おまえと同じように
- 3580 **nep a-e yakka**  
ネッ ア・エ ヤッカ  
何 我・食べる 譲歩  
何を口にしても
- 3581 **kerabo a-erambetek**  
ケラボ ア・エラムベテック  
味 人々・知らない  
味がわからず、
- 3582 **boroserke somo ibe-an.**  
ボロセレケ ソモ イベ・アン.  
大多数 否定 食事する・我  
ほとんど手をつけなかった。
- 3583 **Kunne hene**  
クンネ ヘネ  
夜 も  
夜になっても
- 3584 **ramushinneno**  
ラムシンネノ  
穏やかな気持ちで  
心穏やかに
- 3585 **arsuno boka**  
アラスノ ボカ  
一度 だけ  
一度たりとも
- 3586 **pirika mokoro ka**  
ピリカ モコロ カ  
よい 眠る も  
良い眠りに
- 3587 **somo a-ki p ne kusu**  
ソモ ア・キ ヲ ネ クス  
否定 我・するもの 繫 根拠  
つくことがなかった。それで
- 3588 **rametok rakbe**  
ラメトク ラクベ  
勇者 末裔  
勇士の子孫、
- 3589 **utarpa rakbe**  
ウタラパ ラクベ  
首領 末裔  
首領の胤である
- 3590 **a-ne awa**  
ア・ネ アワ  
我・繫 展開  
われではあるが、
- 3591 **tap korachi**  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 3592 **sattek-an**  
サttek・アン  
やせ細る  
肌もかさかさになり、
- 3593 **sonno keworsak-an.**  
ソンノ ケウオロサク・アン.  
真に やせ細る・我  
やせ細ってしまった。
- 3594 **E-keutumkashi**  
エ・ケウトウムカシ  
汝・心  
おまえの気持ちが
- 3595 **ponno ka**  
ボンノ カ  
少し も  
少しもわからなかった
- 3596 **a-erambetek**  
ア・エラムベテック  
人々・知らない  
というのでは
- 3597 **ruwe ka somo ne.**  
ルウェ カ ソモ ネ.  
跡 も 否定 繫  
ないのだ。
- 3598 **Tane anakne**  
タネ アナクネ  
今 は  
今は
- 3599 **e-kor wemburi**  
エ・コロ ウェムブリ  
汝・持つ 悪い振る舞い  
おまえの悪いところも
- 3600 **a-kor be ne.**  
ア・コロ ベ ネ.  
我・もつもの 繫  
またわれの物だ。
- 3601 **Ari yainu-an wa**  
アリ ヤイス・アン ワ  
引用 考える・我 接続  
と思い直して、
- 3602 **e-tusure-an (p. 555)**  
エ・トゥスレ・アン  
汝・赦す・我  
おまえを赦し、
- 3603 **e-konnere-an**  
エ・コンネレ・アン  
未詳  
おまえを抱きしめた\*76
- 3604 **ruwe ne na.**  
ルウェ ネ ナ.  
跡 繫 (訴え)  
のだ。
- 3605 **Tan tewano**  
タン テワノ  
この これから  
これからは
- 3606 **sonno katkemat**  
ソンノ カトケマト  
真に 婦人  
正真正銘の淑女の
- 3607 **buri koro wa**  
ブリ コロ ワ  
行い 持つ 接続  
たしなみを保って
- 3608 **chiumumbekare**  
チオムムベカレ  
世話をする  
われの世話を
- 3609 **i-y-ekarkar wa**  
イ・イエカラカラ ワ  
我・する 接続  
見て
- 3610 **i-kore kunak**  
イ・コレ クナク  
我・与える 引用  
ほしい
- 3611 **ramu yan.**  
ラム ヤン.  
思う 命令  
のだ。
- 3612 **Sonno ponno boka**  
ソンノ ボンノ ボカ  
真に 少し だけ  
これからは
- 3613 **tan tewa**  
タン テワ  
この 今から  
少しも

\*76 この解釈は誤りかもしれない。konnere という動詞は知られていない。temkonnere「抱きしめる」ととった。

- 3614 e-ebokba-an somoki.  
エ・エボッパ・アン ソモキ.  
汝・諍る・我 しない  
おまえを責めない。
- 3615 Tane bakno  
タネ バクノ  
今 まで  
今まで
- 3616 chiramkoikire  
チラムコイキレ  
心の苛み  
おまえの気持ちを
- 3617 e-ekarkar-an i\*77  
エ・エカラカラ・アニ 形名  
汝・する・我 苛んできた
- 3618 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繫 譲歩  
のも、おまえが好きで
- 3619 e-omap-an kasui wa  
エ・オマフ・アン カスイ ワ  
汝・可愛がられる 甚だしい 接続  
たまらなかつたからで、
- 3620 boo  
ボオ  
なおさら  
ますます
- 3621 ene hawean-an i  
エネ ハウエアナニ 形名  
このように言う・我 言葉いじめが
- 3622 ne koroka  
ネ コロカ  
繫 逆接  
高じたけれど、
- 3623 taban tewano anakne  
タバン テワノ アナクネ  
この これから は  
われは勇士で
- 3624 rametok a-ne  
ラメトク ア・ネ  
勇者 我・繫  
首領であるのだから、
- 3625 utarpa a-ne kush  
ウタラパ ア・ネ クシ  
首領 我・繫 引用  
これからは
- 3626 keutum-  
ケウトウム・  
心  
心を
- 3627 oshitchiure-an wa  
オシチウレ・アン ワ  
静める・我 接続  
静めて、
- 3628 neino okai  
ネノ オカイ  
繫 ある  
そんな
- 3629 rakaisam  
ラカイサム  
無益な  
無益な
- 3630 chiramkoiki  
チラムコイキ  
心の苛み  
いじめを
- 3631 e-ekarkar-an  
エ・エカラカラ・アン  
汝・する・我  
おまえに
- 3632 somoki kusune na.  
ソモキ クスネ ナ.  
しない 意志 (訴え)  
しない。
- 3633 Eraman.  
エラマン.  
分かる  
そう思いなさい。
- 3634 Ishkarun utar  
イシカルン ウタラ  
イシカりに住む 人々  
イシカリ人たち
- 3635 ne wa ne yakka  
ネ ワ ネ ヤッカ  
繫 接続 繫 譲歩  
も
- 3636 nep orushbe ka  
ネプ オルシベ カ  
何 話 も  
なんのいわれも
- 3637 eramishkare no okai be.  
エラミシカレ ノ オカイ ベ.  
わからない 接続 ある もの  
知らないでいる。
- 3638 Inunukashki.  
イヌヌカシキ.  
可哀想に  
かわいそうに。
- 3639 Sembirke ta  
セムビリケ タ  
陰 場所  
あの人たちの知らないところで
- 3640 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 3641 taban orushbe  
タバン オルシベ  
この 話  
こんな話は
- 3642 ouse tun a-ne batek  
オウセ トウン ア・ネ バテク  
ただ (だけ) 二人 我・繫 のみ  
ただ二人だけが
- 3643 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 3644 a-eraman yakka  
ア・エラマン ヤッカ  
我・知る 譲歩  
知っているが
- 3645 moshma nenka  
モシマ ネンカ  
ほか 誰か  
ほかの人は誰も
- 3646 erambetek ruwe ne.  
エラムベテク ルウエ ネ.  
知らない 跡 繫  
知らないのだ。
- 3647 Tan tewano  
タン テワノ  
この これから  
これから
- 3648 moshma kur kasuno (p. 556)  
モシマ クル カスノ  
ほか 人 以上  
ほかの人以上に
- 3649 uwekatarotke-an  
ウウエカタロトケ・アン  
仲がいい・我ら  
仲良く
- 3650 kusune na.” ari  
クスネ ナ” アリ  
意志 (訴え) 引用  
して行こう。」と
- 3651 hawash chiki  
ハワシ チキ  
言われる 条件  
言われた。
- 3652 a-chishhaukonna  
ア・チシハウコンナ  
我・泣く声  
わたしは声をあげて
- 3653 tununitara.  
トゥヌニダラ.  
美しい音が響く  
泣いた。
- 3654 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 3655 “Yuppo ohai.”  
“ユッポ オハイ.”  
兄 感嘆  
「ああ、お兄さん。」
- 3656 a-raikotenke.  
ア・ライコテンケ.  
我・泣き叫ぶ  
と叫んだ。
- 3657 Pon a-koro yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さんの
- 3658 temkorkashi  
テムコロカシ  
両手の上  
腕の中に
- 3659 a-koyayeyapkir.  
ア・コヤイエヤッキリ.  
我・身を投げる  
飛び込んだ。
- 3660 Oroyachiki  
オロヤチキ  
驚いたことに  
驚いたことに
- 3661 tap korachi  
タップ コラチ  
これ ように  
このように
- 3662 rameinkar be ne kusu  
ラメインカラ ベ ネ クス  
心でものを見る もの 繫 根拠  
心でものを見る人だから
- 3663 tane tap korachi  
タネ タップ コラチ  
今 これ ように  
このように
- 3664 chikoyayababu  
チコヤヤバブ  
謝罪する  
申し訳ないと

\*77 原綴りは karkar ani で、ee を補い eekarkar ani とみなす。

- 3665 keutum  
ケウトウム  
心  
思う気持ちを
- 3666 a-koro katu  
ア・コロ カトウ  
我・もつ 様子  
わたしが抱いていることを
- 3667 chikushnanukar  
チクシナスカラ  
貫き見通す  
見抜いて
- 3668 i-y-ekarkar katu  
イ・イエカラカラ カトウ  
我・する 様子  
くれたと
- 3669 a-eraman.  
ア・エラマン.  
我・知る  
理解した。
- 3670 Tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
今は
- 3671 rai-an ka  
ライ・アン カ  
死ぬ・我 も  
どんなことが
- 3672 neitabakno  
ネタバクノ  
いつまでも  
あろうとも
- 3673 ne yakka  
ネ ヤッカ  
繫 譲歩  
死ぬことは
- 3674 eaikap hawe ne.  
エアイカフハウエ ネ.  
できない 声 繫  
できない。
- 3675 Tambe kusu  
タムベ クス  
これ 根拠  
そこで、
- 3676 pon a-kor yubi kor  
ポン ア・コロ ユビ コロ  
小さい 我・もつ 兄 持つ  
ちい兄さんの
- 3677 pirika irenka neino  
ピリカ イレンカ ネノ  
よい 意図 繫  
良き意にしたがい
- 3678 iki-an kusu ne.” ari  
イキ・アン クス ネ.” アリ  
する・我 根拠 繫 引用  
暮らしていこうと
- 3679 chish turanno  
チシ トウランノ  
泣く ともに  
泣きながら
- 3680 yayunashke-an awa  
ヤユナシケ・アン アワ  
謝る・我 展開  
謝ると、
- 3681 tumashnu kusu  
トゥマシヌ クス  
丈夫になる 根拠  
たくましい
- 3682 ikichi rok be  
イキチ ロク ベ  
する 完了 もの  
丈夫であったのに、
- 3683 shum kina ne  
シュム キナ ネ  
枯れる 草 繫  
萎れたガマのように
- 3684 noikosamba  
ノイコサムバ  
倒れる  
体を崩し、
- 3685 “Tureshbo.” ari  
“トゥレシボ.” アリ  
妹 引用  
「わがいとしの
- 3686 “Sambe.” ari  
“サムベ.” アリ  
心臓 引用  
妹よ。」と
- 3687 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言いながら
- 3688 shitemkorokashi  
シテムコロカシ  
己の腕の中  
自分の腕の中に
- 3689 i-omare  
イ・オマレ  
我・入れる  
わたしを入れて、
- 3690 i-shikoruye  
イ・シコルイェ  
我・撫でる  
わたしを抱き寄せ
- 3691 “Tureshpo.” ari (p. 557)  
“トゥレシボ.” アリ  
妹 引用  
「妹よ。」と、
- 3692 “Sambe.” ari  
“サムベ.” アリ  
心臓 引用  
「我が心臓よ。」と
- 3693 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言いながら
- 3694 i-kurkashike  
イ・クルカシケ  
我・上  
わたしの上に
- 3695 tu nubur nube  
トゥヌブルヌベ  
二つの 濃い 涙  
おびただしい
- 3696 re nubur nube  
レヌブルヌベ  
三つの 濃い 涙  
濃い涙を
- 3697 eranke kane  
エランケ カネ  
落とす 同時  
流した。それに応えて
- 3698 “Yuppo.” ari  
“ユッポ.” アリ  
兄 引用  
「お兄さま。」と
- 3699 itak-an kane  
イタク・アン カネ  
言う・我 同時  
言いながら、
- 3700 chinki kese  
チンキ ケセ  
裾 末端  
ちい兄さんの着物の裾を
- 3701 a-oukoraiiba  
ア・オウコライバ  
我ら・つかむ  
手繰り寄せて、
- 3702 sankokkasaba  
サンコッカサバ  
膝頭  
その膝頭を
- 3703 a-koruiruiba.  
ア・コルイルイバ.  
我・撫でさする  
なでさすった。
- 3704 Sonno sonno  
ソンノ ソンノ  
真に 真に  
本当に
- 3705 wen-an katu  
ウエン・アン カトウ  
悪い・我 様子  
わたしが悪かったと、
- 3706 otu sui konna  
オトウ スイ コンナ  
二つの 回 は  
二度も
- 3707 ore sui konna  
オレ スイ コンナ  
三つの 回 は  
三度も
- 3708 a-ye kane  
ア・イエ カネ  
我・言う 同時  
言うのと、
- 3709 “Tane pirika  
“タネ ピリカ  
今 よい  
「もういいんだ、
- 3710 pirika bakno ka  
ピリカ バクノ カ  
よい まで も  
もういい、そこまで、
- 3711 bakno ka.” ari  
バクノ カ.” アリ  
まで も 引用  
「そこで。」と
- 3712 itak kane  
イタク カネ  
言う 同時  
言って、
- 3713 tu pirika kunip  
トゥ ピリカ クニフ  
二つの よい すべきもの  
かずかずの
- 3714 re pirika kunip  
レ ピリカ クニフ  
三つの よい すべきもの  
やさしい言葉で
- 3715 i-ebakashnu kane  
イ・エバカシヌ カネ  
我・教える 同時  
わたしを教え諭した。

## 3.8 結ばれる

- 3716 okake an ko  
オカケ アン コ  
あと ある 条件  
そのあと、
- 3717 “Hetak chibaroshuke  
“ヘタク チバロシユケ  
さあ 世話をする  
「さあ、何か食べるものを

- 3718 i-y-ekarkar wa  
イ・イエカラカラ ワ  
我・する 接続  
作って
- 3719 i-kore.  
イ・コレ.  
我・与える  
食べさせてくれ。
- 3720 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
すっかり
- 3721 iberusui-an na  
イベルスイ・アン ナ  
空腹である・我 (訴え)  
腹が減った。」
- 3722 ari hawash chiki  
アリ ハワシ チキ  
引用 言われる 条件  
と言うので、
- 3723 cheramubo-  
チェラムボ・  
心  
ハッと
- 3724 bashkosamba  
バシコサムバ  
さっと走る  
気づいて、
- 3725 utut ta oman-an wa  
ウトウト タ オマン・アン ワ  
火尻座 場所 行く・我 接続  
下座に行つて、
- 3726 otu betchirbe  
オトゥ ベトチリベ  
二つの 水滴  
おびたがしい
- 3727 ore betchirbe  
オレ ベトチリベ  
三つの 水滴  
水しずくを
- 3728 a-yaikarbare  
ア・ヤイカラバレ  
我・己に(水を)掛ける  
手にかけて掛けて、
- 3729 pirika pon shu  
ピリカ ポン シュ  
よい 小さい 鍋  
美しい小さな鍋を
- 3730 komshutnawano  
コムシュトナワノ  
鍋の耳から  
鍋の耳から
- 3731 a-obekarbare  
ア・オベカラバレ  
我・清める  
清め、
- 3732 oro wakka a-o wa  
オロ ワッカ ア・オ ワ  
所 水 我・入れる 接続  
それに水を入れ
- 3733 hoka a-otte.  
ホカ ア・オトテ.  
炬 我・掛ける  
火に掛けた。
- 3734 Umso pirikep  
ウムソ ピリケッ  
しまつてある 搦いた穀粒  
洗つて、しまつてあつた米を
- 3735 shuonna wa  
シュオンナ ワ  
鍋の中 接続  
鍋の中に
- 3736 a-echobobo  
ア・エチヨボボ  
我・注ぎ入れる  
注ぎ入れて、
- 3737 pirika pom meshi  
ピリカ ポム メシ  
よい 小さい 飯  
おいしいご飯をいささか
- 3738 a-yaikokarkar. (p. 558)  
ア・ヤイコカラカラ.  
我・みずから作る  
手ずから炊いた。
- 3739 Kabarbe ochike  
カバラベ オチケ  
薄造りの物 膳  
薄造りのお膳と
- 3740 kabarbe itanki  
カバラベ イタンキ  
薄造りの物 御椀  
薄造りのお椀を
- 3741 a-sanasapte  
ア・サナサッテ  
我・炬辺に出す  
出して、
- 3742 a-uworeroshki  
ア・ウウォレロシキ  
我・並べる  
ほかの品々とともに並べ、
- 3743 raisonabi  
ライソナビ  
高盛の椀  
この高盛りを
- 3744 oribak tura  
オリバク トウラ  
畏まる とともに  
恐る恐る
- 3745 shikankitai  
シカンキタイ  
己の頭上  
頭高に
- 3746 a-eimekani wa  
ア・エイメカニ ワ  
我・御膳を持つ 接続  
持つて、
- 3747 a-kobuniuina wa  
ア・コブニウイナ ワ  
我・高々と掲げる 接続  
高々と掲げた。
- 3748 raunruke  
ラウンルケ  
低くかざす  
ちい兄さんはそれを受け取り、
- 3749 rikunruke  
リクンルケ  
高くかざす  
幾度も掲げて
- 3750 koonkami wa  
コオンカミ ワ  
拝礼する 接続  
礼拝し、
- 3751 moire ibe  
モイレ イベ  
遅い 食事する  
ゆつたりとした
- 3752 koyaikurka-  
コヤイクルカ・  
自らの上  
食事を
- 3753 oma kane  
オマ カネ  
ある 同時  
続けた。
- 3754 “Tanebo konna  
“タネボ コンナ  
今 は  
「ようやく
- 3755 sonno keran  
ソンノ ケラン  
真に おいしい  
とてもおいしい
- 3756 ibe a-ki shiri ne.” ari  
イベ ア・キ シリ ネ.” アリ  
食事する 我・する 様子 繋 引用  
めしにありつけた。」と
- 3757 shino nubetne tura  
シノ スベトネ トウラ  
まことに喜ぶ とともに  
うれしそうに
- 3758 tu pirika itak  
トゥ ピリカ イタク  
二つの よい 言葉  
何度も、
- 3759 re pirika itak  
レ ピリカ イタク  
三つの よい 言葉  
何度も
- 3760 eikarbare kane  
エイカラバレ カネ  
回す 同時  
繰り返し言い、
- 3761 imek arke  
イメク アッケ  
御馳走 半分  
御馳走の半分を
- 3762 i-korutrutu.  
イ・コルトルトウ.  
我・ずり寄せる  
わたしによこした。
- 3763 A-uina wa  
ア・ウイナ ワ  
我・取る 接続  
受け取ると
- 3764 a-rikunruke  
ア・リクンルケ  
我・高くさしあげる  
幾度も
- 3765 a-raunruke  
ア・ラウンルケ  
我・低くかざす  
幾度も
- 3766 a-koonkami wa  
ア・コオンカミ ワ  
我・拝礼する 接続  
感謝して
- 3767 a-e chiki  
ア・エ チキ  
我・食べる 条件  
食べてみると、
- 3768 ineapkus  
イネアックス  
何と  
なんともまあ、
- 3769 pon a-koro yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さんが
- 3770 pirika mekare p  
ピリカ メカレ プ  
よい 御馳走を分ける もの  
じょうずに盛り付けたものの

- 3771 kera pirika wa  
ケラ ビリカ ワ  
味 よい 接続  
おいしかった
- 3772 humash nankora.  
フマシ ナンコラ.  
気配がする だろうか  
ことでしょう。
- 3773 Tanebo konna  
タネボ コンナ  
今 は  
今こそ
- 3774 ramushinneo  
ラムシンネノ  
穏やかな気持ちで  
心静かに
- 3775 ibe-am be  
イベ・アム ベ  
食事する・我もの  
食べたもの
- 3776 kone p ne kusu  
コネ ヲ ネ クス  
繋 もの 繋 根拠  
だから、
- 3777 sonno pirika aep  
ソンノ ビリカ アエフ  
真に よい 食物  
その栄養が
- 3778 a-sambe bake  
ア・サムベ バケ  
我・心臓 先頭  
わたしの心臓の
- 3779 a-sambe kese  
ア・サムベ ケセ  
我・心臓 末端  
隅から隅まで
- 3780 ekoshituri.  
エコシトゥリ.  
伸びる  
しみわたった。
- 3781 Sonno nisapno  
ソンノ ニサフノ  
真に 突然  
速やかに
- 3782 tumashnu-an  
トゥマシヌ・アン  
元気になる・我  
元気が出てきて、
- 3783 nubetne-an.  
ヌベトネ・アン.  
喜ぶ・我  
うれしかった。
- 3784 Tane anakne  
タネ アナクネ  
今 は  
もう
- 3785 utashba bakno  
ウタシバ バクノ  
互いに まで  
二人とも
- 3786 ramoshi wano  
ラモシ ワノ  
心の底 から  
心の底から
- 3787 ramushinne-an.  
ラムシンネ・アン.  
我安心する  
ホッとした。
- 3788 Shinrit sotki  
シンリト ソトキ  
出自 寝床  
先祖から続く
- 3789 tutto sotki (p. 559)  
トット ソトキ  
母 寝床  
母の寝床で
- 3790 a-emokonno kane  
ア・エモコンノ カネ  
我・よく眠る 同時  
わたしたちはぐっすりと眠った。
- 3791 pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
わたしはちい兄さんの
- 3792 a-eyaimakna-  
ア・エヤイマクナ・  
我・後に  
後ろに座る
- 3793 horarba.  
ホララバ.  
居る  
妻となった。
- 3794 Hese attom  
ヘセ アトトム  
息をする 中  
ちい兄さんは息吹のただ中
- 3795 sambe attom  
サムベ アトトム  
心臓 中  
心臓のただ中に
- 3796 i-ekote.  
イ・エコテ.  
我・結びついている  
わたしを結び付けた。
- 3797 A-koro unarbe  
ア・コロ ウナラベ  
我・もつ 叔母  
叔母は
- 3798 shino nubetne.  
シノ ヌベトネ.  
まことに 喜ぶ  
大層喜んだ。わたしたちは
- 3799 Ramma a-nunuke.  
ラムマ ア・ヌヌケ.  
いつも 我・大事にする  
いつも叔母をいたわった。
- 3800 Pon a-kor yubi  
ボン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さんは
- 3801 kim ta koiki p  
キム タ コイキ ヲ  
山 場所 攻撃するもの  
山で獲れたものを
- 3802 esanarutu  
エサナルトゥ  
山から浜へ降ろす  
浜まで降ろし、
- 3803 rep ta koiki p  
レフ タ コイキ ヲ  
沖 場所 攻撃するもの  
沖で獲れたものを
- 3804 eyanarutu kane  
エヤナルトゥ カネ  
沖から浜へあげる 同時  
陸まであげ、
- 3805 ison.  
イソン.  
獲物に恵まれる  
いつも 狐に恵まれた。
- 3806 Toita-an ko  
トイタ・アン コ  
畑を耕す・我 条件  
わたしが畑を耕すと、
- 3807 tu bu a-ebuni  
トゥ ブ ア・エブニ  
二つの 倉 我・?の頭を上げる  
収穫に恵まれ、
- 3808 re bu a-ebuni.  
レ ブ ア・エブニ.  
三つの 倉 我・?の頭を上げる  
多くの倉が建った。
- 3809 Moshit tuika ta  
モシト トウイカ タ  
国土 上 場所  
国中に
- 3810 uwepirika-an hawe  
ウエピリカ・アン ハウエ  
幸せに暮らす・我 声  
わたしたちの良き暮らしが
- 3811 kamui asun ne  
カムイ アスン ネ  
神 噂 繋  
高い評判となって
- 3812 chihobunire.  
チホブニレ.  
起きる  
伝わった。
- 3813 Kamui ewaki  
カムイ エワキ  
神 住まい  
宮居であるわたしたちの家を
- 3814 pirikano a-shikkashima.  
ピリカノ ア・シッカシマ.  
良く 見守られる  
わたしたちはしっかりと守った。
- 3815 Iyochi un  
イヨチ ウン  
地名 ある  
イヨチに住む
- 3816 pon a-kor yubi ne yakka  
ボン ア・コロ ユビ ネ ヤッカ  
小さい 我・もつ 兄 繋 譲歩  
兄も
- 3817 matkor.  
マトコロ.  
妻ある  
妻をめとった。
- 3818 Pon a-kor sapo ne yakka  
ボン ア・コロ サポ ネ ヤッカ  
小さい 我・もつ 姉 繋 譲歩  
姉も
- 3819 hoku koro.  
ホク コロ.  
夫 持つ  
夫を得た。
- 3820 Obittano  
オビタノ  
皆  
みんなが
- 3821 uwepirika asuru  
ウエピリカ アスル  
幸せに暮らす 噂  
幸せになったという評判が
- 3822 kamui asun ne  
カムイ アスン ネ  
神 噂 繋  
わたしたちの耳にも
- 3823 ramma a-nu kor  
ラムマ ア・ヌ コロ  
いつも 我・聞く 同時  
いつも

- 3824 okai-an.  
オカイ・アン.  
いる・我  
届いた。
- 3825 Sonno wembe  
ソンノ ウェムベ  
真に 悪いもの  
わたしは
- 3826 a-ne a koroka  
ア・ネ ア コロカ  
我・繫 完了 逆接  
まったくの悪人であったけれど、
- 3827 pon a-kor yubi  
ポン ア・コロ ユビ  
小さい 我・もつ 兄  
ちい兄さん (イヨチ彦) が
- 3828 sonno keutumu pirika  
ソンノ ケウトウム ピリカ  
真に 心 よい  
心正しかった
- 3829 kushkeraibo  
クシケライボ  
おかげで  
おかげで、
- 3830 tap korachi  
タッ コラチ  
これ ように  
このように
- 3831 shino katkemat  
シノ カトケマト  
まことに 婦人  
本当の淑女に
- 3832 a-ne kusu  
ア・ネ クス  
我・繫 根拠  
なれたのだ。だから
- 3833 a-ye hawe an.  
ア・イエ ハウエ アン.  
我・言う 声 ある  
こうしてお話しできるのだ。